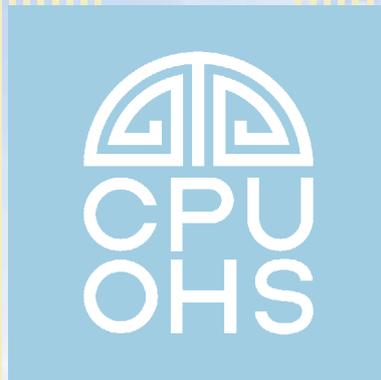


令和元年度版  
(通巻第11号)

# 千葉県立保健医療大学

## 教育研究年報



Annual Report of Education and Research  
Chiba prefectural University  
Of Health Sciences  
2019



## 令和元年度教育研究年報の発行にあたって

教育研究年報（年報）は千葉県立保健医療大学（本学）が開設された平成21年度末に第1号が刊行された。その巻頭言で山浦晶前学長は、次のように述べている、「教育研究年報は、各教員が毎年の業績を振り返り、更なる発展に資するのは当然として、認証評価の際にも大学評価の重要な審査項目になるものであり、各教員の再任審査時にも必須の資料となる」。平成27年10月、本学は大学基準協会（基準協会）による機関別認証評価を初めて受審した。年報は重要な審査項目となったが、その役割を十分に果たすことができなかった。

認証評価の評価結果は適合であったが、内容は「自己点検・評価に関する取り組みや内部質保証システムの整備が不十分であること、管理運営の意思決定プロセスが不明確であることなどをはじめとして、さまざまな問題も抱えている。キャンパスの統合や大学院設置等、貴大学の長期目標が何年も頓挫していることから、県との協力・連携体制を強化し、種々の問題解決に向けて共に取り組んでいくことが喫緊の課題である。」という厳しいものであった。評価結果の10内部質保証で「開学した2009（平成21）年度以降、毎年『教育研究年報』を大学ホームページに公表しているが、同年報は委員会の活動実績と教員の研究活動記録が主であり、自己点検・評価の結果に相当するものではない。」という指摘があった。この指摘を受けて平成27年度から年報に「年度当初の目標」、「評価（成果及び改善すべき事項）」、「次年度の目標」の項目を新たに加え、自己点検・評価とそれに基づく改善のプロセスを明確にした。今後、年報が本学の使命である教育、研究、社会貢献等の成果を示す内部質保証の証となることを教職員全員が自覚し、その作成に取り組むことが求められる。

認証評価では七点の努力課題と二点の改善勧告が示された。努力課題はその対応状況を、改善勧告はその改善状況を改善報告書としてまとめ、令和元年7月末日までに基準協会へ提出した。基準協会による検討の結果、引き続き改善が望まれる事項として、②教員・教員組織、③教育内容・方法・成果、④学生の受け入れの3項目が指摘された。②、③ではそれぞれ教員組織の編成方針、教育課程の編成・実施方針について定期的な検証体制の構築が求められている。大学の対応として、自己点検・評価委員会が中心となり、検証体制を早急に構築し、PDCAサイクルを稼働して教育の恒常的な改善に繋げなければならない。

平成31年（令和元年）に本学は創立10周年を迎えた。開学10年を経てもなお改善が望まれる状況があり、長期目標が達成される目途もたっていない。しかし、平成30年度に策定された千葉県保健医療計画で、本学は新たに保健医療政策の連携拠点の整備対象となった。行政や県内関係機関と連携・協働し、保健医療に関するシンクタンク機能を発揮することや、一般県民への公開講座をはじめとする地域貢献など県民の保健医療福祉の充実に寄与することが一層求められる。このような状況下で、令和元年度に第二期重点施策を作成し、課題を一つ一つ解決していく体制を構築した。我々の成すべきことは、本学の原点に立ち返り、その達成に向けて愚直に努力を続けることである。

令和2年8月

学長 田邊政裕



# 目 次

## 第1部 大学組織の活動記録

I	千葉県立保健医療大学の概要	2
1.	千葉県立保健医療大学の沿革	2
2.	大学の理念・目的	2
3.	健康科学部の目的	2
4.	千葉県立保健医療大学 運営組織図	5
II	年間記録（一年の歩み）	6
1.	令和元年度学事歴及び行事	6
2.	各学科定員等	6
III	管理運営の状況	7
1.	評議会の活動報告	7
2.	大学運営会議の活動報告	8
3.	教授会の活動報告	10
4.	各種委員会等の活動報告	14
5.	各学科・専攻の管理・運営活動報告	54
6.	事務局の活動	58
7.	FDの実施状況	59
IV	教育活動	60
1.	共通教育	60
2.	看護学科	60
3.	栄養学科	61
4.	歯科衛生学科	61
5.	リハビリテーション学科理学療法学専攻	62
6.	リハビリテーション学科作業療法学専攻	63
7.	学生による授業評価	64
8.	大学全体	65
V	学生の受け入れ状況	67
1.	学生の受け入れ方針	67
2.	年度当初の重点課題	68
3.	入学者選抜状況	68
4.	学生募集のための取り組み	69
5.	学生の在籍状況	70
6.	評価（成果および改善すべき事項）	70
7.	次年度の方策	70
VI	学生支援	71
1.	年度当初の重点課題	71
2.	活動内容	71
3.	キャンパスハラスメント	72
4.	各学科・専攻の取り組み	72
5.	令和元年度千葉県立保健医療大学卒業時調査	75

6. 評価（成果および改善すべき事項）	76
7. 次年度の方策	76
<b>VII 社会連携・社会貢献</b>	<b>77</b>
1. 社会との連携・協力に関する方針	77
2. 年度当初の重点課題	77
3. 活動内容	77
4. 評価（成果および改善すべき事項）	83
5. 次年度の方策	83
<b>VIII 教育研究等環境</b>	<b>84</b>
1. 年度当初の重点課題	84
2. 施設・設備の整備状況	84
3. 図書館の状況	84
4. 研究倫理を遵守するための措置	85
5. 評価（成果および改善事項）	85
6. 次年度の方策	85
<b>IX 研究活動報告</b>	<b>86</b>
1. 看護学科	86
2. 栄養学科	86
3. 歯科衛生学科	86
4. リハビリテーション学科理学療法学専攻	86
5. リハビリテーション学科作業療法学専攻	86
<b>X 内部質保証のための取り組み</b>	<b>87</b>
1. 年度当初の課題	87
2. 評価（成果および改善すべき事項）	87
3. 次年度の方策	88

## 第2部 教員の教育研究活動記録

・学長	91
学長 田邊 政裕	93
・看護学科	95
教授 石井 邦子	97
教授 佐藤 紀子	100
教授 西野 郁子	103
教授 河部 房子	106
教授 浅井 美千代	109
教授 神田 みなみ	111
教授 杉本 知子	113
教授 片平 伸子	116
教授 藤原 慶一	119
教授 小宮 浩美	121
准教授 雨宮 有子	123
准教授 三枝 香代子	127
准教授 細谷 紀子	129

准教授	川城 由紀子	132
准教授	植村 由美子	134
准教授	西村 宣子	136
准教授	北川 良子	138
准教授	田口 智恵美	141
講 師	成 玉恵	143
講 師	植田 麻実	145
講 師	石川 紀子	147
講 師	今井 宏美	150
講 師	富樫 恵美子	152
講 師	加藤 隆子	154
講 師	高山 京子	156
講 師	川村 紀子	158
講 師	佐伯 恭子	160
講 師	杉本 健太郎	162
講 師	大内 美穂子	165
助 教	上野 佳代	167
助 教	中山 静和	169
助 教	堀川 英起	171
助 教	椿 祥子	172
助 教	増田 恵美	174
助 教	相馬 由紀子	176
助 教	坂本 明子	178
助 教	杉本 亜矢子	180
助 教	泰羅 万純	182
• 栄養学科		<b>185</b>
教 授	細山田 康恵	187
教 授	東本 恭幸	190
教 授	井上 裕光	192
教 授	菊池 裕	195
教 授	谷内 洋子	198
准教授	荒井 裕介	201
准教授	河野 公子	203
准教授	福島 昌子	205
准教授	金澤 匠	207
講 師	海老原 泰代	209
講 師	鈴木 亜夕帆	212
助 教	阿曾 菜美	214
助 教	田村 友峰子	216
助 教	岡田 亜紀子	217
助 教	峰村 貴央	220
助 教	生魚 薫	223
• 歯科衛生学科		<b>225</b>
教 授	麻賀 多美代	227
教 授	酒巻 裕之	230
教 授	大川 由一	234
教 授	島田 美恵子	237
教 授	石川 裕子	240

准教授	金子 潤	242
准教授	荒川 真	245
准教授	河野 舞	247
講 師	麻生 智子	250
講 師	鈴鹿 祐子	253
講 師	山中 紗都	255
助 教	木戸田 直実	256
・	リハビリテーション学科理学療法学専攻	259
教 授	三和 真人	261
教 授	雄賀多 聡	264
准教授	竹内 弥彦	266
准教授	堀本 佳誉	269
講 師	大谷 拓哉	271
助 教	藤尾 公哉	273
助 教	江戸 優裕	275
・	リハビリテーション学科作業療法学専攻	279
教 授	岡村 太郎	281
教 授	山本 達也	283
准教授	安部 能成	286
准教授	藤田 佳男	289
准教授	有川 真弓	292
講 師	吉野 智佳子	295
講 師	佐藤 大介	298
講 師	松尾 真輔	299
資料		
資料 1	別表	302
資料 2	令和元年度非常勤講師一覧	356

# 第 1 部

## 大学組織の活動記録

# 第1部 大学組織の活動記録

## I 千葉県立保健医療大学の概要

### 1. 千葉県立保健医療大学の沿革

千葉県立保健医療大学は平成21年4月に開学した。幕張にある千葉県立衛生短期大学と仁戸名にある千葉県医療技術大学校が再編整備され、1学部2キャンパスの4年制大学になったものである。前身の2校は順次閉学され、平成23年4月からは保健医療大学のみ運営になった。

保健医療大学開学までの道のりを振り返ると、4年制大学への要望はすでに衛生短期大学の佐藤学長（2代目、昭和62年4月～平成5年3月）の頃からあったものの、県庁内に検討会ができたのは平成15年になってからである。平成17年4月に保健医療大学準備室が健康福祉部医療整備課内に設置され、これは課相当の保健医療大学設立準備室に改組された。この間、保健医療大学整備検討委員会が設置され（平成17年7月）、整備計画が策定された（平成18年7月）。

平成20年3月に文部科学省に認可申請書を提出し、同年10月末に大学設置認可の通知があり、同年12月の県議会を経て（大学設置管理条例の議決）、直ちに入学募集・入学試験を行うという実に目まぐるしい1年であった。こうして多くの方々のご努力、ご支援のもと平成21年4月に開学の日を迎えることができた。

### 2. 大学の理念・目的

千葉県立保健医療大学は、保健医療に関わる優れた専門的知識及び技術を教授研究し、高い倫理観と豊かな人間性を備え、地域社会に貢献し、保健医療の国際化に対応できる人材を育成するとともに、研究成果を地域に還元することにより、県民の保健医療の向上に寄与します。

#### (1) 高い倫理観と豊かな人間性を持った人材の育成

生命の尊厳を深く理解し、専門職としての高い倫理観を育み、人間を総合的に理解し、多様性を認めあう広い視野を持った人材を育成します。

#### (2) 健康づくりなどの保健医療に関わるすぐれた専門職の育成

すぐれた専門的知識・技術を習得し、一人ひとりの状況に応じた健康づくりなどの多様な保健医療を研究・企画・評価する能力を持った人材を育成します。

#### (3) 地域社会に貢献し、保健医療の国際化に対応できる人材の育成

地域に開かれた大学において、県民、保健医療関係者と広く連携・交流を行い、地域社会に貢献する意識態度を醸成します。また、国の内外を問わず国際的な視野を持って活動できる人材を育成します。

#### (4) 県の健康づくり政策のシンクタンク機能

健康づくりなどの保健医療の政策課題に関する実践的研究を行い、その成果を地域に還元し、県の健康づくり政策に貢献します。

### 3. 健康科学部の目的

健康科学部は、本学の理念・目的を達成するために以下の人材育成を学部の目的、学位授与の方針とします。

- (1) 生涯にわたり総合的に保健医療を発展させようとする意欲を持った人材の育成
- (2) 科学的真理を追究する力を持った人材の育成
- (3) 専門的知識、技術、実践力及び指導力を身につけた人材の育成
- (4) 多様な分野で他の専門職と自在に連携、協働できる人材の育成
- (5) 総合的な健康づくりの推進力となり、保健医療の発展に寄与できる人材の育成

なお、学部の目的を達成するためには大学が定める所定の期間在学し、大学・学部の理念・目的に沿って設定された学科・各専攻の授業科目を履修し、卒業要件に満たす単位を修める必要があります。

## 〈学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

### I 倫理観とプロフェッショナリズム

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に倫理的な原則を遵守し、専門職としての責務をはたすことができる。卒業生は以下ができなければならない、

- 1.1 対象者の人権を尊重し、多様な価値観や社会的・文化的背景を理解し、思いやりをもって接することができる
- 1.2 対象者のニーズを優先的に考え、誠実かつ公正に対応できる
- 1.3 社会的・法的責任を自覚して、専門職としてその責務を果たすことができる

### II コミュニケーション能力

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に対象者とそれを支える人、保健・医療・教育・福祉職に対してお互いの立場を尊重した人間関係を構築し、生き生きとしたコミュニケーションをとることができる。卒業生は以下ができなければならない、

- 2.1 対象者とそれを支える人の個人的、文化的、社会的背景を尊重し、信頼関係を構築できる
- 2.2 対象者とそれを支える人、保健医療専門職からの有効な情報収集と伝達ができる
- 2.3 同一専門職や他の関係職種との間で文章による情報の伝達と共有ができる
- 2.4 国内・外からの情報を入手して、保健医療に活用し発信できる

### III 実践に必要な知識

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に高い教養を身に付け、専門領域の実践に必要な知識を有し、それを健康づくりの支援に活用することができる。卒業生は以下の知識等を有し実践に活用できなければならない、

- 3.1 学際的な幅広い教養と知識
- 3.2 保健・医療・福祉に関する基礎的な知識
- 3.3 各専門領域における実践活動の基盤となる基礎的知識
- 3.4 各専門領域における実践活動の根拠となる臨床的知識
- 3.5 各専門領域の基礎的知識・専門的知識に基づいた、対象者への適切なアセスメント方法
- 3.6 対象者に合わせた適切なアプローチ方法に関する知識

### IV 健康づくりの実践

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に個人・家族・地域に対し健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、根拠に基づいた適切で有効な健康づくりの支援を提供できる。卒業生は以下ができなければならない、

- 4.1 必要な情報を身体・心理・環境の面から正確に収集、管理できる
- 4.2 収集した情報を専門的知識によりアセスメントできる
- 4.3 アセスメントに基づき健康づくりの目標を設定できる
- 4.4 対象者の状況に合わせた健康づくりの提供計画を立てることができる
- 4.5 対象者が主体的・自律的に健康づくりに取り組めるように説明・支援できる
- 4.6 最新の科学的エビデンスに基づいた健康づくりを提供できる
- 4.7 健康づくりの提供計画に基づき、安全かつ正確な技能により実施できる
- 4.8 目標の達成度や対象者の反応に基づき、健康づくりの評価・修正ができる

### V 健康づくりの環境の整備・改善

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に人々の健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、健康を志向する地域環境（人・物・制度）の整備・改善に努めることができる。卒業生は以下ができなければならない、

- 5.1 健康と生活環境との相互作用をアセスメントし、社会・生活の場である地域環境（人・物・制度）の改善に向けて実践できる
- 5.2 健康づくりの提供にあたり、保健医療制度下での経済性・効率性を考慮することができる
- 5.3 現存の支援・サービスの整備・改善に必要な企画・提案ができる

### VI 多職種との協働

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に対象者を中心とした安全で質の高い保健・医療・福祉を実践するために、自身の役割を認識し、多職種との相互理解を深めながら行動することができる。卒業生は以下ができなければならない、

- 6.1 多職種の特門性と対象者の多様な価値観を理解し、尊重することができる
- 6.2 多職種と交流し、良好な関係を構築することができる
- 6.3 多職種と状況に応じて適切に協働し、問題解決できる
- 6.4 ヘルスケアチームにおける自身の立場・役割を理解し、責任ある行動をとることができる

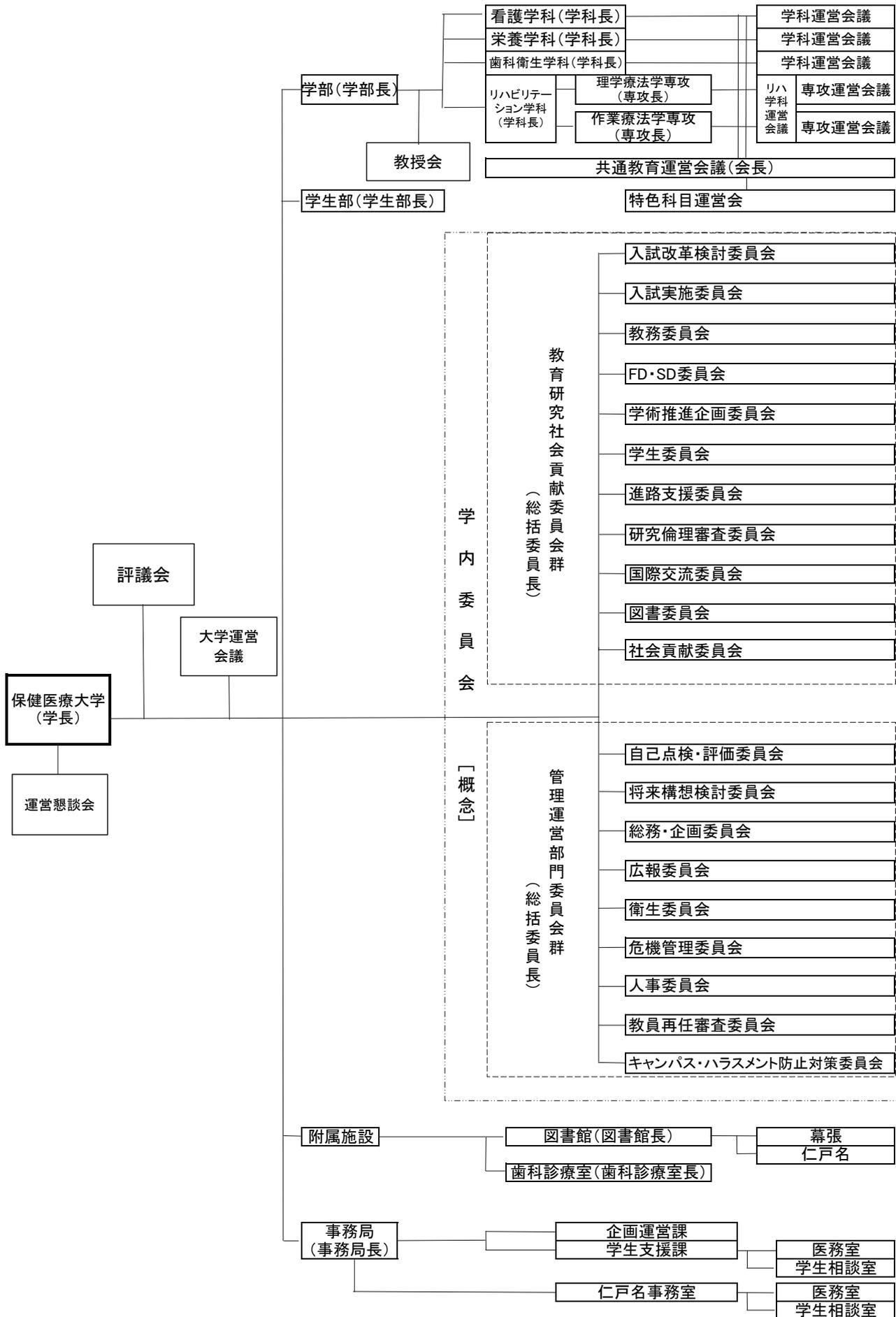
## VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に論理的思考による探究心を身につけ、自己研鑽に励み、自己および専門職として生涯にわたり成長できる資質を示すことができる。卒業生は以下ができなければならない、

- 7.1 常に探究心をもち、臨床的あるいは科学的問題を発見し、解決に取り組むことができる
- 7.2 自己主導型学習により常に自己の向上を図ることができる
- 7.3 ワークライフバランスを考えたキャリアを設計し、その達成に向けて自己管理できる
- 7.4 専門職としての自己課題を明確にし、その成長に向けて努力できる

(平成 30 年 1 月 15 日改変, 同 4 月 1 日施行)

4. 千葉県立保健医療大学 運営組織図 (平成31年4月1日～)



## II 年間記録（一年の歩み）

### 1. 令和元年度学事歴及び行事

行 事	日 程
入学式, 新入生ガイダンス	4月3日(水)
新入生ガイダンス	4月3日(水)・4日(木)幕張, 4月10日(水)仁戸名
前期授業期間	4月8日(月)～8月1日(木)
前期履修登録期間	4月8日(月)～16日(火)
前期末試験	8月2日(金)～8月9日(金)
夏季休業	8月10日(土)～9月30日(月)
オープンキャンパス	7月13日(土), 14日(日)
前期試験結果発表	8月22日(木)
後期授業期間	10月1日(火)～2月10日(月)
後期履修登録期間	10月1日(火)～4日(金)
公開講座	10月13日(日)
大学祭 (いずみ祭)	10月13日(日), 14日(月)
公開講座	10月27日(日)
開学記念日	10月28日(月)
特別選抜(推薦・社会人)入学試験	11月16日(土)
3年次編入学試験	11月17日(日)
冬季休業	12月24日(火)～1月5日(日)
大学入試センター試験	1月18日(土), 19日(日)
後期末試験	2月12日(水)～2月20日(木)
一般選抜2段階入学試験	2月25日(火)
後期試験結果発表	2月28日(金)
卒業式(新型コロナウイルス感染拡大を受け式典中止. 学位記伝達式のみ実施)	3月11日(水)
春季休業	3月19日(木)～3月31日(火)

### 2. 各学科定員等

#### 1) 入学定員, 収容定員, 在籍者数(令和2年3月1日現在)

学部名	学 科 名	入学定員	総 定 員	在籍者数
健 康 科 学 部	看護学科	80人	340人 (編入学20名含む)	332人
	栄養学科	25人	100人	101人
	歯科衛生学科	25人	100人	100人
	リハビリテーション学科 (理学療法学専攻)	50人 (25人)	200人 (100人)	199人 (104人)
	(作業療法学専攻)	(25人)	(100人)	(95人)
合 計		180人	740人	732人

#### 2) 履修規程別表 資料1参照, 非常勤講師担当教員授業科目表 資料2参照

### Ⅲ 管理運営の状況

#### 1. 評議会の活動報告

A	議長名	田邊 政裕（保健医療大学長）
B	評議員名	大嶋 良弘（税理士法人 大嶋会計代表社員） 來生 新（放送大学長） 水野 創（株式会社ちばざん総合研究所取締役社長） 横山 正博（県健康福祉部長） 石井 邦子（保健医療大学健康科学部長） 森竹 津四志（保健医療大学事務局長）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 本学の設置の目的を達成するための基本的な計画に関する事項 2 学則その他重要な規程の制定又は改廃に関する事項 3 本学の予算及び決算に関する事項 4 学部、学科その他の重要な組織の設置又は廃止及び学生の定員に関する事項 5 教員の人事の方針に関する事項 6 本学の教育研究活動等の状況について本学が行う評価に関する事項 7 その他本学の運営に関する重要事項
E	年度当初の重点課題	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度重点施策（設置計画履行状況等調査、機関別認証評価で指摘された諸課題の解決）</li> <li>・第二期重点施策（2020年度～）の策定</li> </ul>	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	7月5日	1 大学認証評価 改善報告について 2 千葉県立保健医療大学名誉教授の選考について
2	11月14日	1 「千葉県立保健医療大学の将来に向けて」について
2	令和2年 3月24日	1 学長の人事評価（令和2年度目標設定を含む）について 2 学則の一部改正について 3 評議会規程の一部改正について 4 大学運営会議規程の一部改正について 5 教授会規程の一部改正について 6 副学長選考規程の一部改正について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
	<p>・基準協会による検討の結果、平成31年（令和元年）度重点施策として掲げられた努力課題（②教員・教員組織、③教育内容・方法・成果、④学生の受け入れ）について恒常的な検証体制の構築などに改善の余地のあることが指摘された。その他、第一期重点施策の未達成項目（教学マネジメントの推進体制、低学力者のフォローアップ体制、ICT教育の推進等）については、第二期重点施策として2020年度からも継続的に取り組んでいくことになった。</p>	
I	次年度の方策	
	<p>・基準協会によって指摘された努力課題の解決と共に第二期重点施策の達成に向けて中期計画目標を策定し、関連する各学科・専攻、委員会が取り組む。</p>	

## 2. 大学運営会議の活動報告

A	議長名	田邊 政裕・学長
B	構成員名	石井 邦子・学部長 西野 郁子・学生部長 三和 真人・図書館長 兼 リハビリテーション学科長 兼 理学療法学専攻長 大川 由一・歯科診療室長 佐藤 紀子・看護学科長 細山田 康恵・栄養学科長 麻賀 多美代・歯科衛生学科長 岡村 太郎・リハビリテーション学科作業療法学専攻長 島田 美恵子・共通教育運営会議会長 雄賀多 聡・管理運営部門委員会群総括委員長 森竹 津四志・事務局長
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 本学の教育研究, 管理運営等に関する重要事項 2 学長からの諮問事項に関する事項
E	年度当初の重点課題	
・上記(評議会活動報告)		
F	会議記録(含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	4月22日	1 令和2年度入学者選抜要項掲載の変更予告について 【報告】 1 千葉県立保健医療大学 新運営組織図について 2 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会における学生の派遣協力について 3 その他
2	5月20日	1 大学認証評価改善報告書案について 【報告】 1 平成30年度重点施策・改善計画実施状況最終報告について 2 千葉県立保健医療大学名誉教授の推薦について 3 歯科診療室 同意書について 4 千葉テレビ(ウィークリー千葉県)への出演依頼について 5 臨床教授等の選考について
3	6月24日	1 令和2年度学年暦について 2 令和元年度特別選抜試験(推薦・社会人)実施要項及び編入学試験実施要項について 3 「栄養教諭に関する科目」の担当教員の変更について 4 令和3年度入学者選抜に係る告知について 【報告】 1 学内情報システム更改について 2 幕張キャンパス体育館の学生使用の禁止について
4	8月1日	1 令和2年度予算要求について 2 令和2年度入学者選抜(一般選抜)の合格発表の方法について 【報告】 1 事務処理ミスについて 2 学内委員会の運営方法の改善について
5	8月26日	1 栄養教諭課程の必要性について 2 ほい大健康プログラムについて

6	9月30日	<p>1 ビジョン2029について</p> <p><b>【報告】</b></p> <p>1 台風15号被災学生に対する授業料減免について</p> <p>2 歯科衛生学科：担当教員の変更について</p> <p>3 学内情報共有の徹底について（お願い）</p>
7	10月28日	<p>1 韓国・インジェ大学との交流協定に基づく教員の派遣について</p> <p>2 アメリカ・マディソン地域工科大学（MATC）との交流について</p> <p>3 令和2年度以降一般入試における英語の外部試験加点方法について</p> <p>4 令和2年度入試以降の2段階選抜における第1段階選抜について</p> <p>5 本学ホームページにおける社会貢献ページの掲載内容の変更について</p> <p>6 学生規程の一部改正について</p> <p><b>【報告】</b></p> <p>1 栄養学科：担当教員の変更について</p> <p>2 研究費旅費のしよむ2入力者の変更について</p>
8	11月25日	<p>1 令和3年度入試の英語成績提供システムの見送りに伴う本学の対応について</p> <p>2 韓国・インジェ大学との交流協定に基づく教員の派遣について</p> <p>3 災害対応（危機対策）初動対応マニュアルについて</p> <p><b>【報告】</b></p> <p>1 「千葉県立保健医療大学の将来に向けて」について</p> <p>2 名誉教授称号授与規程の一部改正について</p> <p>3 シンクタンク機能の強化について（11月14日評議会で意見）</p>
9	12月2日	<p>1 令和3年度入試の英語成績提供システムの見送りに伴う本学の対応について</p>
10	12月23日	<p>1 令和3年度入学者選抜における面接方法について</p> <p>2 令和2年度のオープンキャンパス日程について</p> <p>3 シンクタンク機能の強化と強化推進チームの設置について</p> <p>4 イオンリテールからの開店1周年記念祭御協力のお願いについて</p> <p>5 授業料未納者に係る除籍の取扱いに関する内規について</p> <p>6 令和2年度大学運営会議日程案について</p> <p><b>【報告】</b></p> <p>1 <b>【栄養】</b> オリンピック・パラリンピックのアルバイトについて</p> <p>2 <b>【栄養】</b> 福島准教授のオムニバス担当科目「道徳・総合的な学習・特別活動論」</p> <p>3 特定行為研修の実施について</p> <p>4 健康福祉部との勉強会報告（平成30年度）</p> <p>5 明日から使えるコーチングの基本の案内</p> <p>6 令和元年度卒業式について</p>
11	令和2年 1月27日	<p>1 イオンリテールからの開店1周年記念祭御協力のお願いについて</p> <p>2 利益相反における適正なマネジメント体制の整備について</p> <p>3 令和2年度大学運営会議日程案について</p> <p><b>【報告】</b></p> <p>1 令和2年度 担当教員の変更について <b>【作業】</b></p> <p>2 退職に伴うこれまで購入した物品の取扱いについて</p> <p>3 公開講座への本学学生の参加について（千葉大学経済人倶楽部・絆 主催）</p> <p>4 新型コロナウイルスに対する注意喚起について</p> <p>5 明日から使えるコーチングの基本の案内 結果報告について</p>
12	令和2年 2月17日	<p>1 副学長の新設に伴う「副学長選考規程」の制定について</p> <p>2 副学長の新設に伴う学内規程の改正について</p> <p>3 学内委員会関係規程の改正について</p>

		<b>【報 告】</b> 1 令和2年度当初予算について 2 公立大学学長会議報告について 3 教員の人事評価について 4 大学 IR コンソーシアムのマークシート調査結果の活用について 5 イオンリテールからの開店1周年記念祭御協力のお願について 6 令和2年度学内委員会委員の選出について 7 留年生の卒業時期について
13	令和2年 3月30日	1 共通テスト英語のリーディング・リスニング配点比率について 2 看護学科：助産課程関連規程の一部改正について 3 令和2年度新学期開講にあたっての新型コロナウイルス対策基本方針について 4 新型コロナウイルス感染拡大防止のための授業開始延期等の対策について <b>【報 告】</b> 1 大学認証評価改善報告書の検討結果について 2 令和2年度歯科衛生学科授業担当の変更について 3 広報委員会の今後の方向性について（入試実施委員会の規程改正含む） 4 学生規程の一部改正（民法改正に伴う改正）について 5 事務局からの報告事項について 6 令和2年度共通教育運営会議授業担当の変更について 7 教員の人事評価について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
	・上記（評議会活動報告）	
I	次年度の方策	
	・上記（評議会活動報告）	

### 3. 教授会の活動報告

教授会は健康科学部すべての教授によって組織され、学部長が招集し、議長となって運営した。開催頻度は月1回を定例とし、必要に応じて臨時教授会を開催した。平成31・令和元年度教授会の主な議題は下表のとおりである。

A	年度当初の重点課題		
	今年度より新たな組織体制、新たな規定に基づき教授会運営を行う。大学運営会議と教授会の諸所事項を明確にして効率的な運営を目指す。		
B	会議記録		
	月日	主な議題	主な報告事項
1	4月1日	1) 看護学科・成人看護学：准教授の選考について 2) 栄養学科：教授の資格審査結果について 3) 栄養学科：助教の資格審査結果について 4) 看護学科・基礎看護学：助教の公募について 5) 教員資格審査委員会の設置（看護学科，共通教育運営会議：教授（内科学））について 6) 教員資格審査委員会の設置（リハビリテーション学科・作業療法学専攻：講師）について 7) 非常勤講師の新規任用について 8) 「GPA 制度に関する規程」の一部改正について 9) 学生の休学・復学・退学について【歯・作】	・履修登録取消制度の手続き方法について ・平成30年度卒業生分野別就職状況について ・平成30年度国家試験結果について ・学内情報ネットワークの更改について ・機器類の老朽化について

		10) 平成 31 年度教授会の日程について	
2	4 月 5 日	1) 既修得単位の認定について 2) 教授会の日程について (臨時教授会)	
3	令和元年 5 月 13 日	1) 栄養学科: 助教の選考について 2) 看護学科, 共通教育運営会議: 教授 (内科学) の公募について 3) 看護学科・成人看護学: 講師の公募について 4) リハビリテーション学科作業療法学専攻: 講師の公募について 5) 千葉県立保健医療大学名誉教授の推薦について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 2 年度からの入学者選抜方法</li> <li>・令和 2 年度入学者選抜要項</li> <li>・平成 30 年度卒業時アンケート結果</li> <li>・韓国の仁済 (インジェ) 大学と交流協定</li> <li>・教員組織のあり方</li> <li>・USB メモリの取扱い</li> <li>・千葉県職員倫理条例・千葉県職員倫理規則等の施行</li> </ul>
4	6 月 3 日	1) 看護学科・基礎看護学領域: 助教の資格審査結果について 2) 栄養学科・応用栄養学: 教授の公募について 3) 教員資格審査委員会の設置 (歯科衛生学科, 共通教育運営会議・情報教育: 講師) について 4) 教員資格審査委員会の設置 (リハビリテーション学科理学療法学専攻: 講師) について 5) 教員資格審査委員会の設置 (歯科衛生学科: 助教) について	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和 2 年度オリンピック対応の学年暦</li> <li>・科研費の申請率・採択率</li> <li>・大学認証評価</li> <li>・中長期ビジョン案</li> <li>・令和元年度委員会経費</li> <li>・臨床教授等の称号付与に関する規程における様式・ウィークリー千葉県 (千葉テレビ) の本学撮影</li> </ul>
5	6 月 10 日	1) 看護学科, 共通教育運営会議: 教授 (内科学) の資格審査結果について 2) 看護学科・成人看護学: 講師の資格審査結果について 3) リハビリテーション学科作業療法学専攻: 講師の資格審査結果について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウィークリー千葉県の本学撮影</li> </ul>
6	7 月 1 日	1) 看護学科, 共通教育運営会議: 教授 (内科学) の選考について 2) 看護学科・成人看護学: 講師の選考について 3) リハビリテーション学科理学療法学専攻: 講師の公募について 4) 歯科衛生学科, 共通教育運営会議: 講師 (情報学) の公募について 5) 看護学科・基礎看護学領域: 助教の公募について 6) 歯科衛生学科: 助教の公募について 7) リハビリテーション学科作業療法学専攻: 講師の教員資格審査委員会の設置について 8) 教員再任審査について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会実習について</li> <li>・令和 3 年度入学者選抜の変更予告に</li> <li>・令和 2 年度特別選抜 (推薦入学・社会人), 編入学試験の学生募集要項及び実施要領</li> <li>・令和 2 (2020) 年度学年暦に</li> <li>・FD マップの作成</li> <li>・保証人への成績提供について</li> <li>・大学認証評価の改善報告書</li> <li>・令和元年度学内共同研究費の残額の取扱い</li> <li>・千葉県立保健医療大学防犯カメラ設置・運用基準の制定</li> <li>・電子メール送信時のタイムアウトマニュアル</li> </ul>
7	9 月 2 日	1) 栄養学科・応用栄養学: 教授の資格審査結果について 2) 歯科衛生学科, 共通教育運営会議: 講師 (情報学) の資格審査結果について 3) リハビリテーション学科理学療法学専攻: 講師の資格審査結果について 4) リハビリテーション学科作業療法学専攻: 講師の公募について 5) 看護学科・成人看護学領域: 助教の公募について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 2 年度入学者選抜 (一般選抜) の合格発表の方法</li> <li>・研究におけるクラウドサービスの利用について</li> <li>・令和元年度公開講座について</li> <li>・認証評価の改善報告書について</li> <li>・中長期ビジョンの作成について</li> <li>・Twitter と Facebook の運営要領</li> <li>・教員の授業負担の平準化について</li> </ul>

		て 6) 看護学科・高齢者看護学領域：助教の教員資格審査委員会の設置について	・衛生研究所との連携について
8	10月7日	1) 歯科衛生学科，共通教育運営会議：講師（情報学）の選考について 2) リハビリテーション学科理学療法学専攻：講師の選考について 3) リハビリテーション学科作業療法学専攻：講師の資格審査結果について 4) 歯科衛生学科：助教の資格審査結果について 5) 看護学科・高齢者看護学領域：助教の公募について 6) 栄養学科・応用栄養学：教授の教員資格審査委員会の設置について 7) 看護学科・基礎看護学：助教の教員資格審査委員会の設置について	・センター試験の鉛筆キャップの対応 ・FD・SD 目標について ・令和元年度いずみ祭について ・インジェ大学訪問について ・MATC との交流について ・社会貢献に関するホームページの改善予定 ・IR コンソーシアムマークシート調査の実施について ・大学ビジョンについて ・広報委員会のあり方について ・教員資格審査委員会（第1回）の簡略化 ・学内情報システムについて
9	11月5日	1) リハビリテーション学科作業療法学専攻：講師の選考について 2) 歯科衛生学科：助教の選考について 3) 看護学科・基礎看護学領域：助教の資格審査結果について 4) 看護学科・成人看護学領域：助教の資格審査結果について 5) 栄養学科・応用栄養学：教授の公募について 6) 看護学科・基礎看護学領域：助教の公募について 7) リハビリテーション学科理学療法学専攻：助教の公募について	・令和2年度大学案内 ・令和2年度のオープンキャンパスの日程 ・学生規程の一部改正について ・本学ホームページにおける社会貢献ページの掲載内容の変更 ・名誉教授称号授与規程の一部改正 ・災害対応の初期対応マニュアル
10	11月25日	1) 特別選抜（推薦・社会人）について 2) 3年次編入学試験合否判定について	
11	12月2日	1) 看護学科・基礎看護学領域：助教の選考について 2) 看護学科・成人看護学領域：助教の選考について 3) 栄養学科・応用栄養学：教授の資格審査結果について 4) 看護学科・高齢者看護学領域：助教の資格審査結果について 5) 看護学科・基礎看護学領域：助教の資格審査結果について 6) リハビリテーション学科理学療法学専攻：助教の資格審査結果について 7) リハビリテーション学科作業療法学専攻：助教の公募について	・入試実施委員会：令和2年度大学入試センター試験について ・科研費申請率の向上に係る検討状況 ・進路情報施設利用規程の改正 ・令和2年度進路ガイドブック ・令和元年度卒業時調査 ・「将来に向けて」 ・キャンパス・ハラスメント実態調査（アンケート）
12	令和2年1月6日	1) 看護学科・高齢者看護学領域：助教の選考について 2) 看護学科・基礎看護学領域：助教の選考について 3) リハビリテーション学科理学療法学専攻：助教の選考について	・社会実習について ・令和3年度入学者選抜の面接方法の方針 ・センター試験と一般選抜の実施要領について ・大学案内の修正

		<p>4) リハビリテーション学科作業療法学専攻：助教の資格審査結果について</p> <p>5) 教員再任審査について</p> <p>6) 令和2年度の教授会日程案について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度オープンキャンパス</li> <li>・令和2年度新入生・在校生ガイダンスのスケジュール</li> <li>・令和2年度放送大学との単位互換科目について</li> <li>・令和2年度学内共同研究費募集要項</li> <li>・令和2年度自己健康管理ファイル</li> <li>・教育・研究・社会貢献に関する国際交流について</li> <li>・令和元年度大学 IR コンソーシアムのマークシート調査</li> <li>・「将来に向けて」の実行計画・キャンパス・ハラスメント調査</li> </ul>
13	令和2年 2月3日	<p>1) リハビリテーション学科作業療法学専攻：助教の選考について</p> <p>2) 栄養学科・応用栄養学：教授の教員資格審査委員会の設置について</p> <p>3) 栄養学科・教育学：准教授の教員資格審査委員会の設置について</p> <p>4) 看護学科・成人看護学領域：講師の教員資格審査委員会の設置について</p> <p>5) リハビリテーション学科理学療法学専攻：講師の教員資格審査委員会の設置について</p> <p>6) 看護学科・精神看護学領域：助教の教員資格審査委員会の設置について</p> <p>7) 教授会申合せ「学校感染症による出席停止の取扱いについて」（治癒証明書）の改正について</p> <p>8) 教授会申合せ「気象災害等により交通機関が運行されない場合の授業等の取り扱いについて」の改正について</p> <p>9) 令和2年度の教授会日程案について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度のオープンキャンパス</li> <li>・令和2年度一般選抜試験</li> <li>・「休学願」（学生規程）の変更（授業科目の履修取消申請）</li> <li>・履修規程別表「先修条件」の追加に</li> <li>・令和2年度新規非常勤講師の任用・FD・SD マップ</li> <li>・令和2年度自己健康管理ファイル</li> <li>・イオンリテール1周年記念祭の協力について</li> <li>・新しい大健康プログラムについて</li> <li>・社会貢献活動のHPの掲載について</li> <li>・令和元年度大学 IR コンソーシアムのマークシート調査、卒業生調査</li> <li>・「将来に向けて」について</li> <li>・教員の昇任規程の整備</li> <li>・学内情報システム等について</li> </ul>
14	令和2年 2月10日	令和2年度 一般選抜試験第1段階選抜合否判定について	
15	令和2年 2月26日	令和元年度卒業判定について	
16	令和2年 3月3日	<p>1) 栄養学科・応用栄養学：教授の公募について</p> <p>2) 看護学科・成人看護学領域：講師の公募について</p> <p>3) リハビリテーション学科理学療法学専攻：講師の公募について</p> <p>4) 看護学科・精神看護学領域：助教の公募について</p> <p>5) リハビリテーション学科理学療法学専攻：准教授の教員資格審査委員会の設置について</p> <p>6) 令和2年度の教授会日程案について</p> <p>7) 令和2年度一般選抜試験合否判定について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・副学長候補者の選考について</li> <li>・令和2年度のオープンキャンパス</li> <li>・履修規程別表の一部改正</li> <li>・外部資金獲得に関する教員アンケートについて</li> <li>・イオンリテール1周年記念祭の協力について</li> <li>・新しい大健康プログラムについて</li> <li>・シンクタンク機能強化について</li> <li>・「将来に向けて」について</li> <li>・令和元年度千葉県職員勤務条件実態調査について</li> <li>・令和2年度学内委員会委員について</li> <li>・令和2年度幕張キャンパス事務棟機械室煙突修繕工事について</li> </ul>

C	評価（成果および改善事項）
	教授会の所掌事項が厳選され、効率的な教授会運営が行えるようになった。一方で、卒業判定や入試の可否判定等短時間での開催が数回あること、配布資料が膨大であることが問題となった。また、教授会で報告すべき事項とそうでない事項、報告が議題かなどの混乱が一部で生じた。
D	次年度の方策
	引き続き、効率的な教授会運営を目指す。ペーパーレス化やリモート会議、メール会議の導入により、教授陣及び事務局の負担軽減を図る。大学運営や教育研究活動の重要事項が共有されるように、報告事項の運営方法を検討し、決定する。

#### 4. 各種委員会等の活動報告

##### 1) 特色科目運営会

A	委員長名	石井 邦子・教授（学部長）
B	委員名	雨宮 有子・准教授（看護学科，千葉県の健康づくり科目責任者） 河野 公子・准教授（栄養学科） 島田 美恵子・教授（歯科衛生学科，体験ゼミナール科目責任者） 石川 裕子・教授（歯科衛生学科） 堀本 佳誉・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻，専門職間の連携活動論科目責任者） 藤田 佳男・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 【陪席】高野 雄一郎・学生支援課（事務局）
C	部会名と 部会員名	【体験ゼミナール】 部会長：島田 美恵子・教授（歯科衛生学科） 部会員：三枝 香代子・准教授（看護学科） 植田 麻実・講師（看護学科） 河野 公子・准教授（栄養学科） 藤尾 公哉・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 松尾 真輔・助教（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 【千葉県の健康づくり】 部会長：雨宮 有子・准教授（看護学科） 部会員：谷内 洋子・教授（栄養学科） 島田 美恵子・教授（歯科衛生学科） 大谷 拓哉・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 藤田 佳男・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 【専門職間の連携活動論】 部会長：堀本 佳誉・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 部会員：雨宮 有子・准教授（看護学科） 福島 昌子・准教授（栄養学科） 菊池 裕・教授（栄養学科） 荒川 真・准教授（歯科衛生学科） 江戸 優裕・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 吉野 智佳子・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 【社会実習（ボラティア活動）】 部会長：藤田 佳男・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 部会員：河野 公子・准教授（栄養学科） 石川 裕子・教授（歯科衛生学科）

D	所掌事項	1 特色科目の運営に関すること 2 特色科目を通じた一体的な目標の達成と科目相互の連携に関すること 3 特色科目の評価と改善に関すること 4 特色科目の目標達成に向けた学生，教員へのFDに関すること 5 科目責任者の推薦に関すること
E	年度当初の重点課題	
	特色科目の個別3科目体制の運用に加え，2020年度開設の新々カリキュラム「社会実習（ボランティア活動）」の具体的内容を検討する。	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	6月12日	1) 令和元年度の運営会活動計画 2) 令和元年度の各特色科目における予定及び計画 3) 各科目の現在の進捗状況 4) 各科目の令和2年度当初予算要求について 5) 令和2年度開講科目「社会実習（ボランティア活動）」について
2	9月5日	1) 令和元年度 各特色科目の進捗状況について 2) 「社会実習（ボランティア活動）」について 3) 令和2年度当初予算要求について（報告）
3	10月23日	1) 令和元年度 各特色科目の進捗状況について 2) 「社会実習（ボランティア活動）」について
4	12月23日	1) 令和元年度 各特色科目の進捗状況について 2) 「社会実習（ボランティア活動）」について
5	令和2年 3月10日	1) 令和元年度 各特色科目の進捗状況について 2) 「社会実習（ボランティア活動）」について 3) 大学案内「特色科目」について
	開催日	体験ゼミナール部会の主な議題
1	4月9日	1 訪問団体の確定・新規訪問団体 2 履修者数の確定 3 担当教員調整 4 授業・ガイダンス確認と準備 5 実習要項の準備
2	4月9日～ 4月26日 講義終了後 他	1 訪問団体からの承諾書・要望書の確認 2 学生振り分け 3 各学科でマニュアルの印刷 4 文具等の確認と補充 5 教員説明会および担当教員用団体ファイルの準備
3	4月12日～ 7月26日 講義終了後	1 欠席等の扱いの確認 2 学生状況など打ち合わせ 3 文具類の購入・予算申請 4 報告会 新企画打ち合わせ 5 全体授業の準備
6	8月7日	1 学生提出物の仕分け 2 学生アンケートの仕分け・入力担当確認
7	12月25日	1 報告書作成・原稿検討 2 学生提出物返却 学科・専攻別仕分け 3 令和2年度協力団体 検討

8	令和2年 1月17日	1 報告書作成・原稿準備 2 次年度要項（学生用と教員用）の検討
9	令和2年 2月1日	1 次年度要項（学生用と教員用）の原稿検討 2 報告書印刷発注依頼提出 3 令和2年度協力団体 打診 交渉開始
開催日		千葉県健康づくり部会の主な議題
1	5月27日	1 今年度の内容と役割分担（教員用マニュアル整備） 2 外部講師依頼計画
2	6～9月	1 各講師依頼（メール審議・連絡）
3	10月15日	1 台風被害への対応のため一部の講義日程変更・プログラム再編
4	9月6日	1 履修者確認・グループ編成 2 印刷資料の原稿確認
5	12月6日	1 次年度シラバスの検討
6	令和2年 1月29日	1 評価方法の確認 2 報告書作成について（レポート・リーフレット等の仕分け，原稿依頼）
7	令和2年 2月18日	1 成績評価
8	令和2年 2月25日	1 報告書の原稿確認・印刷発注
9	令和2年 3月13日	1 今年度実績を踏まえた次年度への課題確認
開催日		専門職間の連携活動論部会の主な議題
1	6月4日	1 昨年度のアンケート結果確認 2 今年度の日程・内容確認
2	7月26日	1 実施要項・教員用資料の確認 2 特別講師の決定
3	9月12日	1 実施要項最終版確認 2 教員用資料修正版確認 2 学生教員配置・使用教室について
4	10月25日	1 演習当日の役割分担 2 教員説明会について 3 教員用資料最終版確認
5	11月25日	1 演習当日の役割分担 2 学生・教員アンケートについて 3 成績評価について
6	12月13日	1 事後レポート等の仕分け 2 成績評価準備
7	12月19日	1 アンケート集計作業
8	令和2年 1月10日	1 事後レポート等の学生への返却準備
開催日		社会実習（ボランティア活動）部会の主な議題
1	9月24日	1 科目の位置づけについて 2 ボランティア活動の認定基準について 3 評価について 4 作業役割の分担について
2	10月2日 (メール審議)	1 学習目標について 2 単位認定の概要について

		3 活動計画書・報告書書式等資料の検討
3	12月24日 (メール審議)	1 シラバスの検討 2 運営方法の検討
4	令和2年 3月30日 (メール審議)	1 運営方法の検討 2 履修登録の方法について 3 ガイダンスの準備
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
H	評価(成果および改善事項)	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現行カリキュラムの開講3科目は、作業部会からの問題を委員会で審議し、円滑な運営による学習効果を上げることができた。科目責任者の決定方法を明文化した。</li> <li>・新カリ科目「社会実習」の作業部会を立ち上げ、開校準備を完了することができた。</li> <li>・科目に追加に際し、一体的な目標の達成と科目相互の連携について審議した。新カリの完成年度にDP達成度から評価することとした。</li> <li>・特色科目の目標達成に向けた学生へのガイダンスを企画した。</li> </ul>	
I	次年度の方策	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度開設の「社会実習(ボランティア活動)」を計画通りに実施し、評価する。</li> </ul>	

## 2) 教育研究社会貢献委員会群

### (1) 入試改革検討委員会

A	委員長名 副委員長名	佐藤 紀子・看護学科長 竹内 弥彦・リハビリテーション学科理学療法学専攻准教授
B	委員名	酒巻 裕之・歯科衛生学科教授 河部 房子・看護学科教授 東本 恭幸・栄養学科教授 福島 昌子・栄養学科准教授 金子 潤・歯科衛生学科准教授 三和 真人・リハビリテーション学科長兼理学療法学専攻長 岡村 太郎・リハビリテーション学科作業療法学専攻長 藤田 佳男・リハビリテーション学科作業療法学専攻准教授 神田 みなみ・看護学科教授(共通教育運営会議) 井上 裕光・栄養学科教授(共通教育運営会議)
C	所掌事項	1 入試結果の分析・評価に関する事項 2 入試改革の検討に関する事項 3 その他学長が付託した事項に関する事項
D	年度当初の重点課題	
	<p>①志願者数の分析・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学科専攻別に、志願者数の動向・課題を分析し、APに基づく優秀な学生確保のための志願者確保対策を検討する</li> </ul> <p>②入試改革を踏まえた入試選抜方法の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の外部試験の配点および共通テストの記述式の配点について検討</li> <li>・調査書等を活用した面接方法の検討</li> <li>・小論文試験の出題の適切性および採点基準の妥当性を評価し、次年度のガイドラインに反映させる</li> </ul> <p>③FD/SDの企画・実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入試に対する教職員の関心・理解を高めるためのFD/SDを企画・実施する</li> </ul> <p>④入学後の学生評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入試選抜方法ごと、学科別専攻別に4年間の学修状況(GPAによる成績評価)、退学者の状況、国家試験合格</li> </ul>	

状況、就職状況（県内・県外）について評価し、APに基づく選抜であったかどうかを検討する		
E	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	4月15日	<p>議題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 入試改革検討委員会規程および今年度の目標</li> <li>2 2021年度入学者選抜（2020年度実施）の変更予告について</li> <li>3 FD/SDについて</li> </ol>
2	5月27日	<p>報告</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 副委員長およびIR部会員の推薦について</li> <li>2 教育研究社会貢献委員会群総括委員長との方向性の確認</li> <li>3 委員会経費について</li> </ol> <p>議題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 FD/SD研修会の当日運営及びアンケート内容について</li> <li>2 本学の志願者の動向及び課題・方策の抽出</li> <li>3 英語の外部試験の採点方法について</li> <li>4 令和3年（2021年）度入学者選抜試験（令和2年（2020年）度実施）における面接試験について</li> </ol>
3	6月24日	<p>議題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 共通テストの国語の範囲の記載について</li> <li>2 英語の外部試験の採点方法について</li> <li>3 入学者選抜改革における調査書等の活用方法について</li> <li>4 入学者選抜における面接方法について</li> </ol>
4	7月22日	<p>議題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 入学者選抜計画における調査書等の活用方法について</li> <li>2 入学者選抜における面接方法について</li> </ol>
5	9月3日	<p>議題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和2年度入学者選抜（今年度実施）における面接方法について</li> <li>2 令和3年度入学者選抜（令和2年度実施）以降における面接方法について</li> <li>3 志願者動向の分析結果の学校説明会マニュアルへの反映について</li> </ol>
6	10月8日	<p>議題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和3年度入学者選抜に関する面接方法について <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 志願者本人の記載する資料のフォーマットについて</li> <li>(2) 面接について全学共通で定める事項について</li> </ol> </li> </ol> <p>報告</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 入学者選抜ごとの4年間の学修状況、国家試験合格状況、就職状況</li> <li>2 志願者確保の分析・評価（学校説明会マニュアルへの反映内容）</li> <li>3 英語の外部試験の加点方法について</li> </ol>
7	11月13日	<p>議題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和3年度入学者選抜の面接方法について</li> </ol> <p>報告</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 英語外部試験の延期に伴う変更について</li> </ol>
8	令和2年 1月8日	<p>議題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 委員会規程の見直し</li> <li>2 将来ビジョンの重点施策および具体策の目標設定</li> </ol> <p>報告</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和3年度入学者選抜方法の面接について（運営会議報告）</li> </ol>
9	令和2年	<p>議題</p>

	3月19日	1 今年度の小論文試験の評価とガイドの見直しについて 2 各学科専攻の面接実施方法の検討について 3 共通テスト英語の配点について
F	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	6月21日	入試に関するFD/SD研修会 テーマ：入試改革の動向と本学の取り組み 内容：Ⅰ大学入学者選抜改革の動向について（佐藤紀子） Ⅱ小論文試験について（酒巻裕之） 参加者：66名（68.0%）【内訳：教員63名（79.7%）、職員3名（17.6%）】
G	評価（成果および改善事項）	
<p>①志願者数の分析・評価については、各学科専攻別に分析し、その結果をFD/SD研修会で報告することができた。また、学校説明会でも活用できる資料としてまとめることができた。</p> <p>②入試改革を踏まえた入試選抜方法の検討については、英語の外部試験の配点および共通テストの記述式の配点方法について検討した結果を運営会議にあげ、方針を決定することができた。</p> <p>面接方法については、各学科専攻に意向調査を実施しその結果を踏まえて、面接評価指標は全学統一とするが、面接形態や調査書等の活用については各学科専攻で決定するという方針を決定した。次年度各学科専攻で詳細を決定した方法の適切性について本委員会を確認し実施することとなった。</p> <p>小論文試験については、昨年度および今年度実施の小論文の問題および採点基準を精査し、小論文のテーマ選定、出題形式、採点基準の作成に関わる内容について次年度の小論文作成ガイドに反映させた。</p> <p>③FD/SDの企画・実施 6月21日に『入試改革の動向と本学の取り組み』としてFD/SD研修会を実施した。66名と全体の約7割が参加し、アンケート結果から教職員の入試への理解や関心が高まったことが確認できた。</p> <p>④入学後の学生評価 APに基づく選抜方法が実施できているかを評価することを目的とし、入試選抜方法ごとに、学科別専攻別に4年間の学修状況や就職状況等のデータを蓄積している。過去4学年分のデータを整理することができたが、委員長と事務局の負担が大きいことが課題である。</p>		
H	次年度の方策	
<p>引き続き、志願者数の分析および入学後の学生評価を行い、本学にとってより適切な入試選抜方法のあり方を検討していきたい。特に、次年度は初めて入試改革を踏まえた面接試験を実施することになるため、その方法の適切性を確認し、実施後すみやかに評価を行いたい。また、年度末になって英語の外部試験の導入および共通テストの記述式問題が見送りとなったが、次年度引き続き国および他大学の動向を注視し、情報収集に努め必要な事項をタイムリーに検討する。</p>		

(2) 入試実施委員会

A	委員長名 副委員長名	酒巻 裕之・教授（歯科衛生学科） 東本 恭幸・教授（栄養学科）
B	委員名	小宮 浩美・教授，川城 由紀子・准教授（看護学科） 細山田 康恵・教授，東本 恭幸・教授（栄養学科） 酒巻 裕之・教授，麻生 智子・講師（歯科衛生学科） 竹内 弥彦・准教授，江戸 優裕・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 藤田 佳男・准教授，吉野 智佳子・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 東本 恭幸・教授，福島 昌子・准教授（共通教育運営会議） 蓬田 盛弘・学生支援課長（事務局）
C	所掌事項	入学者選抜試験の計画・実施・採点・発表に関する事項 (1) 入学者選抜試験の計画・実施・採点・発表に関する事項 (2) 入試ミス防止に関すること（入試に関する報道対応を含む。）

		<ul style="list-style-type: none"> <li>(3) 入試問題等の作成・公表に関すること</li> <li>(4) 学校案内, オープンキャンパスや学校説明会・キャンパス見学(団体)等, 入試広報に関する事項(入試改革に係る予告公表を除く。)</li> <li>(5) その他学長が付託した事項に関する事項</li> </ul>
D	年度当初の重点課題	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 公正かつ適切な入試の実施</li> <li>2 アドミッション・ポリシーに則った学生の獲得のための志願者確保</li> <li>3 入試選抜方法の見直し(入試委員会・評価部会との連携)</li> <li>4 質の高い試験問題の作成と試験問題開示の評価</li> </ul>	
E	会議記録(含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	4月8日	<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 入試実施委員会年間スケジュールについて</li> <li>2 平成31年度の入試実施委員会の目標</li> <li>3 入試実施部会の予算について</li> <li>4 オープンキャンパスについて</li> <li>5 FD開催について</li> <li>6 令和2年度入学者選抜要項について</li> </ul> <p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 学校説明会について</li> <li>2 平成31年度入試結果について</li> <li>3 平成31年度入学選抜試験のアンケート結果について</li> </ul>
2	5月13日	<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 班別説明会の日程について</li> <li>2 オープンキャンパスについて</li> <li>3 学生募集要項(推薦入学・社会人・編入学)について</li> <li>4 試験実施要領(特別選抜・編入学)について</li> <li>5 FD&amp;SDの運営について</li> <li>6 大学説明会用スライドについて</li> <li>7 委員会推進体制について</li> </ul> <p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 大学案内について</li> </ul>
3	6月10日	<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 オープンキャンパスについて</li> <li>2 学生募集要項(推薦入学・社会人・編入学)について</li> <li>3 試験実施要領(特別選抜・編入学)について</li> </ul> <p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 令和2年度大学入学者選抜実施要項(文科省)について</li> <li>2 大学案内編集について</li> <li>3 大学広報プロジェクトについて</li> </ul>
4	7月8日	<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 オープンキャンパスについて</li> <li>2 令和2年度特別選抜実施要領及び編入学実施要領について</li> <li>3 令和2年度学生募集要項(一般選抜)について</li> </ul> <p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会について</li> <li>2 大学案内の増刷に係る修正について</li> </ul>

5	9月9日	<p>議題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オープンキャンパスの評価及び来年度のオープンキャンパスについて</li> <li>2 試験実施要領（特別選抜・編入学）及び任務分担について</li> <li>3 各種監督マニュアルについて</li> <li>4 令和2年度大学入学者選抜入試センター試験の実施について</li> </ol> <p>報告</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 6月21日開催FD/SDアンケート結果について</li> <li>2 第1回大学入試センター試験入試担当者連絡協議会について</li> <li>3 大学入学共通テスト実施方針（追加分）運用ガイドラインについて</li> <li>4 オープンキャンパスアンケート集計結果を踏まえた次年度の大学案内パンフレットに向けた提案</li> </ol>
6	10月23日	<p>議題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和2年度大学入試センター試験独自実施要領について</li> <li>2 令和3年度入試日程について</li> <li>3 パンフレット改定レイアウト案の検討</li> <li>4 パンフレット改定スケジュールの検討</li> </ol>
7	11月11日	<p>議題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和2年度大学入試センター試験について</li> <li>2 令和2年度一般選抜実施要領について</li> <li>3 パンフレット改定レイアウト案の検討</li> </ol> <p>報告</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和2年度一般選抜 2段階選抜における第1段階選抜方法について</li> <li>2 令和2年度一般選抜に係る人選の依頼について</li> </ol>
8	12月9日	<p>議題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和2年度大学入試センター試験について</li> <li>2 令和2年度一般選抜実施要領について</li> <li>3 大学案内について</li> </ol>
9	令和2年 1月14日	<p>議題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和2年度一般選抜実施要領について</li> <li>2 委員会関係規定改正について</li> <li>3 令和2年度オープンキャンパスについて</li> <li>4 大学案内について</li> </ol>
10	令和2年 2月10日	<p>議題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 一般選抜実施体制について</li> <li>2 令和元年度（令和2年度入学者選抜）の追加合格者の決定方針について</li> <li>3 令和2年度（令和3年度入学者選抜）入試スケジュールについて</li> <li>4 大学案内について</li> <li>5 令和2年度オープンキャンパスについて</li> </ol>
11	令和2年 3月9日	<p>議題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オープンキャンパスについて</li> <li>2 大学案内について</li> </ol> <p>報告</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校案内用椅子カバー等について</li> </ol>
F	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	6月22日	入試関連FD&SD 入試改革の動向と本学の取り組み
2	7月13日・14日	オープンキャンパス

3	11月14日	特別選抜（推薦・社会人）試験
4	11月15日	看護学科3年次編入学試験
5	12月12日	センター試験全体説明会
6	12月25日	センター試験業務班別説明会
7	令和2年 1月18日・19日	大学入試センター試験
8	令和2年 2月25日	一般選抜試験（前期日程）
9	4月1日～ 令和2年 3月31日	学校説明会・模擬授業の開催
G	評価（成果および改善事項）	
<p>1 委員会組織改正  本学の委員会組織改正に伴い、入試実施部会の所掌事項は入試実施委員会が行うことになった。</p> <p>2 公正かつ適切な入試の実施  ・平成30年度のアンケート結果を踏まえて実施マニュアルを反映させ、入試実施に大きな問題はなく実施された。大学入学センター試験は東都大学との共同実施で、円滑に実施することができた。</p> <p>3 アドミッション・ポリシーに則った受験生確保  ・大学案内の充実を図る目的で、大学案内編集チーム、学校説明会やオープンキャンパスの企画や内容の充実を図る目的で、大学広報プロジェクトチームを編成して活動した。  ・大学案内の編集では、令和元年度発行の大学案内の編集を継続した。  ・令和2年度発行の大学案内について、内容の充実を図る目的で、令和元年7月開催のオープンキャンパスにおける来校者対象の質問紙調査で大学案内に関する意見を求め、その回答の結果を基に、学科・専攻の案内のページにおいて、年次別に時系列で示す際に特徴的な授業・実習を示し、4年後に国家試験、卒業と進み、卒業後の活躍につながるストーリーを示すよう編集するとともに、在校生ならびに卒業生のメッセージのページを増加し、令和2年4月には印刷業者に印刷依頼をできるように編集作業を進めた。  ・令和元年度の高校生向け大学説明会は、依頼件数104件、実施件数92件、受講者数1,685名（令和2年3月31日現在）であった、参加教員数は102名で、一人当たり1.3回であった。  ・オープンキャンパスについて、平成30年度に引き続き3連休の2日間に実施し、両日で2,503名の来場者で、来場者最多を更新した。令和元年度のオープンキャンパス開催時に来場者の希望者に対して入学試験問題を開示し両日で68名が閲覧した。また来場者にタイルズ質問紙調査の内容を刷新し、その回答結果の解析を行い、特に学生との協働による企画の充実等、次年度以降のオープンキャンパスの企画に関する有意義な情報を得た。  ・令和元年度に実施した入学者選抜について、志願者数は推薦170名（前年度比104.7%）、社会人3名（前年度比37.5%）、編入学7名（前年度比58.3%）、一般選抜305名（前年度比95.9%）であり、推薦入試以外漸減傾向にあった。次年度はさらなる志願者数・志願倍率に影響する要因等について入試改革検討委員会で検討し、提言される入試実施を展開する必要がある。</p> <p>4 質の高い試験問題の作成と試験問題開示の評価  ・令和3年度入学者選抜における調査書や志願者本人が記載する資料並びに質の高い試験問題の作成を目的に、令和元年6月にテーマ「入試改革の動向と本学の取り組み」としたFDを入試改革検討委員会と共催で開催した。  ・平成30年度に引き続き、作成されている作問ガイドを基に問題作成者に説明の上、問題作成を依頼した。小論文の問題作成において、3回の校正を予定していたが、さらなる質の担保を求めて校正を重ねて入試問題とした。  ・素材や答案採点方法、小論文における「能力」評価に関する整合性を図るために、入試改革検討委員会で問題作問ガイドを見直して、問題作問ガイドが改定されることになった。  ・採点について、採点ミスや採点者間の採点の突合方法について改善を要すると考えられた。</p>		

	<p>・試験問題の開示について、平成29年度3月末から前年度の試験問題を学内およびホームページで閲覧可能となっている。令和元年度は新たにオープンキャンパス開催時に、来場者の希望者に対して問題開示を行い、両日で68名が閲覧した。学内閲覧の実績は、計63件であった。問題閲覧に関して問題は起きていない。</p>
H	次年度の方策
	<p>大学案内の編集について、オープンキャンパスにおける質問紙調査結果を反映する編集を継続して内容の充実を図ることを予定している。オープンキャンパスについて、令和元年度に検討した企画案を実現する方策を練る。ただし、委員会組織改正の際、大学広報の所掌事項について、令和元年度検討課題となっており、他の委員会に所掌事項が移行する際には、その検討内容を報告し、所掌事項を引き継ぐ。</p> <p>また入試改革検討委員会と入試実施委員会の両委員会で入試に関わる業務を推進している。両委員会の所掌事項を明確にし、連携しながら重点課題について改善策を講じる。</p> <p>確実かつ効率よい採点方法について検討して、実施する。</p>

(3) 教務委員会

A	<p>委員長名 副委員長名</p>	<p>神田 みなみ・教授（看護学科・共通教育運営会議） 酒巻 裕之・教授（歯科衛生学科）</p>
B	委員名	<p>北川 良子・准教授（看護学科） 雨宮 有子・准教授（看護学科） 石川 紀子・講師（看護学科） 細山田 康恵・教授（栄養学科） 海老原 泰代・講師（栄養学科） 酒巻 裕之・教授（歯科衛生学科） 石川 裕子・教授（歯科衛生学科） 堀本 佳誉・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 藤尾 公哉・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 山本 達也・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 有川 真弓・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 福島 昌子・准教授（共通教育運営会議） 蓬田 盛弘・学生支援課長（事務局）</p>
C	<p>部会名と 部会員名</p>	なし
D	所掌事項	<p>1 教育課程の編成に関する事項 2 学年暦及び時間割の編成に関する事項 3 授業計画に関する事項 4 非常勤講師に関する事項 5 試験及び単位の認定に関する事項 6 授業評価に関する事項 7 学籍の異動（入学、進級、休学、復学、転学、留学、退学、除籍及び卒業等）に関する事項 8 科目等履修生、特別聴講学生、聴講生、研修生、研究生及び外国人留学生に関する事項 9 その他学長が付託した事項に関する事項 10 その他教務に関する事項</p>
E	年度当初の重点課題	
	<p>1 4年一貫教育カリキュラム（新々カリキュラム）の導入を円滑に進める。 2 教員の教育力の向上、教育内容の充実につながるよう、教育ワークショップを企画・実施する。 3 GPA制度の円滑な導入を進める。特に、履修取り消し制度等、新たな仕組みについての混乱が生じないように、</p>	

学生・教職員への周知徹底をはかる.		
F	会議記録 (含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
臨	4月5日	1 既修得単位の認定について
1	4月15日	1 学長よりの要望事項について 2 令和2(2020)年度学年暦(案)について 3 教務委員会規程(新)について 4 既修得単位認定について 5 授業評価アンケートについて 6 履修登録状況について
2	5月20日	1 平成31年度時間割の変更要望について 2 学生の休学について 3 令和2年度学年暦(案)について 4 2019年度放送大学との単位互換科目(後期・6月出願分)について 5 学士力(コンピテンスの領域, コンピテンシー)について 6 履修系統図(カリキュラム・マップ, カリキュラム・チャート)の検討について 7 授業評価アンケートについて 8 履修登録システム状況について
3	6月17日	1 令和2年度の学年暦(案)について(継続審議) 2 令和元年度後期 入学科目等履修生等の募集について 3 令和元年度 前期末試験の日程(案)について 4 令和元年度 後期の非常勤講師新規採用について 5 学生の退学・休学について 6 学生の公欠について 7 履修登録の修正について 8 前期履修科目登録削除の手続きについて 9 令和2年度の時間割(案)について 10 教務委員会 副委員長について 11 令和2年度当初予算(案)について 12 カリキュラム系統表のフォーマットについて 13 「参加型臨地実習」について
4	7月22日	1 令和元年度後期 履修登録のスケジュールについて 2 平成30年度後期の成績修正および令和元年度前期の履修登録について 3 保健医療基礎科目「救命救急の理論と実際」に関する依頼事項について 4 来年度の非常勤講師への伺いについて 5 高等教育無償化に関する機関要件について
臨 2	8月19日	1 令和元年度前期 追再試験・補講の日程(案)について 2 令和2年度 時間割変更の要望について 3 学生の復学について 4 実習施設の変更(追加)について 5 授業料未納による除籍に関する規程について 6 カリキュラム系統表(コンピテンシー)のパフォーマンスレベルについて 7 平成30年度以前入学生のGPA評価について 8 令和元年度後期入学 科目等履修生等の応募状況について
5	9月17日	1 令和元年度後期 新規非常勤講師の採用について 2 学生の休学・復学・退学について 3 実習施設の新規追加について

		<ul style="list-style-type: none"> <li>4 令和2年度版シラバスの作成について</li> <li>5 カリキュラム系統表について</li> <li>6 「ポートフォリオの手引き 2020年度版」作成について</li> <li>7 後期の授業評価アンケート実施科目について</li> <li>8 追再試験の合同実施について</li> <li>9 教育学関連科目に関する要望について (リハ)</li> </ul>
6	10月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 学生の休学について</li> <li>2 前期末再試験未受験の学生について</li> <li>3 令和2年度非常勤講師の新規任用について</li> <li>4 令和2年度時間割の変更について</li> <li>5 令和2年度時間割について</li> <li>6 令和2年度シラバスの作成について</li> <li>7 「ポートフォリオの手引き 2020年度版」作成について</li> <li>8 規程「気象災害等により交通機関が運行されない場合の授業等の取り扱いについて」の変更(案)について</li> </ul>
7	11月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 授業料未納による除籍に関する規程について</li> <li>2 令和2年度前期 科目等履修生等の募集について</li> <li>3 令和2年度実習施設の追加について</li> <li>4 実習指導教員の抗体価検査の必要性について</li> <li>5 令和2年度時間割の変更要望について</li> <li>6 令和2年度時間割について</li> <li>7 令和2年度前期末試験の実施について(提案)</li> <li>8 令和2年度開講科目「社会実習」の評価方法について</li> <li>9 規程「気象災害等により交通機関が運行されない場合の授業等の取り扱いについて」の変更(案)について</li> <li>10 卒業時調査について</li> <li>11 令和2年度新生・在学生ガイダンスのスケジュールについて</li> <li>12 カリキュラム系統表について</li> <li>13 「ポートフォリオの手引き」各学科・専攻での変更点について</li> <li>14 前期末再試験未受験の学生について</li> </ul>
8	12月16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 授業料未納による除籍に関する規程について</li> <li>2 令和元年度後期 期末試験日程について</li> <li>3 令和2年度 新生ガイダンスのスケジュール案について</li> <li>4 非常勤講師の新規任用について</li> <li>5 学生の休学について</li> <li>6 令和2年度 放送大学との単位互換科目の検討について</li> <li>7 「ポートフォリオの手引き」の変更について</li> <li>8 令和元年度教育ワークショップ企画について</li> </ul>
9	令和2年 1月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 学生の退学について</li> <li>2 令和2年度 新規非常勤講師の任用について</li> <li>3 実習施設の新規追加について</li> <li>4 規程(案)「学校感染症による出席停止の取扱いについて」及び「インフルエンザの治癒証明書」について</li> <li>5 規程(案)「気象災害等により交通機関が運行されない場合の授業等の取扱いについて」</li> <li>6 「休学願」の変更(履修科目の取消)について</li> <li>7 再試験未受験の学生からの要望について</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>8 令和2年度 放送大学との単位互換科目について</li> <li>9 ポートフォリオ「年間目標シート」について</li> <li>10 令和2年度シラバス&lt;別紙&gt;の変更について</li> <li>11 教務委員会規則について</li> <li>12 将来ビジョンの重点施策と具体案の目標設定について</li> </ul>
10	令和2年 2月26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 令和元年度卒業判定について</li> <li>2 令和元年度 後期期末試験の追・再試験日程(案)について</li> <li>3 令和2年度時間割表の確認及び時間割変更要望について</li> <li>4 履修規程別表の一部改正について</li> <li>5 実習施設の新規追加について</li> <li>6 非常勤講師の新規任用について</li> <li>7 学生の休学・復学・退学について</li> <li>8 令和元年度 授業評価アンケートについて</li> <li>9 令和元年度 重点施策・改善実施計画状況報告書について</li> <li>10 令和2年度 教務委員会開催スケジュール(案)について</li> <li>11 令和2年度ガイダンス スケジュールの一部変更について</li> <li>12 令和2年度前期期末試験予定について</li> </ul>
11	令和2年 3月16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 学生の除籍について</li> <li>2 学生の休学・復学・退学について</li> <li>3 非常勤講師の新規任用について</li> <li>4 公衆栄養学Ⅱの開講について</li> <li>5 実習施設の追加について</li> <li>6 学生用WEB履修登録の手引きについて(掲示用)</li> <li>7 令和2年度入学生に対する既修得単位認定の事前作業について</li> <li>8 メール審議: 学生からの追試験願について</li> <li>9 メール審議: R2年度前期科目聴講生の選考について</li> <li>10 来年度授業評価アンケートについて</li> </ul>
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価(成果および改善事項)	
	<p>1 4年一貫教育カリキュラム(新々カリキュラム)の導入を円滑に進める。 新々カリキュラム1年生と従来カリキュラムの2年生以上の二つの教育課程を並行して実施した。特に読替科目の運用に注意しつつ、円滑に運営することができた。また新々カリキュラムの学科・専攻ごとのカリキュラム・マップに続き、令和元年度は、共通教育および各学科・専攻の各授業科目の学士力(コンピテンスの領域、コンピテンシー)項目ごとの到達レベルを示した「カリキュラム系統表」を完成させた。</p> <p>2 教員の教育力の向上、教育内容の充実につながるよう、教育ワークショップを企画・実施する。 年度内には実施しなかった。翌年度の課題として残している。</p> <p>3 GPA制度の円滑な導入を進める。特に、履修取り消し制度等、新たな仕組みについての混乱が生じないように、学生・教職員への周知徹底をはかる。 履修取り消しについては円滑に実施することが出来た。申請する学生はごくわずかであった。年度当初の各学科・専攻の履修指導が適切に行われ、授業期間中途での履修科目変更要望に至らなかったと思われる。fGPAの活用については教務システムが更改される令和2年度から行う。</p>	
I	次年度の方策	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 Covid-19拡大に伴う遠隔授業の導入と運営を行う。</li> <li>2 教務委員会関係の業務(ガイダンス、履修登録、試験、成績管理等)を遠隔で行う方法を検討し実施する。</li> <li>3 新々カリキュラム導入2年目の進級判定業務を効率的に行う。</li> </ul>	

## (4) FD・SD委員会

A	委員長名	石川 裕子・教授 (歯科衛生学科)
B	委員名	杉本 知子・教授 (キャンパス・ハラスメント防止対策委員長) 佐藤 紀子・教授 (入試改革検討委員長) 神田みなみ・教授 (教務委員長) 河部 房子・教授 (学術推進企画委員長) 西野 郁子・教授 (学生進路支援委員長) 細山田康恵・教授 (研究倫理審査委員長) 松原千栄里・企画運営課長 (事務局)
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 学内のFDの推進に関すること 2 学内のFDの連携, 調整に関すること 3 教授会が付託した事項に関すること 4 その他FDに関すること
E	年度当初の重点課題	
	系統的な計画に基づいたFDを行うために必要なFD・SDマップの作成を行う。また、学内におけるFDの連携, 調整, 定期開催を図る。	
F	会議記録 (含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	6月28日	1 令和元年度活動計画について (FDマップ作成, 講習会開催)
2	10月3日	1 FD・SDマップについて
3	令和2年 1月21日	1 FD・SDマップについて 2 委員会規程について
4	令和2年 3月24日	1 令和元年度実績報告・令和2年度予定について 2 新任教員研修について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	4月1日	新任教員研修会 「本学の研究倫理審査体制」 研究倫理審査委員会
2	4月25日	新規事務職員研修会 「千葉県立保健医療大学とその課題解決へ向けて一改革2019」
3	6月21日	「入試改革の動向と本学の取り組み」 入試改革検討委員会・入試実施委員会
4	9月3日	カリキュラムプランニング勉強会 第1回
5	9月4日	第1回イブニングセミナー「公大協 科研費セミナーについて, 科研費申請書作成のコツ ~計画調書審査員の視点から~」 学術推進企画委員会
6	9月9日	カリキュラムプランニング勉強会 第2回
7	9月12日	キャンパス・ハラスメント防止研修 キャンパス・ハラスメント防止委員会
8	9月18日	カリキュラムプランニング勉強会 第3回
9	10月7日	カリキュラムプランニング勉強会 第4回
10	10月29日	カリキュラムプランニング勉強会 第5回
11	令和2年 1月10日	第2回イブニングセミナー「ソーシャルキャピタル滋養による「健康なまちづくり」—地域介入/CBPR研究「武豊・松戸PJ」の到達点—」 学術推進企画委員会
12	令和2年 2月20日	第3回イブニングセミナー「宇宙環境の人への影響と宇宙食—宇宙医学・栄養学—」 学術推進企画委員会
H	評価 (成果および改善事項)	
	1. 学内のFD推進に関すること ・FD・SDマップが完成し, 今後はマップに基づいて計画的なFD・SDを実施することを目指すことになった。 2. 学内のFDの連携, 調整に関すること	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・FDを開催する委員会の委員長が委員となることで、大学全体としてのFDの内容や時期について協議することができた。</li> </ul>	
3. 教授会が付託した事項に関すること	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度、特に教授会から付託された事項はなかった。</li> </ul>	
4. その他FDに関すること	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新任教員へのFDについては、研修プログラムを策定するか否かも含め検討を続けることになった。</li> </ul>	
I	次年度の方策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的な研修としてFD・SDを開催するために、今後、大学としてどのような内容のものがよいか検討を行い、企画実施する。また、新任研修についての検討を継続する。</li> </ul>	

(5) 学術推進企画委員会

A	委員長名	河部 房子・教授（看護学科）
B	委員名	佐伯 恭子・講師（看護学科） 菊池 裕・教授（栄養学科）（6月から） 荒井 裕介・准教授（栄養学科） 島田 美恵子・教授（歯科衛生学科・共通教育運営会議兼任） 河野 舞・准教授（歯科衛生学科） 大谷 拓哉・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 江戸 優裕・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 吉野 智佳子・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 佐藤 大介・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻）（8月まで） 山本 達也・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻）（10月から） 植田 麻実・講師（共通教育運営会議）
C	部会名と部会員名	<b>【紀要編集部会】</b> 部長：河部 房子・教授（看護学科） 副部長：菊池 裕・教授（栄養学科） 部会員：川城 由紀子・准教授（看護学科） 荒井 裕介・准教授（栄養学科） 島田 美恵子・教授（歯科衛生学科） 金子 潤・准教授（歯科衛生学科） 三和 真人・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 江戸 優裕・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 藤田 佳男・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 吉野 智佳子・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 山本 達也・教授（共通教育運営会議） 植田 麻実・講師（共通教育運営会議）  <b>【学内共同研究審査部会】</b> 部長：河野 舞・准教授（歯科衛生学科） 部会員：河部 房子・教授（看護学科） 佐伯 恭子・講師（看護学科） 菊池 裕・教授（栄養学科） 荒井 裕介・准教授（栄養学科） 金子 潤・准教授（歯科衛生学科） 三和 真人・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 大谷 拓哉・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 山本 達也・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 安部 能成・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 島田 美恵子・教授（共通教育運営会議） 植田 麻実・講師（共通教育運営会議）

D	所掌事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 大学内の学術推進に関すること</li> <li>2 学内共同研究等の募集及び審査等に関すること</li> <li>3 外部資金の獲得に関すること</li> <li>4 紀要の編集及び発行に関すること</li> <li>5 その他学長が付託した事項に関すること</li> <li>6 その他学術推進に関すること</li> </ol>
E	年度当初の重点課題	
	<p>所掌事項および重点施策に関する活動を行う。特に以下の2点について重点的に活動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 科研費をはじめとする外部資金の獲得を向上させるための学内支援のあり方を検討し、外部資金獲得の申請率80%を達成する。</li> <li>・ 外部資金獲得につながる学内共同研究助成のあり方を検討する。</li> </ul> <p>重点施策：他学科（学内）、他大学、地域の病院、診療所、保健・医療・介護施設、企業等との協働による介入研究により地域包括ケアに資する新たなエビデンスを創出あるいはエビデンスの確認</p>	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	4月15日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2019年度学内共同研究費（二次募集）の審査結果および採択について</li> <li>2. 各委員の担当等について</li> <li>3. 年間計画（委員会開催スケジュール）について</li> </ol>
2	5月20日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 委員会内の担当（部会設置）について</li> <li>2. 第10回共同研究発表会の日程調整・案内等について</li> <li>3. 紀要第10巻の送付先について</li> <li>4. 科研費の申請・採択状況について</li> </ol>
3	6月17日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第10回学内共同研究発表会の事前調整について</li> <li>2. 紀要第10巻の送付先について</li> <li>3. 紀要第11巻の編集方針について</li> <li>4. 紀要第7巻のJ-STAGE公開について</li> </ol>
4	7月16日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成30年度学内共同研究に係る課題名の変更について</li> <li>2. 第10回学内共同研究発表会の役割分担について</li> <li>3. 紀要第11巻の募集開始について</li> <li>4. 科研費の申請・採択に向けた支援制度について</li> <li>5. 科研費の申請・採択に向けたセミナー開催について</li> <li>6. 令和2年度当初予算について</li> </ol>
5	8月19日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第10回学内共同研究発表会について</li> <li>2. 紀要第11巻の編集について</li> <li>3. 令和元年度第1回イブニングセミナーについて</li> <li>4. 令和元年度のイブニングセミナー担当について</li> <li>5. 令和元年度科研費助成事業説明会について</li> <li>6. 科研費計画調書の学内公開について</li> </ol>
6	9月17日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 紀要投稿規定について</li> <li>2. 紀要投稿論文の査読に関する申し合わせ事項について</li> <li>3. 第2回イブニングセミナーについて</li> </ol>
7	10月18日 (メール開催)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第2回イブニングセミナーについて</li> <li>2. 紀要編集の進捗状況について</li> </ol>
8	11月18日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2020年度学内共同研究費募集事項について</li> <li>2. 第3回イブニングセミナーについて</li> <li>3. 令和2年度科研費助成事業の申請率について</li> <li>4. 2019年度学内共同研究の変更願について</li> </ol>
9	12月16日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2020年度学内共同研究費募集要項について</li> </ol>

		2. 令和2年度科研費助成事業の申請率について 3. 委員会規程の改正について
10	令和2年 1月20日	1. 2020年度学内共同研究費研究計画審査要領等について 2. 第3回イブニングセミナーの役割分担について 3. 委員会規程の改正について 4. 科研費申請の実態調査について 5. 「重点施策と実現に向けた取り組み」の実現に向けた方針について 6. 令和元年度重点施策・改善計画実施状況最終報告書について
11	令和2年 2月17日	1. 2020年度学内共同研究費応募状況及び若手審査について 2. 来年度の委員会開催日程案について
12	令和2年 3月16日	1. 2020年度学内共同研究費の審査結果について 2. 紀要投稿規定の改正案について 3. 外部資金の申請・獲得に関するアンケートの集計結果について
開催日		紀要編集部会の主な議題
1	9月9日	1. 投稿予定論文の応募状況および編集担当者について 2. 編集部会の開催日程について 3. 紀要編集スケジュール, 編集担当者・査読者の役割について
2	10月8日	1. 投稿論文編集者・査読者案の決定について 2. 査読依頼の手続きについて
3	11月8日	1. 査読結果および審査結果について
4	12月27日	1. 再査読結果および審査結果について 2. 紀要原稿について
開催日		学内共同研究審査部会の主な議題
1	令和2年 2月12日	1. 学内共同研究審査スケジュールについて 2. 審査要領の確認
2	令和2年 2月28日	1. 学内共同研究審査結果について 2. 意見伝達・ヒアリングについて
G 行事開催記録		
開催日		行事名称及び行事の内容
1	8月28日	平成30年度共同研究発表会
2	9月4日	第1回イブニングセミナー「科研費獲得のためのFD研修会」 「公大協 科研費セミナーについて」植田 麻実(学術推進企画委員) 「科研費申請書作成のコツ ―計画調書審査員の視点から―」 喜多 和子氏(千葉大学大学院医学研究院 特任講師)
3	9月19日	令和2年度科学研究費助成事業学内説明会
4	令和2年 1月10日	第2回イブニングセミナー 「ソーシャルキャピタル涵養による『健康なまちづくり』 ―地域介入/CBPR研究『武豊・松戸PJ』の到達点―」 近藤 克則氏(千葉大学予防医学センター 教授)
5	令和2年 2月20日	第3回イブニングセミナー 「宇宙環境の人への影響と宇宙食 ―宇宙医学・栄養学―」 石岡 憲昭氏(宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所 名誉教授)
H 評価(成果および改善事項)		
<p>今年度からの全学的な組織再編をふまえ、学術推進企画委員会に設置する部会を紀要編集部会・学内共同研究審査部会の2つに整理し、委員会規程を改正した。</p> <p>■所掌事項 1 大学内の学術推進に関すること</p> <p>・共同研究発表会を開催し、教員間の研究交流を図った。</p>		

<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の研究力向上に向けたセミナーとして、3回のイブニングセミナーを開催した。教員の出席率は、62.5%、46.3%、41.2%であった。今後も、教員のニーズに応じた内容を検討するとともに、教員が参加しやすい日程も考慮していきたい。</li> <li>■所掌事項 2 学内共同研究等の募集及び審査等に関すること <ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年度学内共同研究費の募集要項を検討した。今年度は、学内共同研究費の目的をふまえ、申請書に科研費申請の有無を記載することとした。</li> <li>・2020年度学内共同研究費の公募を行い、審査部会にて審査を行った。最終採択にあたり、ヒアリングを実施した。</li> </ul> </li> <li>■所掌事項 3 外部資金の獲得に関すること <ul style="list-style-type: none"> <li>・科研費計画調書作成のFD研修会を企画・実施した。教員の出席は50人（出席率62.5%）と高く、実施後のアンケート結果においても満足・やや満足としたものが90%以上を占めた。</li> <li>・教員の科研費申請を支援する取り組みとして、これまでの採択された研究計画調書を閲覧できる仕組みをととのえた。このシステムを利用した教員は4名であった。次年度以降も引き続き継続して行くと共に、より教員が利用しやすいようなシステムとなるよう、改善点を検討する。</li> <li>・外部資金獲得に関するアンケート調査を実施した（回収率66.2%）。6割の教員が、学内共同研究費による研究をもとに科研費申請をしたことがあると回答した。科研費の申請を困難にしている要因や、委員会による支援として期待することなど、多くの意見が寄せられた。今後委員会として取り組める内容について検討し、本調査結果を活用していきたい。</li> <li>・今年度の科研費申請率は46.9%、科研費以外の外部資金や学内共同研究費を含めた申請率は61%であった。</li> </ul> </li> <li>■所掌事項 4 紀要の編集及び発行に関すること <ul style="list-style-type: none"> <li>・紀要第11巻の募集を行い、査読、審査等の編集作業を進め、滞りなく発行した。</li> </ul> </li> <li>■所掌事項 5 その他学長が付託した事項に関すること 特になし</li> <li>■所掌事項 6 その他学術推進に関すること 特になし</li> </ul>	
I	次年度の方策
<p>今年度の外部資金申請状況の結果をふまえ、これまで科研費申請率80%としていた目標について、科研費をはじめとする外部資金・学内共同研究を含めた申請率80%に変更する。この目標の達成に向けては、各学科専攻内で方策を検討し、実施する。学内共同研究助成については、科研費の申請につなげられるよう、そのあり方について引き続き検討する。</p> <p>地域包括ケアの実施に向けた研究の推進という点に関しては、学内共同研究や学科協働で推進している研究活動の成果について、広く学内外に発信できるような企画について検討する。</p>	

(6) 学生委員会

A	委員長名	西野 郁子・教授（看護学科）学生部長
B	委員名	浅井 美千代・教授（看護学科） 植村 由美子・准教授（看護学科） 藤原 慶一・教授（看護学科）（10月から） 谷内 洋子・教授（栄養学科） 河野 公子・准教授（栄養学科） 金子 潤・准教授（歯科衛生学科） 鈴鹿 祐子・講師（歯科衛生学科） 大谷 拓哉・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 安部 能成・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 学生の福利厚生及び保健衛生に関すること 2 学生の課外活動に関すること 3 学生の奨学金等貸与に関すること 4 授業料等の減免に関すること

		5 後援会及び同窓会に関すること 6 その他学長が付託した学生に関すること
E	年度当初の重点課題	
	関係機関からの情報や学生からの要望も捉えながら、所掌事項および学生支援計画に沿った活動を行う。検討事項毎に委員の中からリーダーを担ってもらい委員会体制を取り、学生支援の充実や検討事項の解決を目指していく。	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	4月15日	<p>議題 1 平成31年度の委員会スケジュールについて 2 平成31年度学生支援計画について 3 日本学生支援機構奨学生の推薦について 4 その他</p> <p>報告 1 学生団体の活動報告・設立について 2 平成31年度学生保険の加入状況について 3 平成31年度健康診断の運営について 4 平成31年度健康診断受診状況・ワクチン接種状況について 5 学生相談件数の実態調査 6 その他</p>
2	5月13日	<p>議題 1 前期授業料減免審査について 2 個人情報の取扱に関する同意書について 3 次年度予算の策定について 4 学生ボランティアの募集について 5 学生向けセミナーについて 6 その他</p> <p>報告 1 日本学生支援機構奨学生の推薦について 2 学生団体の活動報告・設立について 3 平成31年度健康診断の運営について 4 平成31年度健康診断結果の集団指導計画について 5 平成31年度健康診断受診状況・ワクチン接種状況について 6 同窓会について 7 委員会経費 8 その他</p>
3	6月10日	<p>議題 1 次年度予算の策定について 2 学生向けセミナーについて 3 学生ボランティアの募集について 4 県庁生協半額セールについて 5 仁戸名キャンパスの洋式トイレ等設備について 6 その他</p> <p>報告 1 日本学生支援機構奨学生の推薦について 2 健康診断結果について 3 令和元年度委員会活動費（研究費予備分）について 4 2019年度後援会総会報告 5 いずみ祭の企画の進行状況について 6 仁戸名キャンパス県庁生協無人販売について 7 保証人（保護者等）への学業成績送付について 8 LINKtopos（リンクトポス：全国公立大学学生大会）について 9 その他</p>

4	7月8日	<p>議題 1 2019年度いずみ祭について 2 その他</p> <p>報告 1 学生向けセミナーについて 2 同窓会について 3 2019年度ワクチン接種計画について 4 学長と学生の懇談会について 5 その他 後期減免に係る掲示について</p>
5	9月9日	<p>議題 1 学生食事調査について 2 令和元年度学生向けセミナー報告と令和2年度学生向けセミナーについて 3 令和元年度学長と学生の懇談会（前期）報告と後期計画について 4 復学者の健康診断と学生規程改正及び周知方法について 5 その他</p> <p>報告 1 令和2年度健康診断及び大学祭の日程について 2 令和元年度いずみ祭の準備状況について 3 同窓会について 4 ワクチン接種状況について 5 インフルエンザワクチン接種について 6 その他</p>
6	10月21日	<p>議題 1 後期授業料減免審査について 2 2019年度日本学生支援機構奨学金（二次採用）について 3 令和2年度自己健康管理ファイルについて 4 2019年度卒業時調査の項目について 5 休学等に関する学生への支援について 6 その他</p> <p>報告 1 緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練の中止について 2 いずみ祭の報告について 3 健康診断、ワクチン接種指導状況について 4 県庁生協半額セールについて 5 同窓会について 6 その他</p>
7	11月11日	<p>議題 1 学生食事調査について 2 令和元年度学生向けセミナー報告と令和2年度学生向けセミナーについて 3 令和2年度自己健康管理ファイルの修正について 4 休学等に関する学生への支援について 5 学生ハンドブックについて 6 2019年度卒業時調査の項目について 7 令和2年度健康診断・ワクチン接種計画について 8 その他</p> <p>報告 1 日本学生支援機構奨学生の推薦について 2 県庁生協半額セールについて 3 同窓会について 4 その他</p>
8	11月12日メール	<p>議題 1 令和2年度健康診断・ワクチン接種計画について</p>
9	12月9日	<p>議題 1 令和2年度健康診断・ワクチン接種計画について 2 自己健康管理ファイルの修正について 3 卒業式について</p>

		<p>4 その他</p> <p>報告 1 定期健康診断前に健康診断を受診する学生について</p> <p>2 同窓会について</p> <p>3 その他</p>
10	令和2年度 1月9日メール	<p>議題 1 令和2年度インフルエンザ予防接種の日程調整について</p>
11	令和2年 2月10日	<p>議題 1 卒業式について</p> <p>2 令和2年度健康診断について</p> <p>3 休学者等への健康診断周知について</p> <p>4 2019年度学生支援計画の結果について</p> <p>5 令和2年度学生向けセミナーについて</p> <p>6 その他</p> <p>報告 1 同窓会について</p> <p>2 季節性インフルエンザの対応について</p> <p>3 B型肝炎ウイルスのワクチン接種について</p> <p>4 令和2年度健康診断等実施項目年間計画の差し替え</p> <p>5 その他</p>
12	令和2年 2月10日メール	<p>議題 1 学生セミナーについて</p>
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	4月5日	健康診断
2	7月30日	学長との懇談会
H	評価（成果および改善事項）	
<p>【所掌事項1：学生の福利厚生】</p> <p>①平成31年度学生支援計画を立案し、以下のような活動を行った。学内整備において仁戸名キャンパスの男性用洋式トイレの整備を要望し、優先的に整備された。学生会の年間のイベントについて対応した。大学祭の開催について学生に助言をした。緊急消防援助隊合同訓練の学生ボランティアの募集・調整を行った（豪雨災害の影響により開催は中止となった）。後援会の支援による生協売店の学生応援フェアを調整した。ブラックバイト対策に関する学生向けセミナーを開催した。同窓会と連携して、学科・専攻の同窓会分会の発足または発足準備を支援した。学生から教員への相談について実態調査を行い分析した。②学生保険の加入状況を随時把握し学生指導を行った。③「令和2年度学生ハンドブック」の内容を検討し、加除修正した。</p> <p>【所掌事項1：学生の保健衛生】①平成31年度健康診断を実施した。診断結果に基づき学生指導を行った。②平成31年度ワクチン接種計画（B型肝炎ワクチン・インフルエンザワクチン）を立案し実施した。また、ワクチン接種状況を継続的に把握し学生指導を行った。③令和2年度健康診断の実施計画について検討した。④「令和2年度自己健康管理ファイル」の内容を検討し、最新情報を加筆するなど修正した。⑤令和2年度健康診断前後の指導に係る資料を検討し、最新情報に改善した。</p> <p>【所掌事項2：学生の課外活動】①学生団体（学生サークル）設立申請を審議した。②大学祭の企画を支援した。③新入生歓迎会・スポーツ大会等の学生会の活動を支援した。④学生会の運営について助言・支援した。</p> <p>【所掌事項3：奨学金等貸与】日本学生支援機構奨学生を選考し推薦を行った。</p> <p>【所掌事項4：授業料等の減免】授業料減免（前期・後期）について審議した。</p> <p>【所掌事項5：後援会、同窓会】①学生支援のために後援会理事会と連携した。②後援会からの要望をうけて県庁生協幕張売店および仁戸名キャンパスでの販売において学生応援フェアの開催を支援した。③同窓会の再構築に向けて役員会へ助言し、学科・専攻の同窓会分会の発足に支援した。④卒業生への同窓会入会に関して支援を行った。</p> <p>【所掌事項6：その他】①平成31年度卒業式の運営について検討した。</p>		

I	次年度の方策
関係機関からの情報や学生からの要望も捉えながら、所掌事項および学生支援計画に沿った活動を行う。検討事項毎のリーダーに計画・運営をリードしてもらい、学生支援の充実や検討事項の解決を目指していく。特に新型コロナウイルス感染拡大による学生生活への影響を把握し、例年よりも積極的な学生支援を行う。	

(7) 進路支援委員会

A	委員長名	西野 郁子・教授（看護学科） 学生部長
B	委員名	田口 智恵美・講師（看護学科） 河野 公子・准教授（栄養学科） 麻生 智子・講師（歯科衛生学科） 江戸 優裕・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 安部 能成・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 就職及び進学に関すること 2 県内就職の推進に関すること 3 その他学長が付託した事項に関すること 4 その他学生の就職及び進学に関すること
E	年度当初の重点課題	
所掌事項に関する活動を計画的に行う。特に、県内就職の推進や国家試験合格率 100%（全学科）をめざし、学科専攻と連携を図り、大学全体として取り組んでいく。		
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	4月23日	議題 1 平成31年度委員会スケジュールについて 2 平成31年度進路支援計画について 3 平成31年度委員会活動予算について 4 平成31年キャリアセミナー年間計画 および第1回キャリアセミナーについて 報告 1 平成30年度就職進学状況について 2 平成30年度国家試験の結果について 3 平成30年度卒業時アンケート 「就職・進学活動」の集計結果について その他
2	5月21日	議題 1 平成31年度委員会スケジュールについて 2 平成31年度進路支援計画について 3 仁戸名学卒ジョブサポーター進路相談曜日について 4 平成31年度後援会助成依頼について 5 平成31年第1回・第2回キャリアセミナーについて 6 その他 報告 1 「ジョブカフェちば」について 2 その他 その他
3	6月18日	議題 1 第1回・第2回キャリアセミナーについて 2 第3回キャリアセミナーについて 3 次年度予算の策定について 4 その他 報告 1 2019年度後援会総会報告

		2 その他
4	7月9日メール	議題 1 9月～11月のジョブサポーター相談について
5	9月2日	議題 1 進路希望調査について 2 進路ガイドブックについて 3 卒業時調査（進路支援）について 4 その他 報告 1 第1回・第2回キャリアセミナーについて 2 国家試験に係るスケジュール表について 3 職業安定法改正「職業紹介事業者の職業紹介実績等の情報提供」 4 その他
6	11月27日	議題 1 令和2年度進路ガイドブックについて 2 第3回キャリアセミナーについて 3 卒業時調査について 4 千葉県立保健医療大学進路情報施設利用規程の改正について 5 令和2年度学生ハンドブックについて 6 その他 報告 1 求職票，進路希望調査のスケジュールについて 2 国家試験受験手続きの進捗状況について 3 「進路に関する報告」の進捗状況について 4 職業紹介事業者による情報提供について 5 その他
7	令和2年 1月22日	議題 1 第3回キャリアセミナーについて 2 令和2年度ジョブカフェちばのミニセミナーについて 3 業者による情報提供「就職活動の現状と今後の動向」について 4 令和2年度ハローワーク相談（仁戸名含む）について 5 その他 報告 1 「進路に関する報告」の進捗状況について 2 進路ガイドブック，求職票，進路希望調査等の進捗状況について 3 国家試験に係る進捗状況について 4 職業紹介事業者による情報提供について 5 その他
8	令和2年 3月19日	情報提供 1 「就職活動の現状と今後の動向」について 議題 1 第3回キャリアセミナーの振り返りと次年度計画について 2 2019年度卒業時調査の結果と次年度進路支援について 3 令和2年度ジョブカフェちばのミニセミナーについて 4 令和2年度ハローワーク相談（仁戸名含む）について 5 その他 報告 1 「進路に関する報告」の進捗状況について 2 国家試験に係る進捗状況について 3 その他
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	8月9日	第1回キャリアセミナー 「専門家と採用者に聞く！就活のポイント！」 1部：就活の進め方 ―履歴書・エントリーシートの書き方と面接試験のポイント― 2部：採用者はここを見る！現場の求める人材とは？（学科別分科会）
2	8月22日	第2回キャリアセミナー

		公務員試験 保健医療職への道～試験の内容と対策～
3	令和2年 2月20日	第3回キャリアセミナー 就職活動に必要なマナーのツボ 1部：社会人として必要なマナー 2部：こんなときどうする？～電話のかけ方、面接のマナーなど～
H	評価（成果および改善事項）	
<p>【所掌事項1：就職・進学支援】①平成31年度進路支援計画に基づき、全学的な事業や学科専攻毎の事業を含め、大学全体として学生への進路支援を行った。②平成30年度キャリアセミナーの評価をふまえ、令和元年度第1回・第2回・第3回キャリアセミナーの企画・運営・評価を行った。③進路情報室の運営を行い、利用状況の把握を行った。幕張キャンパスの進路情報室にハローワーク・ジョブサポーターの派遣（週1～2回）を依頼した。また、仁戸名キャンパスの学生が、就職相談ができるよう、仁戸名キャンパスへの派遣も依頼し、派遣（9月～11月）が実施された。学生には好評であった。④ジョブサポーターと情報交換・意見交換を行い、ジョブサポーターと教職員が同じ考え方のもと連携して進路支援を行うことができるようにした。学科の進路支援事業への協力（講義・情報提供）もいただいた。⑤令和元年度の就職進学状況についてとりまとめを行った。⑥令和2年度の「進路ガイドブック」の内容を検討した。履歴書の書き方、面接の流れ、また法令等変更による修正等の改善を行ったため、全学生に現在求められている書類等の情報が伝わるものとなった。⑦進路支援事業に関して後援会に助成を依頼する内容を検討した。⑧令和元年度就職率は97.1%であった。</p> <p>【所掌事項1：国家試験対策】①平成30年度・令和元年度国家試験結果をとりまとめた。②学科専攻と連携を図り、大学全体として学生への国家試験受験支援を行った。③国家試験模擬試験受験に対して後援会から助成を受けられるよう各委員が調整し、助成を受けられた。④国家試験に関わる手続きを確認し、学生の書類作成の支援、願書の提出、受験票の配布、免許申請手続き等を行った。⑤令和元年度国家試験合格率は、保健師92.5%、助産師100%、看護師100%、管理栄養士100%、歯科衛生士100%、理学療法士96.3%、作業療法士95.0%であった。</p> <p>【所掌事項2：県内就職の推進】①令和元年度県内就職率は63.7%であった。②進路支援事業では県内保健医療関連施設から講師を派遣してもらい、県内就職を促進するようにした。</p> <p>【所掌事項4：その他】令和元年度卒業時調査の調査票作成（進路支援部分）を行い、調査を計画・実施した。</p>		
I	次年度の方策	
<p>所掌事項に関する活動を計画的に行う。特に、県内就職の推進や国家試験合格率100%（全学科）をめざし、学科専攻と連携を図り、大学全体として取り組んでいきたい。特に新型コロナウイルス感染拡大による就職活動への影響がないか把握し、4年生への適切な情報提供を行う。</p>		

(8) 研究倫理審査委員会

A	委員長名	細山田 康恵・教授（栄養学科）
B	委員名	<p>—学内委員—</p> <p>高山 京子・講師（看護学科）</p> <p>杉本 健太郎・講師（看護学科）</p> <p>鈴木 亜夕帆・講師（栄養学科）</p> <p>石川 裕子・教授（歯科衛生学科）</p> <p>河野 舞・准教授（歯科衛生学科）</p> <p>堀本 佳誉・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻）</p> <p>藤田 佳男・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻）</p> <p>森竹 津四志・事務局長</p> <p>—学外委員—</p> <p>安村 勉・教授（学習院大学専門職大学院法務研究科）</p> <p>鎌田 浩二・教授（千葉大学人文科学研究院）</p> <p>竹内 治・弁護士（松本・山下総合法律事務所）</p> <p>望月 由紀・准教授（東都医療大学幕張ヒューマンケア学部看護学科）</p>

		島津 実伸・特任助教（千葉大学医学部附属病院臨床試験部）
C	部会名と 部会員名	—動物実験研究倫理審査部会— 部長：細山田 康恵・教授（栄養学科） 部会員：雄賀多 聡・教授（リハビリテーション学科理学療法専攻） 河野 舞・准教授（歯科衛生学科） 金澤 匠・准教授（栄養学科） 峰村 貴央・助教（栄養学科）
D	所掌事項	人間および動物を直接対象とする研究等に対して，倫理に係る必要事項を審査する。
E	年度当初の重点課題	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新任教員への倫理教育を継続して実施する。</li> <li>・研究倫理不正の防止と，研究費不正使用防止を明確にする。</li> </ul>	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	4月10日	1 倫理審査申請案件の審査（5件：承認1件，条件付き承認2件，保留2件） 2 倫理審査関係書類の流れと役割分担案について 3 研究倫理審査委員会報告システムについて
2	5月8日	1 申請案件の審査（5件：条件付き承認4件，保留1件）
3	6月12日	1 倫理審査申請案件の審査（7件：承認2件，条件付き承認4件，保留1件） 2 本学におけるクラウドの利用について
4	7月10日	1 倫理審査申請案件の審査（8件：承認4件，条件付き承認2件，保留2件） 2 FD・SDについて
5	9月11日	倫理審査申請案件の審査（8件：承認4件，条件付き承認2件，保留2件）
6	10月9日	倫理審査申請案件の審査（3件：承認2件，条件付き承認1件）
7	11月13日	倫理審査申請案件の審査（1件：保留1件）
8	令和2年 1月15日	1 倫理審査申請案件の審査（3件：承認2件，保留1件） 2 科研費の内部監査について
9	令和2年 2月12日	1 倫理審査申請案件の審査（4件：承認3件，条件付き承認1件） 2 利益相反（管理）委員会について 3 2020年度委員会日程案について
	開催日	動物実験研究倫理審査部会の主な議題
1	5月7日	動物実験申請案件の審査（1件：承認1件）
2	6月5日	動物実験申請案件の審査（1件：承認1件）
3	6月6日	動物実験申請案件の審査（2件：承認2件）
4	6月19日	動物実験申請案件の審査（1件：承認1件）
5	7月25日	動物実験申請案件の審査（1件：承認1件）
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	4月1日	研究倫理審査委員会研修会（新任教員向け）
2	9月19日	研究倫理教育プログラムの受講等について（科研費説明会の中で実施）
3	令和2年 2月20日	令和元年度科学研究費助成事業に係る内部監査の実施
H	評価（成果および改善事項）	
	人を対象とする研究の審査件数は36件（承認33%，条件付き承認41%，保留25%），動物実験の審査件数は6件（全て承認）であった。新任教員への研修会を4月に実施した。科研費内部監査も前年同様に実施した。	

I	次年度の方策	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新任教員への倫理教育を継続して実施する。</li> <li>・研究倫理不正の防止と，研究費不正使用防止を明確にする。</li> <li>・利益相反（管理）委員会を立ち上げる。</li> </ul>	

(9) 国際交流委員会

A	委員長名	片平 伸子・教授（看護学科）
B	委員名	荒井 裕介・准教授（栄養学科） 荒川 真・准教授（歯科衛生学科） 大谷 拓哉・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 佐藤 大介・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻）（8月まで） 山本 達也・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻）（10月から） 植田 麻実・講師（看護学科）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 国際交流に関する事項 2 学術交流協定に関する事項 3 学術及び教育交流の推進に関する事項 4 留学生の教育交流に関する事項 5 国際交流関係機関との連携および協力に関する事項 6 その他学長が付託した国際交流に関する事項
E	年度当初の重点課題	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米国 Wisconsin 州の Madison Area Technical College (MATC) との交流協定締結の検討。</li> <li>・韓国 Inje 大学との交流実施の検討。</li> <li>・国内での国際交流活動の検討。</li> </ul>	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	4月23日	1 平成31年度海外出張計画について 2 Wisconsin 州との交流について 3 委員会予算について
2	7月8日	1 国際交流に係る実施条件等について 2 国内での国際交流について 3 MATC との交流について
3	10月1日	1 Inje 大学との交流について 2 MATC との交流について 3 来年度委員会予算について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
H	評価（成果および改善事項）	
	<p>・本学における国際交流について学科・専攻ごとに検討したのち大学運営会議に諮った結果，米国 Wisconsin 州の Madison Area Technical College (MATC) との交流協定の締結は行わず，交流協定のある韓国 Inje 大学との交流実施については検討を続けることとなった。今春からの新型コロナウイルス感染状況からも次年度も海外へ渡航しての国際交流の実現は難しいと考える。</p>	

I	次年度の方策
<p>・国内での国際交流については学内の実態調査の結果を踏まえ、本学と神田外語大との共同開催による「初期医療言語サービスボランティア研修」を今後委員会として実施していく方向である。</p>	

(10) 図書委員会

A	委員長名	三和 真人・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻）図書館長
B	委員名	川村 紀子・講師（看護学科） 河野 公子・准教授（栄養学科） 島田 美恵子・教授（歯科衛生学科・共通教育運営会議） 藤尾 公哉・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 安部 能成・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 図書館の整備運営及び図書館教育に関する事項 2 図書資料等の収集，購入計画及び管理に関する事項 3 学術機関リポジトリに関する事項 4 その他学長が付託した事項に関する事項 5 その他図書館に関する事項
E	年度当初の重点課題	
<p>・学生向け文献検索セミナーへの外部講師の招聘を実施する。 ・学生アンケートの結果を受け，サービスの向上に努める。</p>		
F	会議記録（含む部会の開催）	
開催日		主な議題
1	5月20日	1 平成30年度図書・情報委員会議題一覧 2 平成30年度図書館利用統計について 3 令和元年度図書館関係予算について 4 令和元年度定期購読雑誌の購入計画について 5 令和元年度定期購入図書について 6 令和元年度資料費予算執行について 7 電子ジャーナル・データベースについて 8 令和元年度購入図書の推薦について 9 文献セミナーの開催について 10 図書館だより「ぼーれぼーれ」の発行計画について
2	10月28日	1 令和元年度4～9月図書館利用統計について 2 令和元年度図書館蔵書点検結果報告 3 実習用長期貸出について 4 定期購読雑誌の購入について 5 電子ジャーナル・オンラインデータベースの更新について 6 資料の除籍について
3	令和2年 3月16日	1 資料購入関係予算の執行状況について 2 令和2年度図書館の開館スケジュールについて 3 令和元年度文献検索セミナー実施報告および次年度実施予定について 4 図書館利用統計について 5 電子ジャーナル・データベース，および電子書籍について 6 図書館だより「ぼーれぼーれ」の刊行について 7 令和2年度定期購読雑誌について

G		行事開催記録
開催日	行事名称及び行事の内容	
1	4月1日	図書館ガイダンス（新任教員向け）
2	4月4日	図書館ガイダンス（新入生ガイダンス）
3	4月4日	図書館ガイダンス（幕張キャンパス図書館ツアー）（看護2回，その他の学科・専攻ごとに各1回 合計6回）
4	4月8日	文献検索ガイダンス（栄養学科4年生）
5	4月9日	第1回文献検索セミナー「雑誌論文の調べ方 医中誌 WEB を中心に」
6	4月10日	図書館ガイダンス（仁戸名キャンパス図書館オリエンテーション）
7	4月10日	図書館ガイダンス（仁戸名キャンパス図書館オリエンテーション）
8	4月15日	第2回文献検索セミナー「雑誌論文の調べ方 医中誌 WEB を中心に」
9	6月3日	図書館ガイダンス（新任教員向け）
10	6月3日	文献検索ガイダンス（リハビリテーション学科理学療法学専攻3年生）
11	6月13日	文献検索ガイダンス（リハビリテーション学科作業療法学専攻3年生）
12	7月26日	文献検索ガイダンス（情報リテラシー1年生・1クラス2グループ 合計2回）
13	7月30日	文献検索ガイダンス（情報リテラシー1年生・2クラス4グループ 合計4回）
14	9月2日	図書館ガイダンス（新任教員向け）
15	10月1日	図書館ガイダンス（新任教員向け）
16	10月24日	文献検索ガイダンス（歯科衛生学科3年生）
17	令和2年 1月10日	第3回文献検索セミナー「根拠のある医学情報を探すには」 佐藤正恵氏（千葉県済生会習志野病院図書室司書）
18	令和2年 1月21日	第4回文献検索セミナー「根拠のある医学情報を探すには」 佐藤正恵氏（千葉県済生会習志野病院図書室司書）
19	令和2年 2月17日	第5回文献検索セミナー「文献の調べ方 医中誌 WEB を中心に」
H		評価（成果および改善事項）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生向け文献検索セミナーへの外部講師の招聘。 学生を対象とした文献検索セミナーに，専門的な知識を持つ外部講師を2回招聘した。理解しやすく実践的な内容で，学生の検索能力向上に資するセミナーとなった。</li> <li>・学生アンケートの結果を受け，サービスの向上に努める。 平成30年度に実施した学生アンケートで要望の多かった，長期実習中の貸出し期間の延長を，仁戸名キャンパス図書館でリハビリテーション学科3，4年生を対象に実施した。</li> </ul>		
I		次年度の方策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・文献検索セミナーなどのセミナー，ガイダンスを実施し，図書館の利用促進，学生の文献検索能力向上につとめる。</li> <li>・学生の学習，教育，調査研究に資する資料の収集・整備につとめる。</li> </ul>		

(11) 社会貢献委員会

A	委員長名	島田 美恵子・教授（歯科衛生学科 共通教育運営会議）
B	委員名	川村 紀子・講師（看護学科） 金澤 匠・准教授（栄養学科） 鈴鹿 祐子・講師（歯科衛生学科） 藤尾 公哉・助教（リハビリテーション学科 理学療法学専攻） 安部 能成・准教授（リハビリテーション学科 作業療法学専攻）
C	部会名と 部会員名	なし

D	所掌事項	1. 公開講座の企画及び運営に関すること. 2. 教授会が付託した事項に関すること. 3. その他社会貢献活動に関すること.
E	年度当初の重点課題	
	1. 健康づくり・病気予防への提案（県・地域の施策の点検・評価，見直し，提案） 2. 卒業生の初任者・卒後研修を雇用者と協働で企画，実施（地方創成） 3. 専門職を対象とした生涯学習の企画，実施	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	5月16日	1 所掌事項確認 2 令和元年度公開講座について 3 ほしい大健康プログラムについて 他
2	6月13日	1 令和元年度公開講座について 2 本学における地域貢献活動のPR（HP案）について 他
3	9月25日	1 令和元年度公開講座について 役割分担 2 本学地域貢献活動に係るHP案について 他 報告
4	令和2年 1月9日	1 ほしい大健康プログラムについて 2 イオンリテール開店一周年記念祭について 3 令和元年度公開講座の結果について 4 社会貢献活動のHP掲載について 他
5	令和2年 3月10日	1 ほしい大健康プログラムについて 2 令和2年度公開講座について 他
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	10月13日 中止	公開講座 メインテーマ「地域で安全に暮らすには」 ① 病原体から食品の安全を守る方法について ② 転倒予防アップデート2019—アタマを使った転倒対策— 台風のため10月11日に中止決定
2	10月27日	公開講座 メインテーマ「地域で安全に暮らすには」 ① 口腔ケアで命を守ろう！ ② みんなで高めよう！災害に備える力
H	評価（成果および改善事項）	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開講座の開催に加え，イオンリテール開店一周年記念祭参加のための立案，ほしい大健康プログラムにおける運営役割を担うなど，地域貢献活動を拡大してきた。</li> <li>今年度企画されたほしい大健康プログラムにおいて，社会貢献委員会は全体を通じた運営を担う。このプログラムは，プロボノを活かすなど，卒後研修や専門職の生涯学習に通じる足掛かりとなる。</li> <li>地域へのPR活動を強化するため，本学ホームページ上で，本学の地域活動を紹介・報告することを検討し，準備を進めた。</li> <li>天候不順（台風）のため，公開講座1回目は中止となった。用意された講演を活かすための措置が求められる。</li> <li>公開講座講師は，地域団体への出張講座にも出向いている。今年度は，県の衛生研究所と共同し，仁戸名セミナーを開催した。</li> </ul>	
I	次年度の方策	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほしい大健康プログラムの運営を通して，地域貢献活動，卒業生・専門職への研修をさらに充実させていく。</li> <li>地域への貢献を高めるために，公開講座をWEBで公開するなど，新たな手法を検討する。</li> <li>本学の社会貢献活動を通して，地域組織との連携を謀る。</li> </ul>	

3) 管理運営部門委員会群

(1) 自己点検・評価委員会

A	委員長名	岡村 太郎・教授 (リハビリテーション学科作業療法学専攻)
B	委員名	<p>石井 邦子 (学部長)</p> <p>西野 郁子 (学生部長)</p> <p>三和 真人 (図書館長)</p> <p>大川 由一 (歯科診療室長)</p> <p>佐藤 紀子 (看護学科長)</p> <p>細山田 康恵 (栄養学科長 兼 教育研究年報作成部会長)</p> <p>麻賀 多美代 (歯科衛生学科長)</p> <p>三和 真人 (図書館長 兼 リハビリテーション学科長・理学療法学専攻長)</p> <p>岡村 太郎 (リハビリテーション学科作業療法学専攻長 兼 IR 部会長)</p> <p>島田 美恵子 (共通教育運営会議会長)</p> <p>森竹 津四志 (事務局長)</p> <p>片平 伸子 (学長指名 兼 自己点検・評価実施推進部会長)</p> <p>金子 潤 (学長指名 兼 認証評価部会長)</p> <p>松原 千栄里 (事務局 (陪席))</p>
C	部会名と 部会員名	<p><b>【教育研究年報作成部会】</b></p> <p>部会長：細山田 康恵・教授 (栄養学科)</p> <p>部会員：今井 宏美・講師 (看護学科)</p> <p>大内 美穂子・助教 (看護学科)</p> <p>河野 舞・准教授 (歯科衛生学科)</p> <p>堀本 佳誉・准教授 (理学療法学専攻)</p> <p>松尾 真輔・助教 (作業療法学専攻)</p> <p><b>【自己点検・評価実施推進部会】</b></p> <p>部会長：片平 伸子・教授 (看護学科)</p> <p>部会員：西村 宣子・准教授 (看護学科)</p> <p>成 玉恵・講師 (看護学科)</p> <p>井上 裕光・教授 (栄養学科)</p> <p>荒川 真・准教授 (歯科衛生学科)</p> <p>藤尾 公哉・助教 (リハビリテーション学科理学療法学専攻)</p> <p>吉野 智佳子・講師 (リハビリテーション学科理学療法学専攻)</p> <p>松原 千栄里・課長 (企画運営課)</p> <p><b>【認証評価部会】</b></p> <p>部会長：金子 潤・准教授 (歯科衛生学科)</p> <p>部会員：加藤 隆子・講師 (看護学科)</p> <p>椿 祥子・助教 (看護学科)</p> <p>菊池 裕・教授 (栄養学科)</p> <p>大谷 拓哉・講師 (リハビリテーション学科理学療法学専攻)</p> <p>岡村 太郎・教授 (リハビリテーション学科作業療法学専攻)</p> <p>田中 宏明・主事 (事務局企画運営課)</p> <p><b>【IR 部会】</b></p> <p>部会長：岡村 太郎・教授 (総務・企画)</p> <p>部会員：神田 みなみ・教授 (教務)</p> <p>鈴鹿 祐子・講師 (学生)</p> <p>竹内 弥彦・准教授 (入試改革)</p> <p>井上 裕光・教授 (広報)</p> <p>田中 宏明・主事 (企画運営課)</p>

		阿部 真希子・副主任 (学生支援課)
D	所掌事項	<p>【自己点検・評価委員会】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己点検・評価の基本方針及び実施計画等の策定に関する事項</li> <li>自己点検・評価の項目の設定に関する事項</li> <li>自己点検・評価の実施に関する事項</li> <li>自己点検・評価に関する報告書の作成及び公表に関する事項</li> <li>認証評価に関する事項</li> <li>その他自己点検・評価に関する事項</li> </ol> <p>【教育研究年報作成部会】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>教育研究年報に関する事項</li> </ol> <p>【自己点検・評価実施推進部会】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己点検・評価の実実施計画等の策定に関する事項</li> <li>自己点検・評価の項目の設定に関する事項</li> <li>自己点検・評価の実施に関する事項</li> </ol> <p>【認証評価部会】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>認証評価に関する事項</li> </ol> <p>【IR 部会】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己点検・評価に関する情報収集、蓄積と分析に関する事項</li> </ol>
E	年度当初の重点課題	
	<p>全学的な自己点検・評価、改善について PDCA サイクルを稼働させて継続的に実行する体制を構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>IR 専門部会における学内情報の集約・分析</li> <li>自己点検・評価委員会（実施推進部会）における評価・提言</li> <li>当該委員会、学科等における改善・計画・実施</li> </ul>	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	4月18日	<ol style="list-style-type: none"> <li>自己点検・評価委員会に求められる役割について</li> <li>部会長の選出について</li> <li>自己点検・評価の今後の予定について</li> <li>大学認証評価の改善報告書提出について</li> <li>平成30年度重点施策・改善計画実施状況最終報告の確認について</li> <li>平成29年度重点施策・改善計画実施状況最終報告の公表について</li> <li>連携拠点としての具体的展開について</li> </ol> <p>報告</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>大学 IR コンソーシアムについて</li> </ol>
2	5月14日	<ol style="list-style-type: none"> <li>大学認証評価の改善報告書提出について</li> <li>平成30年度重点施策・改善計画実施状況最終報告の確認について</li> <li>連携拠点としての具体的展開について</li> <li>その他</li> </ol>
3	12月24日	<ol style="list-style-type: none"> <li>令和元年度の自己点検・評価について</li> </ol>
	開催日	自己点検・評価専門部会の主な議題【教育研究年報作成部会】
1	5月22日	<ol style="list-style-type: none"> <li>教育研究年報の項目と作成について</li> <li>今年度のスケジュール</li> <li>その他</li> </ol>

開催日		自己点検・評価専門部会の主な議題【認証評価部会】
1	8月29日	1. 2022年度大学評価に向けた計画について 報告 1. 2015年度大学評価に対する改善報告書について 2. 大学基準協会による大学評価のポイント（2019年改訂）について 3. 新しい評価機関の設立について
開催日		自己点検・評価専門部会の主な議題【自己点検・評価実施推進部会】
1	10月17日	1. 令和元年度の自己点検・評価について
開催日		自己点検・評価専門部会の主な議題【IR部会】
1	9月25日	1. IR部会設置の趣旨について 2. 大学IRコンソーシアムについて 3. 学生アンケートの実施について
2	令和2年 1月30日	1. 大学IRコンソーシアムのマークシート調査（卒業時調査）について 2. IR部会の活動目標について 報告 大学IRコンソーシアムの詳細スケジュールについて
G 行事開催記録		
開催日		行事名称及び行事の内容
		なし
H 評価（成果および改善事項）		
<ul style="list-style-type: none"> <li>IR部会：大学IRコンソーシアムによる学内の学生のアンケート項目はダッシュボード化されているが未運用である。また、累積GPAや累積単位など教務システムとの連携の準備中。卒業時アンケートや授業評価の連携など未実施である。IR情報を含めて情報公開の定期的な実施が必要。</li> <li>教育・研究年報部会と自己点検評価・実施推進部会により、自己点検・評価と諸活動の定期的な検証を実施する体制は構築できている。</li> <li>大学基準協会からの改善勧告に対する改善報告書を提出し、2020年3月に管理運営と内部質保証に関する改善が承認された。</li> </ul>		
I 次年度の方策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>IR部会において、累積GPAや累積単位など教務システムとの連携と情報公開の定期的な実施と収集されたデータのダッシュボード化されたデータの運用。</li> <li>自己点検・評価として、教育・研究年報部会と自己点検評価・実施推進部会による諸活動の定期的な検証の実施継続。</li> </ul>		

(2) 将来構想検討委員会

A	委員長名 副委員長名	雄賀多 聡・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 佐藤 紀子・教授（看護学科長）
B	構成員名	石井 邦子・教授（看護学科，学部長） 西野 郁子・教授（看護学科，学生部長） 三和 真人・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻長，図書館長） 大川 由一・教授（歯科衛生学科，歯科診療室長） 細山田 康恵・教授（栄養学科長） 麻賀 多美代・教授（歯科衛生学科長） 岡村 太郎・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻長） 島田 美恵子・教授（歯科衛生学科，共通教育運営会議長） 森竹 津四志（事務局長）
C	部会名と 部会員名	なし

D	所掌事項	1 大学の中長期ビジョンに関する事項 2 キャンパス統合の検討に関する事項 3 大学院設置の検討に関する事項 4 実践研修研究センター（仮称）設置の検討に関する事項 5 公立大学法人化等の検討に関する事項 6 その他大学の発展・充実のための将来構想に関する事項
E	年度当初の重点課題	
千葉県立保健医療大学中長期ビジョンの策定		
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	5月13日	1 副委員長の指名について 2 千葉県立保健医療大学中長期ビジョンについて
2	7月1日	1 中長期ビジョンの図案について 2 中長期目標（学生支援）の修正
3	9月2日	1 中長期ビジョンについて
4	9月12日	1 中長期ビジョンについて
5	12月19日	1 「将来に向けて」の実現に向けた方針について
6	令和2年 1月27日	1 「将来に向けて」の実現に向けた方針について
7	令和2年 2月17日	1 交付金事業への応募について 2 シンクタンク機能強化に向けた学長直属特別チームについて
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和2年 2月27日	シンクタンク機能強化に向けた学長直属特別チーム結成 ・シンクタンク機能強化に向けた学長直属特別チームとして学科長・専攻長が集合し、学科・専攻内教員の千葉県や県内市町村との連携状態および、県職能団体への貢献状況を調査し共有した。さらに、大学全体としてのシンクタンク機能強化に向けた実践的研究の方向性として、①生活習慣病予防・介護予防と②認知症予防の二つの柱を決定した。
2	令和2年 3月16日	シンクタンク機能強化に向けての教員ミーティング ・上記方向性に基づき、①生活習慣病予防・介護予防および②認知症予防に興味・関心を持つ教員が集合し、それぞれのグループに分かれ、個々の教員が現在取り組んでいる社会貢献・研究活動、令和2年度に取り組む予定の活動さらに令和3年度以降に向けた学内共同研究のアイデアを各教員から提示し、教員間で議論共有した。具体的な教員間共同研究課題の策定には至らなかった。
H	評価（成果および改善事項）	
年度当初に策定を目標としていた本学中長期ビジョンについては、令和元年11月23日に開催した本学の開学10周年記念式典において、「千葉県立保健医療大学の将来に向けて」として公表した。		
I	次年度の方策	
「千葉県立保健医療大学の将来に向けて」に記載した「重点施策と実現に向けた取り組み」の実行。		

(3) 総務・企画委員会

A	委員長名	大川 由一・教授（歯科衛生学科）
B	委員名	細谷 紀子・准教授（看護学科） 金澤 匠・准教授（栄養学科） 三和 真人・教授（リハビリテーション学科 理学療法学専攻） 岡村 太郎・教授（リハビリテーション学科 作業療法学専攻） 雄賀多 聡・教授（共通教育運営会議）

C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 学内規程に関する事項 2 教育研究の予算配分・執行・決算に関する事項 3 教育及び研究施設に関する事項 4 他の委員会の所掌に属しない事項 5 その他学長が付託した事項に関する事項
E	年度当初の重点課題	
	<p>大学から医療整備課に提出される予算要求のうち、教育用備品費（学科・専攻、共通教育・全学整備用）と修繕費に加え、今年度（令和2年度予算要求）からは図書館および歯科診療室の備品費についても、総務・企画委員会で組織的な審議・決定の機会を設ける。施設の改修（エレベーターやバリアフリー化等）については、これまで事務局を通じて県に要望していたが、大学として組織的な検討を行うためにも、今年度（令和2年度予算要求）からは、総務・企画委員会で順位付けを行い、県に要求できるようにする。引き続き「千葉県立保健医療大学整備計画」に沿って施設整備を遂行する。</p>	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	4月15日	1 委員会スケジュールについて 2 平成31年度全学整備備品について 3 平成31年度委員会経費について 4 平成32年度予算要求について（教育用備品、全学整備備品、修繕費）
2	5月20日	1 令和元年度委員会経費について 2 令和元年度全学整備備品の執行について 3 臨床教授等の称号付与に関する規程における様式について
3	6月17日	1 令和2年度予算について（教育用備品、全学整備備品、修繕希望） 2 令和元年度学内共同研究費の残額の取扱いについて
4	7月8日	1 令和2年度予算について（歯科診療室及び図書館の教育用備品、全学整備備品（追加）、研究費予算）
5	10月28日	1 名誉教授称号授与規程の一部改正について
6	12月9日	1 令和元年度全学整備備品予算の残額の取扱いについて 2 令和元年度中の規程改正への対応について
7	令和2年 2月3日	1 学内委員会関係規程の改正について 2 臨床教授等の称号付与に関する規程について
8	令和2年 3月9日	1 令和2年度教育予算及び研究予算の配分について 2 助産課程履修学生先行実施規程及び助産課程履修学生選考委員会規程の一部改正について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
	<p>・令和2年度予算要求については、令和元年度から教育用備品費（学科・専攻、共通教育・全学整備用）、修繕費に加え、図書館および歯科診療室の備品費についても総務・企画委員会で審議・決定した。施設の改修については、委員会において審議し、順位付けにより整備を行うとともに大規模な改修を要する案件については事務局を通じて県に要望した。</p> <p>・平成31年4月から施行された学内委員会規程のうち、運用上の不都合や修正が必要な点を学内の各委員会に照会し、修正依頼のあった入試改革検討委員会、入試実施委員会、学術推進企画委員会、広報委員会、危機管理委員会、人事委員会の各規程について令和2年3月に審議・決定した。さらに助産課程履修学生先行実施規程及び助産課程履修学生選考委員会規程の一部改正について審議・決定した。</p>	

I	次年度の方策
<p>高額備品購入のために実施してきた各学科専攻への予算の集中配当サイクルが今年度で終了するため、次年度からの新たな予算配分方式について審議する。平成29年3月に、①安全で快適な環境を確保するための整備（トイレ改修など）、②講義室等の基本的な教育環境を確保するための整備（学生用机・椅子の更新など）などの5つの整備方針を掲げた『千葉県立保健医療大学施設整備計画』を作成したが、これまでの学内整備の進捗状況を踏まえ、同計画の評価・見直しを検討する。施設整備計画の評価・見直しに関連して、施設整備の要望等を把握するため、教員を対象としたアンケート調査を検討する。</p>	

(4) 広報委員会

A	委員長名 副委員長名	井上 裕光・教授（栄養学科・共通教育運営会議） 三枝 香代子・准教授（看護学科）
B	委員名	成 玉恵・講師（看護学科） 荒井 裕介・准教授（栄養学科） 荒川 真・准教授（歯科衛生学科） 麻生 智子・講師（歯科衛生学科） 竹内 弥彦・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 吉野 智佳子・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 田中 宏明・主事（事務局企画運営課） 笹倉 駿・主事（事務局学生支援課）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 印刷物を活用した広報に関する事項（大学案内等入試広報を除く。） 2 ホームページなど情報・通信システムを活用した広報に関する事項 3 その他大学の広報に関する事項
E	年度当初の重点課題	
<p>本学の組織改革に伴い新設された委員会として、従来入試実施部会が担当していたオープンキャンパス等のイベント広報を引き継ぐと同時にホームページ・SNSを利用した本学の情報発信方法を事務局とともに手順化できるようにする。</p>		
F	会議・活動記録（含む部会の開催）等	
	開催日	主な議題
1	7月3日	1 広報委員会規程及び分掌の確認 2 広報委員会の活動とSNS広報について 3 SNS情報発信のための本学SNS運用規約について 4 委員会の日程について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
<p>・委員長が兼務する学内情報ネットワークシステム更改作業（予定外のリース延長への対応）により忙殺され、年度当初の予定が行えなかった。</p>		
I	次年度の方策	
<p>新たな委員長のもと、情報発信方法を事務局とともに手順化できるようにする。</p>		

(5) 衛生委員会

A	委員長名	統括安全衛生管理者：田邊 政裕・学長 衛生管理者：荒川 真・准教授（歯科衛生学科） 産業医：雄賀多 聡・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻）
---	------	--

B	委員名	東本 恭幸・教授（栄養学科） 松原 千栄里・企画運営課長（事務局）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 労働者の健康障害を防止するための基本となるべき対策に関すること 2 労働者の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関すること 3 労働災害の原因及び再発防止対策で、衛生に係るものに関すること 4 上記に掲げるもののほか、労働者の健康障害の防止及び健康の保持増進に関すること
E	年度当初の重点課題	
・所掌事項の達成		
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	12月19日	【報告】 1 令和元年度ストレスチェックの結果について 【議題】 1 職場巡視・環境測定の結果について 2 水質検査の結果について
2	令和2年 2月26日	【議題】 1 令和元年度千葉県職員勤務条件実態調査について 2 職場巡視・環境測定の結果について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
・所掌事項は概ね達成された		
I	次年度の方策	
・教職員の健康実態の把握 ・ワークライフバランスにも配慮した衛生環境・管理運営体制の構築		

(6) 危機管理委員会

A	委員長名 副委員長名	雄賀多 聡・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 島田 美恵子・教授（歯科衛生学科，共通教育運営会議長）
B	構成員名	細谷 紀子・准教授（看護学科） 富樫 恵美子・講師（看護学科） 谷内 洋子・教授（栄養学科） 金澤 匠・准教授（栄養学科） 鈴鹿 祐子・講師（歯科衛生学科） 堀本 佳誉・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 藤尾 公哉・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 有川 真弓・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 松尾 真輔・助教（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 西野 郁子・教授（看護学科，学生部長） 井上 裕光・教授（栄養学科，ネットワーク管理者）
C	部会名と 部会員名	【災害対応ワーキンググループ】 雄賀多 聡 島田 美恵子 西野 郁子 井上 裕光

		事務局 (松原 千栄里, 長澤 孝, 村上 健)
D	所掌事項	1 大学の危機管理に関する重要な事項 2 危機管理マニュアルの作成・見直し及び周知に関する事項 3 情報システム管理室における以下の業務に関する事項 ① 学内情報システム (情報ネットワークシステム, 教務・入試システム, 図書館システム) の運用・管理 ② 学生及び教員の情報システム活用の支援 情報セキュリティ対策
E	年度当初の重点課題	
	・危機管理マニュアルの作成	
F	会議記録 (含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	6月3日	1 危機管理について ア) 危機管理規則 イ) 危機管理委員会規程 2 防災訓練について ア) 自衛消防隊の編成 イ) 幕張キャンパスにおける防災訓練 ウ) 仁戸名キャンパスにおける防災訓練 3 防犯カメラの設置について 4 災害時における保健医療大学対応等 5 その他
2	9月5日	1 防災規定等の改正について ア) 防災規程 イ) 幕張キャンパス消防計画 ウ) 仁戸名キャンパス消防計画 エ) 健康危機管理基本方針 オ) 健康危機対策委員会設置要綱 カ) 新型インフルエンザ対策委員会 行動計画
3	10月21日	1 台風発生を踏まえた災害対応の迅速な見直しについて 2 仁戸名キャンパスにおける防災訓練について 3 令和2年度防災訓練実施日 (案) について 4 教育情報セキュリティポリシーについて 5 台風19号に係る報告事項 6 その他
4	10月24日	災害対応ワーキンググループ第1回ミーティング
5	10月31日	災害対応ワーキンググループ第2回ミーティング
6	11月7日	災害対応ワーキンググループ第3回ミーティング
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	6月21日	防災訓練の実施 (幕張キャンパス)
2	11月13日	防災訓練の実施 (仁戸名キャンパス)
H	評価 (成果および改善事項)	
令和元年15号 (房総半島) 台風および令和元年19号 (東日本) 台風による被害が千葉県に発生したことを受け、災害対応ワーキンググループを立ち上げ、約一か月間で、「災害対応初動マニュアル2019」で取りまとめた。令和2年に入り、新型コロナウイルス感染症の拡大に対し、令和2年度の新学期開講にむけての新型コロナウイルス感染症に対する基本方針の策定をメール審議にて行った。		

I	次年度の方策
危機管理マニュアルの作成	

(7) 人事委員会

A	委員長名	石井 邦子（学部長）
B	委員名	佐藤 紀子（看護学科長） 細山田 康恵（栄養学科長） 麻賀 多美代（歯科衛生学科長） 三和 真人（リハビリテーション学科長 兼 理学療法学専攻長） 岡村 太郎（リハビリテーション学科作業療法学専攻長） 島田 美恵子（共通教育会議会長） 森竹 津四志（事務局長）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 教員の採用・昇任・再任の基準に関する事項 2 教員の配置，教員組織の編制に関する事項 3 その他教員の人事に関する事項
E	年度当初の重点課題	
委員会の活動開始年となることから，委員会の所掌事項である教員採用の新プロセスの遂行と評価，昇任に関する検討，教員配置及び教員組織編制に関する評価，年間の活動スケジュール等を確立することを重点課題とした。		
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	4月22日	1) 2019年度活動計画について 2) 教員資格審査委員会の設置について 3) その他
2	5月27日	1) 教員組織，教員配置の検証について 2) 教員資格審査委員会の設置について 3) その他
3	8月2日	1) 授業負担平準化の方策について 2) 教員組織の評価・改善について 報告事項：科目責任者の分布
4	10月2日	1) 教員資格審査委員会の設置について 2) 教員の昇任規程の整備について 3) 教員候補者の面接（プレゼン）について
5	令和2年 1月9日	1) 教員資格審査委員会の設置について 2) 教員の昇任規程について 3) 委員会規程の改正について
6	令和2年 1月27日	教員資格審査委員会の設置について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな教員採用プロセスを遂行した。助教採用プロセスにメール審議を導入し，プロセスの短縮・効率化を実現した。</li> <li>昇任規程の整備について審議したが，非法人組織における昇任制度の導入の問題点が明らかになり，公募による採用を継続することを決定した。</li> <li>教員配置及び教員組織編制の評価のため，授業負担及び主要科目の担当教員配置が適正であるかを点検した。授</li> </ul>		

業負担に著しい偏りが認められ、学科内での平準化を行った。 ・教員の採用方針及び教員組織編制方針の検討に着手できず、認証評価での指摘を受けた。	
I	次年度の方策
・教員の採用方針及び教員組織編制方針の検討を行い、決定する。 ・教員採用プロセスの評価を継続し、助教以外の採用プロセスについても効率化を図る。 ・令和元年度の経験をもとに、新教員採用プロセスを明文化する。	

(8) 教員再任審査委員会

A	委員長名	麻賀 多美代・教授（歯科衛生学科）
B	委員名	石井 邦子・教授（看護学科） 谷内 洋子・教授（栄養学科） 三和 真人・教授（リハビリテーション学科理学療法専攻） 森竹 津四志・事務局長
C	部会名と 部会員名	【専門部会】 委員長の指名による（各学科・専攻より1名）※2019年度は設置なし
D	所掌事項	1 業績評価の基準及び評価方法等に関する事項 2 任期中における業績評価に関する事項 3 休職等があった場合における任期の延長に関する事項 4 その他教員の任期制に関すること
E	年度当初の重点課題	
・所掌事項の達成		
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	5月15日	1 審査対象者の確認について 2 審査の手順・様式について 3 再任審査の審査方法について 4 教員の任期の延長について
2	6月25日	1 業績審査の検討及び再任審査結果の決定 2 業績審査の審査方法について
3	11月15日	1 審査対象者の確認について 2 審査対象者の任期の延長について 3 審査の手順・様式について 4 再任審査の審査方法について
4	12月16日	1 業績審査の検討及び再任審査結果の決定 2 教員の任期の延長について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
・前期6名（看護5名、栄養1名）、後期3名（看護2名、歯科衛生1名）再任審査を行い、全員再任可と判定された。また、後期1名の任期延長を認めた。		
I	次年度の方策	
・適切な再任審査の実施		

(9) キャンパス・ハラスメント防止対策委員会

A	委員長名	杉本 知子・教授（看護学科）
---	------	----------------

B	委員名	雄賀多 聡・副学長 石井 邦子・学部長 西野 郁子・学生部長 森竹 津四志・事務局長 大川 由一・教授（歯科衛生学科） <b>【外部委員】</b> 山口 祐輔（弁護士） 有馬 和子（臨床心理士）
C	部会名と 部会員名 (相談員名)	<b>【相談員】</b> 小宮 浩美・教授（看護学科） 杉本 健太郎・講師（看護学科） 佐伯 恭子・講師（看護学科） 井上 裕光・教授（栄養学科） 福島 昌子・准教授（栄養学科） 金子 潤・准教授（歯科衛生学科） 木戸田 直実・助教（歯科衛生学科）（9月まで） 竹内 弥彦・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 江戸 優裕・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 有川 真弓・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 松尾 真輔・助教（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 松原 千栄里・課長（事務局企画運営課） 村上 健・主事（事務局企画運営課） <b>【キャンパス・ハラスメント調査委員会】</b> キャンパス・ハラスメント防止対策委員会が推薦する者から学長が指名
D	所掌事項	1 キャンパス・ハラスメントの防止及び排除に関する基本方針の策定に関すること 2 キャンパス・ハラスメントに関する啓発及び研修に関すること 3 キャンパス・ハラスメントに関する苦情の申出及び相談への対応に関すること 4 上記に掲げるもののほか、キャンパス・ハラスメントの防止及び排除に関すること
E	年度当初の重点課題	
	・本学におけるキャンパス・ハラスメントに関する実態の把握 ・キャンパス・ハラスメントの実態に基づく啓発、防止策の企画・実施	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	4月19日	<b>【議題】</b> キャンパス・ハラスメント事案について
2	7月5日	<b>【議題】</b> キャンパス・ハラスメント事案について
3	10月4日	<b>【議題】</b> キャンパス・ハラスメント事案について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	9月12日	キャンパス・ハラスメント防止研修会
2	12～1月	キャンパス・ハラスメント学内アンケート調査の実施
H	評価（成果および改善事項）	
	・不服申立てへの対応や組織運営の円滑化を図るため、規程やガイドラインの見直しが必要である	
I	次年度の方策	
	・キャンパス・ハラスメントに関する調査及び啓発、防止を目的とする実態調査を行う ・キャンパス・ハラスメントに関する啓発、防止を目的とする講演会・研修会を企画する ・キャンパス・ハラスメントに関する規程やガイドラインの見直しを行う	

## 5. 各学科・専攻の管理・運営活動報告

### 1) 看護学科

#### (1) 教員組織

教員は、4月当初は教授9名、准教授7名、講師11名、助教11名、計38名の構成であったが、年度内に、教授1名が着任、講師1名および助教1名がそれぞれ准教授および講師に昇格し、教授10名、准教授8名、講師11名、助教10名、計39名の構成となった。

#### (2) 年度当初の重点課題

各委員会のメンバーが交代となるため、引継を確実にし、活動の活性化につながるようにする。

#### (3) 取組状況

学科の管理・運営は、全教員が構成員となる看護学科運営会議が中心であり、5回開催された。看護学科教授会は、看護学科全体の主要課題や方向性を迅速に審議し決定するために設置されており、12回開催した。

学科内に下記の委員会を設置し、定期的な会議により、全学関連委員会や看護学科運営会議等との連携・調整のもと、それぞれの活動を行った。各委員会の主要な活動は、以下の通りである。

看護学科総務・企画委員会では、学科予算に関することや学科の共有物品等に関する事項を所掌しており、それらの円滑な実施に向けて活動を行った。今年度は、教育用備品費の集中配当にあたり、配分された予算の適切な執行に向け領域間の調整を行い、学科内の教育用備品の整備を行うことができた。令和2年度の教育用備品費予算要求においても、領域間で要求方針の合意をはかり適切な金額に取りまとめ、全学委員会審議において希望通りの要求が認められた。ネットワーク委員会の解消により、今年度から本委員会の所掌事項に、ゼミ用PCおよび共有ホルダの管理に関することが加わったが、滞りなく遂行できた。携帯電話については計画通り10台の更新を完了した。清掃に関しては、昨年度は予定外のワックスがけ等がなされ実習運営に支障をきたす事態が生じたが、今年度は円滑に実施できた。被服貸与についても、5月までに照会が完了し、6月納品が実現できた。学科長が付託する事項および運営会議の運営について滞りなく実施した。

看護学科教務委員会では、カリキュラム実施部会、実習検討部会、ポートフォリオ担当の役割で活動した。カリキュラム実施部会では在校生・入学生ガイダンスの実施、時間割の調整、定期試験監督者の調整、特別講義時間数の調整を行った。実習検討部会では実習計画表の立案、領域別実習のグループ編成の作成、実習要項の修正、災害時マニュアルの改訂、実習オリエンテーションの実施、実習公文書依頼のとりまとめを行った。ポートフォリオの取り組み支援に加え次年度より年間目標シートはきめ細やかな支援を行うために担任が支援を行うことに変更になり、学生進路支援委員会と連携を取り、マニュアル作成を行った。必修科目単位未修得学生に対する個別履修計画の確認等を行った。必修科目単位未修得状況学生、休学学生、復学学生に合わせ個別履修計画の確認作業を行い、学生の意向や学習進度を考慮した履修計画を提案した。令和2年度は東京オリンピック開催による学年暦の大幅変更と新々カリキュラムと現行カリキュラムの同時進行が重なるため、時間割作成作業が煩雑となったが、年度末には調整作業は終了することができた。

看護学科学生・進路支援委員会では、個別履修支援が必要な学生に対する指導方針の整備、進路支援ガイダンス等の工夫・改善、県内就職推進に向けた指導体制の強化を行った。詳細は、「学生支援」の項で述べる。

看護学科入試検討委員会では、看護学科面接試験の入試実務、オープンキャンパス、学校説明会などの広報に関して担当した。入試に関しては、「看護学科面接試験実施要領」を作成し、全看護学科教員に説明を行い、適切に実施できた。オープンキャンパスでは、実施計画の作成、当日の運営総括、評価を行った。看護学科説明会の参加者は2日間で1,381名、個別相談202組であり、昨年とほぼ同数の参加人数であった。事後アンケートの結果より、参加者の9割近くが満足との回答していた。大学説明会では、高校訪問や模擬授業、大学見学を行い、本学の魅力が伝わるよう説明会マニュアルの更新を行った。高校での説明会は45校、大学見学8校に対応した。加えて、大学案内の看護学科ページの改定を行った。

看護学科社会貢献委員会では、看護学科専任教員の社会貢献事業の総括及び受諾事業の管理・調整を滞りなく実施した。また、千葉県内看護職員の看護研究スキルアップに向けた、「フォローアップセミナー」を企画し、開催準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染防止のため時期延期となった。

次年度は、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、セミナーを開催し、中小規模病院対象にした看護研究の出張セミナーを企画・実施していく。

看護学科倫理審査委員会は、4年生の必修科目である看護研究において、学生が人を対象とする調査を実施する場合の倫理審査を行った。今年度は学生に審査の流れについての説明を実施した。2019年度は39件の審査を行い、滞りなく審査を進めることができた。さらに学生の研究倫理の質向上を目指し、今年度の倫理審査時の審査者からの指摘内容を整理し、学科内教員に情報提供を行った。

#### (4) 評価（成果および改善事項）

新たな委員会体制での活動であったが、連携を密にして円滑に活動を行うことが出来た。台風15号、19号の際には学生の教育に支障が出ないよう、学科教授会、学生・進路支援委員会を中心に被災状況調査その後のサポート体制について検討した。

#### (5) 次年度の方策

次年度は、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、感染防止対策に努め、学生への教育が滞らない体制を整備する必要がある。そのため学科運営会議および教授会を中核として、領域長間、委員会間の連携・協力体制を強化する。また、次年度は学科長選挙の実施年であるため、公正に運営できるように努める。

## 2) 栄養学科

### (1) 教員組織

教員構成は教授4名、准教授4名、講師1名、助教4名の計13名でスタートし、6月に教授1名と講師1名、9月に助教1名が加わり16名の構成であった。後期に、産休教員(助教)の代替として非常勤職員1名を迎えた。専門科目の担当教員は14名、栄養教諭課程(選択)(兼:一般教育科目)の担当教員は2名である。

### (2) 年度当初の重点課題等

新体制で各委員会が確実に責務を果たすとともに、連携を密にして円滑な組織運営を図る。専門科目がすべて専任教員で担当できるように、欠員の人材確保をする。

### (3) 取組状況

栄養学科の管理・運営は教授で構成する教授会及び全教員を構成員とする学科運営会議を中心とし、それぞれ6回、18回実施した。教育研究社会貢献委員会群と管理運営部門委員会群には、学科教員がいずれかの委員会・部会の組織に所属し、委員長・部会長・構成委員として参加した。

学生教育とそれに関わる教員間の運営を円滑に行うために、月2回の学科運営会議を実施し、教授会報告、各委員会報告、各委員会の検討事項の検討、学生教育の進捗状況、学生生活の報告、その他必要事項の検討や周知を行った。

新カリキュラムにおいて、卒業時に食品衛生監視員・食品衛生管理者の資格が取得できるようになった。これに伴い、ガスクロマトグラフ質量分析計を設置し、次年度の授業に備えることができた。

管理栄養士養成施設校に紹介された2020年度開催予定であった東京オリンピックの食事提供に、約30名の学生が参加を希望していたが、新型コロナの影響で再検討することになった。

学年別の担任・副担任制、国家試験対策会議(国家試験担当教員、学科長、担任、副担任)、臨地実習担当者会議、栄養教諭担当者会議、卒業論文担当者会議、卒業論文のための倫理審査委員会がある。それぞれ、適切に機能し各会議では学科会議で必要事項を周知した。

入試関係については、各教員が、学内見学者への対応、各高校への出張説明会等を行った。オープンキャンパスでは、教員がスタッフとして学科の紹介や参加者の誘導などを行った。特別選抜入学試験・一般選抜入学試験入試に際しては、入試の監督・採点・集計・受験者誘導など入試関連業務を担当した。

社会活動として、文部科学省、千葉県、学術団体、栄養士会等の職能団体の委員および研修会の講師など、また、新聞、TV、Webを通し、臨床栄養、食育、食文化等の健康づくりに関する活動を行った。特に、UR都市機構の方と共同で地域の高齢者の方に、ほい大健康プログラムの提供し教員と学生でプログラムを実施できた。

### (4) 評価(成果および改善事項)

新カリキュラムを学んだ26名の卒業生を輩出した。管理栄養士国家試験は、合格率100%であった。4名就職を希望しない学生がいたが、就職を希望した卒業生の就職率は100%であった。国家試験については、学生指導および学科会議での報告による全教員への現状の周知により学科全体で、国家試験対策を検討し、来年度も取り組みたい。臨地実習については、担当教員間での協力及び実習先との綿密な打ち合わせ等により、期間内で3分野の臨地実習が終了するよう調整できた。新体制の中、各委員会で確実に責務を果たし、連携して円滑に活動を行うことができたが、人事に関しては、欠員の補充をすることができなかったため、次年度は欠員の人材確保を目指すようにする。

### (5) 次年度の方策

専門科目での専任教員の欠員を確保するとともに、教員間で協力し合い円滑な組織運営をはかるようにする。栄養学科教授会において、新型コロナ感染予防対策における授業対応についての方針を定める。

## 3) 歯科衛生学科

### (1) 教員組織

学科教員の構成は、教授5名、准教授3名、講師4名、助教1名である。教員のうち歯科専門職は11名(歯科医師5名、歯科衛生士6名)となっている。欠員(講師)1名、育児休業教員(講師)1名でのスタートであり、さらに後期は1名の欠員(助教)となった。

### (2) 年度当初の重点課題等

歯科衛生士教員が育児休業と退職により欠員となるため、歯科衛生士教員の負担を考慮し、教員間の連携を密にして円滑な組織運営と教育活動を行う。

### (3) 取組状況

歯科衛生学科の管理・運営体制は、全教員が構成員となる歯科衛生学科会議が中心で11回開催された。本学付属の歯科診療室の管理・運営体制は、歯科診療を担当する歯科医師、歯科衛生士が構成員となる歯科診療室会議が中心となり11回開催された。歯科診療室では、毎週初日の診療開始前に週間予定、連絡事項、医療安全体制等について確認した。大学全体の管理・運営については、学科の全教員が各種委員会、部会、ワーキンググループ等の組織に所属し、構成員として積極的に活動を行ってきた。

入試関係については、大学説明会に積極的に参加し、高校生向けに本学ならびに当学科の紹介を実施した。7月に開催されたオープンキャンパスでは教員がスタッフとして学科の紹介、実習室での演習体験、個別相談に対応した。特別選抜入学試験・一般選抜入学試験入試に際しては、入試の監督・採点・集計・受験者誘導など入試関連業務を担当した。

### (4) 評価（成果および改善事項）

平成31年度は歯科衛生士教員が育児休業1名、欠員1名となり、歯科衛生士教員4名の実習等の負担は増えたものの、学科で協力して教育と学科の運営にあたった。次年度は学科教員13名体制による組織運営と教育活動を実施する。

大学のシンクタンク機能として地域高齢者におけるオーラルフレイルの予防に向けた健康増進プログラム（誤嚥による肺炎予防のために）を学科全教員が参加して実践した。

### (5) 次年度の方策

本年度同様、教員間の連携を密にして円滑な組織運営を行う。

## 4) リハビリテーション学科理学療法専攻

### (1) 教員組織

教授2名・准教授2名・講師1名・助教2名の計7名。職種は、医師1名、理学療法士6名。

### (2) 年度当初の重点課題

ワンキャンパス化、および大学院構想の事実上棚上となり、大学評価機構の改善指示・注意等による大学内組織の再編成、および千葉県健康福祉部医療整備課の医師・看護師確保係の傘下からワンランク上の推進組織と同列となり、保健医療福祉に関するシンクタンク機能に軸足を置くことになった。今後、大学院設置や専任教員の増員について、いつ話し合いが持たれるのやら先が見通せない状況である。実際、他学科の教員ではそのことを理由もあってか教員の出入りが激しく、教員資格審査委員会の設置に参加すること27件（申請なし4件の重複を含む）が現れており、本専攻の教員のも1月と2月に相次いで2名の退職者と年度はじめの退職者1名を含めると、定員8名のうち3名が欠員となり、専攻内および学内業務を運用することが難しいと容易に判断できよう。

一方、理学療法士の職域拡大が進んでいることを顧みると、教員人数から考えても現有の最低人数（厚労省指定規則6名の専門職を要する）で如何に専攻内の運用を行うかの問題は破綻に近い状態であり、教育以外の教員の研究活動は限りなく難しい。本専攻教員の中には、社会貢献等に力を注いでいる教員はいるものの、本来業務の教育と研究は十分とは言い難い。また、臨床現場で知識を習得するための研修制度もなく、教育水準の押し上げや維持といった大学が本来あるべき体制がなく、希求の課題であろう。

### (3) 取組状況

幕張キャンパスで開催される教授会・運営会議や各種委員会へは仁戸名キャンパスから移動し、他学科の教員と比較して、助教も含めて確実に各種委員会に少なくとも4つ以上参加している。毎週水曜午前、理学療法専攻会議を所属の全教員で実施し、教授会・運営会議・各種委員会やワーキンググループ等の活動状況や主な取組内容の報告、依頼の対応をしている。また、学生の学習・実習状況等、教員間での情報伝達と共有化を図るよう努めている。加えて、学校説明会等の学外対応の負担は一部の教員に偏らないように極力配慮をしているが、現実問題として人数に限りがあり、本専攻に入学実績のない学校には断りを入れることもある。

### (4) 評価（成果および改善事項）

教員数は現有7名（後期9月から加わって）であるが、実質6名の専門職（理学療法士）と医師1名で教授会・運営会議・各種委員会、および2ヶ月に1回のリハビリテーション学科会議を開催している。また、必要に応じて6ヶ月に1度程度の学科教授会（構成員4名）を行っている。毎週の専攻会議を予定通りに開催している。

### (5) 次年度の方策

本年度同様、専門職教員の充足と増員および職位の不均衡に対する是正を求めたい。この理由は他学科・専攻

に比較して科目責任者が少ないことが上げられる。助教から教授までのほとんどの教員は博士号の学位をもって入職しているにもかかわらず、大学院化もなく、科目担当者にも成れずじまいであり、公務員に課せられた「公平公正」の原則が成立しているのかという忸たる思いを抱いている。この現状では大学としての本来の体を成しているかと考え難く、改善を強く望むものである。

しかし、憂いるばかりでは先が見えなくなる。暗澹たる中で果たすべき管理・運営とは何かを常に考え、着実に実行して組織の中核を成していくことも使命と考え。粛々と本専攻を運営していく。

## 5) リハビリテーション学科作業療法学専攻

### (1) 教員組織

リハビリテーション学科作業療法学専攻の教員構成は、2019年度は2019年8月31日までは、教授2名、准教授3名、講師2名、助教1名、計8名であった。内訳として、昨年、高橋教授の退職に伴い新しく医師山本教授1名が入職し、作業療法士7名の構成で運営されていたが、佐藤大介先生が2019年8月31日の退職に伴い、9月より教授2名、准教授3名、講師1名、助教1名、計7名となった。

### (2) 年度当初の重点課題

作業療法学専攻の運営管理上の重点課題

- ① 実習病院、実習施設の獲得活動については、改善に取り組み。
- ② 施設・設備の老朽化や設備の改善。
- ③ 作業療法学専攻への入学応募者の増加に取り組む。
- ④ 新カリキュラムへの対応準備

### (3) 取組状況

- ① 実習病院、実習施設の獲得活動について、身体障害領域は十分確保できるようになる。一方、精神障害分野・発達障害分野に関して、千葉県内の施設の数も限られ学生すべてにわたって領域を見ることは難しい状況である。昨年度より、大学から通学できる施設として、東京方面や埼玉方面に実習病院の開拓を進めるも身体障害領域の確保につながり、発達領域も少数だが獲得できた。
- ② 共通で使用する備品などプロジェクターなどや椅子など修理や老朽化などに対して軽微な予算獲得できるようになった。
- ③ 生募集の業務・広報活動として、SNSの利用とオープンキャンパスを実施している。専攻としてSNS等を通じた広報活動が実施できた。今後、作業療法学専攻のSNSの定期的配信やテーマなどきめるなど工夫が必要になる。
- ④ 新カリキュラムへの対応として、授業の組み換えや新しい科目の対応を実施する。

### (4) 評価（成果および改善事項）

- ① 学生のキャンパス間における移動などの問題は解決しておらず、受講できない科目が生じることがある。现阶段では、時間割を作成時に年度ごとに工夫をしているものの限界がある。
- ② 実習担当を統合する委員を設け、臨床体験実習から評価実習、総合実習、地域作業療法学実習に至るまで総合的に管理できるよう試み、慢性的な不足状況は継続しているが、状況把握と対策ができた。
- ③ 教育環境は、平成29年度の予算の配当により少しであるものの改善している。施設の老朽化などについては、総務企画委員会と後援会より継続した予算の配当とご援助いただき机・椅子、プロジェクターなどの改善が実施されている。
- ④ 広報に関するホームページの改善の予定が組まれている。SNSを使用し、授業等の広報活動の活用を試みた。

### (5) 次年度の方策

本年度と同様に実習病院、実習施設の獲得活動については、毎年不足気味であるが、身体障害者分野においては充実していった。また、当大学1期生が臨床経験5年目となるので、卒業生への卒業教育などへの活動などの取り組みについて計画・実施する。学生アンケートでも施設などの満足が低いため、施設・設備の老朽化や設備の改善や夜間の通学路における安全への取り組みが方策として必要である。施設・設備については、若干取り組めたが夜間の通学路における安全対策については、継続課題である。

## 6. 事務局の活動

事務局は、企画運営課と学生支援課の2課で構成されている。

### 1) 職員組織

平成31年4月1日現在、事務局長1名、企画運営課は課長を含め職員9名、嘱託5名の計14名、学生支援課は課長を含め職員5名、嘱託8名の計13名、合計28名で運営している。企画運営課は、教授会、大学運営会議、各種委員会等に係る事務、学内研究費、科学研究費補助金等の執行事務、教育用消耗品や備品等の購入事務、施設の維持管理や実習機関への委託事務等を担当し、学生支援課は、カリキュラム編成や授業時間割の調整、非常勤講師の調整、単位認定等の教育課程に関する事務、入学試験、大学入試センター試験に係る業務、学生の実習、就職支援に係る業務等を担当している。

### 2) SDの取り組み

#### (1) 年度当初の重点課題

大学職員としての資質向上。

#### (2) 実施状況

4月25日

「H31年度大学職員研修」／講師 保健医療大学 学長 田邊政裕／

参加人数12名

9月5日

「キャンパス・ハラスメント防止研修」／講師 日本経営協会 大村美樹子／

参加人数60名

その他下記の入試、奨学金関係の会議及び公立大学に係る研修会等に出席した。

- ① 5月8日 大学改革支援研究会・公立大学に関する基礎研修（公立大学協会主催）
- ② 6月6日 入学者選抜に関する協議会（公立大学協会主催）
- ③ 6月11日 令和元年度全国キャリア教育・就職ガイダンス（文部科学省、就職問題懇談会、日本学生支援機構主催）
- ④ 6月17日 公立大学協会担当者研修会及び公立大学実態調査表作成説明会（公立大学協会主催）
- ⑤ 6月18日 大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会（文部科学省主催）
- ⑥ 7月11日 大学入試センター試験千葉地区連絡会議（千葉大学主催）
- ⑦ 7月17日～7月19日 公立大学職員セミナー（公立大学協会主催）
- ⑧ 7月24日 千葉県大学・短期大学入試広報連絡会 総会（千葉県大学・短期大学入試広報連絡会主催）
- ⑨ 8月19日 大学入学者選抜大学入試センター試験入試担当者連絡協議会（第1回）（大学入試センター主催）
- ⑩ 9月5、6日 令和元年度インターンシップ専門人材セミナー～基礎編～（日本学生支援機構主催）
- ⑪ 9月13日 公立大学協会関東・甲信越地区協議会（公立大学協会主催）
- ⑫ 9月30日 学生教育研究災害傷害保険説明会（日本国際教育支援協会主催）
- ⑬ 10月2、11日 高等教育の修学支援新制度説明会（文部科学省主催）
- ⑭ 10月15日 日本学生支援機構奨学金 業務研修会（日本学生支援機構主催）
- ⑮ 10月25日 千葉県大学・短期大学入試広報連絡会 総会（千葉県大学・短期大学入試広報連絡会主催）
- ⑯ 12月2日 大学入学者選抜大学入試センター試験入試担当者連絡協議会（第2回）（大学入試センター主催）
- ⑰ 12月4日 2019年IRシステムデータ登録講習会（大学IRコンソーシアム主催）
- ⑱ 2月17日 令和元年度日本学生支援機構奨学業務連絡協議会（日本学生支援機構主催）

## 7. FDの実施状況

### 1) 年度当初の重点課題等

系統的な計画に基づいたFDを行うために必要なFD・SDマップの作成を行う。また、学内におけるFDの連携、調整、定期開催を図る。

### 2) 主な活動

- ・4月1日 新任教員研修会「本学の研究倫理審査体制」研究倫理審査委員会
- ・4月25日 新規事務員講習会「千葉県立保健医療大学とその課題解決へ向けて—改革2019—」
- ・6月21日 FD&SDセミナー「入試改革の動向と本学の取り組み」
- ・9月3日～10月29日 カリキュラムプランニング（計5回）
- ・9月4日 第1回イブニングセミナー「公大協 科研費セミナーについて、 科研費申請書作成のコツ～計画調書審査員の視点から～」
- ・9月12日 FD&SDセミナー キャンパス・ハラスメント防止研修

令和2年

- ・1月10日 第2回イブニングセミナー「ソーシャルキャピタル滋養による「健康なまちづくり」—地域介入/CBPR研究「武豊・松戸PJ」の到達点—
- ・2月20日 第3回イブニングセミナー「宇宙環境の人への影響と宇宙食—宇宙医学・栄養学—」

### 3) 評価（成果および改善すべき事項）

- ・6月21日開催の「入試改革の動向と本学の取り組み」は、参加者66名であった。受講後のアンケートでは、入学試験問題の作成や採点に関わる留意点等について参考になった・やや参考になったと答えた人が7割を超えていた（回収率87.9%）。
- ・カリキュラムプランニングについては、期間中5回、各学科から1～2名（計7名）参加し、アウトカム基盤型カリキュラム、コンピテンシー・詩晩方カリキュラムの基本となる知識を田邊学長より学んだ。受講後のアンケート結果では、少人数のため随時、質疑応答や意見を確認しながら進められた、内容が非常に価値のあるものであるが、予習や活用方法を検討する時間がとれなく残念である、などの意見があった（回収率100%）。
- ・9月4日開催の第1回イブニングセミナーでは科研費申請率・採択率向上に向けて開催し、参加者50名であった。受講後のアンケート結果では、満足・およびやや満足が97.6%であり好評であった（回収率86%）。
- ・9月12日開催の「キャンパス・ハラスメント防止研修」では、参加者60名であり、研修で得た情報・知識を、活用できる・大いに活用できる人が82.3%であった（回収率85%）。
- ・令和2年1月10日開催の第2回イブニングセミナーでは、参加者50名であった。受講後のアンケートでは満足・やや満足が93%であった（回収率86%）。
- ・2月20日開催の第3回イブニングセミナーでは、参加者33名であった。受講後のアンケートでは、満足・やや満足が73.9%であった（回収率69.7%）。

### 4) 次年度の方策

組織的な研修としてFD・SDを開催するために、今後、大学としてどのような内容のものが必要か検討を行い、企画実施する。また、新任研修についての検討を継続する。

## IV 教育活動

### 1. 共通教育

#### 1) 教育方針

体系的な初年次教育を行い、学問や大学教育全般に対する動機付けおよび論理的思考や問題発見・解決能力の基盤を作る。

#### 2) 年度当初の重点課題

①学問・大学教育全般に対する動機付け教育導入を検討する。② 海外との学生交流に対応できる英語力を習得できる英語教育を充実させる。③ 低学力者に対するフォローアップ体制の確立（体系的な初年次教育の導入）「プレゼンテーションやディスカッションなどの口頭発表の技法」、「学問や大学教育全般に対する動機付け」、「論理的思考や問題発見・解決能力の向上」論理的思考・問題解決能力向上のための教育方法の導入を検討する。

#### 3) 取組状況

新入生に対し、VELC 英語習熟度テストを実施した結果を、学内共同研究発表会で公表した。神田外国語大学と共催し、医療ボランティア養成講座を開講した。令和2年度より、2年生以上対象の上級英語クラスが開講される。また、共通教育運営会議構成員が科目責任者を担う新入生対象の「体験ゼミナール」では、本年もプレゼンテーションの充実を課題として、口頭発表におけるスキルの上達と聴講者としての学び方を教授できた（授業評価も好評であった）。

#### 4) 評価

令和元年度より、共通教育運営会議のメンバーは大幅に改変された。非常勤講師の選出と承認の可否を問うメール審議が主な1年となってしまった。この審議を、基礎教育の在り方についての共通認識の糧としたい。

#### 5) 次年度の方策

令和上級英語クラス、医療ボランティアはじめ、学内で英語にふれる機会・場を多く設ける。本学学生が、論理的思考・問題解決能力を向上させているか、具体的に評価することを検討したい。

### 2. 看護学科

#### 1) 教育方針

学生が、確かな看護実践能力や自己研さん力を身に付けられるように、きめ細やかな教育を行う。ポートフォリオ、看護実践能力評価票等を活用し、学生の主体的学習を促進する。

#### 2) 年度当初の重点課題

令和元年は新々カリキュラムと旧カリキュラムが同時進行するため滞りなく教育が実施できるように各部会が活動を行っていく。また令和2年度は東京オリンピック開催による学年暦の大幅変更と、新々カリキュラムと現行カリキュラムの同時進行が重なるため、時間割作成作業が煩雑になることが予測される。令和2年度の教育が円滑に行えるよう、調整作業を実施していく。

#### 3) 教育内容・方法

1年次に、特色科目の「体験ゼミナール」、一般教養科目とともに、「薬理学Ⅰ、Ⅱ」「病理学Ⅰ、Ⅱ」等の保健医療基礎科目、「人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の専門基礎科目、「看護学入門」「看護技術論Ⅰ」等の基礎看護科目を開講した。「看護学入門実習」は新々カリキュラム科目として開講したが、看護学を学ぶ動機付けとして高い効果が得られている。2年次には、「成人看護学概論」「療養支援看護概論」「地域看護学概論」「育成支援看護概論」等の実践看護科目を開講した。後期には、実践的・専門的な知識や技術等を学ぶ実践看護科目の方法論（講義・演習科目）を開講した。また「看護キャリア発達論」「看護倫理」等を開講した。3年次前期には、各専門領域（成人看護学、高齢者・在宅看護学、精神看護学、地域看護学、小児看護学、母性看護学、発展看護）それぞれの「方法論」が開講された。3年次後期から4年次前期にかけては、領域ごとに実習が実施された。4年次においては、通期で「看護研究」に取り組み、研究計画の立案から研究実施、論文の作成を行い、各領域で研究発表会が実施された。また、後期には「総合実習」「専門職間の連携活動論」（特色科目）が実施され、他の専門職と自らの専門性について深く考え

る機会となった。また、「看護学統合」を実施し、4年間の学びを統合し、卒業後の自己の課題について明確にした。

助産課程は10名が選択し、3～4年次に「助産診断・技術学Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」「助産学実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」を開講した。

#### 4) 評価（成果および改善事項）

新々カリキュラムがスタートし、旧カリキュラムが同時進行となったが、滞りなく実施することができた。令和2年度の東京オリンピック開催による学年暦の大幅変更に伴い、時間割作成作業が煩雑となったが、年度末には調整作業を終了させることができた。

#### 5) 次年度の方策

COVID-19対応のため、年度当初からガイダンスや履修登録作業など大幅な変更が生じている。感染防止対策を講じながらも教育活動に支障が生じないように、臨機応変に対応していく。また、次年度はオリンピック開催が延期になったため、令和3年度のオリンピック開催に備えつつ、円滑にカリキュラムが遂行できるようにする。また、指定規則変更作業部会を立ち上げ、指定規則変更に伴うカリキュラムの見直しを行う。

### 3. 栄養学科

#### 1) 教育方針

大学・学科の教育理念と教育目標に基づき、管理栄養士に資する人材を育成するために科学的根拠に基づく専門基礎科目の知識を身につけるための丁寧な教育、病傷者及び児童・生徒との円滑なコミュニケーション能力、多職種で連携しチームとして活動できる能力及び態度を身につける教育を丁寧に実践する。

#### 2) 年度当初の重点課題

4年生の面接試験対策や国家試験対策について、担任を中心に学科教員で丁寧な指導を行い、希望する就職先・国家試験合格率100%を目指したい。1～3年生は、全員が進級できるように、きめ細やかな指導を目指す。

#### 3) 取組状況

全員の進級及び卒業、希望する職場への就職支援、栄養教諭課程（選択）の履修者の増加については、担任・副担任、国家試験対策会議、臨地実習担当者会議などが適切に機能し、学科会議により状況を全教員が共有でき取組ができ、目標を達成できた。学生の個人的相談は担任を中心としたが、オフィスアワーを学生に掲示し全教員に相談可能とし成果をあげている。

3年後期の臨地実習を目標に1年次では「食品学」「栄養学」「生化学」「解剖生理学」「食事設計と栄養」「食品衛生学」及び「調理学」の専門基礎科目を配当し、管理栄養士に必要とされる科学的根拠に基づく知識を身につける教育を実施している。前期は座学中心で、後期は実験・実習による専門的スキルやコミュニケーション能力の育成を実践した。3年次では主に専門科目と臨地実習、4年次では主に総合演習・卒業研究を配当し、管理栄養士としての専門性を育成した。また、1年、3年、4年では特色科目を配当し、他の専門職と自らの専門性等について学ぶ機会となった。

#### 4) 評価（成果および改善事項）

4年生全員（留学のため休学している1名を除き）が卒業し、1～3年生は全員進級できた。また、管理栄養士国家試験は100%合格できた。次年度も、管理栄養士国家試験対策をさらに丁寧な指導を行いたい。栄養教諭課程（選択）の履修者は1年6名、2年5名、3年8名、4年生12名であった。受講者が減少しているので、検討していきたい。

#### 5) 次年度の方策

令和元年度同様に、管理栄養士国家試験の合格率が100%になるように努める。新型コロナウイルス感染予防対策のため、遠隔授業になっても、授業の質が担保できるように工夫する。

### 4. 歯科衛生学科

#### 1) 教育方針

専門知識の修得のみならず、豊かな人間性と高い倫理観を備え、他の専門職と連携・協働し、質の高い歯科医療サービスを提供できる実践力のある人材の育成に取り組む。

## 2) 年度当初の重点課題

平成 31 年度から新々カリキュラムの実施となり、現状の教育課程と同時進行となるため、それぞれのカリキュラムを確実に実施する。担任、副担任、科目担当教員により積極的な学修指導を行う。

## 3) 取組状況

1 年次、2 年次は保健医療基礎科目、歯科衛生基礎科目を中心とした講義、演習を、2 年次から 3 年前期にかけては、小児・成人・高齢者を対象とした生涯歯科衛生科目の講義、演習を開講した。3 年次では歯科衛生健康推進科目の講義・演習を開講した。臨床実習として開講している 3 年次後期・4 年次前期の「歯科診療室総合実習」では、本学に併設している歯科診療室において、1、2 年次学んだ知識と技術を実践の場において統合させ、臨床的判断や行動が主体的に実施できることを目的に実習を行った。臨地実習については、3 年次後期の「歯科診療所実習」でチーム歯科医療等の実践について体験した。「発達歯科衛生実習Ⅰ（小児）」で幕張西小学校 1・3・6 学年の児童を対象にブラッシング指導を行った。さらに袖ヶ浦特別支援学校では、担当教員から障害児童の対応を学ぶとともに、児童全員の口腔ケアを実施した。「発達歯科衛生実習Ⅱ（成人・高齢者）」では、千葉市内の介護保険施設において高齢者の生活について理解し、看護・介護職員から高齢者に対する日常生活の援助方法について学ぶとともに高齢者の口腔ケアを実施した。「地域歯科衛生実習」では、千葉市・市原市・浦安市の保健センターにおいて地域歯科保健の現状を理解するとともに、歯科衛生士の役割・機能について学修した。4 年次後期の「病院実習」では病院における歯科衛生士の役割や多職種連携の重要性について理解を深めた。3 年次後期から 4 年次後期の期間は、卒業研究に取り組み、学科教員が個別に学生の研究指導を行った。国家試験については、卒業生 24 名全員が歯科衛生士国家試験に合格した。

## 4) 評価（成果および改善事項）

平成 31 年度の入学生から新々カリキュラムによる教育がスタートし、新カリキュラムと同時に進行することができた。教員による積極的な学修指導により歯科衛生士国家試験に全員が合格した。

## 5) 次年度の方策

引き続き、担任、副担任、科目担当教員により積極的な学修指導を行う。

## 5. リハビリテーション学科理学療法学専攻

### 1) 教育方針

全学年の学生が授業に欠席することなく、実習に参加し、単位を落とさず、且つ休学や退学なくして最終学年までを全うすること。また、毎年度継続している国家試験全員合格を今後も推し進めることであった。残念ながら、令和元年度 1 名の不合格者を出してしまい、不合格者フォローアップを含め、早期から国家試験の対策にあたっていく。

### 2) 年度当初の重点課題

臨床実習での学生の接遇（実習中の対象者や指導者とのコミュニケーション）・実践力（適応能力や対応力等）に対する評価を向上させる。また、国家試験全員合格の継続は今年度で途絶えたが、今後も国家試験の全員合格と地元への就職を目的とすることは本専攻教職員の責務である。

### 3) 取組状況

毎年度、2 学年以降の学生に学内で実技練習をさせたり、過去の症例報告の編集に基づいた演習を多く取り入れたり工夫をしている。特に、3 学年の学生には臨床実習を意識した授業を越年して展開（実習前の実技試験：OSCE）している。

2020 年度から理学療法に関する指定規則改定があり、実習前のみならず、実習後の OSCE を視野に入れる必要がある。また、各学年担任は、半期に一度、担当学生と面談し、学習状況、生活状況、理学療法士へのモチベーションの有無を再確認しながら、学年進級に努めている。しかしながら、新たな 3 学年 2 名、4 学年 4 名の留年生と、残留 2 名の学生が本専攻に所属している。

### 4) 評価（成果および改善事項）

最終学年の臨床実習Ⅲ・Ⅳを終了して卒業にたどり着いた 4 学年 27 名のうち、26 名が国家試験に合格し、合格率 95%に達したものの、開学時から継続してきた全国で唯一の記録が途絶えてしまった。一方、休学中であった 1 名は 2 学年に進級した。2 学年で単位を落とし、3 学年の臨床実習Ⅱに到達しなかった学生が 1 名おり、専修要件（必修科目習得）で臨床実習Ⅱを終えることはできず、留め置きとなった。3

学年で臨床実習Ⅱを終了した3名は4学年へ進級できたが、必修科目の不足で臨床実習Ⅲ・Ⅳに進めていない。一方、本年卒業予定であった学生1名と2年間休学で臨床実習Ⅲ・Ⅳの履修が必要な学生1名は、卒業に向けて担当教員と共に準備を進めている。

#### 5) 次年度の方策

令和2年度は、令和元年度の国家試験（不合格者1名）の轍を踏まないように、国家試験合格率100%を旨とする。実習中断となる学生がいないようにコンピテンシーに基づき、学生の評価を実施していく。

## 6. リハビリテーション学科作業療法学専攻

### 1) 教育方針

例年通り、作業療法学専攻では、大学・学科専攻の教育理念と教育目標に基づき、さらに対象者本位の作業療法の実践技術提供に資する人材を育成するために学生教育重視を実践し、継続した。また、国家試験の受験生の合格に向けて、国家試験対策として活動、また臨床実習に関して学生の利便性や指導を考慮し、方針として千葉県内、あるいは通学距離内での臨床実習施設の獲得を実施した。

新しく検討されたアドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを基に、新々カリキュラムも実施が行われた。

### 2) 年度当初の重点課題

リハビリテーション学科・作業療法学専攻の教育活動における重点課題

知識・技術の確認と職業人としての態度の獲得を目的とし、「特色科目」、「一般教養科目」、「保健医療基礎科目」、「専門科目」の統合的として臨床実習の充実を課題とすることは充実してきている。新しいカリキュラムに基づいて時間割など準備にあて、学生の学習向上のための利便性を上げることを課題とした。

### 3) 取組状況

2019年度は開学11年目となり、1年生は特色科目として「体験ゼミナール」では、健康な県民と交流を図ることで千葉県の地域の特性や千葉県で生活する人々の特徴を理解し、実習で対象となる人々を生活者として捉える視点を養うことを実施している。11年目の課題として当専攻の卒業生の中から、地域活動への参加を作業療法士として実際の促す取り組みをめざして、人材育成を実施している。今後実施されるカリキュラムにおいて、評価・治療学→演習→実習の科目の取り組む順序性には変化はないが、卒業生などを視野にいれながら社会に還元できる取り組みを、在校生と卒業生が共同で独立行政法人都市再生機構（UR都市機構）の住宅で課外活動として取り組むことを課題とし実施した。

作業療法学専攻の専門科目として新カリキュラムとして強化した「臨床体験実習」、「評価実習Ⅰ・Ⅱ」、「総合実習Ⅰ・Ⅱ」、「地域作業療法実習」を実施できた。「臨床体験実習」は主に千葉県内の作業療法を実施している様々な分野の病院・施設19施設の協力を得て実施できた。

「評価実習Ⅰ・Ⅱ」においては、身体障害分野は24施設（Ⅰ期12、Ⅱ期12）、精神・老年障害分野は5施設（Ⅰ期12、Ⅱ期10）、発達障害分野は2施設（Ⅰ期0、Ⅱ期2）、県外施設の合計3施設（Ⅰ期1、Ⅱ期2）にて実施され、作業療法評価について学習し、その前後において分野に沿った作業療法セミナーが開講された。

「総合実習Ⅰ・Ⅱ」は全施設43施設となる。分野別として身体障害分野は、20施設（Ⅰ期10、Ⅱ期10）、精神・老年障害分野は23施設（Ⅰ期10、Ⅱ期10）、発達障害分野は4施設（Ⅰ期2、Ⅱ期1）の協力があつた。県外施設は合計7施設であった。ほぼ県内で実施可能であったが、学生の県外出身地域を勘案し、数か所県外の実習施設に協力を依頼した。「地域作業療法実習」は、県内21か所施設にて実施され、うち2ヶ所は東京と埼玉の県外であった。

2019年度の国家試験合格者数は、2019年卒業生22名（21名受験し1名不合格：合格率95.2%）過年度卒業生2名受験し合格した。

卒業論文は、各学生に対して担当教員を決め指導にあたり発表会を実施し、卒業論文集を発行した。

### 4) 評価（成果および改善事項）

県内の臨床実習については、身体障害領域の病院施設などの多大なる協力が得られるようになった。また、精神障害領域や老年領域に関しても積極的な協力が得られるようになったが、千葉県における精神領域や発達領域の病院施設の絶対数の不足により、すべての学生に偏りなく実習を行うことは現実的にむず

かしい。ただし学生のキャリア形成で必要な分野などを考慮し実施している。臨床実習については、卒業生たちがケースバイザーになることもあり、また、学生や当専攻の自習へのノウハウも蓄積され、問題なく運営ができ、臨床実習の事前の実習に向けた自主学習や事後の発表会学習についても強化している。

#### 5) 次年度の方策

次年度より、「理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則」（昭和 41 年文部省・厚生省令第 3 号。以下「指定規則」という）においてカリキュラムの改善、臨床実習の在り方、専任教員の要件などの改正が実施されることとなった。これらの規則により管理学や薬学、画像診断学などの単位の追加による習得する分野の増加への対策が課題であり、カリキュラム改正により対応している。また、規則の改訂の重要な課題として教員、臨床実習指導者の指導力の向上が求められ、臨床実習指導者には研修が求められるようになり、また教員も 5 年以上の臨床経験と研修が必須となった。専攻のコンピテンシーに基づき、アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、新しい指定規則を鑑みながら、新々カリキュラムが新学年より実施された。

### 7. 学生による授業評価

学生による授業評価アンケートを教務委員会が担当して実施する 2 年目であった。このアンケートの対象科目は、前期・後期・通年で開講される講義および演習科目（非常勤講師担当を含む）である。すべての項目に対して 5 段階で回答する方式の前年度の変更を踏襲した。実施に際しては、予め担当教員にアンケート用紙を必要数配布しておき、それぞれの授業の最終日等、担当者の判断で適切な時期に実施した。回収及び事務局提出ボックスへの提出は学生が行った。

結果は表に示すとおりである。14 項目中 11 の質問項目で「そう思う」「少しそう思う」を合わせた割合が 73.5～83.8%と高い数値を示した「そう思う」「少しそう思う」を合わせた割合が 70%未満の質問項目は、「予習を行った」「復習を行った」がそれぞれ 27.0%、42.9%（平成 30 年度 28.7%、42.2%）、「この授業のシラバスは役に立った」が 59.7%（平成 30 年度 60.3%）であり、前年度同様の低い数値であった。最も評価の高かった項目も前年度と同じく、「教員の熱意が感じられた」83.8%（平成 30 年度 83.7%）であった。また、「全体としてこの授業を受けられてよかった」は、83.3%（平成 30 年度 82.2%）の学生が肯定的な評価をしており、本学学生が授業方法やその内容に概ね満足していることが推察できた。しかし、「予習を行った」「復習を行った」は例年低い数値であり、授業科目により予習及び復習のどちらかに重点が置かれる（この二項目を合わせて 69.9%）、またはレポート等の課外に行う課題が与えられる科目の場合、学生が予習や復習を行っている意識にならないことも考えられるが、学生の主体的な取り組みを促すことに関してなお改善の必要がある。

なお教員には、担当する授業科目の集計結果と学生からの自由記載によるコメントを通知した。そして、集計結果表の「教員からのコメント等欄」に、授業評価結果をふまえてのコメントを記載するよう依頼した。ただし、コメントの記載を、集計用紙に記載してもらう方式から、電子ファイルに直接入力する方式へと変更したことで、他の科目の評価も共有される問題が生じた。前期科目のコメント記載欄を含めた全科目の集計結果表を学内において、学生と教職員を対象として、約 1 か月公開した。後期については翌年度の検討に残している。

令和元年度学生による授業評価：割合 (%)

	そう思う	少しそう 思う	どちらとも 言えない	あまり 思わない	思わない・ 無回答
授業に積極的に取り組んだ	37.3	44.3	15.9	1.7	0.7
予習を行った	9.9	17.1	30.5	21.0	21.5
復習を行った	13.4	29.5	30.6	14.6	11.9
この授業のシラバスは役に立った	26.5	33.1	33.0	4.7	2.6
授業の目標が明確に示されていた	36.7	36.7	21.8	3.4	1.3
成績評価の方法を事前に理解していた	39.2	35.8	20.1	3.4	1.4
内容がよく理解できるように準備されていた	41.5	37.0	16.6	3.4	1.5

授業方法に工夫がなされていた	40.7	36.7	17.8	3.3	1.6
学生の理解度に対して配慮がされていた	38.9	35.2	19.6	4.1	2.1
授業内容が充実していた	45.5	34.7	15.8	2.5	1.5
教員の熱意が感じられた	49.7	34.0	13.6	1.6	1.0
教員の説明はわかりやすかった	43.8	34.8	16.2	3.4	1.9
教員の話し方は聞き取りやすかった	46.2	33.7	15.5	3.1	1.6
全体としてこの授業を受けられてよかった	48.7	34.7	13.3	2.0	1.3

## 8. 大学全体

### 1) 評価（成果および改善すべき事項）

令和元年度卒業生に対して実施した卒業時アンケート調査から、本学の教育目標への到達度をみると、多くの学生が各医療専門職としての基本的な実践力を身につけたことが示された。最も高い「思いやりの心や高い倫理観を基本とした人間性を向上する力」については「十分に身についた」39.9%、「ある程度身についた」58.4%を加えると、98.3%の卒業生が到達していると答えた。前年度に到達度が最も低いとされた「地域の健康づくりに貢献する力」も89.8%と高かった。当年度で最も低い「生涯にわたり科学的に真理を探究する力」は84.6%であり、次が「確かな実践力と新たな実践をつくりだす力」の89.7%であった。本学の教育目標8項目のうち7項目がほぼ90%以上の達成度であった。平成元年度より新々カリキュラムが導入され、特色科目、保健医療基礎科目および各学科専攻の専門科目の充実が図られており、卒業時の到達度のさらなる向上が期待される。令和2年度の卒業生からは新しいディプロマ・ポリシーが設定された学年であり、教育目標に代えてディプロマ・ポリシーについて卒業生調査を行う予定である。

また卒業時アンケート調査結果では、特色科目、一般教養科目、保健医療基礎科目、専門科目、いずれも教育に対する満足度は前年度同様に高いまま維持できた。特に専門科目の教育に対する満足度が高く、「とても満足」41.8%と「やや満足」53.7%を合わせると95.7%であり、学外実習についてはさらに高く「とても満足」53.7%と「やや満足」44.6%を合わせると98.3%であった。同様に保健医療基礎科目についても94.4%、特色科目91.5%の高水準であったが、一般教養科目が87.6%とやや低かった。各科目区分の学習から得たものの評価についても同じく高水準であり、専門科目のうち特に学外実習については「非常に大きい」63.8%、「やや大きい」35.6%を合わせると99.4%と極めて高かった。専門科目については演習／実験／実習の学習から得たものの評価も98.8%、講義科目97.2%、保健医療基礎科目94.3%と高く、特色科目85.9%、一般教養科目の82.2%の順であった。

平成元年度入学生より新々カリキュラムであり、この高水準を維持し、さらに「とても満足」「非常に大きい」の割合を増やすことが期待される。授業評価アンケート結果において授業全般に対する満足度は高く、学生にとっての教育内容は充実しているといえるが、一つ一つの授業科目の充実度を一層高める必要がある。各科目責任者が担当科目の特徴に応じて学生の学修を支援する方略について担当者レベルで検討するための授業評価アンケート結果の活用が一層求められる。

新々カリキュラム作成にあたっては、1年次から4年次までの学修がディプロマ・ポリシーの達成にどのようにつながるのか、特色科目・一般教養科目から専門科目への順序性を十分に検討し、この流れを視覚化するカリキュラム・マップを前年度完成させた。平成元年度はさらに特色科目、一般教養科目および保健医療基礎科目を含めて、各学科・専攻ごとに各授業科目の学士力・コンピテンシー項目の目標到達度を示したカリキュラム系統表を作成した。令和2年度のシラバスには各授業科目と関連するディプロマ・ポリシーを記載し、このカリキュラム系統表とともに、卒業時のディプロマ・ポリシー達成の指針として学生に提示することとした。

fGPAについての運用は平成元年度入学生から開始されたが、教務システム更改が一年延長されたことにより、実質的運用は平成2年度からとなる。ただし、上級生についてもfGPAを算出が可能となったので全学的導入により学生の自主的学修支援への活用が期待される。

### 2) 次年度の方策

平成2年度は1, 2年生が新々カリキュラム、3, 4年生が旧・現行カリキュラムとの同時進行となり、fGPA制度の実質的運用開始とともに、滞りなく円滑に教育が展開されるよう、事務局との連携を密にして

いく。これまでの教育課程とその成果を基盤にディプロマ・ポリシーにつながる教育課程として再構築された新々カリキュラムに基づき、各学科・専攻の教員においては、担当授業科目のカリキュラム・マップおよびカリキュラム系統表、関連ディプロマ・ポリシーを明確にしつつ教育実践を行い、その成果を適切に評価し、さらに評価を授業改善につなげるといった一連の教育展開が望まれる。

さらには Covid-19 の感染拡大のため遠隔授業の導入により教授方法を変えざるを得なくなるが、教育成果をあげるべく、大学全体として取り組むこととする。対面授業がごく一部の科目で実施されること、学生がキャンパスにいる機会が激減することで授業評価アンケートの実施方法等については新たに実施方法を検討する必要がある。

## V 学生の受け入れ状況

### 1. 学生の受け入れ方針

#### (1) 全学方針

高い倫理観と豊かな人間性を備え、地域社会に貢献し、保健医療の国際化に対応できる人材を育成する。本学のカリキュラムを履修することで学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示された能力を卒業時に発揮できる以下の素養を有する学生を求める。

- ①基礎的な知識、技能
- ②論理的思考力、状況に応じた判断力、自らの考えをまとめて伝えられる表現力
- ③保健医療者を目指す者としての適性
  - ・人間性、コミュニケーション能力
  - ・協働、責任感、地域貢献
  - ・主体性、探究心

#### (2) 看護学科の求める学生像

医療の高度化・専門化や社会の多様化に対応できる看護専門職に必要な専門的知識と技術を身につけ、県内の看護職のリーダーとなりうることはもとより、国際的にも貢献できる高い資質をもった人材の育成を基本理念とし、以下の学生を求める。

- ①看護を通して、社会に貢献する意欲がある人
- ②人々の生活や生き様に強い関心を持ち、相手の立場に立って考えることができる人
- ③知的好奇心が旺盛で探究心がある人
- ④幅広い基礎学力を持ち、論理的・客観的に考える力を持つ人
- ⑤自己を表現する力を持つ人

「特別選抜・推薦」では、将来、千葉県内で看護職として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。「特別選抜・社会人」では、社会人としての経験を持ち、卒業後千葉県内で看護職として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。「編入学」では、既習の看護学をさらに深めるとともに、幅広い教養を身につける意欲が旺盛で、卒業後、看護職に従事する強い意志をもつ人材を求めている。「一般選抜」では、看護学を学ぶ意志のある人材を求めている。

#### (3) 栄養学科の求める学生像

生命活動を分子レベルで理解することを基本とした栄養学分野を総合的に学び、豊かな人間性を備え、心身の健康に大きく貢献できる人材、人の栄養状態を適正化する方法を総合的・科学的に探究できる人材の育成を基本理念とし、以下の学生を求める。

- ①管理栄養士の国家資格の取得を前提目標として学ぶ意欲を持つ人
- ②倫理的な原則を遵守し、専門職としての責務を果たすことができる人
- ③科学的な裏づけで得られた専門的な知識・技能を、健康づくりに貢献できる人
- ④多職種との相互理解を深めながらコミュニケーションや行動ができる人
- ⑤個人・家族・地域社会・他国への貢献や生涯にわたる自己研鑽ができる人

「特別選抜・推薦」では、将来、千葉県内で管理栄養士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。「特別選抜・社会人」では、社会人としての経験を生かして千葉県内で管理栄養士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。「一般選抜」では、管理栄養士として活躍することを志望する人材を広く求めている。

#### (4) 歯科衛生学科の求める学生像

高い倫理観と豊かな人間性を備え、地域社会に貢献し、口腔保健の専門知識と技能を身につけるための科学的探究心を持ち、保健医療の国際化に対応できる人材の育成を基本理念とし、以下の学生を求める。

- ①口腔の健康に深い関心を持ち、人々の健康増進に貢献したい人
- ②豊かな人間性を備え、相手の気持ちを理解できる人
- ③科学的な探究心を持ち、自ら意欲的に取り組もうとする人
- ④基礎学力があり表現力が豊かで、自分の考えや意見を論理的に説明できる人
- ⑤コミュニケーションを通じて人々と協調できる人

「特別選抜・推薦」では、千葉県内で歯科衛生士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。

「特別選抜・社会人」では、社会人としての経験を生かして千葉県内で歯科衛生士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。「一般選抜」では、歯科衛生士として地域で活躍することを志望する人材を広く

求めている。

### (5) リハビリテーション学科理学療法学専攻の求める学生像

理学療法士として社会に貢献する意志と能力を持った人材の育成を基本理念とし、以下の学生を求める。

- ①理学療法士の役割を理解し、理学療法士となる明確な目的意識を有している人
- ②理学療法学を学んでいくにあたって必要な基礎学力を有している人
- ③自分の意見を適切な日本語で表現できる人
- ④障害のある人に対してもない人に対しても、適切なコミュニケーション能力を有している人
- ⑤保健医療福祉領域だけでなく広く社会に関心が高く、様々な問題に挑戦できる人

「特別選抜・推薦」および「特別選抜・社会人」では、将来、千葉県内で理学療法士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。

### (6) リハビリテーション学科作業療法学専攻の求める学生像

豊かな人間性や高い倫理観、鋭敏な感受性と多彩な表現力を基に、対象者の立場になって作業療法を提供できる態度・能力を身につけ、人々の健康づくりを支援し、作業療法の臨床、教育、研究の発展に貢献できる人材の育成を教育理念とし、次のような学生を求める。

- ①対象者とそれを支える人、保健・医療・教育・福祉職に対してお互いの立場を尊重した人間関係を構築し、生き生きとしたコミュニケーションをとることを望んでいる人
- ②個人・家族・地域が健康的またはその人らしい生活を送るための健康づくり支援を提供したいと思っている人
- ③人々の健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、健康を志向する地域環境（人・物・制度）の整備・改善に努めたいと思っている人
- ④対象者を中心とした安全で質の高い保健・医療・福祉を実践するために、自身の役割を認識し、多職種との相互理解を深めながら行動する適性を持っている人
- ⑤論理的思考による探究心を身につけ、自己研鑽に励み、倫理的な原則を遵守し、専門職としての責務を果たす適性を持っている人

「特別選抜・推薦」および「特別選抜・社会人」では、将来、千葉県内で作業療法士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。

## 2. 年度当初の重点課題

適性を持った質の高い学生の確保にむけ、これまでの志願者の動向を分析し、オープンキャンパスの方法や大学案内のパンフレットなどを充実させ、受験生に対する本学への関心を高める。また、経年的に入試区分別に卒業時までの成績や退学者の状況、国家試験合格率、県内就職率等を分析し、今年度並びに中長期的に入試体制を整備する。

## 3. 入学者選抜状況

### (1) 過去5年間の一般選抜および特別選抜の志願者数（年度）（図1）

一般選抜においては平成28年度をピークに減少傾向にある。学校推薦と社会人を合わせた特別選抜においては、160～200人前後で推移している。社会人の志願者数は年々減っている。

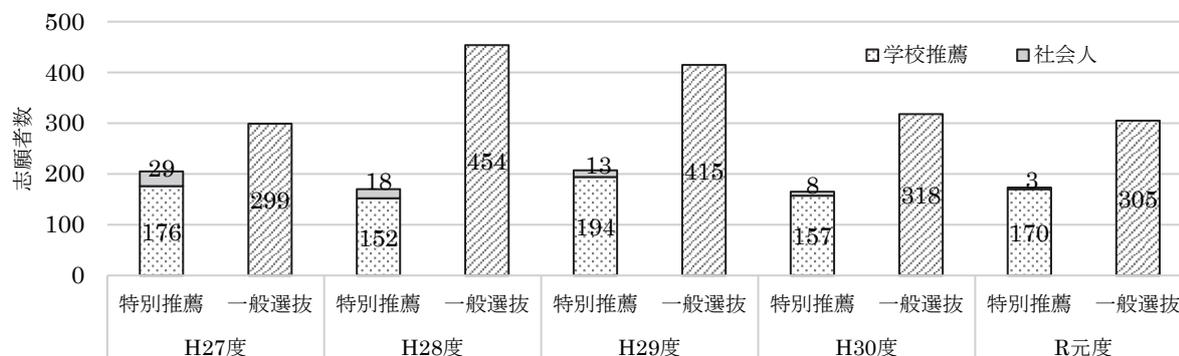


図1 特別選抜および一般選抜の志願者数

### (2) 特別選抜入試の志願倍率の推移（図2）

いずれの学科においても各年で増減を繰り返す傾向にある。平成30年度の志願倍率がいずれの学科専攻においても大きく低下したのは、特別選抜の定員枠が4割から5割に増えたにも関わらず志願者数が前年度より減少したことによるものといえる。

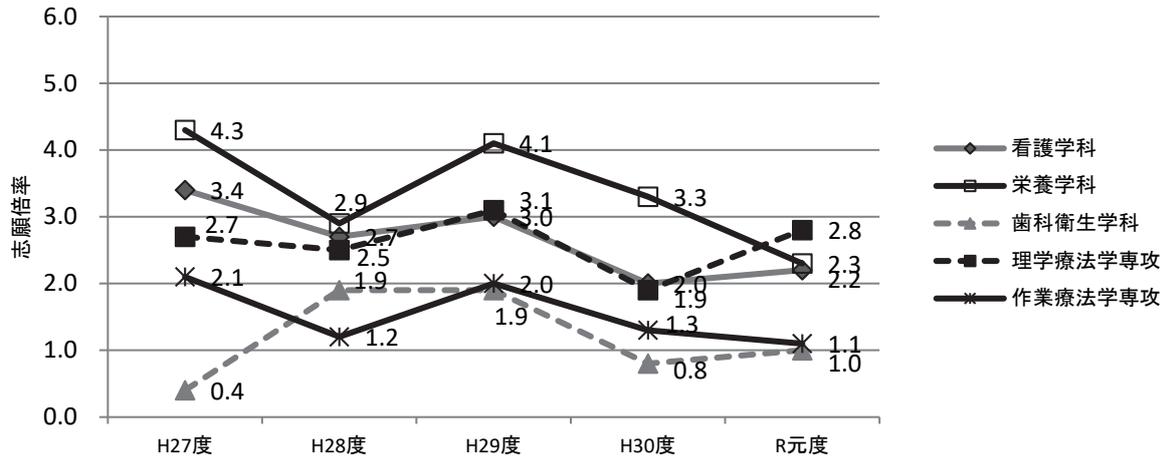


図2 特別選抜入試の志願倍率(志願者数÷定員数)の推移 入試実施年度

(3) 一般選抜の志願倍率の推移 (図3)

いずれの学科専攻も年度による変動は大きい。2段階選抜となる志願倍率3倍を超えたかどうかの観点でみると、平成28年度および平成29年度はすべての学科専攻で3倍を超えたが、平成30年度は栄養学科、平成31年度は栄養学科と作業療法学専攻が3倍を超えなかった。一方、平成30年度から2年連続で理学療法学専攻の志願倍率が5倍と高倍率となっている。

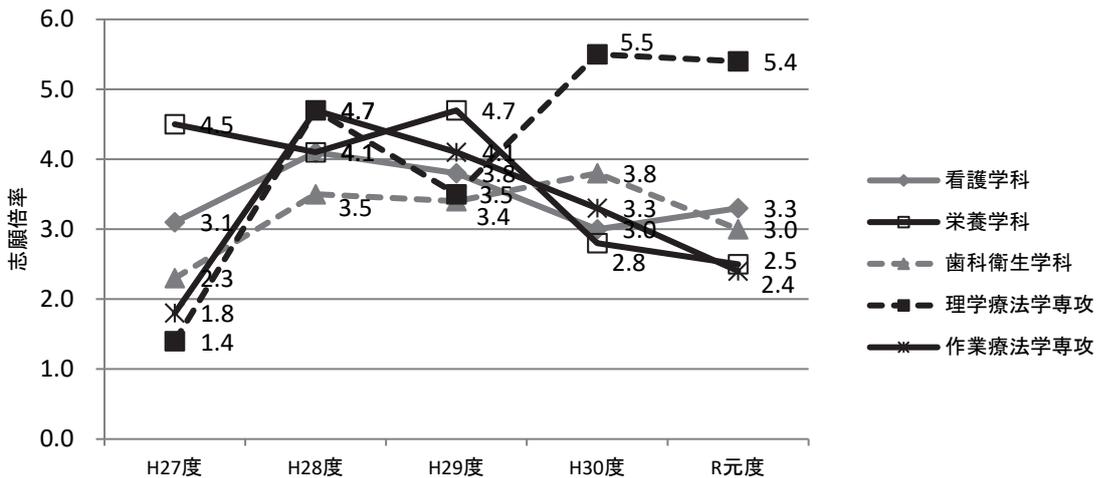


図3 一般選抜の志願倍率(志願者数÷定員数)の推移 入試実施年度

(4) 編入学の受験競争率(出願者数÷合格者数)の推移

編入学(3年次) (倍)

入試実施年度	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年
看護学科	3.6	3.2	7.5	12.0	2.3

4. 学生募集のための取り組み

(1) 大学案内の作成・配布, ホームページへの情報掲載

入試実施部会が中心となり, 大学案内を作成している。大学案内には, 大学の教育理念, 学部・学科の構成, カリキュラムの構成, 各学科・専攻の教育内容, 学生生活, 選抜試験の日程と過去の選抜状況, 就職進学状況, 国家試験合格者を掲載している。大学案内は, 個人での入手希望者への配布の他, オープンキャンパス・大学模擬授業・説明会・高校での模擬講義・説明会等で配布し, 県内の高校へ送付している。ホームページには, 大学の概要, 入学者選抜要項, 学生募集要項(アドミッションポリシーを含む)を掲載している。

(2) オープンキャンパスの開催

毎年, 7月の土, 日曜日の2日間において, 各日半日ずつ開催している。全体説明会では, 学長挨拶, 大学紹介, 入試説明を行い, その後各学科・専攻で教育内容の説明, 施設見学, 体験学習, 個別相談等を行っている。来学者は

毎年2日間で2,000人(保護者等を含む)を超え、令和元年度は2,503名で過去最多の来校者となった。これは、地域の高校生からの希望を受けて、3連休の土日開催にしたことに効果と思われる。また、今年度はオープンキャンパスの改善に向けて、来校者に対し現状の課題を把握する目的の質問紙調査を実施した。その結果を踏まえ、高校生が情報を得やすくなるように、大学案内パンフレットでは卒業生や在校生の声のページを増やすように改編を進めるとともに、令和2年度オープンキャンパスの企画等の審議を開始している。

(3) 高校での模擬講義・説明会等の実施、高校からの訪問への対応、大学模擬授業・説明会への参加

高校訪問・大学模擬授業・説明会の内容は、高校や指定会場での本学と各学科の説明、模擬講義等である。高校からの本学訪問については、本学と各学科の説明、模擬講義、施設見学等、高校からの依頼に合わせて対応している。

令和元年度は、高校での説明会の内容を強化することを意図し、教員を対象に、全国的に進められている高大接続改革、本学のこれまでの入試状況、本学の強みと弱みの分析結果等を伝えるFDを実施した。また、各教員が説明会で使用できるパワーポイントも整備してきている。

大学説明会の参加について令和元年度の依頼件数は119校、出席者数は延べ1,945名で、派遣教員数は延べ100名であった。過去5年間の実績は下表の通りである。

高校訪問・大学模擬・説明会への出席件数および派遣教員数

年度	依頼件数	出席件数	派遣教員数(延数)	出席者数(延数)
平成27年度	74	43(資料参加を含めると60)	45	1,117
平成28年度	98	67(資料参加を含めると86)	73	1,538
平成29年度	134	83(資料参加を含めると117)	89	2,082
平成30年度	143	79(資料参加を含めると118)	90	2,011
令和元年度	119	105(資料参加を含めると118)	100	1,945

(4) 受験情報誌への情報提供

受験情報企業等からの情報提供の要請に対し、依頼元の信頼性を考慮した上で情報提供を行い、本学のアドミッションポリシーや教育内容への理解を促し、適性のある受験生に受験の意思決定をしてもらえるようにしている。

(5) 過去問の公開

平成30年度入試問題から、大学ホームページ(著作権に配慮した公開)および大学学生支援課窓口で閲覧が可能となった。令和元年度は、さらに閲覧機会を増やし、オープンキャンパス開催時にも希望者に対して閲覧を認めた。

## 5. 学生の在籍状況

令和2年3月31日現在の在籍学生総数は732名であり、収容定員(740名)対比は0.99でほぼ定員は充足されている。

学科・専攻別の収容定員対比は、看護学科が0.98(在籍学生数332名、収容定員340名)、栄養学科が1.01(在籍学生数101名、収容定員100名)、歯科衛生学科が1.00(在籍学生数100名、収容定員100名)、リハビリテーション学科理学療法専攻が1.04(在籍学生数104名、収容定員100名)、作業療法学専攻が0.95(在籍学生数95名、収容定員100名)である。

退学者については、開学時から令和2年3月31日現在までの退学者総数は50名であり、退学者の割合は、約2.8%となる。学科別では、看護学科12名、栄養学科7名、歯科衛生学科10名、リハビリテーション学科理学療法専攻11名、同作業療法学専攻10名である。令和元年度単年でみると、退学者総数は5名で、看護学科、歯科衛生学科、リハビリテーション学科理学療法専攻に各1名、作業療法学専攻に2名であった。退学理由の多くは進路変更であり、若干名は家庭の事情(経済的理由含む)であった。退学した学年は3年次が最も多いが、ほとんどの退学者が休学期間を経てから退学しているため、事実上は1~2年次の段階で履修を中断している。このことから、受験生の志望動機の有無をしっかりと見極めるとともに、入学後は欠席しがちな学生に対する支援を強化することが求められる。

## 6. 評価(成果および改善すべき事項)

今年度は、オープンキャンパスの日程を3連休にあてることで、過去最多の来校者となるなど成果をあげることができた。また、オープンキャンパスでのアンケートの内容を見直し、大学案内のパンフレットを大きく改編することができた。その他、教員へのFD、過去問題の閲覧機会の拡大など受験生確保対策に向けて充実させることができた。

## 7. 次年度の方策

令和2年度は、コロナ感染防止対策により、オープンキャンパスの実施や高校説明会など、これまでと異なる方法で実施することになる。また、新たな面接方法を取り入れた入試改革の初年度の年でもあるため受験生の動向、入学後の学生の学習の取り組み状況などを見つつ、安定的で質の高い学生確保の実現が達成できるよう継続して取り組んでいく。

## VI 学生支援

### 1. 年度当初の重点課題等

学生部（学生委員会・進路支援委員会）としては、以下の活動に取り組む。①学生支援に関して、関係機関からの情報や学生からの要望も捉えながら、所掌事務および学生支援計画に沿った活動を行う。検討事項毎に委員の中からリーダーを担ってもらい委員会体制を取り、学生支援の充実や検討事項の解決を目指していく。②進路支援に関して、所掌事務に関する活動を計画的に行う。特に、県内就職の推進や国家試験合格率100%（全学科）をめざし、学科専攻と連携を図り、大学全体として取り組んでいく。

また、各学科・専攻については、学科・専攻が前年度に掲げた「次年度の方針」を適切に実施していく。

### 2. 活動内容

#### 1) 学生委員会

- (1) 学生の福利厚生：①平成31年度学生支援計画を立案し、以下のような活動を行った。学内整備において仁戸名キャンパスの男性用洋式トイレの整備を要望し、優先的に整備された。学生会の年間のイベントについて対応した。大学祭の開催について学生に助言をした。緊急消防援助隊合同訓練の学生ボランティアの募集・調整を行った（豪雨災害の影響により開催は中止となった）。後援会の支援による生協売店の学生応援フェアを調整した。ブラックバイト対策に関する学生向けセミナーを開催した。同窓会と連携して、学科・専攻の同窓会分会の発足または発足準備を支援した。学生から教員への相談について実態調査を行い分析した。②学生保険の加入状況を随時把握し学生指導を行った。③「令和2年度学生ハンドブック」の内容を検討し、加除修正した。
- (2) 学生の保健衛生：①平成31年度健康診断を実施した。診断結果に基づき学生指導を行った。②平成31年度ワクチン接種計画（B型肝炎ワクチン・インフルエンザワクチン）を立案し実施した。また、ワクチン接種状況を継続的に把握し学生指導を行った。③令和2年度健康診断の実施計画について検討した。④「令和2年度自己健康管理ファイル」の内容を検討し、最新情報を加筆するなど修正した。⑤令和2年度健康診断前後の指導に係る資料を検討し、最新情報に改善した。
- (3) 学生の課外活動：①学生団体（学生サークル）設立申請を審議した。②大学祭の企画を支援した。③新入生歓迎会・スポーツ大会等の学生会の活動を支援した。④学生会の運営について助言・支援した。
- (4) 奨学金等貸与：日本学生支援機構奨学生を選考し推薦を行った。
- (5) 授業料等の減免：授業料減免（前期・後期）について審議した。
- (6) 後援会、同窓会：①学生支援のために後援会理事会と連携した。②後援会からの要望をうけて県生協幕張売店および仁戸名キャンパスでの販売において学生応援フェアの開催を支援した。③同窓会の再構築に向けて役員会へ助言し、学科・専攻の同窓会分会の発足に支援した。④卒業生への同窓会入会に関して支援を行った。
- (7) その他：①平成30年度卒業式の運営について検討した。

#### 2) 進路支援委員会

- (1) 就職・進学支援：①平成31年度進路支援計画に基づき、全学的な事業や学科専攻毎の事業を含め、大学全体として学生への進路支援を行った。②平成30年度キャリアセミナーの評価をふまえ、令和元年度第1回・第2回・第3回キャリアセミナーの企画・運営・評価を行った。③進路情報室の運営を行い、利用状況の把握を行った。幕張キャンパスの進路情報室にハローワーク・ジョブサポーターの派遣（週1〜2回）を依頼した。また、仁戸名キャンパスの学生が、就職相談ができるよう、仁戸名キャンパスへの派遣も依頼し、派遣（9月〜11月）が実施された。学生には好評であった。④ジョブサポーターと情報交換・意見交換を行い、ジョブサポーターと教職員が同じ考え方のもと連携して進路支援を行うことができるようにした。学科の進路支援事業への協力（講義・情報提供）もいただいた。⑤令和元年度の就職進学状況についてとりまとめを行った。⑥令和2年度の「進路ガイドブック」の内容を検討した。履歴書の書き方、面接の流れ、また法令等変更による修正等の改善を行ったため、全学生に現在求められている書類等の情報が伝わるものとなった。⑦進路支援事業に関して後援会に助成を依頼する内容を検討した。⑧令和元年度就職率は97.1%であった。
- (2) 国家試験対策：①平成30年度・令和元年度国家試験結果をとりまとめた。②学科専攻と連携を図り、大学全体として学生への国家試験受験支援を行った。③国家試験模擬試験受験に対して後援会から助成を受けられるよう各委員が調整し、助成を受けられた。④国家試験に関わる手続きを確認し、学生の書類作成の支援、願書の提出、受験票の配布、免許申請手続き等を行った。⑤令和元年度国家試験合格率は、保健師92.5%、助産師100%、看護師100%、管理栄養士100%、歯科衛生士100%、理学療法士96.3%、作業療法士95.0%であった。
- (3) 県内就職の推進：①令和元年度県内就職率は63.7%（前年度69%）であった。②進路支援事業では県内保健医療関連施設から講師を派遣してもらい、県内就職を促進するようにした。

(4) その他：令和元年度卒業時調査の調査票作成（進路支援部分）を行い、調査を計画・実施した。

### 3. キャンパスハラスメント

1) 入学生に向けて、ガイダンスでキャンパスハラスメントとその対策について説明をした。2) 本学におけるキャンパスハラスメントの実態を把握し、キャンパスハラスメントの防止施策や意識改革に反映させ、本学の教育・職場環境の改善を図ることを目的として、在学する全学生および教職員を対象にアンケート調査を行った。

### 4. 各学科・専攻の取り組み

#### 1) 看護学科

##### (1) 年度当初の重点課題

本年度は、以下3点を課題とした。①学生支援：看護学科の全学生が充実した学生生活を送れるよう、担任・担任リーダーが、各マニュアルの内容を理解して適切に支援を行えるようにする。②進路支援：学生が積極的、主体的に進路の選択や就職活動を行えるよう、必要な情報提供や支援を行う。同時に県内就職の推進を強化する。③国家試験受験対策：国家試験受験対策について学生が積極的かつ効果的に進められるよう支援を強化する。

##### (2) 取組状況

①学生支援：学生支援体制について「看護学科担任制マニュアル」に基づき、各学年担任リーダーを置き、1年生には教員8名、2年生には教員9名、3年生には教員6名、4年生には教員2名の担任を配置した。加えて担任リーダーを委員長・副委員長がサポートする体制を整えている。なお、1・2年生に対しては、学生生活の状況やニーズを把握するため、年度当初と前期終了時に学生と担任との懇談会を開催した。4年生に対しては、学生生活に関する支援に加え、就職活動や国家試験受験に向けた支援を強化するため、看護研究の指導教員も担任業務の一部を担う支援体制を整えている。夏の台風や大雨の際には被災状況調査を行い、学生の修学状況を確認した。

②進路支援：就職活動が本格的に開始される3年生を対象に、就職活動の時期が早まっている動向や学生から相談の多い事項を踏まえて、進路支援ガイダンスを年3回（6月・12月・2月）開催し、保健師・助産師・看護師として就職を予定している4年生と話す会（12月）、および卒業生と話す会（2月）を実施した。また、3年生の12月および、4年生の12月に就職活動の動向を把握する調査を行い、進路支援事業の改善や後輩学生への情報提供に活用した。また、キャリア支援や卒業生ネットワークの構築、後輩の就職先の開拓に役立てるため、4年生に「進路情報の提供のお願い」を作成し、卒業する学生の進路情報の把握を開始した。県内就職の推進については、特に特別選抜により入学している学生の自覚を促すように各ガイダンスにおけるアナウンスの強化と、「推薦状作成に関するマニュアル」に基づいた適切な進路支援を実施した。

③国家試験受験対策：学生主体で進める国家試験対策を、次のように支援した。3年生には、実習と連動してより効果的に学習を進められるようにガイダンスおよび、看護師2回の低学年模擬試験とその結果を踏まえた特別講義の調整を行った。4年生には、看護師3回、保健師2回、助産師3回の模擬試験と国家試験対策講座実施の調整を行った。

##### (3) 評価（成果および改善事項）

①学生支援：学生支援の体制として、担任、担任リーダー、委員長・副委員長の体制で、学生情報を共有し支援方法を相談しながら学生支援を行うことができた。②進路支援：進路支援事業については、3年生対象の各ガイダンスでは学生は熱心に内容を聴いている様子があり、4年生対象の調査結果では75～80%の学生が役立ったと回答していた。就職率は100%であった。③国家試験受験対策：国家試験合格率は、保健師92.5%（全国96.3%）、助産師100%（全国99.5%）、看護師100.0%（全国94.7%）であった。不合格学生への支援とともに国試対策が効果的に行えるよう対策を改善することが課題である。

##### (4) 次年度の方策

コロナウイルス感染症の感染拡大予防のため、授業方法の変更、就職試験、進路先の情報収集等が困難になることが予想される。それを踏まえ、以下を検討する。①学生支援：学生の修学・生活支援：担任を中心に、科目担当者とも連携し、学生の修学支援を積極的に行う。②進路支援：学生が進路を決定するための情報を的確に提供する。また、県内就職の推進および卒業生への支援についても継続して取り組みをすすめる。③国家試験受験対策：引き続き合格率100%に向けて支援を強化していく。

#### 2) 栄養学科

##### (1) 年度当初の重点課題

国家試験の模擬試験成績不良学生に対する個別指導を強化し、国家試験100%合格を目指す。就職については、様々な分野に就職活動を経験した4年生と卒業生からアドバイスをいただき、就職活動が円滑に進むようにする。

## (2) 取組状況

各学年に担任・副担任を1名ずつ配置し、学生を支援し学科会議でも報告してもらい学科全体で学生支援を行った。臨地実習【臨床栄養（必修）12施設・給食経営（必修）15施設・公衆衛生（選択）8施設および栄養教育実習（選択）12校（県内8校、県外4校）】は、各担当教員が実習施設と綿密な打ち合わせを行い、事後指導として報告会を開催した。栄養管理臨地実習（選択）は1名実施した。

就職活動の支援は3年次から進路支援委員会を中心に活動の諸注意、県内の公務員試験や医療施設・福祉施設への積極的活動の支援を行った。公務員希望者には、先輩（公務員合格者）による受験対策講和や業務内容の説明会を実施した。4年次は担任・副担任による就職活動の進捗状況の報告に従い、全教員で提出書類の添削・指導、模擬面接を実施した。

サークル活動はサークル顧問、大学祭の出店支援は学生委員および給食経営管理担当教員、学習・生活指導、情報処理ガイダンスの相談などは各教員、文科省のインターンシップは学科長が担当した。ポートフォリオは全教員の対応可能時間を掲示し、いつでも対処できる体制を学生に示した。国試対策は国家試験対策会議を設置し科目担当者による国試対策講習会、内部模試3回・外部模擬3回の試験を計画・実施、さらに成績不良者には、毎回の模試終了後の面接指導も実施した。

## (3) 評価（成果および改善事項）

1名の休学者を除き全員卒業（26名）。管理栄養士の国家試験合格率は100%、卒後の進路は、就職21名、進学1名となった。就職率は84%であった。県内就職率33%となり、昨年の36%より減少した。その内訳は病院32%、官公庁（行政、学校）14%、一般企業（管理栄養士・栄養士として食品会社、給食会社等に勤務）41%、児童福祉施設9%、進学4%であった。今年度と同様に国家試験合格率100%達成をめざすと共に、県内就職率の向上を図りたい。

## (4) 次年度の方策

国家試験100%合格を目指す。就職については、新型コロナウイルス感染症拡大予防の影響が、様々な分野に出ることが予想される。就職した卒業生からの応援メッセージをTeamsで紹介したり、学生さんから相談があった場合は、教員がサポートできるように努めるようにしていく。

## 3) 歯科衛生学科

### (1) 年度当初の重点課題

国家試験合格率100%を維持するとともに、千葉県歯科医師会等関係団体と連携して県内就職率向上を目指す。

### (2) 取組状況

学生に対する学修・生活等の支援は、教務委員会、学生委員会、進路支援委員会の各委員が行っているが、さらに担任・副担任制の導入により、学生を全般的にサポートする体制を整えている。具体的には、履修ガイダンス、オフィスアワーによる学修支援、キャンパスハラスメントへの対応、健康管理に関する支援、個別学生相談への対応などである。

学修支援については、専門科目の教育において、各教員が独自の教材作成とそれを用いた講義・演習・実習を展開し、教育の質の向上をめざした。学外の臨床・臨地実習では、実習施設との事前打ち合わせや実習施設担当者による特別講義を行って連携を図り、実習が円滑に遂行できるよう体制を整えている。

進路支援については、求人状況に関する情報提供、エントリーカード・履歴書の記載方法、小論文の添削および模擬面接等の対策をハローワーク（公共職業安定所）の協力を得ながら支援した。また、卒業生と在学生（3、4年生）との交流の機会を設け、卒業生から就職した病院、歯科診療所、行政、企業等の詳細な仕事内容について情報提供と意見交換が行われた。さらに、進路が決定した4年生から3年生に向けて就職活動等の情報を提供する機会を設けた。国家試験対策については、進路支援委員会を中心に、学外模擬試験を3回実施するとともに、試験科目に対応した特別講義を実施するなど理解の強化をはかった。

### (3) 評価（成果および改善事項）

国家試験については教員が積極的に支援し、開学時からの目標である100%を維持した。県内就職率については、関係団体との連携により50%を達成した。

### (4) 次年度の方策

国家試験合格率100%を維持するとともに、千葉県内就職率の向上を目指す。

## 4) リハビリテーション学科理学療法専攻

### (1) 年度当初の重点課題

前年度に引き続き、学生の臨地実習が無事に遂行できるように学内教育と実習施設との連携を強化する。昨年度から、臨地実習におけるメンタル不調者を出さないよう、また学生の日常生活態度等の変化を見逃さないように毎週はじめに学生から睡眠時間等を記載した日常生活記録をさせ、実習訪問の担当教員にメールで提出しており、実習での睡眠や課題の負荷が高い場合には、臨地実習指導者と相談をし、学生の負担が過度にならないよ

うに配慮している。

## (2) 取組状況

前年度と同様、各学年担任による半年に一度の面接に加え、9月下旬に卒業生を囲む会を引き続き開催し、学生の学習意欲を引き出すように試みている。メンタル不調者を早期に発見できるよう専攻会議において教員間で情報共有をしている。進路支援・国家試験対策は前年度と同様に継続している。国家試験の模擬試験で成績が伸び悩んでいる学生には、個別対応をしたり、会議室に集合させたり、個人でのみの勉強は極力避けるように工夫をしている。また、臨床実習Ⅱ（評価実習）からⅢ・Ⅳ（総合実習）まで日常生活記録を学生に記録させ、毎週はじめにメール等で提出することを義務づけ、メンタル面の異常の早期発見を試みている。加えて、臨床実習前の学生の自主学習に参加し、学生が持っている疑問や理解していない実技技術の確認作業を援助している。

## (3) 評価（成果および改善事項）

臨床実習Ⅰ（体験）とⅡ（評価実習）前に接遇やリスク管理に関する講義と演習を毎年度と同様に実施し、臨床実習に臨む姿勢のあり方を学習させてきた。しかし、実際の社会を体験する機会がすくないため、挨拶の仕方、事前に実習先へ電話のかけ方など、一つずつ教える必要があった。

また、臨床実習Ⅱを目前に、臨床前実技試験（OSCE）を実施し、実習に臨む学生の不安を払拭するように努力した。結果、優秀な学生がいる反面、進級の難しい学生も中にはいるが、一人の落伍者もなく、今日までに至っていることは成果として捉えられる。

## (4) 次年度の方策

令和2年度は、前年度と同様にメンタル不調が臨床実習中に発覚し、実習が中断とならないようにしたい。事前にメンタル不調者を見逃さないように各教員が注意し、問題がありそうな学生に対しては学年担任からの早めのカウンセリングを受けるように心掛けさせる。メンタルの不調者以外で学習意欲の低い学生に対しても関心を持って、モチベーションの確認を心掛ける。

## 5) リハビリテーション学科作業療法学専攻

### (1) 年度当初の重点課題

①学生のキャンパス間移動の時間的・金銭的（運賃）な負担を考慮し、カリキュラム上、1年生の授業は、基本的に幕張キャンパスで実施しているが、移動など考慮し、水曜に作業療法の専門の科目に関する授業を仁戸名キャンパスで実施している。授業は、作業療法概論をはじめとして基礎作業療法、基礎作業療法実習や体験実習のオリエンテーションなど、演習・実習など実際の作業療法の設備など授業は仁戸名キャンパスで実施している。

2年生は火・木曜日は仁戸名、他の曜日は幕張キャンパス。3・4年生はほぼ毎日仁戸名キャンパスで学習している。特に2年生が中心に以降の移動負担が開学依頼解決していない。学生は3年生になると通学の便利なアパートを借り換えなど自主的な方法で解決している。

②作業療法士国家試験対策として、4年生よりグループ分けをし、学習環境の調整と模試を実施している。特に12月より2月まで集中して学生指導を実施している。通学・学習環境につながる安全・健康面（食事や帰路時間）への配慮が必要となっているが、遅くとも6時に帰るよう指導している。また、学習不足の学生に関して、学生の要望により、12月末から約2か月程度、土曜など教員の管理の元9時から5時まで実施している。

### (2) 取組状況

作業療法学専攻は担任・副担任制をとっている。学生は、作業療法士としての適性や就職などの問題に対して、個別に対応している。また、退学・休学など重要な案件は、担任・副担任に加え作業療法学専攻長も対応する。教員は学生支援としてサークル顧問も担当している。

学生は、学年間の交流を図るため先輩が後輩の相談などをとれるようチューター制の形式をとり、学生が自主的に1年生～4年生を小グループにわけ、各グループで交流会など開催しているが、学生主体のため、今後ディプロマポリシーに照らして、教員の指導・補助など具体的な対策が課題として残る。

教員が仁戸名キャンパスに常駐しているため、主に幕張キャンパス（1年生、2年生）に通学している学生に対しては、メール等で連絡を取り、必要に応じて相談する時間を設けている。問題は、キャンパス間の移動などで時間的制約があるため仁戸名と幕張で同時に問題が発生した時など教員の適時対応の困難がある。作業療法学専攻の学生支援における重点課題として、問題発生に対して即時対応できる体制づくりは、SNSなどの利用により改善はしているが、対面の必要性がある場合など今後検討課題である。また、進路支援や国家試験対策に関して、専攻会議を開き、情報の共有と対策について検討実施し、問題はない。

### (3) 成果および改善事項

①学生指導や卒業生の交流会などが行われている。また就職先として、千葉県内への就職率は昨年同様高い。

②国家試験において新卒22名いたが、未受験が1名おり不合格者が1名で20名の合格者（95%の合格率）、既卒者で2名受験しすべて合格者となった。

#### (4) 次年度の方策

国家試験への対応を、組織だって実施する必要がある。学生の自主性を重んじている。SNS などの活用を今後考え実施していきたい。ディプロマポリシーに照らして、時間的制限もある中、予算のかかからない方法で、作業療法専攻独自の工夫により、千葉県民に必要とされる作業療法士の育成をはかりたい。

### 5. 令和元年度千葉県立保健医療大学卒業時調査

#### 1) 調査の概要

本学の学生支援（修学支援・生活支援・進路支援）に対する評価を明らかにし、学生支援の改善・充実を図ることを目的に、4年次学生を対象に質問紙調査を行った。調査内容は、①本学の教育に対する満足度、②本学の教育目標への到達度、③4年間の学生生活について、④学生生活・学生支援に対する満足度、⑤実施した就職・進学活動についてである。調査時期は2019年12月～2020年2月で、学科・専攻ごとに実施した。

#### 2) 調査の結果

##### (1) 対象者の概要

卒業生 177 名中 176 名から回答が得られた（回収率 99.4%）。所属学科は、看護学科 81 名（46.0%）、栄養学科 26 名（14.8%）、歯科衛生学科 22 名（12.5%）、リハビリテーション学科理学療法学専攻 28 名（15.9%）、リハビリテーション学科作業療法学専攻 19 名（10.8%）であった。

##### (2) 本学の教育に対する満足度

「特色科目」「一般教養科目」「保健医療基礎科目」「専門科目」「時間割」「4年間のカリキュラム」「履修ガイダンス」「シラバス」「WEB履修登録システム」等 17 項目について満足度を 4 段階で尋ねた。17 項目中 14 項目において 7 割以上の者が「とても満足」「やや満足」と回答した。「とても満足」「やや満足」と回答した者の割合が 7 割を下回る項目は「学外実習：実習までの交通の便」「WEBによる成績確認」「WEBによる成績確認」の 3 項目であり、平成 30 年度と同様であった。

##### (3) 本学の教育目標への到達度

本学の 8 個の教育目標について到達度を 4 段階で尋ねた。平成 30 年度と同様に、すべての教育目標において 8 割以上の者が「十分に身についた」「ある程度身についた」と回答した。

##### (4) 4年間の学生生活に対する取り組みの程度

「特色科目の学習」「一般教養科目の学習」「保健医療基礎科目の学習」「専門科目の学習」「進路・キャリアの検討」「国家試験のための学習」「サークル活動」「いずみ祭」「友人等との交流」「教員との交流」「家族との交流」「アルバイト」「ボランティア活動」等 15 項目について、取り組みの程度及び活動から得たものの大きさの程度を 4 段階で尋ねた。15 項目中 11 項目において 7 割以上の学生が「とても熱心に取り組んだ」「やや熱心に取り組んだ」と回答し、得たものも「非常に大きい」「やや大きい」と回答した。この結果は、平成 30 年度と同様の結果であった。一方、取り組みの程度の低かった活動は「サークル活動」「いずみ祭」「教員との交流」「ボランティア活動」で、得たものも大きくはなく、平成 30 年度と同様の結果であった。

##### (5) 本学の学生支援に対する満足度

学生支援について「学生ハンドブック」「オフィスアワー」「掲示による連絡」「学生用メールシステム」「教職員の対応」「健康診断」「履修支援」「就職・進学支援」「国家試験受験への支援」「長期休業」「学生保険」「奨学金制度・授業料減免制度」「学生相談」「サークル活動への支援」「休学者への支援」「5年以上在籍する者への支援」「事務手続き」、および施設設備について、合計 59 項目について満足度を 4 段階で尋ねた。結果のうち、学生支援に関して「とても満足」「やや満足」と回答した者の割合が 5 割を下回る項目は「掲示による連絡」の 1 項目であり、平成 30 年も低い項目であった。また、平成 30 年度の調査で 5 割を下回っていた「学生用メールシステム」は、5 割を上回っていた。

施設設備に関しては、「とても満足」「やや満足」と回答した者が 5 割にみたなかった項目は、「講義室（仁戸名）の広さ・空調」「講義室（仁戸名）の机・椅子」「講義室（仁戸名）の視聴覚設備」「情報処理室（仁戸名）」「学生ホール（仁戸名）」「運動場・運動施設（仁戸名）」「学生更衣室（仁戸名）」「トイレ（幕張）」「トイレ（仁戸名）」「仁戸名無人ワゴン販売」の 10 項目であった。平成 30 年度よりも設問の項目数を増やしたにもかかわらず、12 項目から 10 項目へと減少していたが、平成 30 年度と同様に、幕張キャンパスと比較して仁戸名キャンパスの施設設備への満足度は概して低かった。

「学生生活への全体評価」は「とても満足」「やや満足」が 82.8%であり、平成 30 年度の結果よりもやや高い値であった。

##### (6) 実施した就職・進学活動

「活動開始時期」「受験した施設・企業数」「内定を得た施設・企業数」「実施した就職活動」「就職にあたり重視した条件・基準」「受験した進学先」等について尋ねた。

活動開始時期は「4年次前期」が最も多かった。受験した施設・企業数は「1か所」が最も多く（58.4%）、次いで「2か所」であった。内定を得た施設・企業数は「1か所」が多かった（76.8%）。

実施した就職活動は「施設ごとの就職説明会」「合同就職説明会」「インターンシップ」の順であった。いずれも「役に立った」と高い割合で回答されており、活用した者にとっては有効であった。また、全学および学科・専攻で実施しているキャリアセミナーや進路支援ガイダンスについては、16項目中12項目で7割以上の参加率があった。また、16項目中15項目で参加者の8割以上が「役に立った」と回答した。

就職にあたり重視した条件・基準は「施設・病棟の雰囲気」「給料」「規模・機能（高度医療を行う病院、長期療養病院等）」であり、上位は平成30年度調査の結果と同様であった。

進学にあたり受験したのは3名であった。

## 6. 評価（成果および改善すべき事項）

学生部および学生委員会・進路支援委員会は、所掌事項に関する活動を計画的に行うことができたが、それらの活動のうち、令和元年度の成果として特筆すべきことは以下の点と考える。

学生支援としては、①学内整備において仁戸名キャンパスの男性用洋式トイレの整備を要望し、優先的に整備された。②同窓会と連携して、学科・専攻の同窓会分会の発足または発足準備を支援した。

進路支援については、全学および学科・専攻によるキャリアセミナーや進路支援ガイダンスを計画的に運営することができた。令和元年度卒業時調査の結果からも学生にとって有効に活用できた。

一方、学科・専攻においては、学科・専攻全体で情報共有や連携を取りながら、担任を中心に修学上・学生生活上の相談にのったりするなどして、きめ細やかに修学支援・学生生活支援を行うことができた。その結果、卒業時調査において「学生生活への全体評価」は「とても満足」「やや満足」が82.8%であり、平成30年度の結果よりもやや高い値であった。また、学科・専攻で国家試験受験対策を行い、令和元年度国家試験合格率は保健師 92.5%、助産師 100%、看護師 100%、管理栄養士 100%、歯科衛生士 100%、理学療法士 96.3%、作業療法士 95.0%であった。概ね例年通りもしくは高い合格率であった。

令和元年度卒業時調査の結果では、修学支援・学生生活支援・進路支援に関して概ね高い評価を得ているが、施設設備に関しては、満足度が低い項目が10項目あり、特に幕張キャンパスと比較して仁戸名キャンパスの施設設備への満足度は概して低かった。引き続き改善をしていく必要がある。

## 7. 次年度の方策

学生支援として以下の活動に積極的に取り組んでいきたい。①学生支援に関して、関係機関からの情報や学生からの要望も捉えながら、所掌事務および学生支援計画に沿った活動を行い、学生支援の充実や検討事項の解決を目指していく。特に新型コロナウイルス感染拡大による学生生活への影響を把握し、例年よりも積極的な学生支援を行う。②進路支援に関して、所掌事務に関する活動を計画的に行う。特に、県内就職の推進や国家試験合格率100%（全学科）をめざし、学科専攻と連携を図り、大学全体として取り組んでいきたい。また、新型コロナウイルス感染拡大による就職活動への影響がないか把握し、4年生への適切な情報提供を行う。

また、各学科・専攻については、学科・専攻が掲げた「次年度の方針」を適切に実施していく。

## Ⅶ 社会連携・社会貢献

### 1. 社会との連携・協力に関する方針

広く開かれた大学として、地域の人々および地域施設との連携や交流を通して、地域社会へ貢献する。

### 2. 年度当初の重点課題

- 1) 健康づくり・病気予防への提案（県・地域の施策の点検・評価、見直し、提案）
- 2) 卒業生の初任者・卒後研修を雇用者と協働で企画、実施（地方創成）
- 3) 専門職を対象とした生涯教育の企画、実施

### 3. 活動内容

#### 1) 公開講座

2019年度の公開講座は10月27日、幕張キャンパスにて、「地域で安全に暮らすには」をメインテーマに開講された。参加者は59名であった。台風の襲撃を受け、10月13日開講予定であった講演は中止となった。今回の公演「楽しく安全な食生活のために一口腔機能向上と口腔ケア」、「みんなで高めよう！災害に備える力」は、タイムリーな演目であった。また、県衛生研究所の依頼を受け、同研究所で2018年度公開講座を再編した講演を行った。今年度は1回のみでの開講であったが、2012年当時と比較すると、受講者数の減少は否めない。新たな体制が望まれる。

#### 2) 共同研究等による学外組織との連携

2017年10月、UR都市機構と協定を締結して実施された「ほい大健康プログラム」は、2019年度学長裁量研究採択課題として、UR団地4カ所で、展開された。また、歯科衛生学科を中心として、オーラルフレイル予防講座「ほい大口から始める健康プログラム」が開講されている。作業療法学専攻を中心として、あやめ台団地にて、「千葉県立保健医療大学が行う地域のための健康づくり一転倒予防」が実施された。

#### 3) 各学科・専攻の活動状況

##### (1) 看護学科

##### ①地域におけるボランティア活動等：

- ・千葉県内：スマイル・キャンサーウォーク学生ボランティアの募集、ベイタウンかふえアドバイザー、多数傷病者発生合同災害訓練、千葉県こども病院でのボランティア活動推進のための協働・調整 (2)、幕張地区夏祭り救護ボランティア (2)、ほい大プログラム、認知症の人と家族の会千葉県支部 若年性認知症の人と家族の集いの9件であった。
- ・千葉県外：まちの暮らしの保健室における健康相談の1件であった。

##### ②介護人手審査会委員 (2)、新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する厚生労働省対策推進本部サーベイランス班応援業務の3件であった。

##### ③審議会、委員会、国家試験委員等の実績：

文部科学省大学設置・学校法人審議会大学設置分科会特別委員、文部科学省職業実践力育成プログラム (BP) 認定審査委員会委員、千葉県現任教育推進会議委員長、千葉県保健師現任教育検討会有識者、千葉県移行期医療支援連絡協議会委員、柏市保健衛生審議会副委員長、柏市保健衛生審議会母子保健専門分科会委員長、柏市保健衛生審議会特別委員 (健康増進専門分科会)、柏市プロポーザル方式選定委員会委員、野田地域・職域連携推進協議会、野田健康づくり協議会部会助言者、墨田区介護保険事業運営協議会委員の12件を務めた。

##### ④職能団体委員等

日本看護学教育評価機構理事、同財務委員、日本看護協会認定看護管理者認定実行委員会委員、日本看護系大学協議会理事、同高等教育行政対策委員会委員、千葉県看護協会保健師職能委員会副委員長、千葉県看護教員養成講習会運営会議委員、千葉県ナースセンター運営委員会委員等、12件を務めた。

##### ⑤学会、学術団体への貢献

- ・所属学会・学術団体：総数125学会（延べ入会学会数227学会）であった。5名以上の教員が会員となっている学会は、日本看護科学学会、千葉看護学会、日本看護学教育学会、日本看護管理学会、日本地域看護学会、日本公衆衛生学会、日本母性看護学会、日本在宅ケア学会、日本老年看護学会であった。
- ・学会、学術団体への貢献：評議員・代議員6件、理事5件、監事1件、幹事2件、学会各種委員会（学会誌編集、学会誌査読、倫理審査、社会貢献、表彰等）委員38件、学術集会各種委員会（企画、実行、査読、等）委員20件を務めた。

##### ⑥講演会／研修会の講師・研究指導等：

延べ58回の講演会、研修講師、研究指導等を行った。主な講演会／研修は、日本看護系大学協議会看護学教

育評価検討委員会企画ワークショップ講師，千葉県看護教員養成講習会，新人教育担当者研修会，千葉県特定健診・特定保健指導実践者スキルアップ研修会，千葉県中堅前期保健師研修会，千葉県中堅後期保健師研修会等であった。研究指導／サポートは，千葉県がんセンター等医療機関 6 件，認定看護管理者教育課程ファーストレベル研修会 1 件，介護老人保健施設我孫子ロイヤルケアセンター1 件，千葉市他市町村および県内保健所 13 件 計 21 施設で行った。

#### ⑦その他の社会貢献

千葉県救急医療センターでの看護事例検討，公益信託山路ふみ子専門看護教育研究助成基金運営委員，放送大学客員教授等 8 件の社会貢献を行った。

### (2) 栄養学科

#### ①地域におけるボランティア活動等

- ・ 県内：ほい大健康プログラム（高洲第一団地・第二団地，千草台団地・あやめ台団地），ほい大 口から始める健康プログラム（さつきが丘団地），ほい大ごはんカフェ，ちば食育応援隊として食育・健康づくり活動，（千葉市幕張ベイタウン祭り），食生活向上お手伝い会（千葉県館山市保健センター），千葉県農林水産部安全農業推進課の食育啓発資料 2 件，千葉市健康支援課 食育&消費者教育情報誌作成アドバイザー，鈴木糖尿病内科クリニック栄養指導の 9 件であった。
- ・ 県外：産後クラブ（3 カ月健診）食育講座”，食事・栄養相談の 1 件であった。

#### ②地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・ 鎌ヶ谷市，第 2 次鎌ヶ谷市食育推進計画の推進及び第 3 次鎌ヶ谷市食育推進計画策定準備に係る指導，船橋市，ふなばし健やかプラン 21（第 2 次）後期分野別計画策定委員会委員，千葉県白井市，地域ケア会議助言者の 3 件を務めた。

#### ③審議会，委員会，国家試験委員等の実績：審議会，委員会，国家試験委員等

- ・ 独立行政法人医薬品医療機器総合機構 日本薬局方原案検討委員会（総合委員会，無菌医薬品包装の完全性評価 WG，国際調和検討委員会，生物試験法委員会，専門委員），一般財団法人医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団 生物製品標準品評価委員会），文部科学省科学技術・学術審議会，食品成分委員会及び作業部会専門委員，令和元年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業 妊産婦のための食生活指針の改定案作成および啓発に関する調査研究 研究委員，日本人事試験研究センター 専門試験（栄養士）試験問題作成委員の 9 件を務めた。

#### ④職能団体委員等

- ・ 所属職業団体：日本栄養士会，千葉県栄養士会，神奈川県栄養士会，千葉県医師会，千葉県庁医師会の 5 団体に所属。
- ・ 委員会・役員等：千葉県栄養士会研究教育事業部 副部長，千葉県栄養士会研究教育部役員を務める。

#### ⑤学会，学術団体への貢献

##### ・ 所属学会

栄養学科教員が所属している学会は 62 学会であり，その詳細は以下の通りである。

4 名以上所属（日本栄養改善学会（9 名），千葉県学校保健学会（5 名），

3 名所属（日本栄養食糧学会，日本生化学会，公衆衛生学会，日本病態栄養学会），

2 名所属（日本臨床栄養学会，日本調理科学会，日本健康教育学会，日本給食経営管理学会，日本食品科学工学会，日本肥満学会，日本疫学会，日本臨床栄養協会），

1 名所属（日本脂質栄養学会，日本解剖学会，日本小児外科学会，日本外科学会，日本内科学会，日本老年医学会，日本静脈経腸栄養学会，日本病態生理学会，日本在宅静脈経腸栄養研究会，千葉県 NST ネットワーク，千葉医学会，日本心理学会，日本教育心理学会，日本人間工学会，日本教育工学会，日本発達心理学会，日本パーソナリティ学会，日本家政学会，日本家庭科教育学会，日本教師学学会，日本官能評価学会，日本成人病（生活習慣病）学会，日本糖尿病・妊娠学会，DOHaD 研究会，日本薬学会，日本マイコプラズマ学会，日本高血圧学会，日本学校保健学会，日本双生児研究学会，日本体育学会，発育発達学会，学校健康教育研究会，日本農芸化学会，NPO 法人西東京臨床糖尿病研究会，日本糖尿病学会，日本生理学会，日本体力医学会，日本食生活学会，The American Physiological Society クリニカルパス学会，日本在宅栄養管理学会，日本在宅医療学会，日本応用糖質科学会，日本健康医学会，日本臨床栄養代謝学会，日本成長学会，日本小児保健協会，日本小児科学会，以上 48 学会）。

##### ・ 学会・学術団体への貢献

評議員，委員会委員長，委員などとしての学会・学術団体への貢献は 22 件であり，詳細は下記のとおりである。

日本栄養改善学会評議員（5 名），日本栄養改善学会栄養学雑誌編集委員，日本栄養改善学会関東・甲信越支

部幹事。日本栄養改善学会理事候補者選挙管理委員，日本衛生学会（代議員・検討会委員），日本官能評価学会（司会・大会委員・常任編集委員），日本官能評価学会査読，日本官能評価学会常任理事（企画・編集），日本調理科学会 研究委員会委員（新潟県委員），（千葉県責任者），日本調理科学会関東支部会役員，日本調理科学会代議員，日本老年医学会査読委員，日本老年医学会代議員，社会医学査読委員，日本社会人文学会大会委員，千葉県 NST ネットワーク世話人，千葉県学校保健学会評議員・ニューズレター編集委員，千葉県学校保健学会理事，和食文化国民会議調査・研究部会幹事，日本病態栄養学会評議員，日本糖尿病妊娠学会（ワーキングメンバー・プログラム企画委員），日本双生児研究会（理事・選挙管理委員・学会誌編集員）。第 22 回国際栄養学会議プログラム委員。

⑥講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等：講演会，講師・指導等 17 件

・千葉県シニア自然大学研修会 NP0 法人千葉県シニア自然大学，香西保健所給食職員研修会，いちほら市民健康大使コース。真砂ご近所さんの会，千葉県栄養士会公衆衛生事業部研修会（2 件），授業研究 省察するコミュニティ 実践研究。特定保健指導の実践 館山市健康福祉部健康課，千葉県特定健診・特定保健指導，ちば食育ボランティアスキルアップ研修会，株式会社 LEOC（給食受託会社）。千葉市薬剤師会学術講演会。千葉市薬剤師会。栄養学講座（2 件）。大人のための食育講座（2 件）。成田市生涯大学院教養講座。

⑦対外広報活動（ホームページへの掲載）

千葉テレビ ウィークリー千葉県「健康づくりのプロフェッショナルを目指して」

### (3) 歯科衛生学科

①地域におけるボランティア活動等：5 件

・千葉県内：6 件

障害者の口腔衛生指導（2019 年 4 月～2020 年 3 月の第 3 木曜日午前，千葉県リハビリテーションセンター更生園），ほい大健康プログラム（2019 年 10 月 5 日高洲団地），オーラルフレイル予防プログラム（2019 年 4 月～現在に至る。UR 花見川団地，さつきが丘団地），打瀬中学校の職場体験学習（2019 年 5 月 23～24 日，千葉県立保健医療大学），パラスポーツ講座ゴールボール講習会企画運営・千葉市共同開催（2019 年 8 月。千葉県立保健医療大学）。

・千葉県外：1 件

オリンピックボランティア説明会 11 月出席（東京）。

②地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）：11 件

歯科診療（2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日，本学歯科診療室），継続個別支援，歯科診療補助の実施（2019 年 4 月～現在に至る，本学歯科診療室）。千葉市口腔がん検診，千葉市口腔ケア事業（2019 年 7 月 1 日～12 月 20 日，本学歯科診療室），診療指導（2009 年 4 月 1 日～現在に至る，日本大学松戸歯学部付属病院），手術指導（2011 年 4 月 1 日～現在に至る，総合病院国保旭中央病院），ヘルシーカムカム 2019（2019 年 5 月 26 日，千葉そごう），歯みがき&でんたるカップミニサッカー大会（2019 年 10 月 24 日，千葉ポートアリーナ），流山市南部地域包括支援センター。口腔内診査・機能測定および講演。（2019 年 7 月 16 日。流山ケアセンター）。口腔と全身の健康状態に関する 91 歳調査体力測定。2019 年 6 月。新潟。白井市地域ケア会議（2019 年 7 月。2020 年 1 月。白井市地域包括支援センター）。

③審議会，委員会，国家試験委員等の実績：1 件

日本歯科医療振興財団歯科衛生士試験委員会幹事委員

④職能団体委員等：14 件

全国歯科衛生士教育協議会理事，同教育委員会理事，同教育委員会委員，同教育問題検討委員会委員，同認定委員会委員，全国大学歯科衛生士教育協議会理事，同教育研究委員会委員，同雑誌編集委員長，同雑誌編集委員，国公立大学法人等歯科医療従事者養成機関担当者会議担当者，千葉県歯科衛生士育成協議会役員，同運営委員。全国大学歯科衛生士協議会副会長，理事・編集副委員長。

⑤学会，学術団体への貢献

・所属学会・学術団体：総数 54 学会

日本歯周病学会，日本カウンセリング学会，日本口腔衛生学会，日本歯科衛生教育学会，日本歯科衛生学会，日本歯科保存学会，日本補綴歯科学会，日本歯科審美学会，日本歯科色彩学会，美容口腔管理学会，日本接着歯学会，日本歯内療法学会，日本アンチエイジング歯科学会，日本口腔外科学会，日本口腔内科学会，日本口腔科学会，日本歯科理工学会，International Association of Oral and Maxillofacial Surgeons. Asian Association of Oral and Maxillofacial Surgeons，日本口腔診断学会，日本臨床口腔病理学会，日本臨床細胞診学会，日本有病者歯科医学会，日本老年歯科医学会，日本小児歯科学会，日本看護技術学会，日本医療安全学会，日本公衆衛生学会，日本顎顔面インプラント学会，日本口腔インプラント学会，日本医学教育学会，国際歯科研究学会（IADR），国際歯科研究学会日本部会（JADR），日本歯科医療管理学会，社会歯科学会，日

本体力医学会, 日本体育学会, 日本測定評価学会, 日本バイオメカニクス学会, 日本栄養改善学会, 日本栄養・食糧学会, 大学体育連合, 日本疫学会, American College of Sports Medicine, 日本咀嚼学会, 日本口腔ケア学会, 日本摂食嚥下リハビリテーション学会, ヘルスカウンセリング学会, 日本歯科医学教育学会, 日本大学口腔科学会, 日本歯科基礎医学会, 東京歯科大学学会, 北海道歯学会, 新潟歯学会, 北海道医療大学歯学会。

・学会, 学術団体への貢献: 35 件

日本歯科衛生学会顧問, 同学会外部査読委員, 日本歯科衛生教育学会副理事長, 同学会常任理事, 同学会編集委員会査読委員, 利益相反委員会委員, 日本歯科審美学会理事, 同学会「歯科審美」編集委員会委員副委員長, ホワイトニングコーディネーター委員会委員, 日本歯科色彩学会理事, 同学会ニュースレター編集委員会委員長, 同学会「歯科の色彩」編集委員会委員, 美容口腔管理学会幹事, 同学会「The Journal of Cosmetic Oral Care」編集委員, 日本大学口腔科学会評議員, 日本口腔科学会評議員, 日本口腔内科学会評議員, 日本口腔外科学会代議員, 日本医療安全学会代議員, 日本医療安全学会広報委員, 口腔衛生学会歯科衛生士委員会委員, 日本歯科医学教育学会評議員, Journal of Oral Maxillofacial Surgery. Medicine and Pathology 査読者, The Journal of Dental and Maxillofacial Research Editorial Board 査読委員, 日本歯科衛生士教育学会第 59 回大会座長, PLOS ONE 査読。・第 19 回美容口腔管理学会学術講演会 一般講演座長, 第 30 回日本歯科審美学会学術大会 一般講演座長, Community Dental Health. Reviewer. 第 73 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会座長, 第 12 回日本口腔検査学会, 第 30 回日本臨床口腔病理学会, 第 29 回日本口腔内科学会, 第 32 回日本口腔診断学会, 合同学術大会。歯科衛生士・看護師セッション座長。

⑥講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等: 23 件

千葉県立保健医療大学令和元年度公開講座講師「楽しく安全な食生活のために—口腔機能向上と口腔ケア」, 千葉県歯科衛生士育成協議会「高校生への歯科衛生士の業務および教育についての説明会」講師, 東京歯科大学大学院講師「臨床・基礎研究に必要な統計解析の基本について」, 千葉県歯科医師会主催日歯認定歯科助手講習会講師「高齢者の対応」「診療室管理・アシスタントワーク・患者対応」, 千葉県リハビリテーションセンター更生園施設入所者健康教育講師「歯は健康の原点」, 全国歯科衛生士教育協議会主催歯科衛生士専任教員講習会 I 講師「歯科衛生学教育法」, 令和元年度歯科衛生士研修会介護予防と口腔機能の回復・維持・向上に関わる歯科衛生士のための人材育成研修口腔機能について—総論—。歯科衛生士, ホワイトニングサミット—ホワイトニングで輝く人生を—, ホワイトニングコーディネーター講習会—こんなときどう答える?—患者の質問に対して—, 美容口腔管理学会認定講習会講師「歯科衛生士が主導するホワイトニングの手法」, 歯科ホワイトニングの基礎知識と臨床ポイント, 柏市シルバー大学院講師研究課程 1 年「健康寿命と運動」, 生涯課程「日常生活での体力づくり」, 鎌ヶ谷市保健所スキルアップ講習会「ロコモティブシンドローム・フレイル予防」, きらく会（地域団体）「健康寿命と運動 動いてわかる私のからだ」, 千葉県歯科衛生士会ステップアップセミナー「口腔と身体機能の向上」, オーラルフレイル予防プログラム, 健康づくりボランティアスキルアップ研修会「口腔と全身の関連性」, 船橋市ちゅうおう生活学校「咬むことと健康長寿」, ライフプラン講習会「健康につながるお口の話」。

歯科衛生士研修会（介護予防と口腔機能の回復・維持・向上に関わる歯科衛生士のための人材育成研修）「口腔機能低下症の各論」, 衛生研究所セミナー「咬むことと健康長寿」, 千葉県教育研究会学校給食部会第 4 地区（千葉市地区）学校給食研究協議会「よくかんでおいしく食べるために—歯や口の成長と健康—」。

⑦地域住民への歯科診療の提供

本学には学生実習施設としての機能を兼ね備えた歯科診療室が設置されており, 歯科衛生学科の教員（歯科医師・歯科衛生士）と嘱託歯科衛生士等が協働して地域住民を対象に歯科診療を提供している。県内を中心に患者を広く受け入れており, 2019 年度の延患者数は 3,091 名であった。また, 「千葉市口腔がん検診事業」として千葉市住民を対象に 62 件の個別検診, 口腔機能に関わる口腔ケア事業 1 件を行った。当診療室は保険医療機関として歯科外来診療環境体制加算等の施設基準を満たし, 患者にとって安心な歯科医療環境の提供, 厚生労働大臣が指定する疾患患者に対する必要な医療管理を行う体制を整えている。歯科診療を担当する歯科医師・歯科衛生士の専門資格取得状況は, (公社) 日本口腔外科学会口腔外科専門医 1 名, (公社) 日本口腔外科学会口腔外科指導医 1 名, がん患者歯科医療連携登録医 1 名, 日本糖尿病協会歯科医師登録医 1 名, 日本歯科放射線学会歯科放射線准認定医 1 名, 千葉市口腔がん検診検診医 1 名, 千葉県歯科医師会認定口腔がん検診医 1 名, 日本歯科保存学会歯科保存治療専門医 1 名, 日本歯科色彩学会認定医 1 名, 日本歯科審美学会認定医 1 名, 美容口腔管理学会指導医 (Diplomate) 1 名, 日本口腔衛生学会認定医 1 名, 日本歯周病学会認定歯科衛生士 1 名, 日本歯科衛生士会認定歯科衛生士 (摂食・嚥下リハビリテーション) 1 名, 日本歯科衛生士会認定歯科衛生士 (在宅療養指導・口腔保健管理) 2 名, 日本咀嚼学会健康咀嚼指導士 2 名となっている。

(4) リハビリテーション学科理学療法専攻

①地域におけるボランティア活動

・千葉県内: ほい医大プログラムによる UR の高齢者の運動予防を本専攻の学生も参加して行った。

- ・千葉県外
  - ・海外
- ②地域への保健医療活動（診療・技術指導・活動期間・場所等）
- ③審議会，委員会，国家試験委員等の実績
- ・一般社団法人リハビリテーション教育評価機構．評価認定委員会評価委員．2014年4月～現在．
  - ・千葉労働局．労災協力医．2019年4月～2020年3月．
  - ・千葉県介護保険関係団体協議会．幹事．2014年4月～現在．
  - ・一般社団法人リハビリテーション教育評価機構．評価員．2016年2月～現在．
  - ・千葉市介護認定審査会．予備委員．2017年4月～現在．
- ④職能団体委員等
- ・一般社団法人千葉県理学療法士．理事．2018年4月～現在．
  - ・一般社団法人千葉県理学療法士会．研究倫理委員会．委員長．2019年4月～現在．
  - ・公益社団法人日本理学療法士協会．令和元年度代議員．2019年4月～2020年3月．
  - ・公益社団法人リハビリテーション医学会．第57回学会プログラム委員．2019年11月～2020年3月．
  - ・一般社団法人日本職業・災害医学会．評議員．2019年4月～2020年3月．
  - ・一般社団法人千葉県理学療法士会．理事．2011年6月～現在．
  - ・一般社団法人千葉県理学療法士会．副会長．2013年6月～現在．
  - ・公益社団法人日本理学療法士協会．代議員．2014年6月～現在．
  - ・一般社団法人千葉県理学療法士会．学会検討委員会 委員長．2017年6月～現在．
  - ・一般社団法人千葉県理学療法士会．養成校ネットワーク連携部会 担当副会長．2017年6月～現在．
  - ・一般社団法人千葉県理学療法士会．生涯学習システム 担当副会長．2017年6月～現在．
  - ・公益社団法人日本理学療法士協会．介護予防・健康増進事業 都道府県コーディネーター．2018年2月～現在．
  - ・一般社団法人千葉県理学療法士会．障がい児・者支援部部員．2019年10月～現在．
  - ・一般社団法人千葉県理学療法士会．倫理審査委員．2019年4月～現在．
  - ・一般社団法人千葉県理学療法士会．学術局学術誌編集部長．2018年4月～現在．
  - ・一般社団法人千葉県理学療法士会．代議員．2019年度～現在．
  - ・一般社団法人千葉県理学療法士会．学術企画研修部員．2019年11月～現在．
- ⑤学会，学術団体への貢献
- ・所属学会・学術団体：日本リハビリテーション医学会．日本理学療法士協会．日本臨床神経生理学学会．日本電気生理運動学学会．日本運動療法学会．日本体力医学会．日本基礎理学療法学会．世界理学療法士学会．世界電気生理運動学学会．全国大学肺理学療法研究会．全国大学理学療法学会．世界リハビリテーション医学会．コクランジャパン研究会．千葉医学会．日本整形外科学会．東日本整形災害外科学会．関東整形災害外科学会．日本脊椎脊髄病学会．日本小児整形外科学会．日本職業・災害医学会．日本骨粗鬆症学会．日本腰痛学会．日本足の外科学会．日本抗加齢医学会．日本運動器科学会．日本小児股関節研究会．千葉県ロコモティブシンドローム研究会．臨床歩行分析研究会．日本人間工学会．日本生理人類学会．理学療法科学学会．バイオメカニズム学会．International Association of Physiological Anthropology．日本重症心身障害学会．重症心身障害療育学会．日本ヘルスプロモーション理学療法学会．
  - ・学会・学術団体への貢献度：第24回日本基礎理学療法学会抄録査読委員．2019年9月．第57回日本リハビリテーション医学会学術集会抄録査読委員．2019年11月．バイオメカニズム学会．学会誌編集委員．2017年4月．人間工学．論文査読．2019年4月．第6回日本予防理学療法学会学術大会．演題抄録査読．2019年4月．第38回関東甲信越ブロック理学療法士学会．演題抄録査読．2019年5月．第6回日本地域理学療法学会学術大会．演題抄録査読．2019年7月．第6回日本予防理学療法学会学術大会．セレクション口述演題座長．2019年10月．第40回バイオメカニズム講演会．一般演題座長．2019年12月．第25回千葉県理学療法士学会．演題抄録査読．2019年11月．
- ⑥講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等：
- ・2019年度 全国大学歯科衛生士教育協議会 第2回理事会・総会 特別講演，若いうちからロコモ予防！，9月7日，千葉県立保健医療大学．
  - ・いちほら市民大学専門講座．市原市教育委員会．認知機能の低下予防～コグニサイズを体験しよう～．市原市民．2019年8月23日．サンブラザ市原．
  - ・千葉県理学療法士新人教育プログラム．千葉県理学療法士会．協会組織と生涯学習システム．理学療法士．2019年9月1日．千葉県教育会館．

- ・健康体力づくり指導者研修会. 県健康づくり支援課. 足腰元気にロコモ対策. 一般県民. 2019年9月28日. 千葉県総合スポーツセンター.
- ・八千代市ふれあい大学校. 八千代市長寿支援課. 認知機能の低下予防〜コグニサイズを体験しよう〜. 八千代市民. 2019年10月25日. 八千代市地域福祉センター.

(5) リハビリテーション学科作業療法学専攻

①地域におけるボランティア活動等：

教員や学生サークルが協力要請や地域の要望によって自主的に以下に活動に参加した。県内では、認知症の人と家族の会千葉県支部主催のアルツハイマー啓発活動、がんカフェ、船橋市立船橋特別支援学校自立活動支援、千葉大学公認学生ボランティアサークル・チャレンジド・サポートみのりにおける車いす講習会がある。

②地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）：

専攻として組織だてて地域への保健医療活動は、「ほい大プログラム」があげられる。他は教員が協力要請や地域の要望によって以下の活動に参加している。活動として、千葉県内のUR団地におけるほい大プログラムへ作業療法の視点での援助（年5回程度）、千葉大学医学部附属病院地域医療連携部在宅医療インテンシブコース講師、葛飾区役所福祉部自立活動支援センター専門相談、大田区小学校特別支援学級医療専門相談、足立区発達障害児支援事業 専門研修等講師、練馬区障害児保育巡回指導、フェルマータ船橋におけるMTDLP活用におけるリハスタッフへの技術指導がある。

③審議会，委員会，国家試験委員等の実績：

各議会，委員会等から各教員が要請を受け，活動に参加している。活動として，日本神経学会神経内科専門医試験の試験問題作成，作業療法士国家試験模範解答作成委員，全日本指定自動車教習所協会連合会，「高次脳機能障害を有する運転免許保有者の運転再開に関するワーキンググループ」委員長，全日本指定自動車教習所協会連合会，「高齢運転者支援士」試験作問委員，市川市障害支援区分認定審査会審査委員，一般社団法人リハビリテーション教育評価機構評価員がある。

④職能団体委員等

所属した職能団体委員は，千葉県作業療法士会機関紙「作業療法」査読委員，千葉県作業療法士会アドバイザー，日本作業療法士協会制度対策部「運転と作業療法特設委員会」委員長，日本作業療法士協会制度対策部部員，日本作業療法士協会. 学会演題査読委員，日本作業療法士協会代議員，千葉県作業療法士会事務局長，千葉県作業療法士会代議員，千葉県作業療法士会理事，千葉県作業療法士会学術部発達障害委員会委員，千葉県作業療法士会学術部査読委員，日本作業療法士協会教育部部員（養成教育委員会），千葉県作業療法士会教育部部員，千葉県作業療法士会千葉中央ブロック代議員，千葉県作業療法士会千葉県生活行為向上マネジメント委員会委員，千葉県作業療法士会千葉県作業療法誌査読者，千葉県作業療法士会災害対策委員会委員，千葉県POS連盟千葉POS災害対策委員会委員，千葉県作業療法士会副会長，千葉県作業療法士会運転特設委員会担当理事，千葉県POS連盟理事がある。

⑤学会，学術団体への貢献

下記の学会・学術団体への貢献があった。

・所属学会・学術団体：

日本作業療法士協会，千葉県作業療法士会，日本公衆衛生学会，日本衛生学会，日本内科学会，日本神経学会，日本自律神経学会，日本排尿機能学会，日本パーキンソン病・運動障害疾患学，Movement Disorder Society，International Continence Society，日本癌学会，日本癌治療学会，日本緩和医療学会，日本臨床死生学会，日本サイコオンコロジー学会，日本がんサポーターズケア学会，日本死の臨床研究会，日本ホスピス・在宅ケア研究会，多施設緩和ケア研究会，日本ロコモケア研究会，日本在宅ホスピス協会，大学病院の緩和ケアを考える会，一般社団法人 全国在宅リハビリ支援推進機構，APHN (Asia Pacific Hospice Network)，EAPC (European Association for Palliative Care)，日本老年医学会，日本老年精神医学会，認知神経科学会，日本高次脳機能障害学会，自動車技術会，日本リハビリテーション工学協会，運転と認知機能研究会，運転と作業療法研究会，日本安全運転・医療研究会，日本交通心理学会，日本認知心理学会，日本交通科学学会，日本感覚統合学会，日本作業行動学会，日本LD学会，日本発達系作業療法学会，日本リハビリテーション連携科学学会，日本発達障害学会，日本義肢装具学会，脳機能とリハビリテーション研究会，日本作業療法研究学会，日本生理人類学会，日本人間工学会，日本臨床神経生理学学会，日本シーティング・コンサルタント協会，日本呼吸ケア・リハビリテーション学会，日本心臓リハビリテーション学，日本リハビリテーション医学会，日本ハンドセラピー学会，千葉県POS連盟。

・学会，学術団体への貢献：

一般社団法人作業療法士会学術部査読委員，一般社団法人作業療法士会学会委員会演題査読委員，日本神経学会代議員，日本排尿機能学会代議員，日本自律神経学会評議員，日本癌治療学会理事，日本がんサポーターズケア学会評議員，日本死の臨床研究会世話人，日本ホスピス・在宅ケア研究会世話人，多施設緩和ケア研究会世話

人, 日本ロコモケア研究会世話人, 日本在宅ホスピス協会世話人, 大学病院の緩和ケアを考える会世話人, 一般社団法人 全国在宅リハビリ支援推進機構顧問, 日本癌治療学会学術集会抄録査読委員, 日本緩和医療学会学術集会抄録査読委員, Disability and Rehabilitation: Manuscript Reviewer, Palliative Medicine: Manuscript Reviewer, Scandinavian Journal of Occupational Therapy: Manuscript Reviewer, 運転と認知機能研究会事務局, 運転と作業療法研究会代表, 日本安全運転・医療研究会幹事, 日本作業療法士協会学会演題査読委員, 日本感覚統合学会効果研究委員, 日本発達系作業療法学会理事, JDD ネットワーク多職種連携委員会副委員長, 日本作業療法士協会事例報告登録制度審査委員, 日本作業療法士協会学会演題審査委員, 千葉県作業療法士会学術誌査読委員, 日本作業療法研究学会理事, 日本義肢装具学会用語委員, 第 8 回千葉県がんのリハビリテーション研修会運営スタッフ, 千葉県 POS 連盟災害対策研修会運営スタッフ, 千葉県 POS 連盟理事会委員, 千葉県作業療法士会理事会委員, 千葉県作業療法士会定時総会委員, 千葉県作業療法士会予算総会委員。

⑥講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等：

下記の講演会／研修会の講師・研究指導をおこなった。一般社団法人日本アレン認知能力障害モデル研究会 ACLS-5 入門セミナー, 千葉大学医学部附属病院地域医療連携部在宅医療インテンシブコース講師, 千葉県健康福祉部高齢者福祉課千葉県認知症施策推進セミナー, 浦安市福祉部認知症講習会, 警察庁適性相談専科, 船橋市立リハビリテーション病院院内研修, 君津圏域リハビリテーション勉強会, 熊本県作業療法士会研修会, 区西北部高次脳機能障害支援普及事業講演会, 全日本指定教習所協会連合会障害者教習指導員研修, 全日本指定教習所協会連合会高齢運転者支援士研修, 損保協会助成事業長崎県リハビリテーション講習会, 福岡県作業療法協会研修会, 焼津市民病院研修会, 練馬区立桜台保育園園内研修講師, 練馬区立田柄第二保育園園内研修講師, 練馬区立上石神井保育園園内研修講師, 東京都王子第二特別支援学校夏季研修会講師, 茨城県作業療法士会学校を理解して支援ができる作業療法士の育成研修会講師, 練馬区立石神井台第二保育園園内研修講師, 山梨県作業療法士会学校を理解して支援ができる作業療法士の育成研修会講師, 習志野市ひまわり発達相談センター職場内研修会講師, 足立保健所中央本町保健センター子育て講演会講師, 千葉県通園施設連絡協議会給食部会栄養士 2020 年春のセミナー講師, 千葉県作業療法士会現職者研修会 2 講師, 開学 10 周年記念事業シンポジウム司会, 日本作業療法士協会主催千葉県作業療法士会運営臨床実習指導者講習会講師・ファシリテーター, 千葉県作業療法士会千葉県運転支援情報交換会, 千葉県作業療法士会生活行為向上マネジメント事例検討会, 千葉県作業療法士会生活行為向上マネジメント基礎研修会がある。

4) 国際交流の推進状況

- ・本学における国際交流について学科・専攻ごとに検討したのち大学運営会議に諮った結果, 米国の Wisconsin 州の Madison Area Technical College (MATC) との交流協定の締結は行わず, すでに交流協定を締結している韓国の Inje University (仁済大学校) との交流実施については検討を続けることとなった。
- ・訪日外国人の増加に対応するため, 緊急医療の初期対応や応急手当をサポートする知識・技能をもつ言語サービスボランティアの育成を目的とした『初期医療言語サービスボランティア研修』を, 神田外語大学と共同でプログラムを開発し, 開催した。両大学の学生に参加を呼びかけて 2019 年 9 月 15 日, 16 日に実施し, 28 名が参加し, 18 名が全日程を修了した。

4. 評価（成果および改善すべき事項）

「県民の健康づくり」として, 公開講座の企画・運営については概ね満足のいく結果が得られた。本学の教員が講師を担った講習会は全学で例年同様に 100 を超えた。歯科診療室は 2019 年度の延患者数は 3,088 名であり, 例年と同様の貢献ができた。「県・地域の施策の点検・評価, 見直し, 提案」として地域ケア会議の構成メンバー, 団体のアドバイザー, 医療施設の専門相談員など, 地域および施設の運営に関わっている教員は多い。また, 「専門職を対象とした生涯教育の企画, 実施公開講座の企画・運営」について, 各職能団体の新人研修や現職者研修, 専任教員研修に関わる教員が多かった。作業療法学専攻が主体となる健康教室は, 地域のプロボノと協同しての取り組みであり, 本学における今後の取り組みを示唆する内容であった。

5. 次年度の方策

例年実施されている公開講座において, 受講者数が減少している。秋季開催の天候不順に対する対応も踏まえ, WEB 上の公開やニーズに応じて, 学外での開催など, 新たな方式が求められる。「健康づくり・病気予防への提案 (県・地域の施策の点検・評価, 見直し, 提案)」は, 個々の教員の取り組みを全学的にまず状況を把握し, 大学としての取り組みに発展できるシステム構築を図る。

千葉県保健福祉政策に掲げられた, 「シンクタンク機能」を果たすべく, 「ほい大健康プログラム」を充実させ, この取り組みの検証し, また情報発信の体制を整える。

国際交流の進展を図る。学生の短期留学支援や語学研修の充実をカリキュラム化していく。

## Ⅷ 教育研究等環境

### 1. 年度当初の重点課題

- ・教育設備の段階的更新・整備を学内の合意に基づき着実に実施する。

### 2. 施設・設備の整備状況

(新規購入備品)

#### 幕張キャンパス

教育棟	A310 講義室	プロジェクター	1台
	B111 講義室	プロジェクター	1台
	B406 講義室	プロジェクター	1台
学生ホール棟	第2 講義室	机 36 台, 椅子 108 脚, 液晶テレビ, スライド式白板	
	学生ホール,	テーブル 3 台, 椅子 14 脚	
事務室	ワイヤレスマイクスピーカー	1台	

#### 仁戸名キャンパス

東校舎棟	基礎医学実習室	プロジェクター	1台
	木工芸実習室	プロジェクター	1台

(10周年記念事業寄附)

#### 幕張キャンパス

教育棟	A109 講義室	椅子 56 脚	
-----	----------	---------	--

### 3. 図書館の状況

#### 1) 利用者数

幕張	64,818 人
仁戸名	5,854 人

#### 2) 資料収集

##### (1) 蔵書数

幕張	図書 75,569 冊	雑誌 1,414 タイトル
仁戸名	図書 30,446 冊	雑誌 751 タイトル

##### (2) 視聴覚資料数

幕張	CD 37 点	DVD 433 点	スライド 7 点
仁戸名	CD 10 点	DVD 226 点	

#### 3) 開館時間および開館日数

開館時間

【授業期間中開館時間】(幕張) 月・金曜日 8:45～21:00, 火～木曜日 8:45～20:00, 土曜日 9:00～17:00  
(仁戸名) 月・金曜日 9:15～21:00, 火～木曜日 9:15～20:00, 土曜日 9:00～17:00

【授業のない期間】(幕張・仁戸名とも) 月～金曜日 : 9:00～17:00 (但し仁戸名のみ夏休み中も土曜日開館)

開館日数 (年間延べ数)

幕張	231 日
仁戸名	252 日

#### 4) 利用状況

貸出冊数	幕張	6,904 冊
	仁戸名	1,940 冊
参考業務件数	幕張	2,149 件
	仁戸名	119 件
複写	幕張	476 件 5,416 枚
	仁戸名	54 件 770 枚

#### 5) 施設整備およびサービス向上に向けた取り組み

- 図書館ガイダンスの実施 (計 13 回)
- 文献検索ガイダンスの実施 (計 10 回)
- 文献検索セミナーの実施 (計 5 回開催 (うち外部講師の招聘 2 回), 参加者のべ人数 186 名)

図書館だより「ぼ〜れぼ〜れ」の発行 年2回(4月, 10月)

#### 4. 研究倫理を遵守するための措置

- ・8月28日 本学における研究倫理教育のルールを定め、教員に周知した。一般財団法人 公正研究推進協会が有料化されたため、無料で行える研究倫理eラーニングである日本学術振興会eラーニングコース[eL Core]・一般財団法人校正研究推進協会 APRIN eラーニング・国立がん研究センターICR 臨床研究入門事務局を学内教員に案内している。研究倫理教育の受講対象者について、本学が設置している有効期限に関わらず、年1回以上の研究倫理教育を受講することとした。
- ・4月1日 新任教員を対象として、研究倫理・コンプライアンス研修会「本学の研究倫理審査体制」を実施した。
- ・9月19日 科研費説明会において、研究倫理教育プログラムの受講等について周知した。
- ・令和2年2月20日 科学研究費助成事業に係る内部監査を実施した。

#### 5. 評価(成果および改善すべき事項)

- ・開学以来の課題であった、教室内の旧式の机・椅子が順次更新されつつある。
- ・開学時に整備したプロジェクターも、順次更新することとなった。

#### 6. 次年度の方策

令和元年度に引き続き、学生の教育環境改善のため、順次整備を進めていく。

## Ⅸ 研究活動報告

### 1. 看護学科

- (1) 著書：和文共著 11 件，その他 6 件，総数 17 件の著書があった。
- (2) 学術論文：英文原著 2 件，和文原著 29 件，その他 19 件，総数 50 件の発表があった。
- (3) 発表：国際学会 6 件，全国学会 46 件，その他 8 件，総数 60 件の発表があった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：シンポジスト 2 件であった。
- (5) 研究資金獲得状況：外部資金として受託した研究が 44 件ですべて科研費であった。学内共同は 6 件，学長裁量は 14 件であった。
- (6) 賞・特許：第 23 回日本看護管理学会学術集会ポスター賞，日本循環器看護学会第 16 回学術集会最優秀演題賞，2019 年度千葉看護学会論文賞の 3 件であった。

### 2. 栄養学科

- (1) 著書：共著 11 件の著書があった。
- (2) 学術論文：英文原著 4 件，和文原著 13 件，その他 15，総数 32 件の発表があった。
- (3) 発表：国際学会 1 件，全国学会 38 件，地方学会 3 件，総数 42 件であった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：招待講演 3 件，シンポジウム 1 件，総数 4 件であった。
- (5) 研究資金獲得状況：外部資金として受託した研究が 9 件（うち科研費 3 件），学内共同は 6 件，学長裁量は 5 件であった。
- (6) 賞・特許：1 件。

### 3. 歯科衛生学科

- (1) 著書：共著 9 件，総数 9 件の著書があった。
- (2) 学術論文：英文原著 3 件，和文原著 3 件，その他 5 件，総数 11 件の発表があった。
- (3) 発表：国際学会 5 件，全国学会 9 件，総数 14 件の発表があった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：総数 2 件。
- (5) 研究資金獲得状況：外部資金として受託した研究が 7 件（科研費 6 件，健康運動指導研究助成 1 件）であった。学内共同研究は 5 件，学長裁量研究 4 件であった。

### 4. リハビリテーション学科理学療法専攻

- (1) 著書：0 件。
- (2) 学術論文：英文原著 1 件，和文原著 3 件，その他 0 件。総数 4 件である。
- (3) 発表：国際学会 5 件，全国学会 7 件，地方学会 0 件，総数 12 件である。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：1 件である。
- (5) 研究資金獲得状況：科研費 2 件，公益財団法人三井住友海上財団 1 件，学内研究 4 件，学長裁量研究費 5 件，他大学研究助成 1 件，総数 13 件（研究代表者・研究協力者を含む）である。
- (6) 賞・特許：0 件。

### 5. リハビリテーション学科作業療法専攻

- (1) 著書：単著 0 件，共著 4 件，編集 0 件，翻訳書 0 件，その他 0 件，総数 4 件の著書があった。
- (2) 学術論文：英文原著 11 件，和文原著 6 件，その他 17 件，総数 34 件の発表があった。
- (3) 発表：国際学会 5 件，全国学会 11 件，地方学会 4 件，研修・講習会 0 件，その他 0 件，総数 20 件の発表があった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：計 11 件であった。

Autonomic bladder disorders in multiple system atrophy・11th Congress of the international society for autonomic neuroscience，第 1 回日本在宅医療連合学会シンポジウム 46，第 25 回大学病院の緩和ケアを考える会年次大会特別講演，第 57 回日本癌治療学会学術集会メディカルスタッフセミナー，第 19 回富山県作業療法学会特別講演，日本心理学会第 83 回大会シンポジウム，Taiwan Occupational Therapy Association's 2019 international conference，Kaoshung Occupational Therapy Association workshop「日本高齢及身心障害者駕駛評估與駕駛復健實務」工作坊，日本交通心理学会将来ビジョンワーキンググループ講習会，第 4 回日本安全運転・医療研究会シンポジウム，第 53 回日本作業療法学会モーニングセミナーがある。

- (5) 研究資金獲得状況：外部資金として受託した研究が 2 件（内科研費 2 件）であった。学内共同は 4 件，学長裁量は 2 件であった。
- (6) 賞・特許：総計 0 件であった。

## X 内部質保証のための取り組み

### 1. 年度当初の課題

平成 27 年に受審した大学基準協会による機関別認証評価において以下のような改善勧告を受けた。内部質保証体制の確立が本学における喫緊の課題であり、将来構想検討委員会のもと管理・運営 WG を設置し、WG を中心に課題の明確化、組織体制の改革等に取り組んだ。

#### ・改善勧告

内部質保証の中心的な役割を担う自己点検・評価委員会と 2 つの部会の連携・役割分担、また「大学運営会議」等の他の組織との役割分担が明確ではなく、責任主体と実態に乖離がみられるなど、内部質保証システムが十分に構築されていない。また、全学的な自己点検・評価も今回の大学評価を申請するまで実施しておらず、諸活動の定期的な検証も不十分なので、大学として責任ある内部質保証を実現するよう、是正されたい。

### 2. 評価（成果および改善すべき事項）

自己点検・評価実施推進部会により重点施策の実施状況調査が行われた。内部質保証体制を確立するための取り組みは（管理・運営の（5）、6）、7）が該当する。それぞれの取り組みについて改善計画、年度末進行状況、次年度への課題を列挙した。

#### 5) 業務の責任主体の明確化（重要事項に関する組織的な審議・決定プロセスの明確化、自己点検・評価委員会と二つの部会との連携・役割分担、運営会議等との役割分担が不明確、責任主体と実体との乖離）（総務・企画委員会、自己点検・評価委員会、将来構想検討委員会）

改善計画：教育の質保証を実現するために、管理運営部門と教育研究部門を立ち上げて運営会議、教授会、各委員会、部会の役割分担・責任体制を明確にし、自己点検・評価委員会と関係する部会との連携・役割分担を強化して内部質保証システムを構築した。

年度末進行状況：自己点検・評価に関する各部会の役割分担を明確にするとともに、部会で作成・検討した自己点検・評価案を、最終的に評価委員会が責任主体として審議する体制を確立したところであり、内部質保証システムの構築を図ることができた。

次年度への課題：組織改変を達成して内部質保証システムを構築して改善勧告の達成を実証する。IR 専門部会で教学に関するデータを集計・分析し、その結果を踏まえて自己点検・評価実施推進部会が各学科、専攻等の学修成果を点検・評価する。

#### 6) 予算請求、予算編成後の配分に関し、大学全体としての組織的な審議・決定プロセスの構築（総務・企画委員会、将来構想検討委員会）

改善計画：2018（平成 30）年度（2019（令和元）年度予算要求時）から、各学科及び委員会において提出された予算要望を、大学運営会議において集約・検討し、学長が承認した上で、大学の予算案として県に要求するというプロセスを整えるとともに、学内研究費についても、総務・企画委員会において概算額や配分内訳等を審議し、予算案とする仕組みを整える。また、予算査定後の執行計画についても、大学運営会議での審議を踏まえて、学長が決定する仕組みに改める。

年度末進行状況：2018（平成 30）年度（2019（令和元）年度予算要求時）から、各学科及び委員会において提出された予算要望を、大学運営会議において集約・検討し、学長が承認した上で、大学の予算案として県に要求した。

次年度への課題：「3. 予算執行に伴う効果を分析・検証する仕組みを確立」する。また分析・検証を行い、その結果に基づき予算要求プロセスを修正する。また、この予算要求プロセスは、主に備品購入（教育用備品及び全学整備のための備品）と修繕費に関するものであるため、それ以外の教育研究にかかわる予算についての組織的な審議・決定プロセスを明確にしていく必要がある。併せて、個人研究費の執行についての検討していく必要がある。

#### 7) 全学的な自己点検・評価と諸活動の定期的な検証を実施する体制の構築（総務・企画委員会、自己点検・評価委員会、将来構想検討委員会）

改善計画：全学的な自己点検・評価、改善について PDCA サイクルを稼働させて継続的に実行する体制を構築した。

- ・ IR 部会における学内情報の集約・分析
- ・ 自己点検・評価委員会（実施推進部会）における評価・提言
- ・ 当該委員会、学科等における改善・計画・実施

年度末進行状況：IR 部会を立ち上げたが所掌事項等も策定されておらず学内情報の集約・分析は十分に行われていない，自己点検・評価実施推進部会における評価・提言は昨年度から開始され，評価を踏まえた当該委員会，学科等における業務の改善・計画・実施のサイクルは稼働している。

次年度への課題：IR 部会，自己点検・評価実施推進部会の活動により諸活動の定期的な検証を実施し，内部質保証システムの実現を求める改善勧告の達成を実証する。

### 3. 次年度の方策

- ・上記重点施策の達成状況を中間期，年度末に自己点検・評価実施推進部会が中心となって検証し (C)，その結果を基に PDCA サイクルを稼働させて内部質保証・改善する。
- ・平成 28 年度に設置された IR 部会の活動により教学データを集計・解析し，評価に必要な情報を共有できるようにする。

## 第2部

### 教員の教育研究活動記録



学長



## 学長 田邊 政裕 博士 (医学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

創立10周年を節目に10年を振り返り、次の10年に向けた第二期重点施策を作成する。県の保健医療政策の連携拠点の整備対象として、行政や県内関係機関と連携・協働し、保健医療に関するシンクタンク機能を発揮する、地域への貢献、時代のニーズに合わせた人材育成を達成する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・体験ゼミナール.
  - ・管理栄養士導入教育.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・田邊政裕 (2019) アウトカム基盤型教育の新たな展開—マスタリー・ラーニングとシミュレーション教育 医学・医療におけるシミュレータの進歩と普及 8 医学のあゆみ 268 (4) : 292-296, 2019.

#### 4 学術集会での招待講演 (教育講演や基調講演) やシンポジウム等 (学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

- ・田邊政裕 「専門職のキャリア形成を考える—個人的な体験から—」第25回大学病院の緩和ケアを考える会 年次総会 千葉 2019年9月21日.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・医道審議会保健師助産師看護師分科会看護師特定行為・研修部会 委員 2014年9月1日～現在.
- ・日本医学教育認証評価機構 委員 2014年4月1日～現在.
- ・公益財団法人医学教育振興財団 評議員 2016年6月15日～現在.

#### 4 職能団体委員等 (職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・社団福祉法人千葉県身体障害者福祉事業団 評議員 2015年4月1日～現在.
- ・健康ちば地域・職域連携推進協議会 委員 2015年4月1日～現在.
- ・NPO 法人千葉医師研修支援ネットワーク 常任理事 2008年2月12日～現在.

#### 5 学会, 学術団体への貢献

##### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本小児外科学会, 日本外科学会, 日本医学教育学会, 日本VR医学会.

##### 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本医学教育学会 名誉会員 2016年7月～現在.
- ・日本小児外科学会 名誉会員 2015年5月～現在.

- ・日本VR医学会 監事.

## 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・田邊政裕 「専門職のキャリア形成を考える－個人的な体験から－」第25回大学病院の緩和ケアを考える会 年次総会 千葉 2019年9月21日.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・評議会、大学運営会議、衛生委員会.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

第二期重点施策を作成したが、達成に向けた各年度の中期計画目標は作成できず、次年度へ引き継がれた。連携拠点の整備対象としての役割については、各学科・専攻から2019年度の実績報告を受けた。結果をまとめて健康福祉部で発表し、意見交換を行い、これまでの取組みを検証する。

## VII 次年度の目標

第二期重点施策の達成と県の保健医療政策の連携拠点としての役割（行政や県内関係機関と連携・協働して保健医療に関するシンクタンク機能を強化・発揮、地域への貢献、時代のニーズに合わせた人材育成）を果たす。

# 看護学科



## 教授 兼 健康科学部長 石井 邦子 博士 (看護学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和元年度は、教育活動では、母性看護学科目の評価、見直しを行う、特に母性看護学実習に地域包括ケアの視点導入を検討する。助産課程では、学習課題の精選と学生の主体的学習の促進を行い、学生到達度の向上をめざす。新任教員への支援を十分に行い、教育の質を担保する。研究活動では、最終年度となる研究代表者を確実に実施する。大学管理運営では、新組織における学部長の役割を模索しながら、滞りなく学部運営が進むように、学長、総括委員長、事務局と連携する。社会貢献では、文部科学省および看護系団体に与えられた役割を確実に遂行する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・看護学入門.
- ・看護学入門学習.
- ・育成支援看護概論.
- ・母性看護学方法論Ⅰ.
- ・母性看護学方法論Ⅱ.
- ・母性看護学実習.
- ・助産学概論.
- ・助産診断・技術学Ⅰ (実践基礎) .
- ・助産診断・技術学Ⅱ (ライフサイクル各期) .
- ・助産診断・技術学Ⅲ (分娩期) .
- ・助産診断・技術学Ⅳ (ハイリスク分娩) .
- ・助産学実習Ⅰ (産婦ケア体験) .
- ・助産学実習Ⅱ (継続支援) .
- ・助産学実習Ⅲ (分娩期ケア) .
- ・総合実習.
- ・看護研究.

##### 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)

- ・統合医療安全・特定行為実践特論 (放送大学大学院) .

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所)

- ・石井邦子：系統看護学講座専門分野Ⅱ母性看護学Ⅰ，第2章 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状，2020，医学書院.
- ・石井邦子：助産師基礎教育テキスト (2019年版) 第4巻 妊娠期の診断とケア，第5章妊娠経過に対応したケア，第7章妊婦や家族の親準備・出産準備へのケア 1. 初産婦とその家族の親準備へのケア，2020，日本看護協会出版会.
- ・石井邦子，川城由紀子，他：助産学講座第5版8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期，第1章新生児のケア F 出生直後24時間以降の早期新生児のケア G 家庭生活への移行とフォローアップ 2020，医学書院.
- ・石井邦子，川村紀子，杉本亜矢子，大月恵理子，青木恭子，千葉真希子，山本英子：看護師国家試験問題集 2020年度版 第

## 2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・石井 邦子, 川城 由紀子, 北川 良子, 他: デイクケア型産後ケアサービスが母親の心理的健康状態にもたらす効果, 母性衛生, 60 (4), 587-595, 2020.
- ・川城 由紀子, 石井 邦子, 北川 良子, 他: 助産師による2週間健診が母親の心理的健康状態にもたらす効果, 千葉県立保健医療大学紀要, 11 (1), 11-18, 2020.

## 3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・杉本亜矢子, 石井邦子, 川城由紀子, 北川良子, 川村紀子, 青柳優子, 植竹貴子: 助産師の内診による診断技術の発達過程, 第21回日本母性看護学会学術集会, 2019年6月15日, 広島.
- ・川城由紀子, 宮宗秀伸, 石井邦子, 松野義晴: 更年期女性の酸化ストレスと関連要因, 第90回日本衛生学会学術総会, 3月27日, 岩手.

## 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究(C), 産後ケアシステムにおける看護専門職と育児支援人材のコラボレーションモデルの開発, 研究代表者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・文部科学省. 大学設置・学校法人審議会 (大学設置分科会) 特別委員. 2019.4~2020.3.
- ・文部科学省. 職業実践力育成プログラム (BP) 認定審査委員会委員. 2019.4~2020.3.

### 4 職能団体委員等 (職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・日本看護系大学協議会. 理事. 2019.4~2020.3.
- ・日本看護系大学協議会. 高等教育行政対策委員会委員. 2019.4~2020.3.
- ・千葉県ナースセンター運営委員会. 委員. 2019.4~2020.3.
- ・日本看護学教育評価機構. 理事. 2019.4~2020.3.

### 5 学会, 学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本母性看護学会. 日本看護科学学会. 日本助産学会. 日本母性衛生学会. 日本生殖看護学会. 千葉看護学会. 千葉県母性衛生学会.

#### 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名. 役職. 活動期間)

- ・日本母性看護学会. 理事, 副理事長. 2019.6~2020.3.
- ・日本助産学会. 代議員. 査読委員. 2019.4~2020.3.
- ・千葉看護学会. 理事. 表彰論文選考委員会委員長. 2019.4~2020.3.
- ・千葉県母性衛生学会. 理事. 2019.4~2020.3.

### 7 その他

- ・公益信託山路ふみ子専門看護教育研究助成基金運営委員. 2019.4~2020.3.
- ・公益信託 中西睦子看護学先端的研究基金運営委員. 2019.4~2020.3.
- ・放送大学客員教授. 2019.4~2020.3.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・評議会、大学運営会議、教授会、将来構想検討委員会、自己点検・評価委員会、危機管理委員会、キャンパス・ハラスメント防止対策委員会、特色科目運営会、人事委員会、教員再任審査委員会。
- ・10周年記念事業実行委員会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教授会、看護学科運営会議。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、母性看護学科目において、地域包括ケアの視点を充実させるべく授業内容を見直し、外来看護、地域での産後ケアなどに関する内容を追加した。学生の反応もよく、継続看護に関する理解を深めることができた。助産課程では、学習課題を精選し、一つ一つの課題にじっくりと学生が取り組めるように配慮した。学生の到達度と学習意欲の維持には個人差があり、学習の遅れを抱える学生の支援に課題が残った。新任教員の支援は、領域の教員間での連携を密にでき細やかな支援を行うことができた。研究活動は、大学管理運営に莫大な時間を取られたことから研究時間の捻出ができず、苦労した。最終年度となる科研の研究計画のすべてを何とか実施することができたが、研究成果の公表が全くできなかった。大学管理運営では、新組織における学部長の役割を、学長・総括委員長と綿密に打ち合わせながら滞りなく実施した。一年を通して確認された奥野課題を、次年度で解決できるように計画した。社会貢献では、文部科学省および看護系団体に与えられた役割を確実に遂行した。

## VII 次年度の目標

教育活動では、初めての遠隔授業や学内実習を余儀なくされることから、到達レベルを落とさないようにするとともに、新しい生活における教育方法を獲得すべく、効果的であった教授方法を継続できるように評価を行う。助産課程においては、例年よりも少ない実習経験となることから、シミュレーション教育や個人ワークの充実を図る。研究活動は、昨年度終了した科研の成果を公表する。大学管理運営では、感染症対策を迅速に行い、局職員と学生の感染を予防するとともに、滞りなく学事が進行するようにする。社会貢献では、文部科学省および看護系団体に与えられた役割を確実に遂行する。

## 教授 兼 学科長 佐藤 紀子 博士 (看護学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和元年度は、教育活動では、新々カリキュラムの地域看護学科目が効果的に実施できるよう、現行の内容を見直し検討する。保健師の国家試験対策については、不合格となる原因も探りながら取り組みを強化する。また、新任教員へのサポート体制を整備し、教育の質向上を目指す。研究活動では、研究代表者となった新たな研究に着手するとともに、これまでの研究成果を論文化する。領域で行う共同研究についても確実に実施する。大学管理運営では、新設の入試改革検討委員会の委員長として本学の入試課題を分析し、2020年度からの入試選抜が滞りなく実施できるよう準備を進める。また、学科長として学科運営が円滑に推進するようリーダーシップを発揮する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・看護学入門.
- ・看護学入門実習.
- ・地域看護学概論.
- ・地域看護学方法論Ⅰ.
- ・地域看護学方法論Ⅲ.
- ・地域看護学実習.
- ・災害看護学.
- ・総合実習 (地域看護学).
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所)

- ・佐藤紀子：第1章 1 母子保健福祉活動, 最新公衆衛生看護学第3版 2020年版各論1 (宮崎美砂子他編集), 2-49, 2020年2月, 日本看護協会出版会, 東京.

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・浅井美千代, 杉本知子, 佐藤まゆみ, 植村由美子, 佐藤紀子, 川城由紀子, 西野郁子：千葉県内の中小規模施設で就業する看護職者が看護実践を遂行するために受けた研修とその理由, 千葉保医大紀要 Vol. 11 (1), pp51-55, 2020年3月.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・宮崎美佐子, 霜越多麻美, 飯野理恵, 佐藤紀子, 他8名：保健師の人材育成における On The Job Training—文献レビューからみたタイプ, 開発能力, 職場環境—, 日本地域看護学会第22回学術集会, 2019年8月17日～18日, 神奈川県横浜市.
- ・浅井美千代, 杉本知子, 西野郁子, 佐藤紀子, 河部房子, 片平伸子, 北川良子：中小規模医療施設における看護研究指導者の充実に向けた研修プログラムの開発—骨子の立案と研修の実施—, 第10回共同研究発表会, 2019年8月, 千葉県立保健医療大学.

## 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・文部科学省科学研究費（基盤研究（C））H31-R4, エンパワメント基盤型介護予防支援ガイドの開発, 研究代表者.
- ・文部科学省科学研究費（基盤研究（C））H28-R2, 保健師活動への意欲を原動力にしてリーダーシップを発揮するためのガイドの開発, 研究分担者.
- ・文部科学省科学研究費（基盤研究（C））H27-31, 災害時の共助を意図した住民主体の健康な地域づくりを推進する行政保健師の活動指針, 研究分担者.
- ・2019年度学長裁量研究費, 新人保健師のリフレクシオン力育成のためのファシリテーションガイドの開発, 共同研究者.
- ・2019年度学長裁量研究, 医療職配置義務のない高齢者施設・住宅における感染症集団発生及び入居者の重症化を防ぐ方策の検討, 共同研究者.
- ・2019年度学内共同研究費「中小規模医療施設における看護研究指導者の充実に向けた研修プログラムの開発—研修の有効性の評価—」共同研究者.

## 6 受賞・特許

- ・2019年度千葉看護学会論文賞

# IV 社会貢献・国際交流記録

## 3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・千葉県現任教育推進会議, 委員長, 2012年4月～現在.
- ・柏市保健衛生審議会, 副委員長, 2019年4月～2020年6月.
- ・柏市保健衛生審議会母子保健専門分科会, 委員長, 2019年5月～2020年7月.
- ・柏市プロポーザル方式選定委員会（ロコモティブシンドローム予防教室等開催事業業務委託先の選定）, 委員, 2019年4月～6月.

## 4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・千葉県看護協会 千葉県看護教員養成講習会運営会議, 委員, 2017年4月～2020年3月.

## 5 学会、学術団体への貢献

### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本地域看護学会, 千葉看護学会, 日本公衆衛生学会, 日本看護科学学会, 日本文化看護学会, 日本家族看護学会, 日本公衆衛生看護学会.

### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本地域看護学会, 代議員, 2019年6月～2023年度社員総会終了時.
- ・日本地域看護学会, 教育委員, 2019年7月～2021年度社員総会終了時.
- ・日本地域看護学会, 2019年度（第22回）座長, 2019年8月18日.
- ・日本看護科学学会, 代議員, 2011年4月～現在.
- ・千葉看護学会, 専任査読者, 2005年4月～2021年3月.
- ・日本地域看護学会, 専任査読者, 2019年6月～2021年度社員総会終了時.
- ・日本公衆衛生看護学会, 専任査読者, 2015年4月～2020年5月.
- ・千葉県公衆衛生学会, 令和元年度（第58回）千葉県公衆衛生学会座長, 2020年1月28日.

## 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・2019年度中堅前期保健師研修会①講師, 健康福祉部健康づくり支援課, 中堅保健師に求められる役割, 県内健康福祉センターおよび市町村等に勤務しておおむね5～10年目の保健師, 2019年7月12日, 千葉市市民会館.
- ・2019年度中堅後期保健師研修会講師, 健康福祉部健康づくり支援課, 専門職の成長, 組織の成長を促すマネジメントとリーダーシップ, 実務経験おおむね15年前後の保健師, 2019年7月19日, 千葉県庁南庁舎.

- ・2019年度千葉県保健師現任教員教育推進のための研修会講師。千葉県健康福祉部健康づくり支援課。保健師に求められる能力（自治体保健師の標準的なキャリアラダー）。県内市町村および健康福祉センターの統括的な役割を担う保健師（現任教員責任者含む）と研修担当者。2019年8月7日。千葉県庁本庁舎5階。
- ・2019年度中堅前期保健師研修会②講師。健康福祉部健康づくり支援課。保健活動の評価の考え方と方法。県内健康福祉センターおよび市町村等に勤務しておおむね5～10年目の保健師。2020年1月22日。千葉県教育会館。
- ・2019年度中堅前期保健師研修会③講師。健康福祉部健康づくり支援課。評価を踏まえた事業計画案の作成。県内健康福祉センターおよび市町村等に勤務しておおむね5～10年目の保健師。2020年1月23日。千葉県教育会館。
- ・保健師活動に必要な実践能力を高めるリフレクション力の修得をめざしたワークショップ。千葉県立保健医療大学健康科学部看護学科健康支援看護領域。千葉県内2017・2018・2019年度新規採用保健師。2019年11月2日、12月21日、2020年2月15日。千葉県立保健医療大学。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称。活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学運営会議。教授会。入試改革検討委員会。FD・SD委員会。将来構想検討委員会。自己点検・評価委員会。人事委員会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称。活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教授会。看護学科運営会議。看護学科人事評価部会。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、新任教員をのサポート体制を整え、学内演習および実習を効果的に実施することができた。特に地域看護学方法論Ⅲでは、フィールド演習を取り入れるようになり実習でその効果を確認することができている。国家試験の保健師の合格率は100%を達成することができず、学生の到達度と学習意欲を高めるための支援に課題が残った。研究活動は、大学管理運営に多くの時間を取られ、予定していた論文を執筆できなかった。また、研究代表となった新たな研究課題に着手することがほとんどできなかった。大学管理運営では、台風被害への対応や特定行為研修の検討など看護学科長として役割を果たすことができた。社会貢献では、学会、千葉県等自治体、看護協会等からの委員および研修講師の依頼を積極的に引き受けた。

## VII 次年度の目標

covid-19の影響により初めて遠隔授業や学内実習を行うことになるため、教育の質を維持できるよう創意工夫するとともに、個々の学生の学びの状況を把握し、例年以上にきめ細やかに対応していく。また、新たな教授方法の効果を評価し、次年度反映できるようにする。研究活動については、昨年度十分に実施できなかった研究代表の課題を、計画的に実施するとともに、分担研究についても積極的に役割を果たす。管理運営については、看護学科長として個々の教員の意欲を高め、学科内の管理運営はもとより、covid-19の拡大防止にも県立大としての使命を果たせるよう協力体制の強化に努める。大学入試改革については、入試改革検討委員会の長として国や他大学の動向を見極め、適格な方針がとれるようリーダーシップを発揮する。

## 教授 兼 学生部長 西野 郁子 博士 (看護学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育においては前年度の振り返りから領域の教員間で連携してより効果的な講義・演習を実施していきたい。研究活動については、筆頭研究者および共同研究者として役割を果たし成果を挙げていきたい。大学の運営面では、学生部長として学生委員会・進路支援委員会等を運営しながら、教職員の協力を得て学生支援に取り組んでいきたい。また、各委員の役割を明確にして学生支援の充実を図りたい。社会貢献の機会があれば、貢献できるように努力していきたい。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・看護学入門.
- ・看護学入門実習.
- ・育成支援看護概論.
- ・小児看護学方法論Ⅰ.
- ・小児看護学方法論Ⅱ.
- ・小児看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所)

- ・西野郁子：第1章 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常と看護 A看護総論, C疾患をもった子どもの看護, 小児臨床看護各論 (系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2) 第14版 (著者代表：奈良間美保), p.2-6. p.10-15. 2020年1月, 医学書院, 東京.
- ・西野郁子：第7章 呼吸器疾患と看護 A看護総論, C疾患をもった子どもの看護, 小児臨床看護各論 (系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2) 第14版 (著者代表：奈良間美保), p.176. p.185-188. 2020年1月, 医学書院, 東京.

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・西野郁子, 石川紀子, 齊藤千晶, 中山静和. 食物アレルギーをもつ子どもの小学校入学に向けた親と学校との相談. 千葉県立保健医療大学紀要. 第11巻, 第1号, p.19-25, 2020年.
- ・中山静和, 西野郁子, 石川紀子. 保育所看護職が認識している「気になる子」への保健活動の実態. 千葉県立保健医療大学紀要. 第11巻, 第1号, p.58, 2020年.
- ・杉本知子, 西野郁子, 佐藤紀子, 河部房子, 片平伸子, 北川良子, 富樫恵美子. 中小規模医療施設における看護研究指導者の充実に向けた研修プログラムの開発ー研修の有効性の評価ー. 千葉県立保健医療大学紀要. 第11巻, 第1号, p.70, 2020年.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・西野郁子, 石川紀子, 中山静和. 食物アレルギーをもつ子どもの小学校入学時の親と学校との相談と連携, 第66回小児保健協会学術集会, 2019年6月21日, 東京都.

- ・中山静和, 西野郁子, 石川紀子. 保育所看護職が認識している「気になる子」への保健活動の実態, 第31回全国保育園保健研究大会, 2020年2月1日, 京都市.
- ・中山静和, 西野郁子, 石川紀子. 保育所看護職が認識している「気になる子」への保健活動の実態. 千葉県立保健医療大学 第10回共同研究発表会, 2019年8月28日, 千葉市.
- ・杉本知子, 西野郁子, 佐藤紀子, 河部房子, 片平伸子, 北川良子, 富樫恵美子. 中小規模医療施設における看護研究指導者の充実に向けた研修プログラムの開発—研修の有効性の評価—. 千葉県立保健医療大学 第10回共同研究発表会, 2019年8月28日, 千葉市.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・文部科学省科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金 (基盤研究 (C)), 小学校入学に向けた幼児期からの慢性疾患患者への支援プログラムの開発, 研究代表者.
- ・文部科学省科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金 (基盤研究 (C)), 「気になる子ども」に対する保育施設での発達支援に向けた基盤的研究, 研究分担者.
- ・令和元年度千葉県立保健医療大学学長裁量研究, 医療専門職を目指す大学生が在学中のボランティア活動より得た経験, 共同研究者.
- ・令和元年度千葉県立保健医療大学学内共同研究費 (一般), 中小規模医療施設における看護研究指導者の充実に向けた研修プログラムの開発—研修の有効性の評価—, 共同研究者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

##### 1) 千葉県内

- ・千葉県こども病院でのボランティア活動「入院している子どものきょうだいとの遊び活動」の推進のための協働・調整. 2019年4月～2020年3月.

#### 3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県健康福祉部疾病対策課, 千葉県移行期医療支援連絡協議会委員, 2019年4月～2020年3月.

#### 5 学会, 学術団体への貢献

##### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本小児看護学会, 日本小児保健協会, 日本看護科学学会, 日本新生児看護学会, 千葉看護学会, 全国保育園保健師看護師連絡会.

##### 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本小児看護学会, 日本小児看護学会誌, 査読委員, 2019年4月～2020年3月.
- ・千葉看護学会, 千葉看護学会会誌, 査読委員, 2019年4月～2020年3月.
- ・日本小児看護学会, 日本小児看護学会第30回学術集会, 査読委員, 2020年3月.

### V 管理・運営記録

#### 1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・大学運営会議, 教授会, 自己点検・評価委員会, 将来構想検討委員会, 学生委員会 (学生部長・委員長), 進路支援委員会 (学生部長・委員長), キャンパス・ハラスメント防止対策委員会, 危機管理委員会, FD・SD委員会.

#### 2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科運営会議, 看護学科教授会, 看護学科学生・進路支援委員会, 看護学科「看護研究」作業グループ会議.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育においては、領域内の教員間で連携して効果的な講義・演習を実施できた。筆頭研究者としての研究活動については、スケジュールが遅れてはいるが調査結果の公表をした。学内共同研究については研究に参加し成果の公表に貢献した。大学の運営面では学生部長として学生委員会・進路支援委員会等を運営し、教職員の協力を得て学生支援に取り組むことができた。委員の役割を明確にして成果を挙げることができた。社会貢献として学内で開催予定の研修会の企画に携わった。

## VII 次年度の目標

教育においては前年度の振り返りから領域の教員間で連携してより効果的な講義・演習を実施していきたい。研究活動については、筆頭研究者および共同研究者として役割を果たし成果を挙げていきたい。大学の運営面では、学生部長として学生委員会・進路支援委員会等を運営しながら、教職員の協力を得て学生支援に取り組んでいきたい。特に新型コロナウイルス感染拡大による学生個々への影響、課外活動への影響に対し必要な支援をしていきたい。社会貢献の機会があれば、貢献できるように努力していきたい。

## 教授 河部 房子 博士 (看護学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

引き続き、看護専門職者としての基本的な思考・判断能力、実践能力を育成する効果的な授業の展開に向け、教育内容の精選と展開について、領域内の教員間で共有しながら、教員間の連携体制を強化する。特に今年度はカリキュラムが改正され、新旧カリキュラムが同時進行となるため、新々カリキュラムの教育内容を教員間で確認しつつ教育活動を展開する。研究活動では、科研費の採択を受け開始した研究成果の学会発表、論文投稿に取り組む。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・体験ゼミナール.
  - ・看護学入門実習.
  - ・看護学入門.
  - ・看護学原論.
  - ・看護技術論Ⅰ(生活援助技術).
  - ・看護技術論Ⅱ(フィジカルアセスメント).
  - ・看護技術論Ⅲ(フィジカルアセスメント).
  - ・看護技術論Ⅳ(検査治療技術).
  - ・看護技術論Ⅴ(看護過程展開技術).
  - ・基礎看護学実習.
  - ・看護研究.
  - ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・鈴木恵子, 河部房子 : A県内の病院における看護職員確保の困難に関する実態調査, 第50回日本看護学会 (看護管理), 2019年10月, 名古屋.
- ・今井宏美, 麻賀多美代, 木村亜由美, 椿祥子, 麻生智子, 河部房子, 三澤哲夫 : Tooth brushing practice module の有効性の検討, 産業保健人間工学会第24回大会, 抄録集50-51, 10月20日, 千葉工業大学.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 看護師の臨床判断事例に基づくフィジカルアセスメント学習教材の開発, 研究代表者.
- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 質の高い口腔ケア技術獲得に資する現実適合性の高いモバイルシミュレータの開発と検証, 研究分担者.
- ・科学研究費補助金基盤研究 (B), 看護実践のリアリティを追求するシミュレーション教育プログラムの開発, 研究分担者.
- ・科学研究費補助金基盤研究 (B), 看護職の生涯にわたるキャリア発達を支援する体系的研修プログラムの構築, 研究分担者
- ・2019年度学内共同研究費「中小規模医療施設における看護研究指導者の充実に向けた研修プログラムの開発—研修の有効性の評価—」研究分担者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護管理学会、日本看護歴史学会、千葉看護学会、日本看護学会、ナイチンゲール研究学会、日本良導絡自律神経学会。

#### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・千葉看護学会、専任査読者、2013年4月1日～現在に至る。
- ・千葉看護学会、編集委員、2015年4月1日～現在に至る。
- ・千葉看護学会第25回学術集会、口演発表座長、2019年9月7日。
- ・日本看護学教育学会、専任査読者、2018年4月1日～現在に至る。

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・2019年度 千葉県看護教員養成講習会、看護論演習、講師、2019年6月3日～17日、千葉県ナースセンター。
- ・2019年度 看護学教育指導者研修講師、千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター主催、自組織の現状をふまえた指導過程のリフレクション・臨地実習場面の教材化、大学教員および看護師、2019年8月22日～23日、千葉大学。
- ・2019年度 新人教育担当者研修会、新人看護師の基礎教育の状況、教育担当看護職者、2019年9月2日、千葉県ナースセンター。
- ・2019年度 千葉県看護協会生涯研修、みる！きく！つなぐ！スキルを学ぼう！ コーチングスキルを学び自己成長につなげよう研修講師、看護師・保健師・助産師、2019年8月9日、9月6日、9月13日、千葉県ナースセンター。
- ・東京歯科大学市川総合病院、研究指導、2019年8月2日、9月18日、10月28日、2020年1月9日、看護師、東京歯科大学市川総合病院。
- ・日本看護系大学協議会看護学教育評価検討委員会企画ワークショップ講師、看護学士課程における学生のコンピテンシーの育成－「コアコンピテンシーと卒業時到達目標」の有効活用－、看護系大学教員、2020年2月16日、聖路加国際大学。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会、学術推進企画委員会（委員長）、紀要編集部会（部会長）、入試改革検討委員会、FD・SD委員会、教員資格審査委員会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教授会、看護学科運営会議。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動としては、新旧カリキュラムが同時進行する中で、新しいカリキュラムが有機的に機能するよう、これまでの実践知を活かしながら、領域内の教員と共に授業内容の検討を行った。しかし、新旧カリキュラムの同時進行と領域内での教員の欠員により、授業リフレクションを行う時間的な余裕がなく、十分に検討できたとは言い難い。今後さらに時間をかけて検討していく必要があると考える。研究活動では、研究代表者を務める科学研究費の研究課題に関して、全国調査を実施した。また、学内共同研究費による研究成果を発表した。大学の管理運営では、学術推進企画委員長として、科研費獲得に向けた学内の支援体制の構築やセミナー開催等に取り組み、また紀要編集部会長として紀要編集を行った。

## VII 次年度の目標

2020 年度は、引き続き新旧カリキュラムが同時進行するため、基礎看護学領域における学習の連続性をふまえた教育内容・方法について明確にしていく。新任教員が加わるため、領域全体のチーム・ティーチングが効果的になされるよう、新任教員の支援体制を構築しつつ、授業リフレクションを定期的実施する。また、新型コロナウイルス感染防止のための様々な措置による学生や教員への負の影響が最小にとどまるよう、教育展開や領域運営に取り組む。研究活動では、科研費の研究課題について、全国調査結果の発表を行う。大学の管理運営では、引き続き、科研費の獲得に向けた学内支援体制の構築に努める。また新たに入試実施委員の役割を拝命したことに伴い、入試関連業務をよく理解し、その役割を果たす。

## 教授 浅井 美千代 博士 (看護学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

研究活動では、これまでの研究成果について紀要や学会誌への投稿を行う。教育活動では、学生にとって理解しやすい授業内容となるよう工夫する。社会貢献活動として、臨床看護師の研究活動支援を積極的に行う。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・看護学入門.
- ・看護学入門実習.
- ・成人看護学概論.
- ・成人看護学方法論 I.
- ・成人看護学方法論 II.
- ・成人看護学実習 (急性期).
- ・成人看護学実習 (慢性期).
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.
- ・ターミナルケア論.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・浅井美千代：連載第2回北欧の持ち上げない！安全・快適トランスファー ベッド上での「上方移動」「側方移動」「寝返り」の介助方法, 介護人材, 日総研出版, 69～73頁, 2019.
- ・浅井美千代, 杉本知子, 佐藤まゆみ, 植村由美子, 佐藤紀子, 川城由紀子, 西野郁子：千葉県内の中小規模施設で就業する看護職者が看護実線を遂行するために受けた研修とその理由, 千葉県立保健医療大学紀要, 51～55頁, 2020.
- ・田口智恵美, 佐藤まゆみ, 三枝香代子, 浅井美千代, 大内美穂子, 小安麻子, 比田井理恵, 菅沢直美：IABP 装着患者受け持ち未経験者に対するシミュレーション教育の実施, 千葉県立保健医療大学紀要, 第11巻, 1号, 27～34頁, 2020.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・浅井美千代, 杉本知子, 西野郁子, 佐藤紀子, 河部房子, 片平伸子, 北川良子：中小規模医療施設における看護研究指導者の充実に向けた研修プログラムの開発一骨子の立案と研修の実施一, 第10回日共同研究発表会, 2019年8月, 千葉県立保健医療大学.
- ・Michiyo Asai, Kiyoko Aoki, Mayumi Takaya, Masako Nagase: Examination of the possibility of utilizing the developed self-management scale for rheumatoid arthritis patients, The 6<sup>th</sup> International Nursing Research Conference of World Academy, February 28-29, 2020, Japan.
- ・Chiem Taguchi, Mayumi Sato, Kayoko Saegusa, Michiyo Asai, Mihoko Ouchi, Yumiko Shiobara: Competencies for simulation education required by facilitators to cultivate clinical judgment ability in intensive care unit nurses, World Academy of Nursing Science, Feb 28-29, 2020, Japan.

## 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・2019年度学内共同研究費「中小規模医療施設における看護研究指導者の充実にに向けた研修プログラムの開発—研修の有効性の評価—」研究代表者。

## 7 その他

- ・高校訪問。千葉県立柏陵高等学校、模擬授業。6月27日。
- ・高校訪問。千葉県立大多喜高等学校、模擬授業。11月15日。
- ・大学説明会。新宿セミナー、柏商工会議所。12月21日。

# IV 社会貢献・国際交流記録

## 5 学会、学術団体への貢献

### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護研究学会。日本看護技術学会。日本看護教育学会。日本がん看護学会。日本介護福祉学会。日本老年行動科学会。日本看護科学学会。千葉看護学会。日本リハビリテーション看護学会。日本慢性看護学会。北日本看護学会。日本リウマチ看護学会。

### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本リウマチ看護学会、企画委員、2019年4月～。

## 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・院内看護研究。千葉県がんセンター。看護研究指導。2019年6月5日・9月25日・11月27日・2020年1月22日。
- ・院内看護研究。千葉県循環器病センター。看護研究指導。2019年6月28日・8月8日・10月30日・12月26日・2020年1月21日。
- ・院内看護研究。東京歯科大学市川総合病院主催。看護研究指導。2019年10月25日・2020年2月7日。

# V 管理・運営記録

## 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会。学生委員会。10周年記念事業実行委員会。

## 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科学生・進路支援委員会。

# VI 評価（成果および改善すべき事項）

今年度は、病院看護師の看護研究指導に積極的に取り組み、社会貢献については目標達成できた。研究活動は、前年度の研究成果の一部を論文化することができたが、目標達成までには至らなかった。研究活動の遂行も不十分であったので、次年度の目標としたい。教育活動は、実習指導での学生とのかかわり方が今年度より直接指導からカンファレンスを通じた指導に代わり、指導方法の検討が課題となった。委員会活動では、いずみ祭の企画運営のサポートで他学科専攻の学生とかわる機会を得たり、10周年記念事業実行委員として他学科専攻の教員や事務職員と協力して運営する機会を得て、積極的に取り組むことができた。

# VII 次年度の目標

研究活動では、これまでの研究成果について紀要や学会誌への投稿を行う。教育活動では、遠隔授業の機会を活用して授業内容を洗練し、授業方法を工夫する。社会貢献活動として、ボランティア活動など新しい活動に取り組む。

## 教授 神田 みなみ 修士 (文学), Master of Arts (TESOL)

対象期間 : 2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日まで

### I 年度当初の目標

令和元年度の研究活動としては、保健医療英語分野の英語多読の教育・研究テーマに取り組み、成果を本学の教育に活用する。大学の運営面では、教務委員長として教職員の協力を得て、新々カリキュラムのスムーズな移行・導入と次年度オリンピック開催年への準備等を進める。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・体験ゼミナール.
  - ・英語 I (講読).
  - ・英語 II (英会話).
  - ・英語 III (講読・記述).
  - ・英語 V (保健医療英語) 看護学科.
  - ・英語 V (保健医療英語) 歯科衛生学科.
  - ・英語 VI (応用英語).

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・神田みなみ: 特集3 ステップ多読入門—読書スタミナ強化編, 多聴多読マガジン, Vol. 73, pp. 32-35, 2019.
- ・神田みなみ: 快読快聴ライブラリ解説 Cyber Security Experts, 多聴多読マガジン, Vol. 73, p. 63, 2019.
- ・神田みなみ: 快読快聴ライブラリ解説 Malala, 多聴多読マガジン, Vol. 74, p. 53, 2019.
- ・神田みなみ: 快読快聴ライブラリ解説 Life of Pi, 多聴多読マガジン, Vol. 78, p. 75, 2020.
- ・日本多読学会 (古川昭夫, 鬼丸晴美, 神田みなみ他): 英語多読指導ガイド, 日本多読学会, 2020.

#### 3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・Kanda, M.: Utility of smartphones as learning and assessment tools in EFL class, JALTCALL 2019, 2019年6月1日, 青山学院大学.
- ・Kanda, M.: Utilizing ER Materials for Healthcare Majors, The 5th World Congress on Extensive Reading, 2019年8月11日, 台湾 (台風欠航によりキャンセル).

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・2018-2020 年度科学研究費補助金基盤研究 (C), 保健医療系 ESP 英語多読プログラムの構築と検証, 研究代表者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本多読学会. 日本英文学会. 大学英語教育学会 (JACET). 全国語学教育学会 (JALT). American Association of Applied Linguistics (AAAL:アメリカ応用言語学会). TESOL International Association (TESOL: 米国・第二言語としての英

語教育学会). International Association of Teachers of English as a Foreign Language (IATEFL: 英国・外国語としての英語教育学会). 映像メディア英語教育学会. 外国語教育メディア学会. Japan Association for Nursing English Teaching (JANET: 看護英語教育学会). 日本医学英語教育学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本多読学会. 監事. 2019年4月～2020年3月.
- ・国際異文化学会. 理事. 2019年4月～2020年3月.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・神田外語大学ボランティアセンター・千葉県立保健医療大学「初期医療言語サービスボランティア研修」. 両校学生. 2019年9月15, 16日. 千葉県立保健医療大学・神田外語大学.

## V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教授会. 共通教育運営会議. 教務委員会. 教員資格審査委員会. IR 部会.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科運営会議. 看護学科教授会. 看護学科教務委員会.

## VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教務委員長として, 東京オリンピック開催年度のに向けた学年暦等の調整, カリキュラム系統表の作成等を進めた. また, 2年越しの準備を経て, 神田外語大学と本学の看護学科・栄養学科・作業療法学専攻の教員とともに, 英語による初期救急対応に関する2日間研修を実施することができた. 図書館の英語図書に補充を特に保健医療英語関係で行った. 研究に関しては, 科研費研究に着手したが, 思うように進めることが出来なかった. 英語多読に関して, 教員向けの指導に関するガイドを学会で作成し, また, 一般英語学習者対象の雑誌に記事を執筆し掲載することができた.

## VII 次年度の目標

教務委員長として, COVID-19 対応の遠隔授業や部分的対面授業の実施, 感染防止のための授業準備や対応, 遠隔による教務関係の業務を行う. そのために非常勤講師の遠隔授業支援も共通教育教務委員として担う. 看護学科教務委員として指定規則改正によるカリキュラム改正の申請手続き準備をする. 教育指導面では遠隔授業での効果的な指導を心がける. 研究に関しては, 科研費研究の計画検討を進める.

## 教授 杉本 知子 博士 (看護学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和元年度は、大学の管理運営業務（キャンパス・ハラスメント防止対策委員会委員長）を滞りなく遂行していくことを目標とした。特に、キャンパス・ハラスメントに関する研修会を開催するなど、学内における啓蒙活動に取り組みたい。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・体験ゼミナール.
- ・看護学入門.
- ・看護ふれあい体験学習.
- ・療養支援看護概論.
- ・高齢者在宅看護学概論.
- ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ.
- ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ.
- ・高齢者看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

##### 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・認知症看護援助方法論Ⅱ（生活・療養環境づくり）、聖路加国際大学教育センター認定看護師教育課程認知症看護コース
- ・認知症看護援助方法論Ⅲ（ケアマネジメント）、聖路加国際大学教育センター認定看護師教育課程認知症看護コース
- ・チーム医療、一般社団法人日本精神科看護協会、東京研修会場・京都研修センター認定看護師教育課程

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所）

- ・杉本知子：看護学入門9巻 成人看護Ⅱ 脳神経疾患患者の看護の基本，脳神経疾患患者の看護，2019年，メヂカルフレンド社，東京.

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・森一恵，水島史乃，佐久間由美，杉本知子，千田睦美：療養移行期にある高齢がん患者とその家族の意思決定—コミュニケーションノートを用いた認識の変化—，関西国際大学研究紀要，21，81-96，2020.
- ・杉本知子，相馬由紀子，上野佳代，佐伯恭子，高柳千賀子，鳥田美紀代：医療・介護施設における外国人労働者の定着に向けた取り組みの実態，千葉県立保健医療大学紀要，11（1），p80，2020.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・Tomoko Sugimoto，Kazue Mori，Chikako Takayanagi，Mikiyo Torita & Kyoko Saeki：Examination of the utility of the skill up education framework，International Association of Gerontology and Geriatrics (IAGG)Asia/Oceania Regional Congress，Taipei.

## 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- 平成 28-31 年度科学研究費補助金基盤研究(C)，高齢がん患者と家族の療養移行期に関する意思決定支援の評価，研究分担者。
- 平成 30-令和 3 年度科学研究費補助金基盤研究(C)，認知症カフェの質保障と安定した運営に向けた評価指標の開発，研究分担者。
- 令和元-5 年度科学研究費補助金基盤研究(B)，チームの納得を促進するための看護師のコーディネート力向上プログラム開発と評価，研究分担者。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

- 1) 千葉県内
  - ベイトウンかふえアドバイザー，2019 年 4 月～2020 年 3 月迄。
  - スマイル・キャンサーウォークちばにおける学生ボランティアの募集，2019 年 7 月。

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- 東京都台東区介護認定審査会，委員，2019 年 4 月～2020 年 3 月迄。

### 5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - 日本看護科学学会，日本老年看護学会，聖路加看護学会，日本在宅ケア学会。
- 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）
  - 日本老年看護学会，「老年看護学」査読委員，2019 年 4 月～2020 年 3 月迄。

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- 千葉県看護協会，令和元年度生涯教育研修，高齢者に起こりやすい機能低下と生活を支える看護，千葉県内の看護職，2020 年 2 月，千葉県看護会館。
- ケースレポートの指導，千葉県立佐原病院，2019 年 6 月～2020 年 2 月迄。
- 看護研究の指導，東京歯科大学市川総合病院，2019 年 9 月～2020 年 3 月迄。
- 看護・介護職員に対する研究指導，介護老人保健施設我孫子ロイヤルケアセンター，2019 年 7～12 月迄。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- 教授会，キャンパス・ハラスメント防止対策委員会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- 教務委員会，社会貢献委員会。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

2019 年度は学外講師を招聘し，キャンパス・ハラスメントに関する研修を企画・開催することができた。しかし，委員会に関連する規程やガイドラインの見直しには着手できず，目標の達成には至らなかった。

教育活動においては，視聴覚教材などを積極的に活用し，わかりやすい授業の展開を心掛けた。授業後に回収したリアクションペーパーのなかで，「理解が深まった」「わかりやすかった」等の良好な評価を得ることができた。

## VII 次年度の目標

2020年度は、2019年度に着手できなかった「キャンパス・ハラスメントの防止等に関する規程」「キャンパス・ハラスメント調査委員会規則」「キャンパス・ハラスメントガイドライン」の見直しを行うと共に、キャンパス・ハラスメントに関する学内調査や相談窓口の新規開設等について検討していくことを目標としたい。

教育活動については、カリキュラムの移行時期にあっても円滑な授業・実習の運営ができるよう努めること、研究については、助成金を獲得したうえで行った調査の結果をまとめ、学術集会での発表もしくは論文投稿を行うことにより、研究成果の速やかな公表に努めることを目標としたい。

## 教授 片平 伸子 博士 (保健学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和元年度は、新々カリキュラムが実施され、旧カリキュラムと新カリキュラムが並行する初年度である。前年度に大学・学科の理念を踏まえて在宅看護学領域の講義・演習・実習の組立てを検討した結果を活かして、関連する教職員と相談しながら教授内容の充実が図れるように科目運営を行ってゆく。大学運営では国際交流委員会の委員長として実情に応じた国際交流の推進の検討、自己点検・評価委員会の実施推進部長として重点施策報告をまとめ、次年度以降の自己点検の見直しを進めていき、引き続き学科の委員会では委員長のサポートを行い円滑な委員会運営の一助となるように努める。研究に関しては看護小規模多機能型居宅介護における看護の研究について全国調査に向けた研究倫理審査の申請、調査の実施を行い、結果の概要をまとめる。社会貢献としては神田外語大学と共催の初期医療言語サービスボランティア研修の計画、実施、評価を主に行う。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・体験ゼミナール.
- ・看護学入門.
- ・看護学入門実習.
- ・療養支援看護概論.
- ・高齢者・在宅看護学概論.
- ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ.
- ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ.
- ・ターミナルケア論.
- ・リスクマネジメント論.
- ・在宅看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・片平 伸子, 小川 妙子, 丸尾 智実: 看護小規模多機能型居宅介護における看護の利点・課題・工夫—看護師の認識の分析—, 日本プライマリ・ケア連合学会誌, in print 2020.
- ・片平 伸子, 丸尾 智実, 小川 妙子: 看多機の事例報告分析から—看護と介護と一緒にサービスを提供する強みと課題—, 医療と介護 NEXT, 5, 6, 503-507, 2019.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・Nobuko KATAHIRA, Satomi MARUO, Taeko OGAWA: Characteristics of services provided by multifunctional long-term care in a small group home and home visit nursing: A Text-mining approach, 世界看護科学学会 (WANS 6<sup>th</sup>), 2020年2月28, 29日, 大阪.
- ・丸尾 智実, 片平 伸子, 小川 妙子: 看護小規模多機能型居宅介護における看護職と介護職の協働の課題と対策, 日本看護

科学学会（第38回日本看護科学学会学術集会），2018年12月15日，愛媛。

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C），看護小規模多機能型居宅介護事業の特性を踏まえた効果的な看護提供，研究代表者。

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・日本看護学教育評価機構，財務委員，2019.4～2020.3.

#### 5 学会，学術団体への貢献

##### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会，日本公衆衛生学会，日本地域看護学会，日本在宅ケア学会，日本プライマリ・ケア連合学会。

#### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・初期医療言語サービスボランティア研修，千葉県立保健医療大学・神田外語大学，初期医療言語サービスボランティア研修，両校学生，2019年9月15，16日，千葉県立保健医療大学・神田外語大学。
- ・令和元年度仁戸名セミナー，千葉県衛生研究所，家族のための介護入門ーしんどくならないための少しのテクニクー，市民，2020年2月1日，千葉県衛生研究所。

#### 7 その他

- ・高校訪問 千葉県立磯辺高等学校，大学説明および模擬授業，2019年11月28日。
- ・高校訪問 千葉県立市川東高等学校，大学説明会，2019年6月3日。

### V 管理・運営記録

#### 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会，国際交流委員会（委員長），自己点検・評価委員会，自己点検・評価実施推進部会（部会長）。

#### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議，看護学科教授会，看護学科学生進路支援委員会，看護学科総務・企画委員会，担任（看護学科3年生），看護学科教員評価部会。

#### 3 対外広報活動（新聞・ホームページでの活動・TV出演，ラジオ出演等）

- ・ウィークリー千葉県「健康づくりのプロフェッショナルを目指して 県立保健医療大学」令和元年6月29日。

### VI 評価（成果および改善すべき事項）

旧カリキュラムと新カリキュラムが並行する年度であったが大きな問題なく科目運営を行えた。着任初年度であった昨年度と比べ学生からの授業評価は維持，改善されていた。大学運営では国際交流委員会については学科ごとの国際交流に関する意向などを集約し，国内での国際交流の現状を明らかにした。自己点検・評価委員会の実施推進部会長として重点施策報告をまとめ，次年度以降の自己点検の見直しを他部会とともに進めた。研究に関しては全国調査に向けた研究倫理審査の申請，調査の実施を行い，結果の概要をまとめ，この結果を含めた3年間の科研報告を予定している。また，前年度の調査結果をまとめた原著論文の学会誌の採用が決まった。社会貢献としては神田外語大学と共催の初期医療言語サービスボランティア研修を2日にわたって大きなトラブルなく実施できた。受講生の要望を含めて評価を行い，次年度以降，1日に集約して実施していく方向で検討している。

## VII 次年度の目標

教育については、新型コロナウイルス感染防止のため、休校・遠隔授業等の措置を行う中で学習の質を落とさず、学生・教員ともに大きな負担なく受講・講義できるような工夫を行う。大学運営では、国際交流についてはこの状況下でできることを検討し、自己点検・評価委員会の実施推進部会としては自己点検の見直しを他部会とともに引き続き行ってゆく。研究に関しては2019年度に行った全国調査の結果の査読誌への投稿を目指し、学長裁量研究の実施、他機関への研究助成への応募を行う。社会貢献としては学科として行っている保健所や軽症者の滞在するホテルへの教員派遣に関して領域長として調整し、自身が派遣者として参加する。

## 教授 藤原 慶一 博士 (医学)

対象期間：2019年10月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

年度途中採用なのでなし。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・人体の構造と機能Ⅲ (看護学科) .
  - ・内科学概論 (歯科衛生学科) .
  - ・高齢者医療論 (歯科衛生学科) .
  - ・高齢者医療論 (栄養学科) .

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・藤原慶一, 加藤直也, 中山伸朗, 持田智: 自己免疫性急性肝不全の感染合併症: 全国症例での解析. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業 「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班 令和元年度研究報告書. pp 1-14. (未印刷)

#### 3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・藤原慶一, 加藤直也, 中山伸朗, 持田智: 自己免疫性急性肝不全の感染合併症: 全国症例での解析. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業 「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班 令和元年度総会. 令和2年1月25日. 帝京大学霞ヶ関キャンパス.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本内科学会. 日本肝臓学会. 日本消化器病学会. 千葉医学会. 日本急性肝不全研究会. 米国肝臓病学会議. 厚労省「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班.
- 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)
  - ・日本肝臓学会東部会評議員.

### V 管理・運営記録

#### 1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教授会. 共通教育運営会議. 学生委員会.

#### 2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・学生進路支援委員会. 進路支援部会.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

将来、千葉県内の保健医療機関で専門職として従事する学生たちに、県内の医療の現状に基づいた教育を行なった。大学の組織運営において、医学分野での貢献に努めた。学生に対して有意義な基礎・臨床医学の授業を行なうために、教室環境の整備等について担当者と話し合いを行ない、お互いの考えの調整、合意形成に努めた。これまでの臨床・研究・教育経験から得た専門的知識・経験・情報に基づいて、専門分野である医学・医療関係の事項に対して、担当者に適宜アドバイスを行ない、また、話し合い、必要な提言を行なった。赴任直後で実状がわからないことが多かったので、今後は実状に合わせて活動していく必要がある。

## VII 次年度の目標

将来、千葉県内の保健医療機関で専門職として従事する学生たちに、県内の医療の現状に基づいた教育を行なう。大学の組織運営において、医学分野での貢献に努める。学生に対して有意義な基礎・臨床医学の授業を行なうために、教室環境の整備等について、担当者と話し合いを行ない、お互いの考えの調整、合意形成に努める。これまでの臨床・研究・教育経験から得た専門的知識・経験・情報に基づいて、専門分野である医学・医療関係の事項に対して、必要な提言、アドバイス、話し合いを行なう。

## 教授 小宮 浩美 博士（看護学）

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和元年度は、着任後一年目であるため領域内教員のチームワークを形成し、学生の精神看護実践能力の向上につながる教材や指導方法の開発を行う。また、既存の実習施設の関係者との連携体制を強化するとともに、新規施設の開拓を行う。学生が各自の興味関心から主体的に卒業研究に取り組めるよう、卒業研究のゼミを運営する。これまでの研究成果を論文化し、2年目である科研の計画を進める。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
  - ・体験ゼミナール.
  - ・看護学入門.
  - ・看護学入門実習.
  - ・療養支援看護概論.
  - ・精神看護学方法論.
  - ・心の健康.
  - ・精神看護学概論.
  - ・精神看護学実習.
  - ・総合実習.
  - ・看護研究.
  - ・看護学統合.
  
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）
  - ・チーム医療演習（植草大学）.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・小宮 浩美：患者から看護職への暴力の実態とその対応 精神科において看護師が患者から受ける暴力と対応，日本看護評価学会誌，9巻1号，Page25-27，2019.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・小宮浩美，石川かおり，小宮全：精神障害をもつ人の親亡き後のことに関する訪問看護師の認識と支援の実態調査（第2報）訪問看護師の認識，日本看護科学学会（第39回学術集会），2019年12月，金沢
- ・石川かおり，小宮浩美，小宮全：精神障害をもつ人の親亡き後のことに関する訪問看護師の認識と支援の実態調査（第1報）訪問看護師の支援，日本看護科学学会（第39回学術集会），2019年12月，金沢

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C），精神科病棟の看護におけるEBPの実践適用ツールおよびモデルの開発，研究代表者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会. 日本看護管理学会. 日本精神保健看護学会. 千葉看護学会. 日本看護評価学会.

#### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名. 役職. 活動期間）

- ・千葉看護学会. 査読者. 2014年4月1日～現在に至る.
- ・日本看護評価学会. 編集委員. 2019年4月1日～現在に至る.
- ・日本精神保健看護学会. 利益相反委員会委員. 2019年9月8日から2021年定位代議員会終結時まで.
- ・日本精神科看護協会. 論文査読委員. 2001年4月1日～現在に至る.
- ・日本精神科看護協会千葉県支部. 顧問. 2016年～現在に至る.
- ・精神看護出版. 編集委員. 2019年～現在に至る.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会. 入試実施委員会. 教員資格審査委員会.

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教授会. 看護学科教務委員会. 看護学科運営会議. 入試検討委員会.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動としては、領域の教員と共同で次のことを行った。精神看護学方法論では、統合体モデルに沿った看護過程演習の教材を作成し、学生のグループワークで活用し、統合体としてアセスメントする視点の獲得につなげた。講義内容に伴い、精神看護学実習では、実習目標と実習記録を変更し、実習方法の改善を行った。新規実習施設は3か所開拓できた。

研究活動では、科学研究費補助金の研究に着手した。共同研究は学会発表を行い、論文投稿を行った。大学の管理運営では、入試実施委員会委員として入試実務を行った。また、入試検討委員会委員長として看護学科入試の実務やオープンキャンパスの企画・運営、大学パンフレットの改善と編集作業を行った。既に終了した研究の論文文化にも取り組み、現在投稿準備中である。

## VII 次年度の目標

引き続き、精神看護実践能力を育成する効果的な授業の展開を目指し、領域の教員相互に協力しながら教育内容を充実させる。特に次年度はカリキュラムが改正され、新旧カリキュラムが同時進行となるため、効率性も重視しつつ、各学年の学生たちが主体的に学べるよう授業を展開する。研究活動では、科研費の研究成果の学会発表、論文投稿に取り組む。

## 准教授 雨宮 有子 博士 (スポーツ健康科学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2019年度は、教育に関しては、特に、保健師活動の核となる地区活動計画立案・家庭訪問に関する教育方法を精練し教育効果を上げる。そして保健師に関心を持つ学生を増やす。研究に関しては、特に研究代表者を担う研究の順調な推進・研究成果の論文化に重点を置く。社会貢献においては、特に県内保健師の現任教育およびその体制整備を継続して支援する。管理・運営に関しては、大学の理念やディプロマ・ポリシーに基づき、特色科目の一貫した実施を目指す。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・地域看護学概論.
  - ・地域看護学方法論II.
  - ・地域看護学方法論III.
  - ・地域看護学実習.
  - ・地域看護学総合実習.
  - ・看護研究.
  - ・看護学統合.
  - ・千葉県健康づくり.
  - ・専門職間連携活動論.

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所)

- ・2020年版 保健師国家試験問題集，成人保健活動・生活習慣病対策・高齢者保健活動，2019，医学書院，東京。

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線)

- ・石橋みゆき，雨宮有子，伊藤隆子，樋口キエ子，丸谷美紀：退院支援看護師による退院支援システム構築の様相，千葉大学大学院看護学研究科紀要，41号，1-11，2019。

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル，主催学会 (学会名称)，開催日，場所等，本人下線)

- ・Ryuko Ito, Atsuko Shimamura, Yuko Amamiya, Mayuko Tsujimura, Yukari Kamei, Chifumi Yoshida, Kazuko Ishigaki, Junko Fujita, Shino Matsuura, Kazue Hishida, Megumi Yoshida: The ethical beliefs influencing the moral distress experienced in family care by Japanese Care Managers, 14th International Family Nursing Conference, August 13-16, 2019, Hyatt Regency Capitol Hill Washington, DC, USA.
- ・雨宮有子，山口和枝，川上真紀：理想的な訪問看護を実践するための看護師の‘思い・感情・行動指針’に注目する訪問看護実践記録フォーマットの所内導入と課題，第23回日本看護管理学会学術集会，2019年8月23-24日，新潟。
- ・吉田千文，山田雅子，伊藤隆子，雨宮有子，佐藤可奈，佐藤直子，江口優子，清水日佐愛：ケア時代の看護管理とは：人間性と効率性の対立をのり越えるための方法論の探求，第23回日本看護管理学会学術集会，2019年8月23-24日，新潟。

## 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・文部科学省科学研究費（基盤研究（C））H28-R2, 保健師活動への意欲を原動力にしてリーダーシップを発揮するためのガイドの開発, 研究代表者.
- ・文部科学省科学研究費（基盤研究（C））H31-R4, エンパワメント基盤型介護予防支援ガイドの開発, 研究分担者.
- ・文部科学省科学研究費（基盤研究（C））H27-31, 災害時の共助を意図した住民主体の健康な地域づくりを推進する行政保健師の活動指針, 研究分担者.
- ・文部科学省科学研究費（基盤研究（C））H30-R2, 在宅療養の場における倫理的課題への対処方法の解明と支援プログラムの開発, 研究分担者.
- ・2019年度 千葉県立保健医療大学 学長裁量協働研究費, 新人保健師のリフレクシオン力育成のためのファシリテーションガイドの開発, 研究代表者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・野田地域・職域連携推進協議会. 野田健康づくり協議会部会 助言者. 2018年4月～2020年3月.
- ・野田地域・職域連携推進協議会. 野田健康づくり協議会 助言者. 2018年4月～2020年3月.

### 4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・千葉県看護協会 保健師職能委員会. 副委員長. 2019年6月27日～2021年6月.

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本地域看護学会. 日本公衆衛生看護学会. 日本公衆衛生学会. 日本難病看護学会. 日本家族看護学会. 日本在宅看護学会. 日本在宅ケア学会. 日本看護管理学会. 日本看護科学学会. 文化看護学会. 千葉看護学会. 日本保健医療福祉連携教育学会.

#### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・千葉看護学会. 専任査読者. 2018年4月1日～2021年3月31日.
- ・日本家族看護学会 専任査読者. 2016年8月1日～2019年7月31日. 2019年12月1日～2022年12月31日.
- ・一般社団法人日本公衆衛生学会. 代議員 地域別. 2019年7月1日～2021年6月30日.

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・2019年度市町村管理者能力育成研修. 千葉県健康福祉部. 根拠に基づく事業・施策の展開. 市町村に勤務する保健師で管理者あるいは時期管理者として役割・機能を果たす者および県職員の保健師で次期管理者としての役割・機能を果たす者. 2019年10月30-31日. 千葉市民会館.
- ・2019年度千葉県特定健診・特定保健指導 経験者研修. 千葉県健康福祉部. 標準的な健診・保健指導プログラム 行動変容を促す保健指導技術. 特定保健指導従事経験年数3年目以上の従事者（県内市町村の国民健康保険等, 医療保険者および保健衛生部門等ならびに医療保険者からの特定健診・特定保健指導事業の受託実績がある民間事業者等の保健師, 管理栄養士等）. 2019年9月2日. 千葉県教育会館.
- ・2019年度第3回松戸健康福祉センター管内保健師等業務連絡研修会. 松戸健康福祉センター. 保健師業務の基礎を学ぶ. 管内の新任期保健師. 2019年9月20日 AM. 松戸健康福祉センター.
- ・2019年度第1回松戸健康福祉センター管内保健活動業務研究検討会. 松戸健康福祉センター. 保健活動業務研究の計画検討. 管内全保健師. 2019年7月11日 AM. 松戸健康福祉センター.
- ・2019年度第2回松戸健康福祉センター管内保健活動業務研究検討会. 松戸健康福祉センター. 保健活動業務研究の結果・考察検討. 管内全保健師. 2019年11月1日. 松戸健康福祉センター.
- ・2019年度第1回習志野保健所管内統括管理的保健師連絡会議. 習志野健康福祉センター. 管内保健師現任教育の推進について. 管内の統括的役割を担う保健師. 2019年5月13日. 習志野健康福祉センター.

- ・2019年度第1回習志野健康福祉センター管内保健師等業務連絡研究会。習志野健康福祉センター。保健師の専門性を生かして他部門・他職種と協働しよう！分散配置って魅力的。管内の全保健師。2019年8月20日PM。習志野健康福祉センター。
- ・2019年度第3回習志野健康福祉センター管内保健師等業務連絡研究会。習志野健康福祉センター。短縮業務の中で保健師スキルを向上しよう。管内の子育て中等で勤務時間に制約のある保健師（産休・育休中の者も含む）。2019年12月11日AM。習志野健康福祉センター。
- ・2019年度第4回習志野健康福祉センター管内保健師等業務連絡研究会。習志野健康福祉センター。災害時の保健活動。管内中堅保健師。2019年11月22日AM。習志野健康福祉センター。
- ・2019年度保健活動業務研究サポート。習志野健康福祉センター。習志野健康福祉センター保健師。2019年5月～2020年1月。
- ・2019年度第3回市川健康福祉センター管内保健師業務連絡研究会。市川健康福祉センター。業務研究を事業評価に活用しよう。管内全保健師。2019年11月8日。市川市保健センター。
- ・2019年度保健活動業務研究サポート。市川健康福祉センター。市川健康福祉センター保健師。2019年5月～2020年1月。
- ・2019年度第1回野田健康福祉センター管内保健師等業務連絡研究会。野田健康福祉センター。業業務研究のテーマを考えよう。管内全保健師。2019年5月17日。野田市保健センター。
- ・2019年度第3回海匝健康福祉センター管内保健師等業務連絡研究会。海匝健康福祉センター。千葉県保健活動業務研究に関する助言・指導。管内全保健師。2019年11月14日。海匝健康福祉センター。
- ・2019年度保健活動業務研究サポート。夷隅健康福祉センター。夷隅健康福祉センター保健師。2019年5月～2020年3月。
- ・2019年度第1回安房健康福祉センター保健師業務研究学習会。安房健康福祉センター。業務研究で質の高い保健師活動へ。管内保健師。2019年6月20日。安房健康福祉センター鴨川地域保健センター。
- ・2019年度第4回安房健康福祉センター管内保健師業務連絡研究会。安房健康福祉センター。業務研究で質の高い保健師活動へ その2。管内全保健師。2020年3月10日。安房健康福祉センター。
- ・2019年度印旛健康福祉センター管内保健師活動業務研究検討会。印旛健康福祉センター。業務研究で質の高い保健師活動へ。管内全保健師。2019年7月25日。印旛合庁舎。
- ・2019年度印旛健康福祉センター管内保健師活動業務研究検討会。印旛健康福祉センター。千葉県保健活動業務研究に関する助言・指導。管内全保健師。2019年11月21日。印旛健康福祉センター。
- ・2019年度保健活動業務研究サポート。山武市。山武市保健師。2019年5月～2020年3月。
- ・千葉市保健市長会定例会。千葉市保健師長会。保健師活動のおけるリフレクション能力ー人材育成のヒントー。千葉市の保健師長。2019年11月27日。千葉市保健所。
- ・東京大学教育学部附属中等教育学校 卒業研究指導。5年次生。2019年8月19日。千葉県立保健医療大学。
- ・2019年度保健師活動に必要な実践能力を高めるリフレクション力の習得をめざしたワークショップ。千葉県立保健医療大学看護学科健康支援看護領域。就職後3年以内の保健師。2019年11月2日・12月21日・2020年度2月15日。千葉県立保健医療大学。

## 7 その他

- ・新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する厚生労働省対策推進本部サーベイランス班 応援業務。2020年3月14、15、20日。厚生労働省。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称。活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・特色科目運営会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称。活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教務委員会。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育では、地区活動計画立案を講義～実習を連動させ教授できた。過去最高の保健師就職数（18名）になった。研究では、進捗が遅れている。社会貢献では、県内自治体保健師を対象とした業務研究サポート事業を継続運営し、そのうち1か所は優秀賞を取った。2中央研修・8保健所管内・2自治体で保健師現任教育を実施した。所属領域主催で新人保健師研修を継続実施した。管理・運営では、千葉県健康づくりの内容や運営を特色科目の目的に照らし改定した。

## VII 次年度の目標

教育では、COVID-19拡大防止策を取りつつ保健師活動の実際を学べる教育方法を工夫し教育効果を上げる。そして保健師に関心を持つ学生を増やす。研究に関しては、特に研究代表者を担う研究の推進・研究成果の論文化に重点を置く。社会貢献においては、特に県内保健師の現任教育およびその体制整備を継続して支援する。管理・運営に関しては、特に教務委員として、COVID-19拡大防止策を工夫し安全で効果的な教育体制を整備する。

## 准教授 三枝 香代子 修士 (教育学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育活動では、理解しやすい授業内容となるよう工夫し、臨床実習指導では、臨床指導者と協働して学生の理解が深まるように学習支援ができるよう工夫する。研究活動では、前年度の研究を基盤に計画書を作成し科学研究費へ申請を行う。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・救命・救急の理論と実際.
  - ・成人看護学概論.
  - ・成人看護学方法論Ⅰ.
  - ・成人看護学方法論Ⅱ.
  - ・ターミナルケア論.
  - ・成人看護学実習 (急性期).
  - ・総合実習.
  - ・看護研究.
  - ・看護学統合.
  - ・看護学入門実習.
  - ・体験ゼミナール.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・田口智恵美, 佐藤まゆみ, 三枝香代子, 浅井美千代, 大内美穂子, 小安麻子, 比田井理恵, 菅沢直美: IABP 装着患者受け持ち未経験者に対するシミュレーション教育の実施, 千葉県立保健医療大学紀要, 第11巻, 1号, 27p - 34, 2020.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・Chiemi Taguchi, Mayumi Sato, Kayoko Saegusa, Michiyo Asai, Mihoko Ouchi, Yumiko Shiobara: Competencies for simulation education required by facilitators to cultivate clinical judgment ability in intensive care unit nurses, World Academy of Nursing Science, Feb 28-29, 2020, Japan.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

- 1) 千葉県内
  - ・千葉県救急医療センター 事例検討指導. 看護師. 年4回. (2019年5月14日・7月30日・9月10日・12月25日・2月18日.)
  - ・神田外語大学との初期医療通訳ボランティア育成研修, 9月15日 - 16日. 神田外語大学・千葉県立保健医療大学.

## 5 学会、学術団体への貢献

### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護研究学会、日本看護技術学会、日本看護教育学学会、日本看護科学学会、千葉看護学会、日本クリティカルケア看護学会、日本救急看護学会。

## 7 その他

- ・高校訪問、木更津総合高等学校、模擬授業 2019年4月11日。  
松戸市立松戸高等学校 模擬授業 2020年1月23日。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・共通教育運営会議、広報委員会、体験ゼミナール作業部会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科倫理審査委員会、看護学科総務・企画委員会、看護研究作業部会。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

担当の講義科目については、授業資料を見直し学生が理解しやすいように改善を行った。臨地実習指導については、指導者と協働しながら学生の個性に合わせた指導ができた。研究活動については、昨年の研究を基盤にして研究計画書を作成し科学研究費へ申請することができた。全学と看護学科の委員会活動については、与えられた役割を果たすことができた。

## VII 次年度の目標

教育活動では、学生に理解しやすい授業内容となるよう工夫する。研究活動では、計画的に進められるように取り組む。社会貢献活動として、臨床看護師の研究活動支援を積極的に行う。

## 准教授 細谷 紀子 博士 (看護学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育については、引き続き保健師国家試験に対する早期からの学習の意識づけを図るとともに実践の魅力を伝えられるように努める。研究については、代表者を含む4つの研究テーマについて精力的に取り組む。社会貢献については、県内の保健師資質向上や保健活動の改善のために役割を果たせるよう努める。大学の管理運営については、全学総務企画委員および看護学科総務・企画委員長として責任をもって役割を遂行する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・地域看護学概論.
  - ・地域看護学方法論Ⅱ.
  - ・地域看護学方法論Ⅲ.
  - ・地域看護学実習.
  - ・災害看護学.
  - ・総合実習.
  - ・看護研究.
  - ・看護学統合.
  - ・専門職間の連携活動論.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・Kyoko Yoshioka-Maeda, Takafumi Katayama, Misa Shiomi and Noriko Hosoya : Impact of web-based learning for health program planning competency, knowledge and skills among mid-level public health nurses: A randomized controlled trial, Public Health Nurs, 36, 836-846, <https://doi.org/10.1111/phn.12642>, 2019.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・細谷紀子, 石丸美奈, 宮崎美砂子: 発達障害児の親向け災害への備え促進プログラムの作成-親のレジリエンス向上による地域との繋がりづくりに着目して-, 日本地域看護学会第22回学術集会, 2019年8月17日～18日, 神奈川県横浜市.
- ・細谷紀子, 石丸美奈, 宮崎美砂子: 発達障害児の親に対する災害への備え促進プログラムの有効性検証-地域との繋がりづくりに対する質的影響の評価, 第8回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2020年1月11日～12日, 愛媛県松山市.
- ・吉岡京子, 塩見美紗, 片山貴文, 細谷紀子: 地域ニーズに基づく施策化を展開するための中堅保健師向け教育プログラム第2報, 第78回日本公衆衛生学会総会, 2019年10月23日～25日, 高知県高知市.
- ・塩見美紗, 吉岡京子, 片山貴文, 細谷紀子: 中堅期保健師の施策化能力向上のための研修プログラムの3か月後評価, 第78回日本公衆衛生学会総会, 2019年10月23日～25日, 高知県高知市.
- ・吉岡京子, 塩見美紗, 片山貴文, 細谷紀子: 地域ニーズに基づく施策化を展開するための中堅保健師向け教育プログラム: 第3報, 第39回日本看護科学学会学術集会, 2019年11月30日～12月1日, 石川県金沢市.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・平成27～31年度科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)), 災害時の共助を意図した住民主体の健康な地域づくりを推進す

- 行政保健師の活動指針, 研究代表者.
- 2019～2022 年度科学研究費助成事業 (基盤研究 (B)), 保健医療福祉計画策定に必要な保健師の施策化能力向上のための教育プログラムの開発, 分担研究者.
- 2019～2022 年度科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)), エンパワメント基盤型介護予防実践支援ガイドの開発, 分担研究者.
- 平成 28～31 年度文部科学省科学研究費補助金 (基盤研究 (C)), 保健師活動への意欲を原動力にしてリーダーシップを発揮するためのガイドの開発, 分担研究者.
- 2019 年度学長裁量研究費, 新人保健師のリフレクシオン力育成のためのファシリテーションガイドの開発, 共同研究者.
- 2019 年度学長裁量研究費, 医療職配置義務のない高齢者施設・住宅における感染症集団発生及び入居者の重症化を防ぐ方策の検討, 共同研究者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- 千葉県保健師現任教育検討会. 有識者. 2019 年 5 月～2020 年 3 月.

### 5 学会, 学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- 日本地域看護学会. 千葉看護学会. 日本公衆衛生学会. 日本看護科学学会. 文化看護学会. 日本公衆衛生看護学会. 日本ルーラルナーシング学会.

#### 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- 千葉看護学会. 査読委員. 2015 年 4 月より現在に至る.
- 第 22 回日本地域看護学会学術集会. 査読委員. 2019 年 4 月.
- 第 26 回千葉看護学会学術集会. 企画委員. 2019 年 10 月より現在に至る

### 6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- 令和元年度公開講座. 千葉県立保健医療大学. みんなで高めよう! 災害に備える力. 一般市民 46 名. 2019 年 10 月 27 日. 千葉県立保健医療大学.
- 業務研究に関する指導. 千葉県香取健康福祉センター. 「新たな訪問リハビリテーション事業を通して考える難病患者・家族に対する保健所保健師の役割」に関する研究の進め方やまとめ等の指導・助言. 千葉県香取健康福祉センター職員. 2019 年 7 月～2019 年 12 月. 千葉県香取健康福祉センター.
- 令和元年度第 4 回山武保健所管内保健師業務連絡研究会. 山武健康福祉センター. 講演「業務研究の意義とレポート作成のポイント」および保健活動研究発表の助言・指導. 山武健康福祉センター保健師及び管内市町の保健師. 2019 年 11 月 5 日. 芝山町役場.
- 職場内研修. 千葉市若葉保健福祉センター健康課. 災害時の保健活動の振り返り. 千葉市若葉保健福祉センター健康課保健師. 2019 年 12 月 13 日. 千葉市若葉保健福祉センター.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- 総務・企画委員会. 危機管理委員会.

### 2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- 看護学科総務・企画委員会. 看護学科総合実習作業部会.

### 3 対外広報活動〈新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等〉

- ・地域看護学総合実習におけるラジオ体操プロジェクト推進動画「若葉区はラジオ体操区 若葉区ラジオ体操推進プロジェクト」の撮影協力、YouTube.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育については、地域看護学総合実習の学習成果として作成したラジオ体操プロジェクト推進動画の素材が、千葉市若葉区において正式に採用されYouTubeで公開となった。学生への教育効果と実習地保健活動への貢献ともに達成できた。研究については代表者を務める研究課題において論文投稿と全国調査を行った。社会貢献においては自然災害が相次いだ本県において災害時の共助をテーマにした公開講座を担当し役割を果たした。

## VII 次年度の目標

教育については、covid-19の影響により前期は遠隔授業中心となるため、教育の質を保証できるよう教材作成に努めるとともに、学生個々からの質問に丁寧に対応し、授業満足度を高められるようにする。研究については、2020年度より4年計画の科研費基盤C研究が採択されたため計画的に推進するとともに、分担者を務める研究においても精力的に取り組む。大学の管理運営については、全学総務・企画委員および危機管理委員、看護学科総務・企画委員長、および3年生担任としての役割を責任をもって遂行する。

## 准教授 川城 由紀子 博士 (医学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和元年度は、特に教育活動では、特に母性看護学実習において、周産期の対象が地域での生活者であることを意識した学びができるような実習目標・実習内容を見直し、教育に当たる。また、実習内容の変更に対して、実習施設との調整・連携を図り実習環境を整える。研究活動では、前年度に引き続き研究成果の公表に力を入れる。管理運営では、入試実施委員としてオープンキャンパスや入試が円滑に進むよう努める。社会貢献では、千葉県看護協会助産師職能委員として県内助産師の研修ニーズに合わせた講習会の企画運営を行う。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・母性看護学方法論Ⅰ.
- ・母性看護学方法論Ⅱ.
- ・母性看護学実習.
- ・助産学概論.
- ・助産診断・技術学Ⅰ (実践基礎).
- ・助産診断・技術学Ⅱ (ライフサイクル各期).
- ・助産診断・技術学Ⅲ (分娩期).
- ・助産診断・技術学Ⅳ (ハイリスク分娩).
- ・助産学実習Ⅰ (産婦ケア体験).
- ・助産学実習Ⅱ (継続支援).
- ・助産学実習Ⅲ (分娩期ケア).
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・川城由紀子, 石井邦子, 北川良子, 大滝千智, 小路和子, 吉村園子, 浅野輝子, 臼井佐紀, 窪谷潔: 助産師による産後2週間健診が母親の心理的健康状態にもたらす効果, 千葉県立保健医療大学紀要, 11巻1号, 11-18, 2020.
- ・石井邦子, 川城由紀子, 北川良子, 大滝千智, 小路和子, 吉村園子, 浅野輝子, 臼井佐紀, 窪谷潔: デイケア型産後ケアサービスが母親の心理的健康状態にもたらす効果, 母性衛生, 60巻1号, 587-595, 2020.
- ・浅井美千代, 杉本知子, 佐藤まゆみ, 植村由美子, 佐藤紀子, 川城由紀子, 西野郁子: 千葉県内の中小規模施設で就業する看護職者が看護実践を遂行するために受けたい研修とその理由, 千葉県立保健医療大学紀要, 11巻1号, 51-55, 2020.

#### 3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・杉本亜矢子, 石井邦子, 川城由紀子, 北川良子, 川村紀子, 青柳優子, 植竹貴子: 助産師の内診による診断技術の発達過程, 第21回日本母性看護学会学術集会, 6月15日, 広島.
- ・川城由紀子, 宮宗秀伸, 石井邦子, 松野義晴: 更年期女性の酸化ストレスと関連要因, 第90回日本衛生学会学術総会, 3月27日, 岩手.

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究(C)，産後ケアシステムにおける看護専門職と育成支援人材のコラボレーションモデルの開発，研究分担者。

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・千葉県看護協会，助産師職能委員，2018年6月～現在に至る。

#### 5 学会，学術団体への貢献

##### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会，日本看護研究学会，日本母性看護学会，日本母性衛生学会，日本衛生学会，千葉看護学会。

##### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本母性看護学会，専任査読委員，2014年4月～現在に至る。
- ・千葉看護学会，査読委員，2018年10月～現在に至る。

### V 管理・運営記録

#### 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・入試実施委員会，紀要編集部会。

#### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議，看護学科入試検討委員会，看護学科1年生担任。

#### 3 対外広報活動（新聞・ホームページでの活動・TV出演，ラジオ出演等）

- ・ホームページ：千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学。（<http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm>）

### VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では，母性看護学実習で外来実習を取り入れ，学生の学習の成果が確認できた。助産学実習において新規実習施設を担当したが，施設側と連携し実習環境を整えることができた。これらのことから目標達成とする。研究活動では，研究成果を論文と学会発表で公表することができたため，目標達成とする。管理運営では，委員会業務や担任の役割を果たすよう努めたため，目標達成とする。社会貢献では，千葉県看護協会助産師職能委員として県内助産師に向けた講習会の企画運営に積極的にかかわることができたことから，目標達成とする。

### VII 次年度の目標

教育活動では，母性看護学実習が学内実習となることから，学内であっても学習効果の高い実習内容・方法を検討し取り入れる。研究活動では，新たな研究に着手し研究を遂行する。管理運営では，看護学科入試検討委員会の委員長として入試業務を円滑に着実に進める。社会貢献では，千葉県看護協会助産師職能委員として県内助産師の研修ニーズに合わせた講習会の企画運営を行う。

## 准教授 植村 由美子 博士 (看護学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和元年度は、以下を目標とした。

①授業関連：丁寧に授業・実習教育を行い、学生が看護に関心を持てるようにする。②管理運営業務：学科内委員会の業務（学科学生・進路支援委員会委員長）を滞りなく遂行する。③研究：研究成果をまとめ、速やかに公表する。④社会貢献：積極的に参加する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
  - ・看護学原論.
  - ・看護技術論Ⅰ（日常生活援助技術）.
  - ・看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント技術）.
  - ・看護技術論Ⅲ（フィジカルアセスメント技術）.
  - ・看護技術論Ⅳ（検査治療技術）.
  - ・看護技術論Ⅴ（看護過程展開技術）.
  - ・体験ゼミナール.
  - ・基礎看護学実習.
  - ・看護学統合.
  - ・看護研究.

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・植村由美子：途上感を抱え続ける看護教員，つまずき立ち上がる看護職たち。（佐藤紀子編集），226-232，2019年10月，医学書院.

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・植村由美子：ホリスティックナーシングにおける瞑想の意義，ホリスティックナーシング研究会，第1巻，7-12，2020.
- ・浅井美千代，杉本知子，佐藤まゆみ，植村由美子，佐藤紀子，川城由紀子，西野郁子：千葉県内の中小規模施設で就業する看護職者が看護実践を遂行するために受けたい研修とその理由，千葉県立保健医療大学紀要，第11巻，1号，51-55，2020.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・植村由美子：ホリスティックナーシングにおける瞑想の意義，ホリスティックナーシング研究会，2019年9月，神戸.

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C），看護師の臨床判断事例に基づくフィジカルアセスメント学習教材の開発，研究分担者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会、日本看護教育学会、日本看護倫理学会、ホリスティックナーシング研究会。

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・平成31年度 千葉県看護教員養成講習会。「倫理学」。2019年5月8日、15日、22日、29日、6月5日。千葉県ナースセンター。
- ・平成31年度 千葉県看護教員養成講習会。「看護論演習」。2019年6月3日。千葉県ナースセンター。
- ・東京歯科大学市川総合病院。研究指導。2019年9月20日、12月24日、2020年2月28日。看護師。東京歯科大学市川総合病院。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生委員会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科学生・進路支援委員会（委員長）。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

目標ごとに評価を述べる。

①授業関連：一部新カリキュラム導入にともない、授業内容に重複やもれがないよう確認しながら、準備・実施したが、学習の順序性への配慮が不十分考えられるため、より学生の学習の順序に配慮した授業の組み立てを行う。②管理運営業務、③研究、④社会貢献活動は、目標をおおむね達成できたと考える。

## VII 次年度の目標

令和2年度は、次を目標とする。①授業関連：新型コロナウイルス感染防止のための休校・遠隔授業等の措置を行う中で、学生の学習意欲を落とさず、教員の大きな負担のない授業の工夫を行う。②管理運営業務：学生の修学や進路支援等、大学・学科内委員会の業務を滞りなく遂行する。③研究：研究成果をまとめ、速やかに公表する。④社会貢献活動：学科で行っている保健所や軽症者の滞在するホテルへの教員派遣に参加する。

## 准教授 西村 宣子 修士（看護学）

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和元年度は特に、担当する科目に対してより質の高い授業・実習になるよう、大学や看護学科の教育目標を基に関連する教職員と検討しながら準備・実施していく。また、大学運営においては、本学の特徴を踏まえながら教職員と連携し、責務を果たせるようにする。昨年度課題となった学生の研究指導に対しては、学生とコミュニケーションを図りながら学生一人ひとりに合わせて計画的に研究指導に取り組む。自分の研究活動と共同研究についても、次年度、関連学会で研究成果を発表できるように計画的に遂行する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・看護管理学.
- ・看護キャリア発達論.
- ・看護倫理.
- ・リーダーシップ論.
- ・リスクマネジメント論.
- ・看護学入門.
- ・看護管理学実習.
- ・基礎看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.
- ・専門職間の連携活動論.

##### 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・看護学概論（東京歯科大学短期大学）.

### III 研究記録

#### 4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名、テーマ、開催日、場所等）

- ・第23回日本看護管理学会学術集会 企画委員会主催ワークショップ マネジメント・カンファレンス「みんなで自分の看護管理実践を語ろう！振り返ろう！」, 2019年8月23日, 朱鷺メッセ.

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・千葉県保健医療大学 共同研究, A 県内における一般病院に勤務する看護師長のセカンドキャリアに関する意識調査, 研究代表者.

#### 7 その他

- ・看護師長のスタッフ看護師への目標管理に対する困難感の要因, 研究代表者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 4 職能団体委員等(職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・公益社団法人 日本看護協会 認定看護管理者認定実行委員会 委員 (2019年4月～2020年3月)
- ・公益社団法人 千葉県看護協会 千葉県ナースセンター運営委員会 作業部会 (2019年10月～2020年3月)

### 5 学会, 学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護管理学会 日本災害医学会 医療マネジメント学会 日本看護教育学会 日本運動器看護学会

### 6 講演会(公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等(会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・東京歯科大学市川総合病院, 研究指導, 2019年7月～2030年3月 計7回(2部署), 臨床看護師, 東京歯科大学市川総合病院.
- ・第38回認定看護管理者教育課程ファーストレベル研修会, 人材管理I, 看護管理者, 2019年6月28日, 千葉県看護協会.
- ・令和元年度「第38回千葉県看護研究学会」, 論文査読, 2019年10月～11月, 千葉県看護協会.

### 7 その他

- ・高校訪問 千葉県立船橋啓明高等学校, 模擬授業, 2019年11月20日
- ・高校訪問 千葉県立柏陵高等学校, 大学説明会, 2020年1月23日

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・自己点検・評価実施推進部会.

### 2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科運営会議, 看護学科社会貢献委員会, 看護学科教務委員会(実習検討部会), 看護学科総務・企画委員会.

## VI 評価(成果および改善すべき事項)

今年度は, 担当する科目に対して, 大学や看護学科の教育目標を踏まえて授業内容を見直し, 実践と理論を統合させるように考え授業展開することに努めた. 学生の到達目標に対する評価や授業評価, また, 実習指導者からの評価から, 前年度より成果が得られたと評価するとともに, さらなる改善点を見出すことができた.

大学運営においては, 教職員と連携を密にし, 担当する責務を概ね果たせた. 昨年度課題となった学生の研究指導に対しては, 学生一人ひとりに合わせて, コミュニケーションを密に図りながら, 計画的に研究指導に遂行することができ, 学生にとっても達成感と満足感のある研究になったと評価できた.

研究活動は, 共同研究と共に別の研究を同時に進行となり, 途中計画通り進めることができず周章狼狽状態になったが, 次年度の関連学会発表へエントリーすることができた.

## VII 次年度の目標

教育に関しては, COVID-19による授業や実習に影響することが懸念されるが, 担当領域の学習の内容・質を維持できるように, 授業方法や内容を工夫・検討してより丁寧に実施していく. また, COVID-19による自粛が強いられる学生のメンタル面でのサポートを行うとともに, 医療従事者の職務の尊さをと誇りを自覚できるように関わっていきたい.

大学運営については, 引き続き担当する責務を果たせるように努め, また, 学科として行っている保健所派遣などは積極的に参加できるよう調整していく.

研究活動においては, 2019年度に行った研究成果を関連学会で発表するとともに, 紀要への投稿を目指す. また, 今年度も獲得できた研究代表者及び研究分担者としての2つの共同研究を計画的に遂行し, 科研申請についても継続して挑戦する.

## 准教授 北川 良子 博士 (看護学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育活動においては、新たな実習施設を開拓することと、新々カリへの移行に伴い内容をアップデートしさらなる改善に努める。研究活動を充実させ、現在行っている研究の遂行に努め、学会で発表する。また学会発表にとどまっている研究の論文執筆に取り組む。看護学科教務委員会委員長を拝命したため、円滑な委員会運営に努める。また令和2年度は新々カリと現行カリが平行して教育が行われる中、東京オリンピック開催に伴う例年にはない学年暦の変更が予定されている。このような状況において看護学科のカリキュラムが滞りなく順調に開講され、適切に試験が行えるよう、調整作業を看護学科教務委員会内で行っていく。社会貢献においては要請に合わせ高校訪問を行い、本学の広報活動に尽力する。また学会の査読委員および、新たに拝命した学会の総務理事の職責を果たし、学会運営に貢献する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・母性看護学方法論Ⅰ.
  - ・母性看護学方法論Ⅱ.
  - ・母性看護学実習.
  - ・助産学概論.
  - ・助産診断・技術学Ⅰ (実践基礎).
  - ・助産診断・技術学Ⅱ (ライフサイクル各期).
  - ・助産診断・技術学Ⅲ (分娩期).
  - ・助産診断・技術学Ⅳ (ハイリスク分娩).
  - ・助産学実習Ⅰ (産婦ケア体験).
  - ・助産学実習Ⅱ (継続支援).
  - ・助産学実習Ⅲ (分娩期ケア).
  - ・総合実習.
  - ・看護研究.
  - ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・川城由紀子, 石井邦子, 北川良子, 大滝千智, 窪谷潔, 小路和子, 臼井佐紀, 浅野輝子, 吉村園子: 助産師による産後2週間健診が母親の心理的健康状態にもたらす効果, 千葉県立保健医療大学紀要, 11巻1号, 11-18, 2020.
- ・石井邦子, 川城由紀子, 北川良子, 大滝千智, 窪谷潔, 臼井佐紀, 小路和子, 浅野輝子, 吉村園子: デイケア型産後ケアサービスが母親の心理的健康状態にもたらす効果, 母性衛生, 60巻1号, 587-595, 2020.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・杉本亜矢子, 石井邦子, 川城由紀子, 北川良子, 川村紀子, 青柳優子, 植竹貴子: 助産師の内診による診断技術の発達過程, 第21回日本母性看護学会学術集会, 6月15日, 広島.

## 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C）「CLoCMiP レベルⅢ認証前の若手助産師キャリア支援プログラムの開発と検証」研究代表者。
- ・科学研究費補助金基盤研究（C），産後ケアシステムにおける看護専門職と育成支援人材のコラボレーションモデルの開発，研究分担者。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・千葉県看護協会，看護教員養成講習会，6～7月。

### 5 学会，学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本母性衛生学会，日本母性看護学会，日本助産学会，日本看護科学学会，千葉看護学会，千葉県母性衛生学会，日本助産師会。

#### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本母性看護学会，査読委員（2017年4月～現在に至る）
- ・千葉看護学会，査読委員（2017年8月～現在に至る）
- ・日本母性看護学会第23回学術集会 事務局（2020年1月から現在に至る）
- ・日本母性看護学会 理事（2019年6月から現在に至る）

### 7 その他

- ・高校訪問，千葉県立検見川高校 7月。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議，看護学科教務委員会。

### 3 対外広報活動（新聞・ホームページでの活動・TV出演，ラジオ出演等）

- ・ホームページ：千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学。（<http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm>）

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動は，講義演習において前年度の教育内容，レスポンスペーパーの内容，授業評価アンケートの内容を再検討し，効果的な学習となるよう改善できた。実習において，学内で学習した内容を踏まえ，かつ個々の学生のレディネスに応じた実習支援に取り組み，担当した学生は全員実習目標を達成することができた。また助産学実習の主担当として新規実習施設の開拓し，施設担当者として臨地実習指導者と連携しながら実習目標達成となる実習ができたが，個々の学生の到達度をさらに高めるといふ点において課題が残った。研究活動において科学研究費を獲得したが，実習施設の新規開拓等，教育に多くの時間を費やしたため，十分な研究活動を行うことができなかった。委員会活動においては，看護学科教務委員長として学科内のリーダーシップを発揮し，メンバーの先生方と共に順調に委員会運営を行うことができた。指定規則改正作業部会においては各領域の意見を取り入れ，WGのメンバーと共に令和3年開始を目標にカリキュラム案を作成することができた。社会貢献においては，学会の理事を新たに拝命し，役割を遂行できた。高校訪問や社会貢献委員会主催の研修プログラムの部会員として，千葉県の看護職の研究能力向上に貢献できた。

## Ⅶ 次年度の目標

教育活動においては、新たな実習施設を開拓することと、新々カリ及び指定規則改正への移行に伴い内容をアップデートしさらなる改善に努める。研究活動を充実させ、現在行っている研究の遂行に努め、学会で発表する。また学会発表にとどまっている研究の論文執筆に取り組む。看護学科教務委員会委員長として、円滑な委員会運営に努める。また令和3年度は新々カリと現行カリが平行して教育が行われる中、COVID-19による教育方法の変更、東京オリンピック延期に伴う例年にはない学年暦の変更が予定されている。このような状況において看護学科のカリキュラムが滞りなく順調に開講され、適切に試験が行えるよう、調整作業を看護学科教務委員会内で行っていく。社会貢献においては要請に合わせ高校訪問を行い、本学の広報活動に尽力する。また学会の査読委員および、学会の総務理事、学術集会の実行委員の職責を果たし、学会運営に貢献する。

## 准教授 田口 智恵美 博士 (看護学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育活動では、新たに担当する授業を滞りなく実施する。大学運営では、国家試験受験や卒業式が滞りなく実施されるよう学生支援を行う。社会貢献では、千葉県内看護師への研究指導や学会から依頼された活動を引き続き行う。研究活動では、重症患者へのケアを行う看護師の優れた実践を探求する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・成人看護学概論.
- ・成人看護学方法論 I.
- ・成人看護学実習 (急性期).
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.
- ・看護学入門実習.
- ・救命・救急の理論と実際
- ・専門職間の連携活動論.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・田口智恵美, 佐藤まゆみ, 三枝香代子, 浅井美千代, 大内美穂子, 小安麻子, 比田井理恵, 菅沢直美: IABP 装着患者受け持ち未経験者に対するシミュレーション教育の実施, 千葉県立保健医療大学紀要, 第11巻, 1号, 27p-34, 2020.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・Chiemu Taguchi, Mayumi Sato, Kayoko Saegusa, Michiyo Asai, Mihoko Ouchi, Yumiko Shiobara: Competencies for simulation education required by facilitators to cultivate clinical judgment ability in intensive care unit nurses, World Academy of Nursing Science, Feb 28-29, 2020, Japan.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学内共同研究費, ICUにおける熟練看護師によるコンフォートケア, 研究代表者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

##### 1) 千葉県内

- ・看護研究指導, 年8回, 東京歯科大学市川総合病院..
- ・事例検討指導, 年4回, 千葉県救急医療センター.
- ・講演会「研究計画書の書き方」, 7月, 千葉県循環器病センター.
- ・講演会「プレゼンテーションの方法」, 11月, 千葉県循環器病センター.
- ・神田外語大学との初期医療通訳ボランティア育成研修, 9月15日-16日, 神田外語大学・千葉県立保健医療大学.

## 5 学会, 学術団体への貢献

### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会, 日本クリティカルケア看護学会, 日本循環器看護学会, 千葉看護学会, 日本看護学教育学会,

### 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本看護科学学会, 和文編集委員会専任査読委員, 2018年9月～現在,
- ・日本クリティカルケア看護学会, 編集委員会委員, 2019年5月～現在,
- ・日本クリティカルケア看護学会, 査読委員, 2004年～現在,
- ・日本循環器看護学会, 査読委員, 2013年2月～現在,

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・進路支援委員会,

### 2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科学生・進路支援委員会,

## VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育活動では, 学生の評価よりおおむね理解が得られる授業展開ができたと評価する。大学運営では, 学生の進路支援や国家試験に関する行事を滞りなく実施することができた。社会貢献では, 看護系学会での活動や近隣大学との合同研修開催などに従事した。研究活動では, 昨年度に実施した研究結果を研究代表者として公表する機会を得た。また, 今年度獲得した共同研究を研究代表者としておおむね計画に則って進めることができた。今後はこれらの活動がさらに充実するよう創意工夫をしてそれぞれの活動の質を高めていく必要がある。

## VII 次年度の目標

次年度は, 研究代表者となっている研究を引き続き計画的に進める。また, 教育ではより医療現場の実践に即した内容になるよう看護演習方法を検討する。大学運営では, コロナ感染症対策を取りながら, 学生が安全かつ順調に国家試験を受けることができるよう学生支援を行う。

## 講師 成 玉恵 修士 (政治学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

引き続き講義・演習・実習の質の向上をはかる。また、適宜、実習内容やカリキュラムの変更に合わせ充実した教育内容に改定していく。研究に関しては、研究資金の獲得に努力し学会発表や論文投稿を行う。社会貢献に関しては、墨田区の介護保険事業運営協議会での役割の充実と、地域での健康づくりに関する支援を考える、以上を目標とした。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ.
  - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ.
  - ・在宅看護学実習.
  - ・総合実習.
  - ・看護学統合.
  - ・看護研究.
  - ・体験ゼミナール.

### III 研究記録

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・成 玉恵: 地域で看護職が実践する社会貢献活動の特性ー在宅精神療養者を支援するNPO活動の事例からー, 第11回日本ヘルスコミュニケーション学会, 2019年9月, 東京.
- ・塩見美抄, 吉岡京子, 牛尾裕子, 井上清美, 田村須賀子, 嶋澤順子, 小寺さやか, 撫養真紀子, 成 玉恵: 地域アセスメントに関する保健師の組織的実践改善プログラム案に対する人材育成担当部署の意見, 第39回日本看護科学学会学術集会, 2019年11月, 石川.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学長裁量研究費, 看護職による地域活動の概念整理と定義化の検討, 研究代表者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・墨田区, 介護保険事業運営協議会委員, 2018年4月～2021年3月.

#### 5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本在宅ケア学会. 日本地域看護学会. 日本行政学会. 日本公衆衛生看護学会. 日本保健医療社会学会. 日本看護学教育学会. 日本看護科学学会.

#### 7 その他

- ・高校訪問 千葉県立印旛明誠高等学校 模擬授業 2019年10月16日.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・広報委員会, 自己点検・評価実施推進部会.

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教務委員会, 看護学科倫理審査委員会, 2年生担任, 看護研究部会, 総合実習作業部会.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育に関しては、講義・演習・実習の質の向上をはかり、系統的に実施できた。今年度より実習内容が変更したが、実習施設との調整をはじめ実習指導内容を見直し、円滑に実習を行うことができた。研究に関しては、学内競争資金の獲得が可能となり、予定されていた学会発表を行うことができた。また、学外教育機関の研究者と研究を実施することができ、大きな経験・学びとなった。今年度は論文執筆に取り組む余裕がなかったため、次年度は論文投稿に挑みたい。社会貢献としては、昨年度から墨田区の介護保険運営協議会の委員となり、今年で2年目を迎えた。作業部会2つの副部会長を担うことができ、行政の取り組みを学ぶ機会となった。

## VII 次年度の目標

教育に関しては、引き続き講義・演習・実習の質の向上をはかる。研究に関しては、研究資金の獲得に努力し学会発表や論文投稿を行う。社会貢献に関しては、墨田区の介護保険事業運営協議会の委員が最終年となるため、副部会長としての役割を総括する。また、次年度に向け、ほい大健康プログラムの担当となったため、地域の健康づくりへの貢献に力を入れたい。

## 講師 植田 麻実 Ph. D. (第二言語習得)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

所属委員会が変わり、学生・進路支援委員会に所属する事となったため不明な点があれば早急に明らかにし、業務を行っていく。教育に関しては、今まで同様に学生に誠意を持って接し、双方向の授業を心がける。研究では昨年度から引き続き日本をとりまく多言語・多文化社会の状況と英語教育との関わりについてリサーチを進める。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・体験ゼミナール.
  - ・英語II (英会話).
  - ・英語III (講読・記述).
  - ・英語IV (英語コミュニケーション).
  - ・英語V (保健医療英語) 看護学科.
  - ・英語V (保健医療英語) 栄養学科.
  
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)
  - ・日本語. (防衛大学校).

### III 研究記録

#### 1 著書

- ・植田麻実・阿部恵美佳・杉野俊子：Q31, 植田麻実：Q49, 英語とつきあうための50の問い(初版) (JACET 言語政策研究会編著), 2019年, 明石書店, 東京.

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・Ueda, M., Sugino, T., & Abe, E. :Is English a sufficient Lingua Franca to facilitate communication with foreigners in Japan?. *Selected Papers from the Twenty-eighth International Symposium on English Teaching*, 203-211, 2019.
- ・久松美佐子, 堤由美子, 西田伊豆美, 荒井春生, 植田麻実, 小玉博子, 平田直美. 緩和的化学療法を受けているがん患者の配偶者の気持ちの不安定さに関わる要因の探求. *Palliative Care Research*. 227-235. 2019.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・植田麻実, 荒井春生, 久松美佐子:日本語を母語としない患者へのコミュニケーション手段についての看護学生教育のニーズ分析—必要なのは医療英語(ESP)あるいは「やさしい日本語」を含む他の言語か. 第24回日本緩和医療学会, 2019年6月21日, パシフィコ横浜.
- ・荒井春生, 久松美佐子, 植田麻実:上顎洞がんを合併した統合失調症患者を看取った看護師の語りの分析—単科精神病院で看取る意味の解明—. 第24回日本緩和医療学会, 2019年6月21日, パシフィコ横浜.
- ・植田麻実, 杉野俊子, 荒井春生, 阿部恵美佳, 久松美佐子:H30-19 English for Specific purposes (ESP) とやさしい日本語でのインストラクションに関する看護学生のニーズ分析のための文献レビュー. 第10回共同研究会発表会. 2019年8月28日. 千葉県立保健医療大学.

・植田麻実：多文化・多言語社会における「共通言語とは」．日本実用英語学会第44回年次大会．2019年9月8日．早稲田大学．

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

・2019年度学長裁量費研究，日本語を母語としない在留外国人とのコミュニケーションに必要な言語に関する一考察，研究代表者．

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 5 学会，学術団体への貢献

##### 1) 所属学会・学術団体

・日本実用英語学会．The Japan Association for Language Teaching (JALT)．日本緩和医療学会．JACET 言語政策研究会．

##### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名．役職．活動期間）

・The Japan Association for Language Teaching．日本語投稿論文査読・日本語への翻訳委員：TLT Journal April/May号．

・JALT 刊行雑誌 TLT Journal 日本語 副編集長：TLT Journal 2019年 June/July号，August/September号，October/November号，December，2020年 January号，February? March号に寄稿された英語論文の日本語アブストラクト部分の査読校正（現在に至る）．

#### 7 その他

・ミュゼ・スワロー，2012～現在．仮設住宅，老人ホーム等への歌と楽器演奏による訪問（2019年2月9日東京都新宿区リアンレーブ高田馬場にて活動）．

### V 管理・運営記録

#### 1 全学委員会（委員会名／活動名称．活動期間は特に記載のない限り年度内）

・学術推進企画委員会．共通教育運営会議．

#### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称．活動期間は特に記載のない限り年度内）

・看護学科学学生委員会．体験ゼミ作業部会．担任リーダー（1年生）．

### VI 評価（成果および改善すべき事項）

国際学会である The Japan Association for Language Teaching (JALT) が隔月で発行している学術ジャーナルである JALT の日本語への翻訳と日本語要旨部分の査読を続けてきたが June/July 号から副編集長となった．それまでと違い，掲載予定すべての日本語部分に目を通し3段階に亘り編集長と二人で作業をする事でジャーナルの質を保ちまた機会を与えるという貢献ができたことが成果である．自分自身の研究があまり進められなかったことが改善すべき事項である．

### VII 次年度の目標

学生委員会では3年生へのアンケートをとったり，4年生を迎えるのを運営する仕事ができ，また，担任リーダーとしても，1年生全体の声をまとめる仕事などをする機会があった．これらの経験を活かし来年度の1年生が快適な学校生活ができるため仕事をしていく所存である．

## 講師 石川 紀子 博士 (看護学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2019年度は、領域の教員間で連携を図りながら、講義・演習を行うと共に、臨床側と連携を図りながら実習運営に努める。研究活動では、新たに取り組む研究の代表者として、研究計画に沿って必要な活動を推進していく。大学運営では、学科内で与えられた役割を確実に遂行していく。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・体験ゼミナール.
  - ・小児看護学方法論Ⅰ.
  - ・小児看護学方法論Ⅱ.
  - ・小児看護学実習.
  - ・総合実習.
  - ・看護研究
  - ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所)

- ・石川紀子：第16章 眼疾患と看護 A看護総論，C疾患をもった子どもの看護，小児臨床看護各論（系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2）第14版（著者代表：奈良間美保），p.452. p.465-468. 2020年1月，医学書院，東京.
- ・石川紀子：第17章 耳鼻咽喉疾患と看護 A看護総論，C疾患をもった子どもの看護，小児臨床看護各論（系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2）第14版（著者代表：奈良間美保），p.470. p.480-484. 2020年1月，医学書院，東京.

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線)

- ・西野郁子，石川紀子，齊藤千晶，中山静和. 食物アレルギーをもつ子どもの小学校入学に向けた親と学校との相談. 千葉県立保健医療大学紀要. 第11巻，第1号，p.19-25，2020年.
- ・中山静和，西野郁子，石川紀子. 保育所看護職が認識している「気になる子」への保健活動の実態. 千葉県立保健医療大学紀要，第11巻，第1号，p.58，2020年.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル，主催学会 (学会名称)，開催日，場所等，本人下線)

- ・西野郁子，石川紀子，中山静和：食物アレルギーをもつ子どもの小学校入学時の親と学校との相談と連携，第66回日本小児保健協会学術集会，2019年6月21日，東京都.
- ・石川紀子，出野慶子：食物アレルギーをもつ子どもとそのきょうだいを育てる母親の子育て力向上を目指したプログラムの開発，日本小児看護学会第29回学術集会，2019年8月4日，札幌市.
- ・中山静和，西野郁子，石川紀子. 保育所看護職が認識している「気になる子」への保健活動の実態. 千葉県立保健医療大学 第10回共同研究発表会，2019年8月28日，千葉市.
- ・中山静和，西野郁子，石川紀子：保育所看護職が認識している「気になる子」への保健活動の実態と課題，第31回全国保育園保健研究大会，2020年2月1日，京都市.

## 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・文部科学省科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C））、小学校入学に向けた幼児期からの慢性疾患患者への支援プログラムの開発、研究分担者。
- ・文部科学省科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C））、「気になる子ども」に対する保育施設での発達支援に向けた基盤的研究、研究分担者。
- ・令和元年度千葉県立保健医療大学学内共同研究（一般）、小児病棟に配属異動となった看護師が経験する困難と教育ニーズの実態、研究代表者。
- ・令和元年度千葉県立保健医療大学学長裁量研究、医療専門職を目指す大学生が在学中のボランティア活動より得た経験、研究代表者。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

#### 1) 千葉県内

- ・千葉県こども病院でのボランティア活動「入院している子どものきょうだいとの遊び活動」の推進のための協働と調整。2019年4月～2020年3月。

### 4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・公益財団法人千葉県看護協会、千葉地区部会教育幹事。2019年4月～2020年3月。

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本小児看護学会、日本小児保健協会、日本家族看護学会、日本小児がん看護学会、日本看護科学学会、千葉看護学会、全国保育園保健師看護師連絡会。

#### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本小児看護学会、日本小児看護学会誌、査読委員。2019年4月～2020年3月。
- ・日本小児看護学会第30回学術集会、査読委員。2020年2月～3月。

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・千葉県看護教員養成講習会 講師、千葉県看護協会、看護研究演習 第6回目、看護職対象。2019年12月18日、千葉県ナースセンター。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教務委員会、看護学科「総合実習」作業グループ、指定規則改正作業部会。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、前年度の学生からのアンケート調査から改善すべき点を意識して、講義や演習を実施することができた。また実習では臨床側と密にコミュニケーションを図ることで、安全に進めることができた。研究活動では、研究代表者として取り組んだ2つの研究について、研究計画に則り調査を進めることが行いうることができた。大学運営では、委員会活動では、与えられた役割や業務を滞りなく進めていくことができた。社会貢献では、職能団体での役割を踏まえ、看護職の生涯

教育事業に貢献することができた。

## VII 次年度の目標

教育活動では、今年度得られた振り返りを基に、講義・演習・実習を進めていく。研究活動では、今年度で終了した研究課題で得られた知見について公表を進めていくと共に、新たな研究課題の検討・実施を進めていく。社会貢献では、地域のニーズに応える活動を継続していく。

## 講師 今井 宏美 修士（保健学）

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2019年度は引き続き、モバイルシミュレータの開発研究を遂行し、その成果をまとめ、論文投稿を行っていく。教育活動においては、新々カリキュラムと現行カリキュラムの併用年度となるが、各学年に応じた教授内容の質を保証していく。併せて、全学および学科内委員会等における役割を遂行していく。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
  - ・体験ゼミナール。
  - ・看護学原論。新々カリ
  - ・看護技術論Ⅰ（生活援助技術）。新々カリ
  - ・看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント）。新々カリ
  - ・看護技術論Ⅲ（フィジカルアセスメント）。
  - ・看護技術論Ⅳ（検査治療技術）。
  - ・看護技術論Ⅴ（看護過程展開技術）。
  - ・基礎看護学実習。
  - ・感染看護学。
  - ・看護研究。
  - ・看護学統合。

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・看護師国家試験問題集，2019，医学書院，東京。
- ・茂野香おる，有田清子，榎本麻里，今井宏美，坂下貴子，高橋裕子，屋宜譜美子ほか系統看護学講座専門分野Ⅰ基礎看護技術Ⅱ基礎看護学③第17版，2019. 1，医学書院，東京。

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・今井宏美，麻賀多美代，松井恭平，三澤哲夫：歯磨き練習モジュールの開発と自己学習の教育教材としての提案，人間工学，55巻，4号，126-132，2019。

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・今井宏美，麻賀多美代，木村亜由美，椿祥子，麻生智子，河部房子，三澤哲夫：Tooth brushing practice moduleの有効性の検討，産業保健人間工学会第24回大会，抄録集50-51，10月20日，千葉工業大学。

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C），質の高い口腔ケア技術獲得に資する現実適合性の高いモバイルシミュレータの開発と検証，研究代表者。
- ・科学研究費補助金基盤研究（C），看護師の臨床判断事例に基づくフィジカルアセスメント学習教材の開発，研究分担者。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護研究学会, 日本環境感染学会, 日本看護教育学会, 日本看護技術学会, 日本看護科学学会  
お茶の水看護学研究会, 口腔保健協会学会, 口腔衛生学会, 日本歯科医学教育学会, 日本歯科衛生教育学会,  
勤務環境改善マネジメント研究会, 人間工学学会, 産業保健人間工学学会.

#### 2) 学会、学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本人間工学会関東支部第49回大会 大会運営委員.
- ・労働科学査読委員.

### 6 講演会(公開講座を含む)／研修会の講師・研究指導等(会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・2019年度看護研究研究指導, 千葉市海浜病院, 2019年4月～2020年3月.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会(委員会名／活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教育研究年報作成部会.

### 2 学科／専攻内委員会(委員会名／活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科教務委員会, 看護学科入試検討委員会, 看護学科運営委員会.

### 3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等>

- ・SimSim 71周年特別号.

## VI 評価(成果および改善すべき事項)

研究活動においては、当初の目標とおりに論文投稿を行うことができ、1編は既に発行された。教育活動においては、欠員等による業務負担が大きかったものの、他学科の科目責任者・非常勤講師・育休代替え教員の先生方と協働し、学生には支障がない教育内容を教授できるよう取り組んだ。組織内活動においては特に看護学科教務委員会カリキュラム実施部会長としてオリンピック開催予定による学年歴変更に伴う調整、COVID-19の影響による時間割変更等に尽力を尽くした。

## VII 次年度の目標

2020年度はCOVID-19の影響によって生じたOnline授業、特にOnlineでの技術演習の展開はカスタマイズされた教材でもあることから反復練習を可能とする反面、学習者の勤勉性によって技術習得の差異が生じる可能性があるため、学生間・学生-教員間の共感力に配慮しながらの授業展開を検討し、新たな教育方法を確立していきたい。研究活動は競争的資金・外部資金獲得を目指し、その時代のニーズにあった研究を担っていく。また未投稿になっているデータを論文として投稿していくことを目標とする。

## 講師 富樫 恵美子 修士（スポーツ健康科学）

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和1年度は特に、領域の授業及び実習において、シラバスに掲げた到達目標に向けて質が高くなるよう工夫し、相互作用での学びを体験できるよう関わっていく。また、学内共同研究に取り組み研究成果としてまとめ発表の準備を行う。学内の委員会活動においてはその役割を果たしていく。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
  - ・看護管理学.
  - ・看護管理学実習.
  - ・看護キャリア発達論.
  - ・リーダーシップ論.
  - ・看護倫理.
  - ・基礎看護学実習.
  - ・総合実習.
  - ・専門職間の連携活動論.
  - ・看護研究.
  - ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・富樫恵美子、岩浅巧、林英範、芳地泰幸、山田泰行、岡田綾、水野有希、水野基樹：病棟に勤務する看護師の職務満足とチームワークに関する一考察—看護師のキャリア開発からのアプローチ—、第54回人類労働学会全国大会、6月30日、日本女子体育大学.
- ・水野基樹、芳地泰幸、山田泰行、岩浅巧、富樫恵美子、岡田綾、會田秀子、林英範、水野有希：研究者から看護師への研究結果フィードバックの科学的有用性に関する検討—看護組織のコミュニケーション調査を中心にして—、第23回日本看護管理学会学術集会、8月24日、朱鷺メッセ.
- ・富樫恵美子、岩浅巧、林英範、芳地泰幸、山田泰行、岡田綾、水野有希、水野基樹：看護組織における職務満足と音声病態分析技術を用いた心の活動量との関連—看護師のキャリア段階からのアプローチ—、産業保健人間工学会第24回大会、10月20日、千葉工業大学津田沼校舎.

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究、A県内にある一般病院に勤務する看護師長のセカンドキャリアに関する意識調査、研究分担者.

#### 6 受賞・特許

- ・第23回日本看護管理学会学術集会ポスター賞、研究者から看護師への研究結果フィードバックの科学的有用性に関する検討—看護組織のコミュニケーション調査を中心にして—.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護管理学会、日本医療マネジメント学会、人類動態学会、産業保健人間工学会。

### 7 その他

- ・高校訪問、千葉県立我孫子高等学校、進路説明会、2019年11月13日。
- ・高校訪問、千葉県立君津高等学校、模擬授業、2019年11月28日。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・危機管理委員会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科／学生・進路支援委員会／国試担当／卒業生・同窓会担当。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

領域の授業においては、より理解が深まるよう臨床現場に近づけた内容を工夫し、年間を通して理解できたとの評価であった。実習では、その学年での学習深達度を考慮した支援方法が課題となった。学内での委員会活動では、他の委員と協力し開学10周年記念事業に携わり、多くの卒業生や在籍していた教員との交流の場を持つ役割が果たせた。学内共同研究では、研究を実施し結果から成果をまとめる段階に至った。

## VII 次年度の目標

教育活動において、学生がより主体的に学べるように意見を取り入れ、改善を進めながら授業や実習を展開していく。研究では、学内共同研究の発表を行い、更に外部資金獲得に向けての研究計画を立案する。また、学外での民間病院との共同研究を発表できるよう準備する。委員会では、その職務を遂行しマニュアルを整備しながら、よりよい環境・組織となるように役割を果たしていく。

## 講師 加藤 隆子 博士 (看護学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

新任の教授を迎え、新しい体制となったため領域の運営が円滑に行くよう、教育活動の質が向上するように教員間で連携を図りながら率先して役割を果たしたい。教育活動では講義や演習、実習内容を見直し、学生が主体的に考えられるような内容や教材を工夫したい。具体的には、学修課題を検討し、学生自身がどのような看護を行いたいと考えられるような内容にする。研究活動については、研究のフィールドを広げ、データ収集し学会発表、論文投稿の準備を進める。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・精神看護学方法論.
  - ・精神看護学実習.
  - ・精神看護学概論.
  - ・こころの健康と看護.
  - ・看護研究.
  - ・総合実習.
  - ・看護学統合.
  - ・体験ゼミナール.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)
  - ・チーム医療演習 (植草大学).

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線)

- ・加藤隆子, 渡辺尚子, 中村博文, 小山均: 精神科受療行動からみた青年期にある患者のメンタルヘルスに関する探索的研究. 日本精神科学術集会誌. 61巻2号. 286-290. 2020.
- ・渡辺尚子, 中村博文, 加藤隆子, 阿部準子: 精神看護学実習における病棟特性の違いから学生が捉える精神障がい者の社会復帰について. 東邦大学健康科学ジャーナル. 第2巻. 3-10. 2019.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル、主催学会 (学会名称)、開催日、場所等、本人下線)

- ・加藤隆子, 齋藤直美, 渡辺純一, 渡辺尚子: ト라우マにより生きにくさを抱えた患者に対する精神科看護師の看護支援 患者の肯定的な変化に着目して, 第29回日本精神保健看護学会, 2019年6月8日～9日, 名古屋.
- ・加藤隆子, 齋藤直美, 渡辺純一, 渡辺尚子: ト라우マにより生きにくさを抱えた患者に対する精神科看護師の看護支援の現状と課題. 第39回日本看護科学学会, 2019年11月30日～12月1日, 金沢.
- ・渡辺尚子, 中村博文, 加藤隆子, 阿部準子: 精神看護学実習における実習時期と学生の体験の比較, 第39回日本看護科学学会, 2019年11月30日～12月1日, 金沢.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名、研究テーマ、研究代表者/研究分担者)

- ・2019年度学内共同研究, ト라우マにより生きにくさを抱えた人を地域で支援する援助者の体験と教育支援ニーズ, 研究代表者.

- ・科研費補助金基盤研究 (C), 精神科病棟の看護における EBP の実践適用ツールおよびモデルの開発. 科学研究費助成事業基盤 C, 研究分担者.

#### IV 社会貢献・国際交流記録

##### 5 学会, 学術団体への貢献

###### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会, 日本精神保健看護学会, 日本トラウマティック・ストレス学会, 日本保健医療行動科学学会, 日本精神科看護協会.

##### 6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・一般社団法人日本精神科看護協会 精神科認定看護師養成研修会, チーム医療 チームアプローチ論, 精神科認定看護師資格取得を目指す者, 2019年7月9日, 東京.
- ・一般社団法人日本精神科看護協会 精神科認定看護師養成研修会, チーム医療 チームアプローチ論, 精神科認定看護師資格取得を目指す者, 2019年7月23日, 京都.
- ・千葉県看護協会 千葉県看護教員養成講習会, 看護研究演習, 看護職者, 2019年12月16日, 千葉県ナースセンター.

#### V 管理・運営記録

##### 1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・認証評価部会.

##### 2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科学生進路支援委員会.

#### VI 評価 (成果および改善すべき事項)

新任の教授を迎え領域内の運営が円滑にいくよう, コミュニケーションを図りながら率先して役割を果たすことができた. 教育活動では講義や演習, 実習内容の充実を図るために教員間で意見交換を行いながら教材や実習記録の見直しを進めた. 精神看護学実習においては新しい実習記録の様式を用いて, 学生が効果的に学習を進められるよう, 教員間および臨床指導者と連携することができた. その結果, 患者を統合体として見る学生の視点が広がった. 研究活動では, 新しくフィールドを3施設開拓し研究を進め, 学会発表を行い, 論文投稿の準備ができた.

#### VII 次年度の目標

助教欠員でのスタートになったが, 領域運営では教授と連携を図りながら積極的に役割を果たしたい. 新規実習施設も増えるため, 施設の担当者との関係性を構築し, 学生が良い学びができるよう実習環境を整えたい. また, 本年度はCOVID-19により遠隔授業でのスタートとなったが教育の質を維持し, 学生への課題や講義内容の工夫を図り, 学生自身が学んでいける環境を整えたい. 研究活動では, 科研費の獲得ができたため, 引き続き研究を進めていく. さらにCOVID-19の関係で派遣要請があった場合には積極的に応じて, 県職員としての役割を果たしたい.

## 講師 高山 京子 博士 (看護学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2019年度は、担当する講義・実習科目について、より学生の理解が深まるような教授方法を検討・工夫する。大学の管理運営は、所属する委員会において積極的にできることを実施し円滑に事業がすすむよう努める。新規研究課題については、計画的に進められるように取り組んでいく。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・成人看護学方法論Ⅰ.
  - ・成人看護学方法論Ⅱ.
  - ・がん看護学.
  - ・成人看護学実習 (慢性期).
  - ・総合実習.
  - ・看護研究.
  - ・看護学統合.
  - ・看護ふれあい体験学習.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)
  - ・がん看護学特論Ⅲ (福井大学大学院).
  - ・臨床薬理学 (聖隷クリストファー大学大学院).

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線)

- ・片岡純、佐藤まゆみ、佐藤禮子、森本悦子、高山京子、阿部恭子、塩原由美子、大内美穂子：外来通院がん患者が主体性を発揮して行動するために重要と評価する看護実践、愛知県立大学看護学部紀要、第25巻、47-56、2019.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C)、骨転移に放射線治療を受けるがん患者の至適生活を支援する看護プログラムの洗練、研究代表者.
- ・科学研究費補助金基盤研究 (B)、外来通院がん患者の主体性を活かして行う実践のための外来看護師育成プログラムの洗練、研究分担者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本がん看護学会、日本看護科学学会、日本看護管理学会、千葉看護学会、せいれい看護学会、日本臨床腫瘍学会、日本がんサポーターシップケア学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・千葉看護学会, 広報委員, 2018年4月1日～現在に至る,
- ・日本臨床腫瘍学会, 骨転移診療ガイドライン改定版作成WG委員, 2019年6月～現在に至る,
- ・日本がんサポーターブケア学会, 骨転移と骨の健康部会 部会員, 2019年7月1日～現在に至る,

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・千葉県がんセンターの看護研究指導, 看護師, 年4回, 千葉県がんセンター,
- ・東京歯科大学市川総合病院の看護研究指導, 看護師, 年4回, 東京歯科大学市川総合病院,

## V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・研究倫理審査委員会,

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教務委員会, 入試検討委員会,

## VI 評価 (成果および改善すべき事項)

担当する講義科目については, 昨年度学生のレスポンスシート内容を踏まえて資料や説明の改善を行い, 学生の学びの記述から概ね理解を得られた内容であったと考えられる。また, 大学外の活動についても積極的にを行い, 与えられた役割を果たすことができた。研究活動については, 本年度計画した課題はおおむね達成することができた。

## VII 次年度の目標

担当する講義・実習科目について, より学生の理解が深まるような教授方法を検討・工夫する。大学の管理運営は, 所属する委員会において積極的にできることを実施し円滑に事業が進むよう努める。研究課題については, 計画的に進められるように継続して取り組んでいく。

## 講師 川村 紀子 博士 (看護学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育について、学生の教育目標を達成できるように、講義・演習・実習における学習効果を再検討し、その効果の実現を図る。また、学生個々のレジネスを把握し、その指導内容を工夫する。研究活動は、保健医療に貢献できる充実した研究内容を目指し、研究計画の実施及びその成果をまとめる。大学の管理運営について、円滑な委員会運営となるよう業務を遂行する。社会貢献活動に積極的に参加し役割を遂行する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・母性看護学方法論Ⅰ.
- ・母性看護学方法論Ⅱ.
- ・母性看護学実習.
- ・助産診断・技術学Ⅰ.
- ・助産診断・技術学Ⅱ.
- ・助産診断・技術学Ⅲ.
- ・助産診断・技術学Ⅳ.
- ・助産学実習Ⅰ (産婦ケア体験).
- ・助産学実習Ⅱ (継続支援).
- ・助産学実習Ⅲ (分娩期ケア).
- ・総合実習.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所)

- ・石井邦子, 川村紀子, 杉本亜矢子, 大月恵理子, 青木恭子, 千葉真希子, 山本英子：看護師国家試験問題集 2020 年度版 第 108 回看護師国家試験 解答と解説 母性看護学, 2019, 医学書院, 東京.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・川村紀子, 高橋眞理：助産師の分娩期におけるヒヤリ・ハット事例の収集, 日本母性看護学会 (第 21 回日本母性看護学会学術集会), 2019 年 6 月 15 日, 広島.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・2018～2020 年度 科学研究費補助金基盤研究 (C), 助産師の分娩期の危険予知能力を高めるためのトレーニング教材の開発, 研究代表者.
- ・2017～2019 年度 科学研究費補助金基盤研究 (C), 産後ケアシステムにおける看護専門職と育児支援人材のコラボレーションモデルの開発, 研究分担者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本母性看護学会、日本助産学会、日本看護科学学会、日本母性衛生学会、千葉看護学会。
- 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）
  - ・日本母性看護学会誌、編集幹事、2015年7月24日～2019年6月15日。
  - ・日本母性看護学会第23回学術集会、企画委員、2020年3月26日～現在に至る。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・図書委員会、社会貢献委員会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議、看護学科総務・企画委員会。

### 3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・ホームページ：千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学  
(<http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm/>)。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育について、講義内容及び指導内容を再検討し、講義・演習・実習等の一貫性をもち、説明内容を工夫することで学生の反応より学習効果が向上したと評価する。学生の反応や理解度をよく観察するようにし、学習状況に応じて指導内容を工夫した。研究活動は、限られた時間の中で計画的に研究計画内容を進め、研究成果を得ることができた。大学の管理運営について、業務を遂行するために教職員方に助言を受けながら役割責任を担い運営を円滑にすることができた。また、社会貢献活動に積極的に参加し、関係者に協力・助言を受けながら役割遂行を担うことができた。

## VII 次年度の目標

教育について、教育目標を達成できるように、講義・演習・実習における学習効果を再検討し、より充実した内容の実現を図る。また、学生個々のレジネスに応じた指導方法や内容を検討する。研究活動は、これまでの研究成果をまとめ、論文投稿などで報告する。大学の管理運営について、円滑な委員会運営となるよう業務を遂行する。社会貢献活動では、学術集会の企画など積極的に活動し役割を遂行する。

## 講師 佐伯 恭子 修士 (人間科学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和元年度は、教育活動については、学生の理解や関心がより高まるような講義、演習、実習となるよう工夫していく。研究活動については、研究費の獲得や研究成果の発表を目指す。社会貢献については、教育研究活動と関連したものに取り組むことで地域での貢献につなげていく。大学運営および委員会活動については、与えられた役割の責務を果たせるように周囲と協力して取り組む。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・体験ゼミナール.
  - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ.
  - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ.
  - ・高齢者看護学実習.
  - ・総合実習.
  - ・看護研究.
  - ・看護学統合.
  - ・ターミナルケア論.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・杉本知子, 相馬由紀子, 上野佳代, 佐伯恭子, 高柳千賀子, 鳥田美紀代: 医療・介護施設における外国人労働者の定着に向けた取り組みの実態, 千葉県立保健医療大学紀要. 11 (1), 2020.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・Tomoko Sugimoto, Kazue Mori, Chikako Takayanagi, Mikiyo Torita & Kyoko Saeki: Examination of the utility of the skill up education framework. 11<sup>th</sup> International Association of Gerontology and Geriatrics (IAGG) Asia/Oceania Regional Congress. Oct. 2019. Taipei.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学長裁量研究費, 認知症の人を対象とした看護・介護・リハビリテーション領域の介入研究における倫理的配慮のためのガイドの開発, 研究代表者.
- ・平成 28-31 年度科学研究費基盤 (C), がん高齢者の地域生活への意向と継続を支援する看護師のスキルアップ教育枠組みの構築, 研究分担者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

- 1) 千葉県内
  - ・認知症の人と家族の会 千葉県支部 若年性認知症の人と家族の集い 2019年5月26日. 千葉みなと.

## 5 学会, 学術団体への貢献

### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本生命倫理学会, 日本医学哲学・倫理学会, 日本看護科学学会, 日本看護倫理学会, 日本老年看護学会, 千葉看護学会.

### 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本看護倫理学会, 評議員, 2012年5月～現在に至る.
- ・日本看護倫理学会, 日本看護倫理学会誌 査読.

## 6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・2019年度千葉県看護教員養成講習会, 看護論演習, 2019年6月11日, 千葉県ナースセンター.
- ・チーム医療 (東京, 京都), 演習補助, 一般社団法人日本精神看護協会, チームアプローチ論2, 精神科認定看護師資格取得を目指す者, 2019年7月11日 (東京), 2019年7月23日 (京都).

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・学術推進企画委員会, キャンパス・ハラスメント相談員.

### 2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科運営会議, 看護学科学生・進路支援委員会 (進路支援部会長), 看護学科1年生担任, 総合実習作業部会.

## VI 評価 (成果および改善すべき事項)

令和元年度は, 特に社会貢献活動において新しい取り組みを行うことができた. 一方で, 研究活動については, データ収集と分析, 論文文化に向けて取り組む時間の確保には努めたが, 学会発表や論文投稿につなげることができなかった.

## VII 次年度の目標

令和2年度は, いずれの活動においても COVID-19 による影響を受けると考えられる. その中で, 教育活動については, 遠隔でも科目の到達目標を達成できるよう工夫して取り組み, 委員会活動では進路支援部会長として, コロナ禍でも学生ができるだけ不安なく就職進学活動に臨めるような支援を検討する. 研究活動については, 昨年度の分を挽回すべく成果を公表できるよう計画的に取り組んでいく.

## 講師 杉本 健太郎 博士 (看護学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育に関しては、より保健師国家試験の試験範囲・出題傾向とリンクさせた授業内容を意識して行い、学生が早期から国家試験対策を意識できるよう支援していく。また、今年度見出された課題（演習の効果的・効率的運営）の改善に向けて取り組んでいく。研究については、次年度最終年度を迎える、自身が研究代表を担う課題について引き続き計画的に実施し、研究成果を地域に還元していく。また、これまでに得られた研究知見から見出された新たな研究課題にも取り組んでいく。社会貢献については、県内の保健福祉サービスの質の向上に向けてより一層役割を果たせるよう努める。大学の運営管理については、次年度担当する業務について、責任を持って役割を遂行する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・専門職間の連携活動論.
- ・地域看護学概論.
- ・地域看護学方法論Ⅱ.
- ・地域看護学方法論Ⅲ.
- ・地域看護学実習.
- ・総合実習（地域看護学）.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・土肥 眞奈，杉浦 由美子，杉本 健太郎，柏木 聖代，岡本 瞳，叶谷 由佳：急性期病院看護師を対象とした「高齢者の視点を重視した認知症患者への対応」教育プログラムの効果，日本看護管理学会誌，23巻，1号，11-18，2019.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・杉本健太郎，柏木聖代：サービス付き高齢者向け住宅の介護職員が捉える施設内看取りに対する入居者・家族の満足に寄与する要因，第9回日本在宅看護学会学術集会，2019年12月7日，東京都看護協会会館.

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費助成事業（若手研究（B））2016-2019，サービス付き高齢者向け住宅における看取りの質評価指標の開発，研究代表者.
- ・学長裁量研究 2019，医療職配置義務のない高齢者施設・住宅における感染症集団発生及び入居者の重症化を防ぐ方策の検討，研究代表者.
- ・科学研究費助成事業（基盤研究（C））2019-2022，エンパワメント基盤型介護予防実践支援ガイドの開発，研究分担者.
- ・科学研究費助成事業（基盤研究（B））2018-2021，地域包括ケアシステムに貢献できる看護職コンピテンシー育成プログラムの開発，研究分担者.
- ・科学研究費助成事業挑戦的研究（萌芽）2017-2019，高齢者介護家族を含めたマルチプルケア（多重介護）の実態と概念化，研究分担者.

- ・科学研究費助成事業（基盤研究（C））2015-2019，災害時の共助を意図した住民主体の健康な地域づくりを推進する行政保健師の活動指針，研究分担者。
- ・科学研究費助成事業（基盤研究（C））2016-2019，保健師活動への意欲を原動力にしてリーダーシップを発揮するためのガイドの開発，研究分担者。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・柏市保健衛生審議会特別委員（健康増進専門分科会）2019年7月～現在

### 5 学会，学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本公衆衛生学会，日本地域看護学会，日本看護科学学会，日本在宅看護学会，日本在宅ケア学会，日本運動器看護学会，日本看護管理学会，日本健康医学会，日本高齢者ケアリング学研究会。

#### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本在宅看護学会，編集委員，査読委員，2018年9月17日～現在
- ・日本看護科学学会，査読委員，2019年10月～現在

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催，団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・業務研究に関する指導，市川市役所南行徳保健センター。「より良いプレ親学級を目指したアンケートの検討」に関する研究の進め方やまとめ等の指導・助言，市川市役所南行徳保健センター，2019年9月～2019年1月，市川市役所南行徳保健センター。
- ・保健師活動に必要な実践能力を高めるリフレクション力の修得をめざしたワークショップ，千葉県立保健医療大学健康科学部看護学科健康支援看護領域，新人保健師が保健師活動に必要な実践能力を高めるリフレクション力の修得をめざすワークショップ，千葉県内2017・2018・2019年度新規採用保健師，2019年11月2日，12月21日，2020年2月15日，千葉県立保健医療大学。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・研究倫理審査委員会，キャンパス・ハラスメント相談員。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教務委員会，看護学科担任。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育に関しては，事例演習等のアクティブラーニングに加え，授業内容と国家試験過去問題を交互に説明・解説する形式を取り入れたことにより，一部学生からは「保健活動のイメージができた」，「国家試験対策に意識を向けるきっかけになった」等の反応が得られ，一定の成果を得られたと考えられる。研究については，今年度得られた知見を学術学会で発表した。また，当該知見を発展させた新たな研究計画を立案し，次年度外部研究資金獲得に向け申請を行った。社会貢献については，自治体の審議会委員や学会委員を積極的に引き受けた。大学の管理・運営については，所属する委員会における担当業務の円滑な遂行に努めた。

## VII 次年度の目標

教育に関しては、COVID-19の影響が危惧されるところであるが、学びの内容・質を維持できるよう、教育方法を工夫・検討していく。また、実習に関しては、新たな非常勤助手を迎える予定であるため、当該新任助手が円滑に教育に参加できるよう、十分な事前説明、臨地での指導の共有等に努め、教育の質の維持・向上を目指す。研究活動については、今年度新たに計画した研究について、研究分担者と連携しながら着手するとともに、これまで得られた知見を論文化する。社会貢献については、県内の保健福祉サービスの質の向上に向けてより一層役割を果たせるよう努める。大学の運営管理については、大部分が今年度と同じ役割となるため、今年度の経験を活かし、円滑に業務を遂行する。

## 講師 大内 美穂子 修士 (看護学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和元年度は、講義・実習科目は、学生の興味を深められるように教授方法を検討していく。医療の進歩に伴い、最新の知識を学生にも教授できるように積極的に自ら学習に取り組む。研究は、共同研究者として役割を果たしながら研究能力を向上し、自分の研究を遂行できるように取り組む。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・成人看護学方法論Ⅰ.
  - ・成人看護学方法論Ⅱ.
  - ・がん看護学.
  - ・成人看護学実習 (急性期).
  - ・総合実習.
  - ・看護研究.
  - ・看護学統合.
  - ・看護学入門実習.
  - ・専門職間の連携活動論.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・佐藤まゆみ, 片岡純, 佐藤禮子, 森本悦子, 高山京子, 阿部恭子, 塩原由美子, 大内美穂子 : 外来通院がん患者が主体性を発揮して生活することを支援するために外来看護師が重要と考える看護実践, 医療看護研究会誌, 第16巻, 2号, p34 - 46, 2020.
- ・片岡純, 佐藤まゆみ, 佐藤禮子, 森本悦子, 高山京子, 阿部恭子, 塩原由美子, 大内美穂子 : 外来通院がん患者が主体性を発揮して行動するために重要と評価する看護実践, 愛知県立大学看護学部紀要, 25巻, p47 - 56, 2019.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・Chiemi taguchi, Mayumi Sato, Kayoko Saegusa, Michiyo Asai, Mihoko Ouchi, Yumiko Shiobara, Competencies for simulation education required by facilitators to cultivate clinical judgement ability in intensive care unit nurses, The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, 2020年2月28, 29日, 大阪.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 骨転移に放射線治療を受けるがん患者の至適生活を支援する看護プログラムの洗練, 研究分担者.
- ・科学研究費補助金基盤研究 (B), 外来通院がん患者の主体性を活かして行う実践のための外来看護師育成プログラムの洗練, 研究分担者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

#### 1) 千葉県内

- ・千葉県がんセンターの看護研究指導、看護師、年4回、千葉県がんセンター。
- ・千葉県循環器病センターの看護研究指導、看護師、年3回、千葉県循環器病センター。
- ・神田外語大学との初期医療通訳ボランティア育成研修、9月15日～16日、神田外語大学・千葉県立保健医療大学。

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本がん看護学会、日本看護科学学会、日本看護管理学会、千葉看護学会、日本遠隔医療学会、日本看護学教育学会。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教育研究年報作成部会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教務委員会、看護学科倫理審査委員会。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

研究活動は、来年度の研究実施に向けて、文献検討を行い研究計画を立案した。研究分担者としてインタビューを実施したり、個別分析を実施し、役割を果たせた。講義科目は、学生の評価より、おおむね理解が得られたと評価する。実習科目では、変則実習を行う学生の心理的負担や新型コロナの影響でが実習継続への不安に十分に配慮ながら支援した。今後は、レスポンスシートの意見を反映させ、講義内容の改善を図る必要がある。大学運営では、各委員会において、リーダーを補助する形でメンバーとして貢献できた。

## VII 次年度の目標

今年度は研究分担者としての研究が多く、来年度は自分の研究に時間を確保できるようにしていく。研究をすすめるだけでなく、研究を行うことで発言力や多角的な視野が持てるように、研究者としての成長が得られるようにする。教育内容はカリキュラム編成に向けて講義内容や演習内容を検討し改善していく。

## 助教 上野 佳代 修士（老年学）

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育活動では、引き続き、高齢者看護学実習、総合実習において、学生がより高齢者の看護を深めるために学習効果のある指導方法の工夫を行う。実習施設との連絡調整を密に行い指導環境を整え実習指導に臨む。加えて新たに加わる方法論Ⅰの授業内容の検討と精選に努める。更に、大学における運営（委員会）活動においては教職員と連絡調整を十分行いながら積極的に責務を果たせるように務める。今年度課題となった研究活動については、成果を投稿できるように務め、研究資金の獲得をめざす。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ.
- ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ.
- ・高齢者看護学実習.
- ・総合実習（高齢者）.
- ・体験ゼミ.
- ・看護学統合.

##### 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・老年看護学概論～地域包括ケア拠点まちの暮らしの保健室の実態の紹介～，東京情報大学 看護学部.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・杉本知子，相馬由紀子，上野佳代，佐伯恭子，高柳千賀子，鳥田美紀代：医療・介護施設における外国人労働者の定着に向けた取り組みの実態，千葉県立保健医療大学紀要，10巻，2020.
- ・渡邊智子，東本恭幸，細山田康恵，河野公子，海老原泰代，阿曾菜美，岡田亜紀子，峰村貴央，小川真，上野佳代，鈴木恵子，島田美恵子，麻賀多美代，麻生智子，鈴鹿祐子，雄賀多聡，竹内弥彦，江戸優裕，岡村太郎：千葉県の高齢者ための健康づくりプログラム（いまい大健康プログラム）の開発と評価に関する研究，千葉県立保健医療大学紀要，10巻，2020.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・上野佳代，長田久雄，菊池和美，澤岡詩野，中村桃美：地域におけるインフォーマルな居場所 まちの暮らしの保健室における保健医療福祉の専門職の存在意義，日本応用老年学会，示説，2019.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

##### 2) 千葉県外

- ・まちの暮らしの保健室において，ボランティア看護職として月に1回土曜日に健康に関する講義，企業連携をした健康に関する講義を企画運営，健康相談，荻窪暮らしの保健室（東京都杉並区）.

## 5 学会、学術団体への貢献

### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本老年看護学会、日本老年社会科学会、日本応用老年学会、日本看護科学学会、日本感染看護学会。

## 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・板橋中央総合病院、看護師への看護研究指導、2019年全4回（東京都板橋区）。
- ・我孫子ロイヤルケアセンター、看護師、介護福祉士、社会福祉士への看護研究指導、2019年全2回（千葉県我孫子市）。
- ・神奈川県立保健福祉大学実践教育センター 非常勤講師（グループワークアドバイザー）。「看護教育課程演習（各看護別）」、教員・教育担当者養成課程 看護コースの学生、2019年 全4回（横浜市旭区）。

## V 管理・運営記録

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議・看護学科教務委員会・看護学科入試検討委員会・看護学科1年担任。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、高齢者看護学実習における学内演習講義及び、看護学方法論Ⅱの講義について根拠づけを大切に説明を行い、学生が臨地実習に活かせるように努めた。加えて、特に学生が、認知症高齢者の価値観や世界観に興味関心をもって実習で経験できるように支援し、研究関心にもつなげるようにしたところ一定の成果を得た。

研究活動では、看護系だけでなく、高齢者を対象とした多領域における学際的な学会において、ポスター発表や、シンポジウムへの参加し、最新の看護事情を把握することで、学生指導に活かすことができた。昨年課題であった研究においては学会発表、および成果を投稿することができ査読中である。研究資金の獲得については、科研費のほか「地域生活研究所助成」の申請を行ったが獲得にはいたらなかった。引き続き計画的な研究の遂行と研究資金獲得への努力が必要である。

## 助教 中山 静和 修士（看護学）

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和元年度は、特に小児看護学で担当する講義において、臨地実習および国家試験に結び付く学習内容を検討する。臨床場面で関わることが想定される事例等を用いて、学生の理解が深まるよう努力する。大学運営では、委員会活動において前年度までの経験をもとに、他の委員と密に連携を図りながら、業務遂行を目指す。研究については、獲得した競争的資金をもとに、計画的に進めていくことが目標である。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
  - ・小児看護方法論Ⅰ.
  - ・小児看護方法論Ⅱ.
  - ・小児看護学実習.
  - ・総合実習（小児看護学領域）.
  - ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・西野郁子，石川紀子，斎藤千晶，中山静和：食物アレルギーをもつ子どもの小学校入学に向けた親との学校との相談. 千葉県立保健医療大学紀要，第11巻，第1号，p.19-25，2020年.
- ・中山静和，西野郁子，石川紀子：保育所看護職が認識している「気になる子」への保健活動の実態，千葉県立保健医療大学紀要，第11巻，第1号，p.58，2020年.
- ・中山静和，鈴木千琴，川口千鶴，及川郁子：保育所看護職における学習に関する国内文献検討，小児保健研究，78巻，3号，253-262，2019年.
- ・及川郁子，川口千鶴，中山静和，鈴木千琴：保育所看護職の学習プログラム開発に向けた基礎的研究(2)，東京家政大学生活科学研究所報告，第42集，7-11，2019年.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・中山静和，西野郁子，石川紀子：保育所看護職が認識している「気になる子」への保健活動の実態，第31回全国保育園保健研究大会，2020年2月1日，京都市.
- ・中山静和，西野郁子，石川紀子：保育所看護職が認識している「気になる子」への保健活動の実態，千葉県立保健医療大学第10回共同研究発表会，2019年8月28日，千葉市.
- ・西野郁子，石川紀子，中山静和：食物アレルギーをもつ子どもの小学校入学時の親と学校との相談. 第66回小児保健協会学術集会，2019年6月21日，東京都.

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・文部科学省科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）），小学校入学に向けた幼児期からの慢性疾患患者への支援プログラムの開発，研究分担者.
- ・文部科学省科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）），「気になる子ども」に対する保育施設での発達支援に向けた基盤的研究，研究代表者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本小児看護学会、日本小児保健協会、日本新生児看護学会、日本看護科学学会、日本保育保健協議会、全国保育園保健師看護師連絡会。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議、看護学科入試検討委員会、看護学科総務・企画委員会。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、小児看護学方法論ⅠおよびⅡの講義において、臨床での経験を教材として取り入れ、学生が健康障害を持つ子どもおよびその家族についてイメージできるよう努めた。また、事例でのワークシートを作成し、学習内容を深められるよう努めた。臨地実習では、講義・演習での既習内容を想起させるとともに、看護の視点について理解できるよう指導を行ったことから、学生の実習記録内容に深まりが見られた。委員会活動では、改善を必要とする内容について、関連部署との連携を図りながら新たな様式を作成することができた。研究活動では、これまでの成果を論文および学会発表にて公表することができた。また、競争的資金を獲得することができた。引き続き、計画的な研究活動の遂行に努めたい。

## VII 次年度の目標

講義・演習・臨地実習では、特に発達段階に応じた看護援助について、理解が深まるよう指導内容を検討・工夫していく。委員会活動においては、これまでの経験を活かし、他の委員との報告・連絡・相談を密に行いながら役割が遂行できるよう努力する。また、研究活動においては、計画的に進め、成果を公表できるようにしたい。

## 助教 堀川 英起 修士（看護学）

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2019年度は、特に、3年次生の精神看護学領域の科目（精神看護学方法論、精神看護学実習）において、精神看護学実習記録が大きく見直されるので、精神看護学実習における学生の学びに良い影響が出るように、領域内教員および実習病院スタッフと連携していく。また、研究活動においては、昨年度の学会での口頭報告を踏まえて、論文投稿につなげる。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
  - ・精神看護学方法論.
  - ・精神看護学実習.
  - ・看護研究.
  - ・総合実習.
  - ・看護学統合.
  - ・体験ゼミナール.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・堀川英起・磯野美久・宮本真巳：看護職の役割意識とニーズの充足，精神科看護 46（10），p62-71，2019.
- ・堀川英起：「ヘルス・ケア・システム」の物語——慢性うつ患者の〈自己管理〉とは何か，保健医療社会学論集 30（2），p64-73，2020.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本精神保健看護学会，日本保健医療社会学会.

### V 管理・運営記録

#### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科学学生進路支援委員会，看護学科総務・企画委員会.

### VI 評価（成果および改善すべき事項）

本年度は、3年次生の精神看護学実習記録の大幅な見直しがあったが、領域内教員および実習病院スタッフと連携することを通して、実習中の学生の反応を捉え臨機応変に対応することができた。その結果、精神看護学実習においては十分な学習機会の提供できたと考える。また、研究活動については、本年度当初の目標であった論文投稿を達成できた。

## 助教 椿 祥子 修士 (看護学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和元年度は、教育活動では、担当する講義・演習では、教育目標に沿って学生が理解しやすい授業を行うことが課題である。また、担当以外の講義・演習に関しても、授業者の意図を積極的に把握して、学生が効果的な学習ができるよう準備や実習室環境の整備することが課題である。研究活動では科研費を取得している重症心身障がい児の家族へのインタビュー調査の結果を分析し、学会発表することが課題である。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・体験ゼミナール.
  - ・看護学原論.
  - ・看護技術論Ⅰ (生活援助技術).
  - ・看護技術論Ⅱ (フィジカルアセスメント技術).
  - ・看護技術論Ⅲ (フィジカルアセスメント技術).
  - ・看護技術論Ⅳ (検査治療技術).
  - ・看護技術論Ⅴ (看護過程展開技術).
  - ・基礎看護学実習.
  - ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・椿祥子：幼児期に脳障害を負った中途障害児の急性期における家族のヘルスリテラシーの様相，第45回重症心身障害学会学術集会，2019年9月20日，岡山コンベンションセンター.
- ・椿祥子：幼児期に脳障害を負った中途障害児の家族のヘルスリテラシー—急性期病院の入院期間中について—，第8回日本小児多職種研究会，2020年2月1日，静岡県立大学短期大学部.
- ・今井宏美，麻賀多美代，木村亜由美，椿祥子，麻生智子，河部房子，三澤哲夫：Tooth brushing practice moduleの有効性の検討，産業保健人間工学会第24回大会，抄録集50-51，10月20日，千葉工業大学.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金若手研究 (B)，乳幼児期の重症心身障がい児の家族のヘルスリテラシーの様相の解明，研究代表者.
- ・科学研究費補助金基盤研究 (C)，質の高い口腔ケア技術獲得に資する現実適合性の高いモバイルシミュレータの開発と検証，研究分担者.
- ・科学研究費補助金基盤研究 (C)，看護師の臨床判断事例に基づくフィジカルアセスメント学習教材の開発，研究分担者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本小児保健協会. 日本看護科学学会. 日本看護教育学会. ナイチンゲール研究学会. 千葉看護学会. 文化看護学会

## 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・令和元年度 筑波大学附属桐ヶ丘特別支援学校、障害の重い子どもの理解と指導の仕方～障害児教育の方法論～、母親の障害への向かい方～障害を知った時、母親はどのような情報を得、何を選択していくのだろうか～、特別支援学校教員・訪問看護師、2019年8月11日、筑波大学附属桐ヶ丘特別支援学校。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・認証評価部会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生・進路支援委員会、総務・企画委員会、看護学科運営委員会。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、看護技術論Ⅱ・Ⅲ・Ⅳでそれぞれ講義・演習を担当したが、演習の時間配分が課題であった。2名欠員の中で、新旧カリキュラムが重なり演習が多い状況に対して、準備・片付けを非常勤講師や育休代替職員と協力して行ない、滞りなく演習ができた。研究活動では、科研費を取得し、研究代表者として重症心身障がい児の家族へのインタビュー調査の結果の一部を学会発表した。また、研究分担者として取り組んでいる研究について、共著として学会発表をした。委員会活動では、10周年記念事業の看護学科卒業生・在校生等意見交換会の企画運営を行い、他の役割についても年度当初の役割を遂行できた。

## VII 次年度の目標

教育活動では、新々カリキュラムへの移行や新型コロナウイルス感染症予防対策としての遠隔授業や少人数での演習などに臨機応変に対応し、他教員とコミュニケーションを取りながら、授業と演習が滞りなく進むよう実習室の運営や物品管理を行なっていく。科研費を取得している研究において、インタビュー調査した内容の分析を進め、学会発表と論文投稿することが目標である。

## 助教 増田 恵美 修士（看護学）

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和元年度は、教育活動において母性看護学・助産学領域での教育内容を理解でき、領域内の教員、実習先での臨地指導者と連携を図りながら学生が円滑に実習できるように努める。研究活動では、学長裁量共同研究での研究計画を立て実施し、成果をまとめていく。学生進路委員会において組織運営を理解し、担当する役割を遂行できる。2年生担任では、懇親会等を行いながら学生の把握に努め、必要時に責任者へ報告できるようにしていく。千葉県内における社会貢献活動に参加する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・母性看護学方法論Ⅰ.
- ・母性看護学実習.
- ・助産診断・技術学Ⅰ.
- ・助産診断・技術学Ⅱ.
- ・助産診断・技術学Ⅲ.
- ・助産診断・技術学Ⅳ.
- ・助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）.
- ・助産学実習Ⅱ（継続支援）.
- ・助産学実習Ⅲ（分娩期ケア）.
- ・総合実習.
- ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・増田 恵美：2020年版系統別看護師国家試験問題集 第108回看護師国家試験 解答と解説，2020，医学書院，東京.

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者/研究分担者）

- ・2019年度 学長裁量共同研究，「産後1か月における骨盤周囲の固定による腰背部痛への効果」，研究代表者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 5 学会，学術団体への貢献

##### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会. 日本助産学会. 千葉県母性衛生学会.

##### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本母性看護学会第23回学術集会. 企画委員. 2020年3月26日～現在に至る.

#### 7 その他

- ・放送大学. オンライン教育補助者（特定行為研修演習指導支援者）. 2019年4月1日～2020年3月31日.

## V 管理・運営記録

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議 学生進路支援委員会 看護学科2年生担任

### 3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演 ラジオ出演等＞

- ・ホームページ：千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学  
(<http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm/>).

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動において、母性看護学実習と助産学実習を担当し実習内容の調整や助産計画に対して指導を行った。領域内の教員から助言を受けながら、指導方法を工夫した。実習期間を通して学生が成長した点については、肯定的にフィードバックを行うことで学習意欲を継続できるように努めた。学長裁量研究では、新型コロナの影響でデータ収集が計画通りに進めていくことができず、成果を取りまとめていくことまでは出来なかった。学生進路支援委員会では、助言を受けながら役割を果たせるように協力しながら務めることができた。また、2年生担任での役割を果たし、問題がある時は、責任者へ報告しながら業務を円滑に進めていくことができた。千葉県内における社会貢献は、千葉県母性衛生学会の会計幹事として引継ぎが行われた。来年度は、業務がきちんと遂行できることを課題とする。

## VII 次年度の目標

令和2年度の教育活動においては、学生が目標達成できるように、また、演習や実習においてより良い学習効果が得られるように努めていく。また、新型コロナによる教育方法の変更として、遠隔での講義や演習や実習での環境整備等を整えていく必要があるため教員間で相談しながら、学生が滞ることなく円滑に学習できるように工夫していく必要がある。研究活動においては、学長裁量での研究成果をまとめていき、学会等で報告できるように準備を進めていく。看護学科学生進路支援委員会では、委員長の指示に従い係のメンバーと協力しながら業務を遂行していく。千葉県内における社会貢献活動では、千葉県母性衛生学会の運営に会計幹事として携わること、日本看護母性学会学術集会の実行委員での業務を遂行し貢献する。

## 助教 相馬 由紀子 修士 (学校教育学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和元年度は、特に主体的に考え、質の高い講義・演習となるよう準備や補助を行っていく。実習においては、学生が高齢者への看護の学びを深められるよう指導方法を工夫する。また、大学運営においては、本学の特徴を踏まえながら教職員と連携し、責務を果たせるようにする。研究活動では、研究成果を発表できるよう努める。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ.
  - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ.
  - ・高齢者看護学実習.
  - ・総合実習 (高齢者).
  - ・体験ゼミナール.
  - ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・杉本知子, 相馬由紀子, 上野佳代, 佐伯恭子, 高柳千賀子, 鳥田美紀代: 医療・介護施設における外国人労働者の定着に向けた取り組みの実態, 千葉県立保健医療大学紀要. 11 (1), 2020.

### IV 社会貢献・国際交流記

#### 1 地域におけるボランティア活動等

- 1) 千葉県内
  - ・スマイル・キャンサーウォークちばにおけるボランティアの募集. 2019年7月.

#### 5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本老年看護学会. 日本看護学教育学会.

#### 6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・看護・介護職員に対する研究指導等. 介護老人保健施設我孫子ロイヤルケアセンター. 2019年7～12月迄.

### V 管理・運営記録

#### 2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科学学生・進路支援委員会, 看護学科総務・企画委員会.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

令和元年度は、高齢者・在宅看護学方法論ⅠおよびⅡの講義と演習では、既存の知識や経験に加え、高齢者の特徴を想定した内容で「口腔ケア」などを企画し、実践できた。実習においては、学生が高齢者への気づきを援助に活かせるよう助言することで理解を深めることができた。また、大学運営においては、教職員や業者との調整を行い連携し、責務を果たすことができた。研究活動では、公表までの一定の研究成果を得ることができなかった。次年度には研究成果を公表できるように努める。

## VII 次年度の目標

令和2年度は、特に学生が主体的な学習となるように講義・演習などの準備や補助を行っていく。実習においては、学生が高齢者への看護の学びを深められるよう指導方法を工夫する。研究活動では、今までの研究成果を発表できるように努め、自己の研究能力の向上をはかり、計画を立てて実行していく。

## 助教 坂本 明子 修士（看護学）

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2019年度も引き続き領域の先生方から講義や研究方法について学び、学生の学習効果が向上するよう講義技術の向上を目指して自己研鑽をつむこと。研究会等に積極的に参加して自分の研究能力の向上を図るとともに、最終年度となる科学研究の分析の完成および学術論文として公表できるよう授業や実習との両立をはかり進めていく。未だ公表できていない成果があるので、学術論文として公表することを目標とした。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
  - ・体験ゼミナール。
  - ・救命救急の理論と実際。
  - ・成人看護学方法論Ⅰ。
  - ・成人看護学方法論Ⅱ。
  - ・成人看護学実習（慢性期）。
  - ・総合実習。
  - ・看護学統合。

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・大原裕子，河井伸子，黒田久美子，坂本明子，石井優香，正木治恵：高齢者ケアの継続に向けた急性期病院看護師のコーディネート機能（第1報：看護師の視点から），日本看護科学学会誌，39，P202-210，2019。
- ・坂本明子：特集慢性疾患を持つ高齢者の看護②高齢心不全患者のエンドオブライフケア，臨床老年看護，26，6，51-60，2019。

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・正木治恵，大原裕子，黒田久美子，河井伸子，坂本明子：「チーム医療を促進する看護師のコーディネート機能」実践ガイドの開発－高齢者ケアの継続・連携に向けて－，日本老年看護学会学術集会，2019年6月8日，仙台市仙台国際センター。
- ・坂本明子：心不全終末期患者へのエンドオブライフケアの明確化（第1報）：ケア移行に関する看護師の判断内容，日本循環器看護学会，2019年11月2日，北里大学白金キャンパス。

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費助成事業 若手研究 B 「心不全終末期患者へのエンドオブライフケア：ケア移行の判断基準およびケア内容の究明」，研究代表者。
- ・科学研究費助成事業 基盤研究(C) 「中堅看護師の臨床判断を強化する患者アウトカム評価ツールの作成」，研究分担者。

#### 6 受賞・特許

- ・日本循環器看護学会第16回学術集会：最優秀演題賞，演題名「心不全終末期患者へのエンドオブライフケアの明確化（第1報）：ケア移行に関する看護師の判断内容」。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

#### 1) 千葉県内

- ・幕張地区夏祭り救護ボランティア、2019年8月24日、幕張地区5丁目公園。

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会、日本循環器看護学会、日本老年看護学会、千葉看護学会、看護質的統合法研究会、日本アロマコーディネーター協会。

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・2019年度看護研究指導、東京歯科大学市川総合病院、2019年7月～2020年3月、東京歯科大学市川総合病院。
- ・2019年度看護研究指導、千葉県循環器病センター、2019年5月～2020年3月、千葉県循環器病センター。
- ・榊原記念病院第41回看護研究・実践発表会内特別講演、日本心臓血圧研究振興会附属榊原記念病院、「研究成果発表と臨床から研究・教育分野にうつってみえてきたもの～クリニカルクエストから研究・教育へ～」、榊原記念病院看護師および関係病院の看護師、榊原記念病院で実習する看護学校の教員対象、2020年2月15日、榊原ホール。

## V 管理・運営記録

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議、看護学科学生・進路支援委員会、看護学科入試検討委員会、看護学科医療生活支援領域会議。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

2019年度は科目責任者の助言の下、心機能障害をかかえた患者の看護について講義を行った。心不全の病態・症状・予防のためのセルフケア方法・患者のセルフマネージメントを支える看護について、伝えたい内容を視覚で理解できるよう図や写真などの活用を図った。来年度は既習部分の病態復習を事前学習課題とするなどの方法を取り、看護方法論の講義部分を増やせるよう改善する。研究活動については成果の一部として「心不全終末期患者へのエンドオブライフケアの明確化（第1報）：ケア移行に関する看護師の判断内容」を発表し最優秀演題賞を受賞した。第2報についても2020年10月の発表を予定している。

## VII 次年度の目標

2020年度も引き続き領域の先生方から講義や研究方法について学び、学生の学習効果が向上するよう講義技術の向上を目指して自己研鑽をつむこと。研究会等に積極的に参加して自分の研究能力の向上を図るとともに、未だ公表できていない成果があるので、学術論文として公表できるよう授業や実習との両立をはかり進めていく。

## 助教 杉本 亜矢子 修士（看護学）

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで（2020年2月21日から産前休暇取得）

### I 年度当初の目標

母性看護学実習・助産学実習で担当する施設において、学生の実習が円滑にすすむように粘り強く調整を行う。学生のもつ看護感を引き出しながら看護ケアや助産ケアが実践できるように支援するとともに、学生が前向きに実習を継続できるように支援する。学内演習の企画や演習室の整備を行い、学習効果が高まるよう学内の環境を整備する。学内共同研究の成果を学術集会において発表する。学科委員会において担当する役割を遂行する。千葉県内における社会貢献活動に参加する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・母性看護学方法論Ⅰ.
- ・母性看護学実習.
- ・助産診断・技術学Ⅰ.
- ・助産診断・技術学Ⅱ.
- ・助産診断・技術学Ⅲ.
- ・助産診断・技術学Ⅳ.
- ・助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）.
- ・助産学実習Ⅱ（継続支援）.
- ・助産学実習Ⅲ（分娩期ケア）.
- ・総合実習.
- ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所。）

- ・杉本亜矢子：2020年版系統別看護師国家試験問題集 第108回看護師国家試験 解答と解説，2020，医学書院，東京.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・杉本亜矢子，石井邦子，川城由紀子，北川良子，川村紀子，青柳優子，植竹貴子：助産師の内診による診断技術の発達過程，第21回日本母性看護学会学術集会，2019年6月15日，広島.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 5 学会，学術団体への貢献

##### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本母性看護学会.
- ・千葉県母性衛生学会.

##### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・千葉県母性衛生学会，会計幹事，2018年5月～.

## 7 その他

- ・放送大学. オンライン教育補助者(特定行為研修演習指導支援者). 2019年4月1日～2020年3月31日.

## V 管理・運営記録

### 2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科教務委員会. 看護学科入試検討委員会. 看護学科運営会議.

### 3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等>

- ・ホームページ: 千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学  
(<http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm/>).

## VI 評価(成果および改善すべき事項)

母性看護学実習・助産学実習において, 各学生のレディネスを把握して指導内容を工夫しながら看護計画やケアの実践を支援した。また対象者が必要とする看護を計画・実施できたときや, 実習期間を通して成長できた点については肯定的にフィードバックを行うことで学習意欲が維持され前向きに実習が継続できるように努めた。担当する学内演習の内容について改変し, 説明方法を改善して実施した。学内共同研究の成果を上席教員の指導のもと学術集会でポスター形式で発表した。看護学科教務委員会では実習中の事故報告書を担当し, 年度途中で中間報告を閲覧できる方法に変更し, 事故報告を速やかに後期の実習指導に活かせるようにした。千葉県内における社会貢献は, 千葉県母性衛生学会の運営に会計幹事として携わったが, その他は実施に至らなかったもので以降の課題とする。

## VII 次年度の目標

令和2年度は育児休暇を取得するが, 自身が担当していた業務について支障がないよう業務内容の引き継ぎを適切に行うとともに, 育児休暇中も他教員からの連絡には速やかに対応し在籍教員としての役割を果たす。学内共同研究の成果を大学紀要に投稿するにあたり, 加筆・修正を行う。

## 助教 泰羅 万純 修士（看護学）

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和元年度は、着任年度であるため、まずは教育活動において地域看護学領域で行われている教育内容を理解し、領域内教員、実習指導者と協力・連携しながら、学生の学びが深まるよう努める。また、大学運営活動においては、委員会活動を通して、組織運営を理解しながら役割を遂行したい。研究活動においては、積極的に取り組み、成果につなげる。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
  - ・地域看護学概論.
  - ・地域看護学方法論Ⅲ.
  - ・地域看護学実習.
  - ・総合実習.
  - ・専門職間連携活動論.
  - ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・泰羅万純，石丸美奈，鈴木悟子：新任保健師の支援対象者との関わりにおける困難経験の特徴，第8回日本公衆衛生看護学会学術集会，2020年1月11～12日，愛媛県松山市.

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・学長裁量共同研究，新人保健師のリフレクシオン力育成のためのファシリテーションガイドの開発，研究分担者.
- ・学長裁量共同研究，医療職配置義務のない高齢者施設・住宅における感染症集団発生及び入居者の重症化を防ぐ方策の検討，研究分担者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

- 1) 千葉県内
  - ・夏祭りにおける救護ボランティア。2019年8月24日。幕張5丁目公園.

#### 5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本公衆衛生看護学会。千葉看護学会.
- 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）
  - ・千葉看護学会，第26回学術集会，企画委員，2019年10月1日～2020年10月31日.

## 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・業務研究に関する指導。千葉市美浜保健福祉センター。「野菜摂取推進のための若い世代に着目した効果的なアプローチ方法」に関する研究の進め方やまとめ等の指導・助言。千葉市美浜保健福祉センター職員。2019年6月～2019年12月。千葉市美浜保健福祉センター。
- ・保健師活動の必要な実践能力を高めるリフレクション力の修得をめざしたワークショップ。千葉県立保健医療大学健康科学部看護学科健康支援看護領域。千葉県内2017・2018・2019年度新規採用保健師。2019年11月2日、12月21日、2020年2月15日。千葉県立保健医療大学。

## V 管理・運営記録

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科学学生・進路支援委員会。看護学科入試検討委員会。看護学科1年担任。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動においては、担当教員の指示を仰ぎながら準備・補助をし、教育内容を理解することができた。実習では、実習指導者と協力しながら指導をし、学生の地域看護への理解を深めることができた。一方で、学生の学習意欲を継続させることが難しい場面があり、今後の課題である。大学運営活動においては、本学の特徴や組織運営への理解を深めながら委員会活動を行った。研究活動においては、修士論文の成果を学会で発表した。

## VII 次年度の目標

教育活動においては、主体的に考え、質の高い講義・演習となるよう準備や補助を行っていく。実習では、担当する学生の学習目標の達成を目指すだけでなく、学生が意欲的に実習を継続できるよう指導を工夫する。大学運営活動においては、教職員と連携し、責務を果たせるようにする。研究活動においては、共同研究者として積極的に研究に携わり、データ収集や分析方法について学ぶ。



# 榮養學科



## 教授 兼 学科長 細山田 康恵 博士 (医学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

栄養学科長として、学科の円滑な運営ができるように責任を果たしていきたい。教育においては基礎を定着させ、応用力へつなげるような講義をこころがけ、研究においては学長裁量研究や学内共同研究を学科教員と協力して進めていけるように工夫したい。また、大学運営では担当している委員会や部会において、積極的に取り組めるように努めていきたい。社会貢献では、UR団地にお住まいの高齢者の方の生活の向上につながるようなプログラムを実施し、地域に貢献したい。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・生化学総論.
- ・生化学.
- ・栄養生化学.
- ・臨床検査学.
- ・生化学実験.
- ・解剖生理学 I.
- ・解剖学実験.
- ・臨床検査実習.
- ・卒業研究.
- ・総合演習.
- ・専門職間の連携活動論.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・山田正子, 細山田康恵: ナチュラルチーズのポリフェノール量とラジカル消去活性, 東京家政学院大学紀要, 59, 1~5, 2019.
- ・渡邊智子, 東本恭幸, 細山田康恵, 河野公子, 海老原泰代, 阿曾菜美, 岡田亜紀子, 峰村貴央, 小川 真, 上野佳代, 島田美恵子, 麻賀多美代, 麻生智子, 鈴木祐子, 雄賀多 聡, 竹内弥彦, 江戸優裕, 岡村太郎, 鈴木恵子: 千葉県の高齢者ための健康づくりプログラム (ほい大健康プログラム) の開発と評価に関する研究, 千葉県立保健医療大学紀要, 11-1, 64, 2020.
- ・細山田康恵, 金澤 匠, 阿曾菜美, 東本恭幸, 山田正子: 低糖質食と脂肪酸組成の異なる油脂がラットの不安行動に及ぼす影響, 千葉県立保健医療大学紀要, 11-1, 73, 2020.
- ・阿曾菜美, 東本恭幸, 渡邊智子, 細山田康恵, 小川 真: 高齢女性における塩味の認知閾値と血圧および食・生活習慣に関する研究, 千葉県立保健医療大学紀要, 11-1, 76, 2020.
- ・山田正子, 細山田康恵: ペットボトルに分注し希釈塩素系漂白剤液の保管条件による有効塩素濃度の経時的変化, 日本給食経営管理学会誌, 14-1, 12~20, 2020.
- ・T. Miyaki, Y. Kawasaki, Y. Hosoyamada, T. Amari, M. Kinoshita, H. Matsuda, S. Kakuta, T. Sakai, K. Ichimura: Three-dimensional imaging of podocyte ultrastructure using FE-SEM and FIB-SEM tomography. Cell and Tissue Research. 379, 245~254, 2020.
- ・山田正子, 細山田康恵: 塩素系漂白剤の保管条件により有効塩素濃度の経時的変化, New Food Industry (New Food Indust),

### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・細山田康恵，金澤匠，阿曾菜美，東本恭幸，山田正子：低糖質食と脂肪酸組成の異なる油脂がラットの不安行動に及ぼす影響，日本栄養・食糧学会大会第73回，2019年5月19日，静岡県立大学。
- ・細山田康恵，山田正子：魚油とリコピン摂取がラットのアディポネクチン濃度に及ぼす影響，日本脂質栄養学会第28回大会，2019年9月27日，学術総合センター—橋講堂（東京都千代田区）。
- ・山田正子，樋口誉誌子，阿部明恵，三澤朱実，細山田康恵：水溶液の違いによる鉄玉からの鉄溶出量，第15回日本給食経営管理学会学術総会，2019年11月23日，名古屋文理大学文化フォーラム。
- ・阿曾菜美，東本恭幸，渡邊 智子，細山田 康恵，小川 真：高齢女性における塩味の認知閾値と血圧および食・生活習慣に関する研究，第23回日本病態栄養学会年次学術集会，2020年1月25日，京都市。

### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者/研究分担者）

- ・学内共同研究. 高脂肪食ラットの脂質代謝に及ぼすカプサイシンの影響. 研究代表者.
- ・学内共同研究. 肥満ラットの肝オートファジーに対するカロテノイド摂取の影響. 研究分担者.
- ・学内共同研究. 野菜類の調理前の殺菌操作における成分変化および残存塩素量. 研究分担者.
- ・学長裁量研究. 地域高齢者支援における大学生の体験型学習によって得られる学修効果の検証. 研究代表者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

#### 1) 千葉県内

- ・ほい大健康プログラム，2019年10月5日，高洲第一団地・第二団地
- ・ほい大健康プログラム，2019年11月2日，千草台団地・あやめ台団地
- ・ほい大 口から始める健康プログラム，2019年12月21日，さつきが丘団地
- ・ほい大ごはんカフェ，2020年1月28日，本学学生ホール棟

### 5 学会，学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本栄養食糧学会，日本栄養改善学会，日本脂質栄養学会，日本解剖学会，日本生化学会。

#### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本栄養改善学会，評議員，2003年4月から現在に至る。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学運営会議，教授会，共通教育運営会議，入試実施委員会，教務委員会，FD・SD委員会，研究倫理審査委員会，動物部会，教員資格審査委員会，自己点検・評価委員会，教育年報作成部会，将来構想検討委員会，人事委員会，開学10周年記念事業実行委員会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・栄養学科運営会議，栄養学科教授会。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

学科長として，学科の円滑な運営ができるように責任を果たせた。しかし，人事に欠員が生じているので，定員になるように改善していきたい。教育においては，授業内容の定着ができるように資料作成時に工夫した結果，学生からも好評だった。

ので継続していきたい。研究においては学長裁量研究や学内共同研究を学科教員と協力してできたが、時間の確保が難しかったので工夫したい。また、大学運営では担当した委員会や部会において、積極的に取り組めた。社会貢献では、UR 団地にお住まいの高齢者の方に新しい大健康プログラムを実施し好評だった。今後も、教員と学生で実施し貢献していきたい。

## VII 次年度の目標

学科長として、学科の円滑な運営と大学運営に携わり、学科と大学のパイプ役として責任を果たしていきたい。新型コロナの影響で遠隔授業へ取り組む際、対面と同様に授業の質を保てるような講義をこころがけ、実験はできる限り密にならないように実施させたい。研究においては、学科教員や学外の方と協力して進めていけるように時間の確保につとめたい。また、大学運営では担当している委員会や部会において、さらに積極的に取り組めるように努めていきたい。社会貢献では、UR 都市機構と共同で団地にお住まいの高齢者の方の生活の向上につながるプログラムを実施したい。

## 教授 東本 恭幸 博士 (医学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育面ではさらに学生の主体的な学びを促し、修得した知識や技術を基盤に様々な課題に柔軟に対応できる力を醸成していく。研究面では在宅医療における栄養管理のテーマを掘り下げさらに発展させ、社会貢献、管理運営面においても引き続き積極的に取り組んでいく。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・解剖生理学Ⅰ.
  - ・解剖生理学Ⅱ.
  - ・解剖学 (歯科衛生学科) .
  - ・解剖学実験.
  - ・生理学実験.
  - ・疾病論.
  - ・人体の構造と機能Ⅰ (看護学科) .
  - ・リスクマネジメント論.
  - ・総合演習.
  - ・専門職間の連携活動論.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名) .
  - ・臨床病態生理学特論. 放送大学大学院.
  - ・統合臨床生理学・疾病概論. 放送大学大学院.
  - ・病態生理学. 北陸学園.
  - ・解剖生理学実習. 北陸学園.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線)

- ・東本恭幸，長谷川卓志，平尾由美子，岡田亜紀子：在宅医療における食事・栄養支援の現況と課題：訪問看護事業所への質問紙調査から，日本在宅医療連合学会誌，vol. 1，no. 1，p. 22-30，2019.
- ・東本恭幸，長谷川卓志，渡邊智子，岡田 亜紀子：居宅患者の栄養管理向上に向けた管理栄養士と介護支援専門員との連携に関する研究，千葉県立保健医療大学紀要，vol. 11，no. 1，p. 61，2020
- ・渡邊智子，東本恭幸，細山田康恵，河野公子，海老原泰代，阿曾菜美，岡田亜紀子，峰村貴央，小川 真，上野佳代，島田美恵子，麻賀多美代，麻生智子，鈴鹿祐子，雄賀多 聡，竹内弥彦，江戸優裕，岡村太郎，鈴木恵子：千葉県の高齢者ための健康づくりプログラム (ほい大健康プログラム) の開発と評価に関する研究，千葉県立保健医療大学紀要，vol. 11，no. 1，p. 64，2020.
- ・細山田康恵，金澤 匠，阿曾菜美，東本恭幸，山田正子：低糖質食と脂肪酸組成の異なる油脂がラットの不安行動に及ぼす影響，千葉県立保健医療大学紀要，vol. 11，no. 1，p. 73，2020.
- ・阿曾菜美，東本恭幸，渡邊智子，細山田康恵，小川 真：高齢女性における塩味の認知閾値と血圧および食・生活習慣に関する研究，千葉県立保健医療大学紀要，vol. 11，no. 1，p. 76，2020.

### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・細山田康恵，金澤 匠，阿曾菜美，東本恭幸，山田正子：低糖質食と脂肪酸組成の異なる油脂がラットの不安行動に及ぼす影響，第73回日本栄養・食糧学会大会，2019年5月19日，静岡市。
- ・東本恭幸，長谷川卓志，平尾由美子，渡邊智子，岡田亜紀子：地域包括ケアシステムにおける居宅療養者の食事・栄養支援について，第1回日本在宅医療連合学会大会，2019年7月14日，東京。
- ・東本恭幸，長谷川卓志，平尾由美子，岡田亜紀子：多職種で支援する在宅栄養ケアマネジャーの関わりについての検討，第16回日本在宅静脈経腸栄養研究会学術集会，2019年10月5日，仙台市。
- ・阿曾菜美，東本恭幸，渡邊 智子，細山田 康恵，小川 真：高齢女性における塩味の認知閾値と血圧および食・生活習慣に関する研究，第23回日本病態栄養学会年次学術集会，2020年1月25日，京都市。

### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・千葉県立保健医療大学学長裁量研究，地域高齢者支援における大学生の体験型学習によって得られる学修効果の検証，研究分担者。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 5 学会，学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本小児外科学会，日本外科学会，日本内科学会，日本老年医学会，日本静脈経腸栄養学会，日本病態生理学会，日本在宅静脈経腸栄養研究会，千葉県NSTネットワーク，千葉県医師会，千葉県庁医師会，千葉医学会。

#### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本静脈経腸栄養学会，学術評議員，2014年2月～現在に至る。
- ・千葉県NSTネットワーク，世話人，2015年5月～現在に至る。

### 7 その他

- ・ほい大健康プログラム，2019年11月2日，千草台団地およびあやめ台団地。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会，入試実施委員会（副委員長），入試改革検討委員会，衛生委員会，教員資格審査委員会，共通教育運営会議。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・栄養学科教授会，栄養学科運営会議。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

講義科目では前年度の事後課題から学生がつまづきやすいポイントについて修正を加え，さらに実験・実習科目と関連するように授業回の調整をおこない学修効果の向上が得られた。実験・実習科目では反転授業やポスターツアー法など，アクティブラーニングの手法を継続・発展させた。COVID-19の蔓延により遠隔授業の必要性が増したことは，こうした工夫の応用を考えるきっかけになった。研究については様々な共同研究の機会にも恵まれ，多くの成果が得られた。いっぽう，入試関連の委員会業務では時間外の会議・作業の比重が極めて高く，過重労働が続いて年齢的に健康上の問題が生じかねない状況であった。適正な委員会業務分掌化などの改善を望みたい。

## VII 次年度の目標

教育面では，今後遠隔授業が導入されても学生が興味を持って主体的に学べる工夫を凝らして，修得した知識や技術を基盤に様々な課題に柔軟に対応できる力を醸成していきたい。研究面では様々なパラダイムシフトのただ中にある医療介護連携における在宅栄養のテーマを掘り下げるとともに，社会貢献，管理運営面においても引き続き積極的に取り組んでいきたい。

## 教授 井上 裕光 修士 (教育学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和元年度は、教育の質をさらに向上させる。また、自習用教材をもっと充実させ、エクセルファイル・JMP ファイルでも用意する。今後の新学習指導要領を視野に入れ、現行課程の入学生の対応と習熟度別学習体制（統計学・実践統計学）を含め、初學者教育の充実を図る。さらに、今後の学修に対応できるよう、統計学・実践統計学の科目設定を行う。

できるだけ研究するだけの時間を確保する。

可能な限り官能評価の普及活動を行う。

更改が不調に終わってしまったため、リース延長とシステム更改とを並行して行う必要に迫られた。今後の学内情報システム更改のために、情報システム課との協議・健康福祉部医療整備課への申請など、現在のセキュリティレベルに合わせた、新システム導入を図る。同時に、情報漏洩などの事故を未然に防ぐ体制づくりとして、学籍番号に暗号を付与したメールアドレス・教員氏名に暗号を付与したメールアドレスを導入する。Windows7・Office2010の延長サポートが2020年1月に切れるため、新システム更改と並行して、学内の古いOS対策を進め、安全対策を周知する。学生のみならず教員への啓発活動を十分に行う。学内学生用端末・ゼミ用PCを安全に運用する。また、リース延長を安全に行って、システム移行することができるようにする。

新大学ホームページ運用のために、対応できる体制を作る。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・体験ゼミナール。
- ・統計学。
- ・情報リテラシー I。
- ・情報リテラシー II。
- ・情報倫理。
- ・教育の方法と技術。
- ・事前指導。
- ・総合演習。
- ・卒業研究。

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所)

- ・井上裕光：保健情報統計学, 2020, 医歯薬出版, 東京。

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・ISO/TC34 国内審議団体事務局 (FAMIC 国際課)。ISO/TC34/SC12 国内対策委員。2004～現在に至る。

## 5 学会、学術団体への貢献

### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本心理学会、日本教育心理学会、日本人間工学会、日本教育工学会、日本発達心理学会、日本パーソナリティ学会、日本家政学会、日本家庭科教育学会、日本教師学学会、日本官能評価学会。

### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本官能評価学会、常任理事（企画・編集）、1996～現在に至る。
- ・日本官能評価学会、査読、2019-2020。
- ・日本食品科学工学会誌、査読、2019
- ・日本官能評価学会、常任編集委員。
- ・（一財）日本科学技術連盟、官能評価セミナー委員長。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会、広報委員会（委員長）、入試改革検討委員会、共通教育運営会議、自己点検・評価実施推進部会、IR部会。
- ・学内情報システムガイダンス・学生支援課サポート、学内情報システム・企画運営課サポート、学内ネットワーク運営保守、教員サポート、学生サポート、JMP講習会、情報ネットワーク・ゼミ用PC更改、レセコン設置サポート。
- ・リース延長のための性能評価票作成、物品管理、新システム導入のための仕様書作成、性能評価票作成。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育の質の向上については、自習用教材の追加、エクセルファイルの配布等予定通りに行うことができた。なお、初学者教育対策として、レポート作成スキルアップについて、引き続き重点的に行った。なお、応用編としての実践統計学を次年度開始することになった。

研究する時間は確保できなかった。

官能評価の普及活動については、普及活動用の資料を見直し、さらに間口を広げることを試みた。

学内情報ネットワークシステムのリース延長がJISの定めた製造物保証期限（6年）を超えてしまったため、十分な製品保証や修理保証・運用保守ができない状態での運用（保証が通常の10倍程度と極めて高額になるため断念した）を行うことになった。結果として、SEの駆け付け対応ができなくなったため、台風による幕張地区の瞬電でメールサーバーが暴走し、遠隔での再起動ができず、ほぼ3日間のメールシステムダウンを引き起こした。その後もサーバーの電源交換・ファン異常・無停電電源装置電池交換などトラブルが起き続けたが、ぎりぎりのタイミングでなんとか新システム更改を行うことができた。ただし、新システムではクラウド活用（安定利用）を図るため、データセンター（DC）利用とSinet5の導入とを同時に行う必要があった。また、全世界的なインテルCPUの不足（生産調整・供給調整）のため、サーバーや端末の確保が困難を極めて、導入も遅れることになった。ぎりぎりのチューニングが必要になり、事務局の協力のもとで連日の調整が続いてしまった。Windows7の延長サポート切れに対しても、学内システム上許される範囲の方法を使って安全性を確保したうえで、なんとか2月初旬のWindows10への移行完了となった。

大学ホームページ運用については、実働として事務局の協力を得て、新大学ホームページ公開後の運営する母体となる広報委員会を設置したが、リース延長に起因する老朽化が原因となるシステムトラブルが続いたため、きわめて不十分な委員会運営と運用となってしまった。

本来の新システムの全容を学内へ紹介する前に、新型コロナウイルス感染の対策のため、全学（全教員、全学生）向けの講習会を開くこともできず、新年度のスケジュールも決めることができなかった。

## VII 次年度の目標

令和2年度は、教育の質をさらに向上させる。研究活動も再開する。

新システム運用については、各システム間の調整やチューニングが必要な個所の洗い出し、さらに、すべてのHDDの安全な消去（個人情報・教育情報の完全な消去）が指示されたことによる、消去作業の実施、旧システム物品の搬出など、課題

が残ったままになっている点を整理し、新システムとしての稼働体制を整備する。また、新システム運用を安全に行うための体制づくり（学内教員への啓蒙と周知）を行い、管理者の育成など、機動的に対応できる体制を目指す。また、十分な新入生・新教員向けのガイダンスと、学生向けの学内システム（新機能）紹介を行う。

## 教授 菊池 裕 博士 (薬学)

対象期間：2019年6月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和元年度は、前任者の講義及び実習を参考とし、新たな知見を加えて学生の教育を遂行する。教育内容及び方法の改革として、科学的な知見に基づいて管理栄養士に必要な新たな方法を取り入れる。学生に対する学習支援として、学生の視線から講義及び実習を捉える。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・食品学総論.
- ・理化学概論.
- ・食品加工学.
- ・食品衛生学.
- ・食品微生物学.
- ・総合演習.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・食品化学実験.
- ・食品衛生学実験.
- ・食品加工学実習.

##### 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)

- ・レギュラトリーサイエンス講座 薬食衛生微生物分野 (大阪大学大学院) .

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線)

- ・林克彦, 渡辺愛弓, 門脇成武, 湯之前雄太, 中川香奈子, 豊田淑江, 鈴木俊宏, 清水則夫, 工藤由起子, 菊池裕: マイコプラズマ否定試験に用いるマイコプラズマ参照品に関する研究 (第1報) *Mycoplasma arginini* NBRC 111899 株の核酸増幅法 (NAT) への適用と維持管理に関する研究, *医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス*, 50, 9, 550-0559, 2019.
- ・Chihiro Goto, Motoharu Hirano, Katsuhiko Hayashi, Yutaka Kikuchi, Yukiko Hara-Kudo, Takashi Misawa, Yosuke Demizu: Development of Amphipathic Antimicrobial Peptide Foldamers Based on Magainin 2 Sequence, *Chem. Med. Chem.*, 2019, 14, 1911-1916, 2019.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等、本人下線)

- ・鈴木浩子, 山中誠, 畠山健治, 福井千恵, 靏島由二, 菊池裕: 短波長紫外線によるエンドトキシン不活化法の開発, 第46回日本防菌防黴学会年次大会, 2019年9月26日, 吹田市.
- ・Chihiro Goto, Motoharu Hirano, Katsuhiko Hayashi, Takashi Misawa, Yutaka Kikuchi, Yukiko Kudo, Yosuke Demizu: Development of antimicrobial peptide foldamers based on Magainin2 sequence, 第56回ペプチド討論会, 2019年10月23日, 文京区.
- ・林克彦, 湯之前雄太, 大谷梓, 松村佳代子, 中尾亮介, 毛利聡里, 古田美玲, 小原有弘, 河合充生, 内田恵理子, 清水則夫, 伊豆津健一, 工藤由起子, 菊池裕: 日本薬局方参考情報に記載のマイコプラズマ否定試験・核酸増幅法に使用される

NBRC 参照菌種に関する多施設間比較, 第56回全国衛生化学技術協議会総会・研究会, 2019年12月5日, 広島市.

- ・奥輝明, 安藤祐介, 人見祐基, 築地信, 亀井淳三, 林克彦, 菊池裕, 工藤由起子, 伊豆津健一, 辻勉: ヒト由来細胞を利用した新規発熱性物質試験法の開発, 日本薬学会第140年会, 2019年3月28日, 京都市.
- ・林克彦, 湯之前雄太, 酒井瑤実, 遠藤清香, 永嶋玲美, 渡辺愛弓, 門脇成武, 大谷梓, 豊田淑江, 松村佳代子, 中尾亮介, 毛利聡里, 古田美玲, 清水則夫, 鈴木俊宏, 小原有弘, 河合充生, 内田恵理子, 伊豆津健一, 菊池裕, 工藤由起子: 第十七改正日本薬局方マイコプラズマ否定試験核酸増幅法(NAT)に用いるマイコプラズマ参照品の調製法及び検出感度に関する研究, 日本薬学会第140年会, 2019年3月28日, 京都市.

#### 4 学術集会での招待講演(教育講演や基調講演)やシンポジウム等(学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

- ・Yutaka Kikuchi: Development of Rapid Microbiological Methods for the Pharmaceutical Sciences, PDA Rapid Microbiological Methods Workshop, 2019年10月23日, Rockville, MD, 米国.

#### 5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・国立研究法人日本医療研究開発機構 医薬品等規制調和・評価研究事業, 医薬品製造工程管理における微生物学関連試験法の導入と評価に関する調査研究, 研究開発担当者.
- ・国立研究法人日本医療研究開発機構 医薬品等規制調和・評価研究事業, 医薬品の品質確保のための日本薬局方改正に向けた試験法等開発に関する研究, 研究開発分担者.
- ・国立研究法人日本医療研究開発機構 医薬品等規制調和・評価研究事業, 再生医療の安全性確保のための迅速無菌試験法の感度設定に関する手法開発とモニタリングの在り方に関する研究, 研究開発分担者.

#### 6 受賞・特許

- ・国際特許, PCT/JP2020/010501, 除染方法, 2020年3月11日.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 2 地域への保健医療活動(診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・菊池裕: エンドトキシン及び制がん剤等化学物質の液相下不活化法並びに滅菌法の開発創薬基盤推進研究事業研究成果発表会, 2019年10月15日, 川崎市.

#### 3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績(活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・独立行政法人医薬品医療機器総合機構 日本薬局方原案検討委員会 総合委員会, 2019年6月1日-2020年3月31日.
- ・独立行政法人医薬品医療機器総合機構 日本薬局方原案検討委員会 無菌医薬品包装の完全性評価WG, 2019年6月1日-2020年3月31日.
- ・独立行政法人医薬品医療機器総合機構 日本薬局方原案検討委員会 国際調和検討委員会, 2019年6月1日-2020年3月31日.
- ・独立行政法人医薬品医療機器総合機構 日本薬局方原案検討委員会 生物試験法委員会, 2019年6月1日-2020年3月31日.
- ・独立行政法人医薬品医療機器総合機構 日本薬局方原案検討委員会 専門委員, 2019年6月1日-2020年3月31日.
- ・一般財団法人医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団 生物薬品標準品評価委員会, 2019年6月1日-2020年3月31日.

#### 5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本薬学会, 日本生化学会, 日本マイコプラズマ学会.
- 2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)
  - ・日本防菌防黴学会, 理事, 2019年6月1日-2020年3月31日.

## V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）
  - ・教授会. 学術推進企画委員会. 紀要編集部会. 学内共同研究部会. 認証評価部会.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

担当した講義及び実習については、自らも各科目の内容を把握し、それらを学生に伝達した。担当科目に関わる食品行政や法律の変化が早く、最新の知識を伝えるように努力した。今後の課題として、講義内容と学生の習熟度に差があることを理解し、学生の意見を吸い上げる努力をしたが、その方法については模索中である。

## VII 次年度の目標

担当する講義及び実習で、最新の科学の動向を取り入れると共に、学生の要望や社会の動向に即した内容を提供できるように努力する。

科学研究費補助金の獲得にむけ、食品行政に即した研究課題を立案すると共に、学内研究環境の更新を図りたい。

## 教授 谷内 洋子 博士 (学術)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2019年度は、画一的な指導ではなく、学生個人の資質や学年ごとの特性を理解した上での指導を行うとともに、学生の取り組みを見守り、特に経緯やプロセスを含めて、結果に至るまでの過程について、主体的な取り組みができるような授業運営を目指す。研究活動については、現在取り組んでいる研究課題の成果を学会発表および論文執筆、一般市民を対象とした公開講座等を通して、社会に還元・貢献する。また、現職の管理栄養士向けの研修会講師の依頼も増えてきたことから、専門職としての責任の下、今後も研修会や市民シンポジウムなどを通じて啓蒙活動を行い、望ましく実践可能な食生活の在り方の発信、健康寿命の延伸を通じて、国民（県民）の生活の質向上や医療費抑制に貢献することを目標とする。また、2019年度は“妊産婦のための食生活指針”において、13年ぶり改訂を目指し、検討委員として指針をまとめることにも注力する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・臨床栄養学Ⅰ.
- ・臨床栄養学Ⅱ.
- ・総合演習.
- ・管理栄養士導入教育.
- ・臨床栄養学実習.
- ・栄養ケアマネジメント論実習.
- ・栄養ケアマネジメント論演習.
- ・事前・事後指導 (臨地実習) .
- ・臨床栄養臨地実習.
- ・栄養管理臨地実習.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・千葉県の健康づくり.

##### 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)

- ・臨床栄養学実践演習. (日本女子大学) .
- ・血液・内分泌・代謝内科学分野. 新潟大学大学院医歯学総合研究科研究員.

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所。)

- ・谷内洋子, 長浜幸子他：コンパクト 臨床栄養学, 朝倉書店, 東京.
- ・谷内洋子：糖尿病の最新食事療法のなぜに答える【基礎編】, 医歯薬出版, 東京.

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・谷内洋子：妊娠中の身体活動レベルおよび食事内容と糖代謝異常リスクに関する前向き研究 TWC Study. 糖尿病と妊娠. 19(3) 90-91, 2019.
- ・谷内洋子：生活習慣病予防における食育指導-日本人若年女性・妊婦におけるやせ過ぎと次世代の健康-. New Diet Therapy.

35(2); 70-73, 2019.

- ・森川咲子, 治田麻理子, 平澤玲子, 谷内洋子, 堀川千嘉, 曾根博仁. 青少年期の体格と代謝指標の関連. *New Diet Therapy*. 35(2); 150-151, 2019.
- ・谷内洋子, 曾根博仁: 日本人若年女性・妊婦におけるやせ過ぎとその弊害. *New Diet Therapy*. 34(4); 27-32, 2019.

### 3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・Kodama S, Yachi Y, Igarashi R, Fujihara K, Horikawa C, Ishizawa M, Kato K, Sone H. Meta-analysis suggest that clinicians give priority to prevention of new onset Heart Failure rather than recurrent Heart Failure. 79th American Diabetes Association Scientific Sessions(ADA), San Francisco, USA, 2019.
- ・森川咲子, 治田麻理子, 平澤玲子, 谷内洋子, 堀川千嘉, 曾根博仁: 青少年期の体格と代謝指標の関連, 第41回日本臨床栄養学会総会・第40回日本臨床栄養協会総会第17回大連合大会, 2019年10月26日, 名古屋ガーデンパレス.
- ・谷内洋子, 田中康弘, 曾根博仁: 妊娠中の身体活動レベルおよび食事内容と糖代謝異常リスクの関連 TWC Study, 第41回日本臨床栄養学会総会・第35回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会, 2019年11月22日, 浅草ビューホテル.

### 4 学術集会での招待講演 (教育講演や基調講演) やシンポジウム等 (学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

- ・谷内洋子: 第73回 日本栄養・食糧 学会大会 公開シンポジウム, 小児期・青年期からの 食生活習慣の見直しと 生活習慣病予防, 2019年5月18日, 静岡県立大学草薙キャンパス.
- ・谷内洋子: 第41回日本臨床栄養学会総会・第40回日本臨床栄養協会総会第17回大連合大会, 生活習慣病予防における食育指導-日本人若年女性・妊婦におけるやせ過ぎと次世代の健康, 2019年10月26日, 名古屋ガーデンパレス.

### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・令和元年度科学研究費助成事業 (科学研究費補助金) (基盤研究 (B)), 地域の全世代保健/医療ビッグデータの統合解析による健康寿命延伸エビデンスの創成, 研究分担者.
- ・厚生労働省科学研究費補助金, レセプトデータベースにおける健康寿命を規定する重症イベント精密捕捉技術の確立・正確性検証とその社会実装を通じたEBMと政策立案に貢献できるエビデンス創出, 研究分担者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

#### 2) 千葉県外

- ・“産後クラブ (3カ月健診) 食育講座”, 平成31年4月~令和元年3月, 東京都世田谷区田中ビル.
- ・食事・栄養相談, 平成31年4月~令和元年3月, 東京都大田区.

### 3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・日本糖尿病・妊娠学会 糖尿病と妊娠にかかわる科学的根拠に基づく医療の推進プロジェクト ワーキングメンバー, 平成31年4月~令和元年3月.
- ・第35回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会 プログラム企画委員, 平成31年4月~令和元年11月.
- ・令和元年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業 妊産婦のための食生活指針の改定案作成および啓発に関する調査研究 研究委員, 平成31年4月~令和元年3月.

### 4 職能団体委員等 (職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・公益社団法人 千葉県栄養士会, 研究教育事業 副部長, 平成31年4月~令和元年3月.
- ・栄養学雑誌, 編集委員, 令和元年10月~令和元年3月.
- ・日本人試験研究センター 専門試験 (栄養士) 試験問題作成委員, 令和元年12月~令和元年3月.

### 5 学会, 学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本栄養改善学会, 日本臨床栄養学会, 日本病態栄養学会, 日本成人病 (生活習慣病) 学会, 日本栄養・食糧学会, 日本

糖尿病・妊娠学会、DOHaD 研究会、日本疫学会、日本栄養士会、千葉県栄養士会、

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本栄養・食糧学会 参与、2019年4月～2020年3月。
- ・日本栄養改善学会 評議員、2019年4月～2020年3月。
- ・日本病態栄養学会 評議員、2019年4月～2020年3月。
- ・日本糖尿病妊娠学会 評議員、2019年4月～2020年3月。
- ・千葉県栄養士会 理事、2019年4月～2020年3月。

## 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・谷内洋子：2019年度千葉県栄養士会生涯教育研修会、今さら聞けない?!抄録の書き方①、保健師、看護師、管理栄養士他、2019年6月29日、千葉県文化会館。
- ・谷内洋子：2019年度千葉県栄養士会生涯教育研修会、今さら聞けない?!抄録の書き方②、保健師、看護師、管理栄養士他、2019年6月29日、千葉県文化会館。
- ・谷内洋子：2019年度茨城県栄養士会生涯教育研修会、若年女性の栄養と次世代の健康～妊産婦を取り巻く現状と課題～、管理栄養士、栄養士他、2019年9月21日、茨城県立歴史館講堂。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会、学生委員会、危機管理委員会、教員再任審査委員会、カリキュラムプランニング勉強会。

### 3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・久ヶ原スイミングクラブ

kugahara-sc.jp/column/yachi/20190930.html, <http://kugahara-sc.jp/column/yachi/20200317.html>

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

グループワーク演習を通して、自ら考え、人前で発表する力と、周囲と協調する力を養えるように工夫をした。また、教科書レベルの基本的な知識に加え、最新の研究成果や臨床現場での取り組みについて、各学年の授業内で紹介し、知識と実践を結びつけて理解が深まるよう工夫することができた。管理栄養士国家試験を見据え、頻出問題や重要なキーワードを重点的に説明するなど、国試対策に関する内容も盛り込んだ。今後とも、高度な専門的知識を基に、保健医療現場でリーダーシップを発揮し得る人材育成を念頭に学生指導に取り組むたい。

## VII 次年度の目標

画一的な指導ではなく、学生らの取り組みを見守り、時に経緯やプロセスを含めて、結果に至るまでの過程について、主体的な取り組みを評価し、見守ることの意義にも留意して取り組みたい。今後も、学生の個性を考慮した細やかな指導を行い、このように考え行動することが正しい、と一方的に教えるのではなく、課題を見出し、自ら考え実践し解決できる能力を持った人材の育成に力を尽くしたい。

また、現職の管理栄養士向けの研修会講師やシンポジストの依頼も増えてきたことから、これらの活動を通じて啓蒙活動を行うとともに、自身の研究活動の円滑な推進に取り組み、日本人の日常生活にすぐに適用可能な科学的エビデンスの確立を通じて、国民（県民）の生活の質向上や医療費抑制に貢献したい。“妊産婦のための食生活指針”が今年度の活動を受けて、13年ぶりに近年のエビデンスを反映させた新たな指針に令和2年に改訂されることから、こちらについての広報活動および啓蒙活動にも注力したい。

## 准教授 荒井 裕介 博士（農芸化学）

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和元年度は、教育面では、担当する領域の基礎的な知識技術の習得ができるよう、講義・実習を実施する。研究面では過去に取り組んだ共同研究の成果を論文としてまとめる。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・公衆栄養学Ⅰ.
- ・公衆栄養学Ⅱ.
- ・栄養疫学.
- ・公衆栄養学実習.
- ・公衆栄養臨地実習.
- ・栄養管理臨地実習.
- ・事前指導.
- ・事後指導.
- ・管理栄養士導入教育.
- ・卒業研究.
- ・専門職間の連携活動論.

##### 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・公衆衛生学（金沢医科大学）.
- ・公衆栄養学（大阪市立大学）.

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・高橋佳子，高松まり子，荒井裕介他：公衆栄養概論（エスカパーシク）（第8版），2019年4月，同文書院，東京.
- ・荒井裕介，稲山貴代，今井具子他：管理栄養士課程におけるモデルコアカリキュラム準拠 公衆栄養学2020年版，2020年3月，医歯薬出版，東京.

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・Suzuki M, Taniguchi T, Furihata R, Yoshita K, Arai Y, Yoshiike N, Uchiyama M: Seasonal changes in sleep duration and sleep problems: a prospective study in Japanese community residents, PLoS One, 14, 4, 2019 (doi: 10.1371/journal.pone.0215345).
- ・岩橋明子，由田克士，荒井裕介，尾島俊之，藤吉朗，中川秀昭，奥田奈賀子，宮川尚子，門田文，岡村智教，大久保孝義，西信雄，上島弘嗣，岡山明，三浦克之，NIPPON DATA2010 研究グループ：飲酒日におけるエネルギー及び栄養素等摂取量の特徴：NIPPON DATA2010，日循予防誌，54，3，178-188，2019.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・鎌ケ谷市。第2次鎌ケ谷市食育推進計画の推進及び第3次鎌ケ谷市食育推進計画策定準備に係る指導。2019年6月。
- ・船橋市。ふなばし健やかプラン21（第2次）後期分野別計画策定委員会委員。2019年7月～2020年3月。

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本栄養改善学会。日本公衆衛生学会。日本高血圧学会。日本疫学会。
- ・日本栄養士会。神奈川県栄養士会

#### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・特定非営利活動法人日本栄養改善学会。理事。2019年11月～現在に至る。
- ・特定非営利活動法人日本栄養改善学会。評議員。2006年11月～現在に至る。
- ・特定非営利活動法人日本栄養改善学会。栄養学雑誌編集委員。2015年11月～2019年10月。
- ・特定非営利活動法人日本栄養改善学会。関東・甲信越支部幹事。2018年2月～現在に至る。
- ・一般社団法人日本公衆衛生学会。代議員。2019年7月～現在に至る。
- ・一般社団法人日本公衆衛生学会。公衆衛生分野における行政管理栄養士のあり方委員会委員。2018年2月～現在に至る。
- ・第22回国際栄養学会議プログラム委員。2019年4月～現在に至る。

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・千葉県栄養士会公衆衛生事業部研修会。千葉県栄養士会公衆衛生事業部。実践事例報告のまとめ方②。千葉県栄養士会公衆衛生事業部会員等。2019年10月19日。千葉県教育会館。
- ・千葉県栄養士会公衆衛生事業部東葛ブロック行政栄養士研修会。千葉県栄養士会公衆衛生事業部。アンケートデータの分析と評価。千葉県栄養士会公衆衛生事業部会員等。2020年2月17日。習志野市保健会館。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学術推進企画委員会。広報委員会。国際交流委員会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・卒業研究担当

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育面では学生が担当する領域の基礎的な知識技術の修得ができるよう、講義・実習では各回ワークシートを作成した。研究面では研究の成果を論文までまとめることができなかった。

## VII 次年度の目標

教育面では、担当する領域の基礎的な知識技術の習得ができるよう、講義・実習を実施する。研究面ではデータの解析をすすめて論文化に取り組む。また他機関との共同研究に取り組む。

## 准教授 河野 公子 修士 (家政学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和元年度は、特に教育者として研鑽を積むことと、病院管理栄養士の経験を生かした社会貢献について、工夫と努力をしたいと思います。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・給食経営活動論Ⅰ.
- ・給食経営管理論Ⅱ.
- ・給食経営管理実習.
- ・給食経営管理臨地実習.
- ・管理栄養士導入教育.
- ・事前指導 (臨地実習) .
- ・事後指導 (臨地実習) .
- ・体験ゼミナール.
- ・総合演習.
- ・発達歯科衛生学Ⅱ.
- ・卒業研究.

##### 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)

- ・いのちと生活Ⅰ栄養学 (講義 千葉科学大学) .
- ・栄養学 (講義 千葉科学大学) .
- ・栄養学 (講義 和洋女子大学) .

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所.)

- ・摂食嚥下障害の栄養食事指導マニュアル (井戸由美子, 河野公子 他36名, 2019.9.10, 医歯薬出版株式会社, 東京) .
- ・臨床栄養学 基礎から学べる (多賀昌樹, 河野公子 他15名, 2019.9.30, 株式会社アイケーコーポレーション, 東京) .

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称、活動期間、場所等)

##### 1) 千葉県内

- ・地域高齢者し得における大学生の体験型学習によって得られる学修効果の検証 (2019年10月5日・11月2日) .
- ・ほい大ごはんカフェ (2020年1月28日) .

#### 2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等、活動期間、場所等)

- ・県民の健康づくりのための活動 産学協同活動 大学 (千葉県立保健医療大学), 行政 (千葉県健康福祉課健康づくり支援課), 企業 (ダイエー) 「栄養ワンダー」2019年8月4日 9:00～15:00 ニッカルトプラザダイエー棟.

## 5 学会, 学術団体への貢献

### 1) 所属学会・学術団体

- ・給食経営管理学会, 日本栄養士会, 千葉県栄養士会.

## 6 講演会(公開講座を含む)／研修会の講師・研究指導等(会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・千葉県シニア自然大学研修会 講師 NPO 法人 千葉県シニア自然大学 「食と健康」 2019年9月5日 2019年12月12日 10:00～12:00 千葉市.
- ・香西保健所給食職員研修会 講師 香西保健所 「健康な身体をつくる食事」 2019年7月20日 10:00～12:00 佐原中央公民館.
- ・いちほら市民健康大使コース講演 講演 市原市保健センター 「グーパー食生活で糖尿病予防」 2019年9月20日 13:45～15:45 市原市保健センター.
- ・真砂ご近所さんの会 講義 真砂町内会 「おいしく食べてはつらつ生活」 2019年9月11日 10:00～12:00.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会(委員会名／活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・学生委員会, 進路支援委員会, 特色科目運営会, 初期医療通訳ボランティア育成, 図書委員会.

### 2 学科／専攻内委員会(委員会名／活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・栄養学科運営会議, 国家試験対策, 4年生担任.

### 3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等>

- ・ちばテレビ出演, 「食をとおした健康づくり」, 2019.3

## VI 評価(成果および改善すべき事項)

4年生の担任業務は初めてであり, 国家試験, 就職, 卒業に向け最善の努力をした結果, 1名の語学留学以外はすべて達成できた. 今後は, 語学留学をした学生の支援をしていく.

## VII 次年度の目標

効率的な時間の調整を行い, 学生の育成のために更なる努力をしていきたい. また, 千葉県内の学外活動を充実させたい.

## 准教授 福島 昌子 修士 (心身健康科学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和元年度は、新カリキュラムおよび幼小中高等学校の次期学習指導要領の改訂に向け、教職課程科目における学校教育に求められる資質・能力である「子どもたち自身の探究心」「コミュニケーション力」「協働する力」を培う学びを重視した指導法、授業方法の充実を図る。また、学校教育を担う管理職および中核的な教員の専門的力量的開発を目的とした「教師教育学」の展望を開く。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・教職論.
  - ・教育学概論.
  - ・カリキュラム論.
  - ・生徒指導論.
  - ・道徳・総合的な学習・特別活動論.
  - ・教職実践演習.
  - ・教育学.
  - ・専門職間の連携活動論.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)
  - ・特別活動論 (東京大学) .

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・福島昌子：食に関する教育上の諸問題「栄養教諭と道徳の授業」ーなぜ探究とアクティブラーニング、協働なのかー、千葉県学校保健研究, 第10巻, 第1号, P12～19, 2019.
- ・福島昌子：生徒と教師が光り輝く作る授業から創る授業へー教師としての自分史, つなげたい思いー, 福井大学大学院福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学連合教職開発研究科 (連合教職大学院) 学校改革実践研究報告, 第329号, P1～127, 2020.
- ・衛藤隆. 今村修. 近藤卓. 高橋浩之. 和唐正勝. 福島昌子：中学保健体育教科書, 保健 第4章「健康な生活と病気の予防」, 大修館書店, P148～P155, 2019.
- ・衛藤隆. 今村修. 近藤卓. 高橋浩之. 和唐正勝. 福島昌子：最新高等学校保健体育, 保健 第2章「生涯を通じる健康」, 大修館書店, P78～P82, 2019.
- ・衛藤隆. 今村修. 近藤卓. 高橋浩之. 和唐正勝. 福島昌子：現代高等学校保健体育, 保健 第2章「生涯を通じる健康」, 大修館書店, P68～P73, 2019.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・小川佐代子. 北川裕子. 福島昌子. 米原裕美. 東郷史治. 佐々木司：中高生の睡眠時間の変化と現状Dコホートの比較研究から (第2報), 第66回日本学校保健学会, 2019. 11, 国立オリンピック記念青少年総合センター.

- 4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）
- ・省察するコミュニティ 実践研究 福井ラウンドテーブル2020 spring sessions, 授業研究「子どもと教師の学びを支えるために授業研究・保育研究をいかに組織するか」（シンポジスト），2020.2.15, 福井大学大学院
- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）
- ・海洋教育基盤研究, 海洋教育プロジェクト研究, 研究分担者.

#### IV 社会貢献・国際交流記録

##### 5 学会，学術団体への貢献

###### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本学校保健学会, 千葉県学校保健学会, 日本双生児研究学会, 日本健康教育学会, 日本体育学会, 発育発達学会, 学校健康教育研究会.

###### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本双生児研究学会, 理事, 2018年4月1日～現在に至る.
- ・日本双生児研究学会, 選挙管理委員, 2018年4月1日～現在に至る.
- ・日本双生児研究学会, 学会誌編集委員, 2018年4月1日～現在に至る.

##### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・沖縄県宮古島市立池間小・中学校校内研修会, 「海洋教育プロジェクト教育」, 沖縄県宮古島市立池間小・中学校教員, 2019年5月8日, 沖縄県宮古島市立池間小・中学校.
- ・埼玉県公立高等学校等新任校長研修会, 埼玉県教育委員会, 「教員間・学校間の学び合いと学力向上」, 埼玉県立高等学校校長, 2019年6月4日, 埼玉県立教員研修センター.
- ・東京都八王子市立第五小学校校内研修会, 「教員間と学校間の協働の効果」, 東京都八王子市立第五小学校教員, 2019年7月4日, 東京都八王子市立第五小学校校.
- ・福井大学附属義務教育学校校内研究会, 「探究学習・プロジェクト学習」, 福井大学附属義務教育学校教員, 2019年7月31日, 福井大学附属義務教育学校.
- ・宮古島市小・中学校教員研修会, 「探究学習・プロジェクト学習」, 沖縄県宮古島市立池間中学校教員および宮古島市立小中学校教員, 2019年8月23,24日, 沖縄県宮古島市立池間中学校.
- ・宮古島市小・中学校教頭研修会, 「教員間・学校間の学び合いと学力向上」, 宮古島市小・中学校教頭, 2020年1月31日, 宮古島市教育事務所研修室.

#### V 管理・運営記録

##### 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・共通教育運営会議, 入試改革検討委員会, 入試実施委員会, 教務委員会, キャンパス・ハラスメント相談員, 教職課程委員会, 専門職間の連携活動論部会, カリキュラム・プランニング勉強会.

#### VI 評価（成果および改善すべき事項）

教職課程科目において，新カリキュラムおよび学習指導要領改定に即した指導法，授業方法の充実を図ることへの評価としては，国内の教育に関する最先端的動向を把握し（OECD，中教審，文科省など），その知識とスキルを授業および学内の校務に生かした。また教師教育力における教職開発については，県教委校長・教頭管理職研修，公立学校教員研修等の講師をととして教師および管理職の教育力向上に寄与した。

## 准教授 金澤 匠 博士（農学）

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2019年度は、研究費の獲得による研究の推進及び研究成果の公表（学会発表や学術論文投稿）を目指す。また、授業や実習の内容の見直しを行い、更なる工夫や充実を図る。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・体験ゼミナール.
- ・栄養学Ⅰ（基礎）.
- ・栄養学Ⅱ（応用）.
- ・食品学各論.
- ・食品学実験.
- ・基礎栄養学.
- ・基礎栄養学実習.
- ・卒業研究.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・Takumi Kanazawa: Effect of Ovariectomy and Ovarian Hormone Administration on Hepatic Autophagy in Female Rats, J. Nutr. Sci. Vitaminol., 65, 367-361, 2019.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・金澤匠：ラット肝臓及び骨格筋オートファジーに対するカロテン類の効果，日本食品科学工学会，2019年8月29～31日，藤女子大学.

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究，肥満ラットの肝オートファジーに対するカロテノイド摂取の効果，研究代表者.
- ・学内共同研究，高脂肪食摂取ラットの脂質代謝に及ぼすカプサイシンの影響，研究分担者.
- ・学内共同研究，野菜類の調理前の殺菌操作における成分変化および残存塩素量，研究分担者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 5 学会，学術団体への貢献

##### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本農芸化学会，日本生化学会，日本栄養・食糧学会，日本栄養改善学会，日本食品科学工学会.

##### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本栄養改善学会，評議員，2016年11月1日～現在に至る.

## V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）  
・総務・企画委員会. 危機管理委員会. 社会貢献委員会. 動物部会.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

研究に関しては、引き続き学内共同研究費を獲得することができ、カロテノイドの生体内オートファジーへの作用についての研究を更に進めることが出来た。昨年度得られた結果については、日本食品科学工学会において学会発表することができた。また、研究論文については、J. Nutr. Sci. Vitaminol. にオートファジーに関する学术论文を掲載することができた。講義では、学生の理解度が向上するよう定期的に課題提出を行ったり、各授業回での小テストの実施等を行った。また実験では、実験がスムーズにできるよう、手順や内容についての見直しや工夫を心掛け実践できた。今後も研究及び教育の内容が充実するよう進めていきたい。

## VII 次年度の目標

2020年度は、研究費の獲得による研究の推進及びその研究成果の公表（学会発表や学术论文投稿）を引き続き目指す。また教育の面でも、引き続き授業や実習の内容に関して工夫をすることで更なる内容の充実を図る。

## 講師 海老原 泰代 博士 (生活環境学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和元年度は、学生教育の面では担当する科目の中で、体験学習や模擬授業を取り入れることで学生の教育効果の向上をはかりたい。また研究においては学内外の関係者との連携を深め、引き続き千葉県健康課題に取り組む。さらに、これまで蓄積された成果を報告していきたい。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・体験ゼミナール.
  - ・管理栄養士導入教育.
  - ・栄養教育論Ⅰ.
  - ・栄養教育論Ⅱ.
  - ・栄養教育手法論.
  - ・栄養教育論実習.
  - ・栄養教諭教育実習 事前・事後指導.
  - ・栄養教諭教育実習.
  - ・総合演習.
  - ・卒業研究.
  
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)
  - ・栄養学、千葉市青葉看護専門学校.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線)

- ・海老原泰代, 加藤理津子, 千歳はるか: 公益財団法人 日本健康アカデミー, 令和元年度健康知識・教育に係る公募助成, 児童へのがん予防を含む生活習慣病予防教育における教育方法の検討 成果報告書, 2020年3月.
- ・(新聞) 海老原泰代: 現代食事考 食料自給率, 千葉日報, 2019年10月20日号.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル、主催学会 (学会名称)、開催日、場所等、本人下線)

- ・海老原泰代, 加藤理津子, 千歳はるか: 児童向けがん予防を含む生活習慣病予防のための栄養教育教材の検討～質問紙調査より, 第28回日本健康教育学会, 2019年6月29日～6月30日, 東京大学.
- ・海老原泰代, 岡田亜紀子, 渡邊智子, 渡辺満利子: 糖尿病発症予防を目的としたライフスタイル教育プログラムの評価, 第10回共同研究発表会, 2019年8月28日, 千葉県立保健医療大学.
- ・海老原泰代, 岡田亜紀子, 宮下隆: 千葉県内勤労者を対象とした栄養教育教材の開発およびライフスタイル改善効果について, 第78回日本公衆衛生学会, 2019年10月23日～10月25日, 高知市文化プラザかるぼーと.
- ・海老原泰代, 岡田亜紀子: メタボリックシンドローム対象者の糖尿病発症予防を目的とした栄養教育プログラムの開発, 第40回日本肥満学会, 2019年11月2日～3日, 東京国際フォーラム.
- ・岡田亜紀子, 海老原泰代, 渡邊智子: 千葉県の栄養教諭・学校栄養職員の現状および学校内での協力体制に関する調査, 第23回千葉県学校保健学会, 2019年12月14日, 聖徳大学 (千葉県松戸市).

## 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・公益社団法人 米穀安定供給確保支援機構、令和元年度ごはんの適量を学ぶ「3・1・2弁当箱法」体験セミナー事業、事業主担当者。
- ・公益財団法人 日本健康アカデミー、2019年健康知識・教育に係る公募助成、児童へのがん予防を含む生活習慣病予防教育における教育方法の検討、研究代表者。
- ・学長裁量研究、地域高齢者支援における大学生の体験型学習によって得られる学修効果の検証、研究分担者。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

#### 1) 千葉県内

- ・URほい大健康プログラム（地域高齢者支援における大学生の体験型学習によって得られる学修効果の検証）、2019年10月5日、11月2日。
- ・食生活向上お手伝い会、2019年7月23日～7月30日、千葉県館山市保健センター。

### 4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・千葉県栄養士会、研究教育部会役員、2016年4月1日～現在に至る。

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本公衆衛生学会、日本健康教育学会、日本臨床栄養協会、日本肥満学会、NPO法人西東京臨床糖尿病研究会、日本糖尿病学会、千葉県学校保健学会、日本栄養改善学会。
- ・日本栄養士会、千葉県栄養士会。

#### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・千葉県学校保健学会、理事、2017年4月1日～現在に至る。
- ・日本栄養改善学会、評議員、2018年11月1日～現在に至る。

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・特定保健指導の実践～脂質異常者の症例からの指導方法の検討～、館山市健康福祉部健康課、保健師、管理栄養士、2019年8月7日、館山市保健センター。
- ・令和元年度千葉県特定健診・特定保健指導 経験者研修、千葉県健康福祉部健康づくり支援課地域健康づくり班、「食生活に関する保健指導 初回面接・困難事例」、特定保健担当者、2020年2月14日、千葉県教育会館。

### 7 その他

- ・第2次鎌ヶ谷市食育推進計画の推進及び第3次鎌ヶ谷市食育推進計画策定準備に係る指導、鎌ヶ谷市健康福祉部健康増進課、鎌ヶ谷市食育担当者、2019年6月6日、鎌ヶ谷市総合福祉保健センター。
- ・「児童生徒のがんを含む生活習慣病予防のための減塩教育の検討」結果報告会、館山市教育委員会、館山市養護教諭、2019年3月25日、報告書による紙面報告とした。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会、栄養教諭教職課程運営委員会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・栄養学科運営会議。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動の面では担当する科目の中で、体験学習や模擬授業を取り入れることで学生の教育効果の向上をはかることができた。研究においては学内外の関係者との連携を深め、お互いの協力のもと千葉県健康課題に取り組むことができた。成果報告として学会発表に注力することができた。

## VII 次年度の目標

令和2年度は、新たな生活習慣が求められる中で、大学の授業の在り方も安全に配慮しつつ教育効果の向上を目指した授業方法を検討していきたい。研究面においては、外部資金へ応募するとともに、これまで館山市など県内の関係者と協力して取り組んできた千葉県健康課題に引き続き取り組む。

## 講師 鈴木 亜夕帆 博士 (学術)

対象期間：2019年6月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和元年度は、教育（授業）を中心にしながら、研究活動を進めることを目標とした。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・食事設計と調理.
- ・総合演習.
- ・調理科学実験（1年）.
- ・食事設計と調理実習.
- ・調理実習.
- ・調理科学実験（2年）.
- ・千葉県の健康づくり.
- ・食育論Ⅰ.
- ・食育論Ⅱ.
- ・食生活教育論.
- ・学校栄養教育論.
- ・教職実践演習.

### III 研究記録

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・渡邊 智子，梶谷 節子，柳沢 幸江，今井 悦子，石井 克枝，大竹 由美，中路 和子，鈴木 亜夕帆，峰村 貴央：千葉県の家庭料理 副菜の特徴，日本調理科学会大会，8月26-27日，中村学園大学（福岡）.

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究費，野菜類の調理前の殺菌操作における成分変化および残存塩素量，研究担当者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

##### 1) 千葉県内

- ・千葉県農林水産部安全農業推進課 食育啓発資料「食品ロス 食べ物のもったいないを減らそう！調理編」食材の有効活用レシピ提供.
- ・千葉県農林水産部安全農業推進課 食育啓発資料「ちばの食育 探・検・隊～大切な食べ物について考えよう～」グーパー食生活紹介ページアドバイス.
- ・千葉市健康支援課発行 食育&消費者教育情報誌「おいしくタベル たのしくマナブ Vol.5」作成アドバイザー（本学学生による千葉市産ねぎを使用したレシピ開発におけるアドバイザー）.

### 3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・文部科学省科学技術・学術審議会, 食品成分委員会及び作業部会専門委員.

### 5 学会, 学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・栄養改善学会, 調理科学会, 千葉学校保健学会.

### 6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・ちば食育ボランティアスキルアップ研修会「食」についての知識を深めて「伝え方」と学ぼう! 講師, ちば食育ボランティア対象, 11月14日, 千葉市.
- ・株式会社LEOC (給食受託会社) プロフェッショナル育成を目的とした社内研修制度「LEOC 大学院」における栄養学部 講師, 社内管理栄養士対象, 7月20日, 9月14日, 10月26日, 12月15日, 1月25日, 2月8日, 東京都.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・研究倫理委員会.

### 3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等>

- ・千葉テレビ ウィークリー千葉県「健康づくりのプロフェッショナルを目指して 県立保健医療大学」.

## VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育 (授業) については, 毎授業ごとに改善点を把握し次年度に生かせるようにした. 研究については, もう少し努力が必要であった.

## VII 次年度の目標

教育と研究に加えて, 社会貢献についても視野にいれながら努力を続けたい.

## 助教 阿曾 菜美 博士 (人間環境学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和元年度前半は育児休業中である。復帰後は、後期に担当する実験実習の補助を中心に、教育活動を行う。研究活動については、これまで行った研究についての論文執筆および投稿を目標とする。その他の活動についても、限られた時間を有効に使いながら、学科、大学、そして地域に貢献していきたい。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・解剖学実験.
  - ・基礎栄養学実習.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・阿曾 菜美, 東本 恭幸, 渡邊 智子, 細山田 康恵, 小川 真: 高齢女性における塩味の認知閾値と血圧および食・生活習慣に関する研究, 千葉県立保健医療大学紀要, 11巻, 1号, p76, 2020年.
- ・渡邊 智子, 東本 恭幸, 細山田 康恵, 河野 公子, 海老原 泰代, 阿曾 菜美, 岡田 亜紀子, 峰村 貴央, 小川 真, 上野 佳代, 島田 美恵子, 麻賀 多美代, 麻生 智子, 鈴鹿 祐子, 雄賀多 聡, 竹内 弥彦, 江戸 優裕, 岡村 太郎, 鈴木恵子: 千葉県の高齢者ための健康づくりプログラム (ほい大健康プログラム) の開発と評価に関する研究, 千葉県立保健医療大学紀要, 11巻, 1号, p64, 2020年.
- ・細山田 康恵, 金澤 匠, 阿曾 菜美, 東本 恭幸, 山田 正子: 低糖質食と脂肪酸組成の異なる油脂がラットの不安行動に及ぼす影響, 千葉県立保健医療大学紀要, 11巻, 1号, p73, 2020年.

#### 3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・阿曾 菜美, 東本 恭幸, 渡邊 智子, 細山田 康恵, 小川 真: 高齢女性における塩味の認知閾値と血圧および食・生活習慣に関する研究, 第23回日本病態栄養学会学術集会, 令和2年1月25日, 国立京都国際会館.
- ・細山田 康恵, 金澤 匠, 阿曾 菜美, 東本 恭幸, 山田 正子: 低糖質食と脂肪酸組成の異なる油脂がラットの不安行動に及ぼす影響, 第73回日本栄養・食糧学会大会, 令和元年5月19日, 静岡県立大学.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本生理学会. 日本体力医学会. 日本食生活学会. 日本病態栄養学会. The American Physiological Society.
- 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)
  - ・千葉県栄養士会. 千葉県栄養改善学会開催補助. 2020年2月1日.
  - ・Experimental Brain Research, 査読者. 2019年8月.
  - ・International Journal of Sports Medicine, 査読者. 2020年3月.

## V 管理・運営記録

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・栄養学科運営会議 3年生副担任.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

8月末に育児休業から復帰した。復帰後は、担当科目や副担任業務を通して、教育活動に力を入れた。研究活動については、目標としていた論文投稿には至らなかったが、学会発表や論文執筆等、ある程度の進展も得られた。地域における社会貢献の場をもつことはできなかったが、学会の開催補助や論文の査読等で、関連分野に貢献することができた。

## VII 次年度の目標

新型コロナウイルス感染拡大により、教育や研究の様々な面で影響を受けることが予想される。そのような中でも、遠隔授業や感染対策を講じた実験実習など、科目担当者と協力し新たな手法を取り入れ、教育の質を落とさない工夫をしていきたい。研究活動においては、被験者と接触する実験や遠方での学会参加等は慎重になる必要があるが、論文執筆や新たな実験計画の立案等、置かれた環境下でできることを模索していきたい。

## 助教 田村 友峰子 修士 (生命科学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育と研究の両立とともに，社会貢献の機会を作る。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・ 専門職間の連携活動論.
- ・ 食品加工実習.
- ・ 食品衛生学実験.
- ・ 給食経営管理実習.
- ・ 総合演習.
- ・ 給食経営管理臨地実習.
- ・ 事前指導.
- ・ 事後指導.

## 助教 岡田 亜紀子 修士 (学術)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

県民の方々、学生への貢献はもちろんのこと、教育活動関連科目に関連する分野の原著論文を1報作成できるよう、時間管理、業務の効率化に努める。学位取得に向け、研究活動に励む。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・公衆栄養学実習.
  - ・公衆栄養臨地実習.
  - ・事前指導.
  - ・事後指導.
  - ・栄養教育論実習.
  - ・栄養教諭教育実習.
  - ・栄養教諭教育実習 事前・事後指導.
  - ・調理科学実験 (1年).
  - ・調理科学実験 (2年).
  - ・専門職間の連携活動論.
  
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)
  - ・栄養学 (千葉市立青葉看護専門学校).
  - ・臨床栄養代謝学Ⅱ (神奈川県立衛生看護専門学校).

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所)

- ・岡田亜紀子：食と健康，1月号，p. 37, 84-85, 2020，(公社) 日本食品衛生協会，東京.
- ・岡田亜紀子：食と健康，3月号，p. 41, 80-81, 2020，(公社) 日本食品衛生協会，東京.

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線)

- ・東本恭幸，長谷川卓志，平尾由美子，岡田亜紀子：在宅医療における食事・栄養支援の現況と課題：訪問看護事業所への質問紙調査から，日本在宅医療連合学会誌，1, 1, 22-30, 2019.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル、主催学会 (学会名称)、開催日、場所等、本人下線)

- ・海老原泰代，岡田亜紀子，渡邊智子，渡辺満利子：糖尿病発症予防を目的としたライフスタイル教育プログラムの評価，第10回共同研究発表会，2019年8月28日，千葉県立保健医療大学.
- ・岡田亜紀子，海老原泰代，渡邊智子：千葉県の栄養教諭・学校栄養職員の現状および学校内での協力体制に関する調査，第10回共同研究発表会，2019年8月28日，千葉県立保健医療大学.
- ・海老原泰代，岡田亜紀子，宮下隆：千葉県内勤労者を対象とした栄養教育教材の開発およびライフスタイル改善効果について，第78回日本公衆衛生学会，2019年10月23日～10月25日，高知市文化プラザかるぽーと.
- ・海老原泰代，岡田亜紀子：メタボリックシンドローム対象者の糖尿病発症予防を目的とした栄養教育プログラムの開発，

第40回日本肥満学会. 2019年11月2日～3日, 東京国際フォーラム.

- ・岡田亜紀子, 海老原泰代, 渡邊智子: 千葉県の栄養教諭・学校栄養職員の現状および学校内での協力体制に関する調査, 第23回千葉県学校保健学会. 2019年12月14日, 聖徳大学.

#### 5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学内共同研究(学長裁量), 地域高齢者支援における大学生の体験型学習によって得られる学修効果の検証, 分担研究者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 1 地域におけるボランティア活動等(活動名称, 活動期間, 場所等)

##### 1) 千葉県内

- ・ほい大健康プログラム, 2019年4月～2020年3月. 千葉市内UR団地4カ所.

#### 3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績(活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県白井市. 地域ケア会議助言者(管理栄養士). 2019年9月～2020年3月.

#### 5 学会, 学術団体への貢献

##### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本栄養改善学会, クリニカルパス学会, 日本臨床栄養協会, 千葉県学校保健学会, 日本在宅栄養管理学会, 公衆衛生学会, 日本在宅医療学会.
- ・日本栄養士会, 千葉県栄養士会.

#### 6 講演会(公開講座を含む)/研修会の講師・研究指導等(会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・第7回 千葉市薬剤師会学術講演会, 千葉市薬剤師会. ロコモの基礎知識と予防対策 管理栄養士の立場から～栄養指導を踏まえて～. 2019年6月21日. 千葉市総合保健医療センター5階大会議室.
- ・いきいき夢情報教室 栄養学講座. 白井市高齢者福祉課. あなたの食習慣, 見直し隊!～食事バランス編～. 2020年9月20日. 白井市保健福祉センター研修室2, 西白井複合センター多目的室.
- ・いきいき夢情報教室 栄養学講座. 白井市高齢者福祉課. あなたの食習慣, 見直し隊!～「適塩」の方法と食品の選び方～. 2019年9月27日. 白井市保健福祉センター研修室2, 西白井複合センター多目的室.
- ・大人のための食育講座. 幸手市立図書館. あなたの食事はこれで良い?～栄養の基本ABC～. 2019年10月27日. 幸手市立図書館視聴覚室.
- ・大人のための食育講座. 幸手市立図書館. 認知症予防の食事. 2019年11月17日. 幸手市立図書館視聴覚室.
- ・成田市生涯大学院教養講座. 成田市教育委員会生涯学習課. 楽しむ食生活のすすめ. 2020年2月3日. 成田市生涯大学校.

### V 管理・運営記録

#### 2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・栄養学科2年生副担任.

#### 3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等>

- ・進学説明会. 2019年4月11日. 学校法人君津学園木更津総合高校.
- ・進学説明会. 2019年11月25日. 千葉県立流山おおたかの森高校.

### VI 評価(成果および改善すべき事項)

教育活動では, 学びの環境をよりよいものにするため, 科目担当ならびに関係する教員と学生の様子をできるだけ観察し, 授業内で使用する教材等の整備や改良をおこなった. 研究活動では, 原著論文が作成できず目標は達成出来なかった. 大学の

運営，社会貢献活動では，大学，県職員の一員として，貢献先の依頼に応えられるよう努力した。

## **VII 次年度の目標**

県民の方々，学生への貢献はもちろんのこと，原著論文を1報以上作成できるよう，時間管理，業務の効率化に努める。  
学位取得に向け，研究活動に励む。

## 助教 峰村 貴央 修士（食品栄養学）

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和元年度は、教育・研究・社会貢献の業務バランスを意識し、計画的に取り組んでいく。特に研究活動では、前年度から継続している研究を発展させるとともに、これまでの研究成果の公表に取り組んでいきたい。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
  - ・食品学実験.
  - ・食品化学実験.
  - ・調理実習.
  - ・応用栄養学実習.
  - ・体験ゼミナール.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年. 本人下線）

- ・渡邊智子，東本恭幸，細山田康恵，河野公子，海老原泰代，阿曾菜美，岡田亜紀子，峰村貴央，小川真，上野佳代，島田美恵子，麻賀多美代，麻生智子，鈴鹿祐子，雄賀多聡，竹内弥彦，江戸優裕，岡村太郎，鈴木恵子：千葉県の高齢者ための健康づくりプログラム（ほい大健康プログラム）の開発と評価に関する研究，千葉県立保健医療大学紀要，11(1)，64，2020.
- ・峰村貴央，田村友峰子，土橋昇，河野公子，渡邊智子：実摂取食塩量の把握と栄養計算方法の確立～煮物等の調理後の食材と煮汁に含まれる食塩量の現状～，千葉県立保健医療大学紀要，11(1)，71，2020.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等. 本人下線）

- ・渡邊智子，梶谷節子，柳沢幸江，今井悦子，石井克枝，大竹由美，中路和子，鈴木亜夕帆，峰村貴央：千葉県の家庭料理副菜の特徴－副菜にみる食文化の特徴－，日本調理科学会2019年度大会，2019.8.26-27，中村学園大学.
- ・佐々木勇太，大坪恭子，峰村貴央，花城勲，阿久澤さゆり：数種の澱粉の理化学的性質に関する研究，日本食品科学工学会第66回大会，2019.8.29-31，藤女子大学.
- ・峰村貴央，長岡純子，松森慎悟，阿久澤さゆり：炊飯米および加熱操作後の肉類の硬さと咀嚼活動の比較，日本食品科学工学会第66回大会，2019.8.29-31，藤女子大学.
- ・峰村貴央，佐々木梓，渡邊智子，鈴木礼子，齋藤さな恵，三舟隆之：東大寺写経生の海藻摂取と疾病に関する研究～ヨウ素摂取量～，第66回日本栄養改善学会学術総会，2019.9.5-7，富山県民会館.
- ・鈴木礼子，西念幸江，峰村貴央，齋藤さな恵，山崎健，小田裕樹，馬場基，三舟隆之：奈良時代と現代の食生活の比較～エネルギー産生バランスについて～，第66回日本栄養改善学会学術総会，2019.9.5-7，富山県民会館.
- ・張嘉妙，佐伯佳恵，濱中綾子，青山瑞希，高井佳奈子，峰村貴央，小西敏郎，鈴木礼子：大学生の果物摂取量，味質識別能（甘味）及び食環境について，第78回日本公衆衛生学会総会，2019.10.23-25，高知市文化プラザかるぼーと.
- ・濱中綾子，張嘉妙，佐伯佳恵，青山瑞希，高井佳奈子，峰村貴央，小西敏郎，鈴木礼子：大学生の野菜摂取量と食環境・生活状況についての横断的調査，第78回日本公衆衛生学会総会，2019.10.23-25，高知市文化プラザかるぼーと.
- ・佐伯佳恵，張嘉妙，濱中綾子，青山瑞希，高井佳奈子，峰村貴央，小西敏郎，鈴木礼子：大学生の食事調査～亜鉛摂取量の現状評価と塩味識別能について～，第78回日本公衆衛生学会総会，2019.10.23-25，高知市文化プラザかるぼーと.

- ・峰村貴央, 阿久澤さゆり:産地の異なる米の性状と炊飯特性について, 第29回日本健康医学会総会, 2019.11.9, 兵庫医科大学.
- ・峰村貴央, 渡邊智子:大学生による大学生のためのランチ提供を伴う食育活動について, 第23回千葉県学校保健学会年次大会, 2019.12.14, 聖徳大学.
- ・高橋希, 小野理華, 武藤由美子, 國府田達雄, 市川滋子, 大野義弘, 片寄静香, 永田馨, 井上誠, 池田俊士, 峰村貴央, 渡邊智子:企業従業員への食育の取組が食知識・食意識に及ぼす影響, 第58回千葉県公衆衛生学会, 2020.1.28, 千葉市文化センター.

#### 5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金 基盤研究(B), 古代食の総合的復元による食生活と疾病の関係解明, 研究分担者.
- ・2019年度千葉県立保健医療大学 学長裁量研究, 地域高齢者支援における大学生の体験型学習によって得られる学修効果の検証, 研究分担者.

#### 6 受賞・特許

- ・第58回千葉県公衆衛生学会 優秀演題

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 1 地域におけるボランティア活動等(活動名称, 活動期間, 場所等)

- 1) 千葉県内
  - ・ちば食育応援隊として食育・健康づくり活動, 2019年5月18日(千葉市幕張ベイタウン祭り).
  - ・ほい大健康プログラム, 2019年10月5日(UR高洲第一団地・高洲第二団地), 11月2日(UR千草台団地・あやめ台団地).
  - ・歯科衛生学科オーラルフレイル, 2019年12月21日(URさつきが丘団地).

#### 5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本食品科学工学会, 日本調理科学会, 日本応用糖質科学会, 日本栄養改善学会, 日本健康医学会, 日本給食経営管理学会, 千葉県学校保健学会

### V 管理・運営記録

#### 1 全学委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・動物部会

#### 2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・4年生副担任, 国家試験対策委員会

### VI 評価(成果および改善すべき事項)

年度当初の目標は業務バランスを意識することだったが, 教育・研究活動を優先的に行ったため, 社会貢献を行う機会が少なかった。教育活動では, 4年生の進路相談や国家試験対策の相談を通して, 学生の将来の一端を担うことができた。研究活動においては, 研究分担者として取り組んでいる研究について学会報告を行い, おおむね順調に取り組むことができた。一方で, 自らの研究課題は計画よりも停滞傾向であるため, 優先度を高め, 実験の完遂に努める。

### VII 次年度の目標

前年度までの反省点を生かし, 次年度の目標も教育・研究・社会貢献の3つを挙げ, これらを同時に実践ができるように

業務スタイルの確立に努める。具体的には、教育では、課題に対する疑問・質問は授業内で完結できるように支援をしていく。研究では、着任時に取得した学内共同研究課題の論文掲載を目指す。また、授業時間外や夏季休業等を活用し、自らの研究課題や他大学との共同研究を着実に遂行していく。社会貢献では、分野問わず積極的に引き受けていきたい。来年度は、着任3年目であることから、学科運営に貢献できるように責任をもって取り組んでいく。

## 助教 生魚 薫 修士 (家政学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2019年度は着任初年度であったため、担当授業の手順習得や学内状況把握に努める。次年度に向けた研究計画を進めていく。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・臨床栄養学実習.
  - ・栄養ケアマネジメント論演習.
  - ・事後指導.
  - ・臨床栄養臨地実習.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・生魚薫, 杉浦令子, 村田光範: 肥満児に対する新しい学校給食摂取基準に基づいた栄養食事指導における身長・体重成長曲線の活用, 日本成長学会雑誌, 25巻1号, 5-11, 2019.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・生魚薫, 杉浦令子, 村田光範: 新しい学校給食摂取基準に準じた児童生徒の実態に見合った学校給食エネルギー摂取量の算出, 第66回日本小児保健協会学術集会, 6月22日, 船堀タワーホール.
- ・杉浦令子, 生魚薫, 村田光範: 2000年度以降にみられる学齢期小児の身長と体重の変動, その後の検討, 第66回日本小児保健協会学術集会, 6月22日, 船堀タワーホール.
- ・生魚薫, 杉浦令子, 村田光範: 学校給食摂取基準に準じた児童生徒の体格に見合った学校給食エネルギー摂取量の算出と成長曲線の活用について, 第30回日本成長学会学術集会, 11月16日, 女子栄養大学.
- ・杉浦令子, 生魚薫, 村田光範: 2000年度以降にみられる特異的な学齢期小児の体重変動, 第30回日本成長学会学術集会, 11月16日, 女子栄養大学.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

- 1) 千葉県外
  - ・鈴木糖尿病内科クリニック栄養指導 (2019年11月より)

#### 5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本臨床栄養代謝学会, 日本栄養改善学会, 日本臨床栄養学会, 日本病態栄養学会, 日本成長学会, 日本肥満学会, 日本小児保健協会, 日本小児科学会.
  - ・日本栄養士会, 千葉県栄養士会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・千葉県栄養士会 (研究教育・学校事業部 (第2回合同研修会) 会場設営担当, 12月7日)

## V 管理・運営記録

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・栄養学科運営委員 (2019年2月～), 4年生副担 (2019年3月のみ)

## VI 評価 (成果および改善すべき事項)

今年度の後期より着任となったため, 後期分の実習・演習について教育補助の習得に努めた。また, 上長・上席教員との報連相を行うことで学生の学び環境を整えることを心掛けた。着任後半は, 社会貢献として栄養指導実施, 学科運営委員など教育補助以外の活動においてペースをつかむことが出来た。研究活動においては, 学会発表を行うことはできたが論文掲載には至らなかった。

## VII 次年度の目標

前期の教育補助は初めてとなるため, 引き続き内容習得に努め, 学生教育に貢献していく。クリニック栄養指導を継続する。研究活動においては, 論文化を進めていく。

# 菌科衛生学科



## 教授 兼 学科長 麻賀 多美代 博士 (工学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育においては、教育目標を達成できるよう、より充実した講義、実習になるように工夫し、学生が主体的に取り組めるよう指導を行う。研究については地域包括ケアに関連した研究に取り組み、研究成果を発信できるよう努める。積極的に大学の管理・運営や社会貢献活動に参加する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・ 歯科衛生学概論.
- ・ 歯科衛生基礎演習.
- ・ 発達歯科衛生学Ⅱ (成人・高齢者).
- ・ 顎口腔機能リハビリテーション論.
- ・ 演習Ⅲ (口腔機能リハビリテーション).
- ・ 歯科診療室基礎実習.
- ・ 総合演習.
- ・ 歯科診療室総合実習.
- ・ 継続・個別支援実習.
- ・ 発達歯科衛生実習Ⅱ (成人・高齢者).
- ・ 看護技術論Ⅱ (生活援助技術).
- ・ 連携活動論.
- ・ 卒業研究.

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所)

- ・ 遠藤圭子, 高坂利美, 大川由一, 水上美樹, 犬養順子, 平澤玲子, 来住準一, 田副真美, 吉田直美, 野村正子, 秋山恭子, 麻賀多美代 他, 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版, 2020年3月, 医歯薬出版, 東京.

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・ 今井宏美, 麻賀多美代, 松井恭平, 三澤哲夫: 歯磨き練習モジュールの開発と自己学習の教育教材としての提案, 人間工学, 55, 4, 126-132, 2019.
- ・ 麻賀多美代: 正しい筆記具の把持動作のトレーニングがスクレーラーの把持動作に及ぼす効果の検討, 千葉工業大学大学院博士論文, 1-37, 2020.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・ 高橋美保, 麻賀多美代, 金子 潤: 自然な笑顔を作るための表情筋マッサージの効果と生理的变化, 第14回日本歯科衛生学会, 2019年9月16日, 名古屋.
- ・ 麻賀多美代, 酒巻裕之: 歯科衛生教育における所属リンパ節診査の試みについて, 第12回日本口腔検査学会, 第30回日本臨床口腔病理学会, 第29回日本口腔内科学会, 第32回日本口腔診断学会, 2019年度 合同学術大会, 2019年9月23日, 東京.

- ・今井宏美, 麻賀多美代, 椿 祥子, 麻生智子, 河部房子, 三澤哲夫: 現実適合性の高い口腔ケア用モバイルシミュレータを用いた部分学習が全体学習に及ぼす影響, 産業保健人間工学会第24回大会, 2019年10月20日, 千葉.
- ・酒巻裕之, 麻賀多美代: アウトカム基盤型教育における歯科衛生教育での一次救命処置の演習に関する教育法の検討, 第10回日本歯科衛生教育学会, 2019年12月8日, 福岡.
- ・麻賀多美代, 麻生智子, 大川由一, 鈴鹿祐子, 酒巻裕之, 河野 舞, 金子 潤, 荒川 真, 石川裕子, 木戸田直美: 地域高齢者への健康増進プログラムにおける学生ボランティアの活動報告, 第10回日本歯科衛生教育学会, 2019年12月8日, 福岡.
- ・酒巻裕之, 麻賀多美代: チームダイナミクスによる心肺蘇生演習は医療安全コミュニケーションスキルが向上する, 第6回日本医療安全学会学術総会(インターネット学術総会), 2020年3月7日-4月2日.

## 5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究(C), 地域高齢者におけるオーラルフレイルの予防に向けた健康増進プログラムの実践と評価—誤嚥による肺炎予防のために—, 研究代表者.
- ・科学研究費補助金基盤研究(C), 質の高い口腔ケア技術獲得に資する現実適合性の高いモバイルシミュレータの開発と検証, 研究分担者.
- ・学内共同研究費, 万能型看護実習モデルを用いた口腔健康管理における医療安全教育の検証, 共同研究者.
- ・学内共同研究費, 地域在住高齢者の自助・互助活動を支援する手法の開発, 共同研究者.
- ・学長裁量研究, 介護予防と口腔機能の回復・維持・向上に関する歯科衛生士のための人材育成研修の実践, 研究代表者.
- ・学長裁量研究, 口腔機能低下症の現状と啓発についての検討, 研究分担者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等(活動名称, 活動期間, 場所等)

#### 1) 千葉県内

- ・障害者の口腔衛生指導, 2019年4月~2020年3月の第3木曜日午前, 千葉県リハビリテーションセンター更生園.
- ・オーラルフレイル予防プログラム, 2019年4月~現在に至る(月1回), UR花見川団地・さつきが丘団地.
- ・千葉市お口のボランティア活動, 2019年4月~2019年12月, 千葉県立保健医療大学.
- ・打瀬中学校の職場体験学習, 2019年5月23日-24日, 千葉県立保健医療大学.
- ・ほい大健康プログラム, 2019年10月5日, UR高洲団地.

### 2 地域への保健医療活動(診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・継続個別支援・歯科診療補助の実施, 2019年4月~現在に至る, 千葉県立保健医療大学歯科診療室.
- ・白井市地域ケア会議, 2019年7月, 白井市地域包括支援センター.

### 3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績(活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・日本歯科医療振興財団, 歯科衛生士試験委員会幹事委員, 2019年4月~現在に至る.
- ・千葉県歯科衛生士育成協議会, 役員, 2019年4月~現在に至る.
- ・全国大学歯科衛生士教育協議会, 副会長, 2019年4月~現在に至る.
- ・国公立大学法人等歯科医療従事者養成機関担当者会議, 担当者, 2019年4月~現在に至る.

### 5 学会, 学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本歯科衛生士会, 千葉県歯科衛生士会, 日本歯周病学会, 日本口腔ケア学会, 日本咀嚼学会, 日本歯科衛生学会, 日本歯科衛生教育学会, 日本摂食嚥下リハビリテーション学会, 日本歯科医学教育学会, 日本口腔衛生学会, 日本口腔内科学会, 日本口腔外科学会, 日本公衆衛生学会.

## 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・高校生への歯科衛生士の仕事と学校について 説明会の講師。千葉県歯科衛生士育成協議会。高校生。養成校での教育内容。2019年7月6日。千葉県立保健医療大学。
- ・日歯認定歯科助手講習会講師。千葉県歯科医師会。高齢者の対応。歯科助手。2019年9月29日。千葉県立保健医療大学。
- ・更生施設入所者健康教育の講師。千葉県リハビリテーションセンター更生園。歯は健康の原点。更生園入所者。2019年10月31日。11月7日。千葉県リハビリテーションセンター更生園。

## 7 その他

- ・大学説明会，2019年4月25日，幕張メッセ。
- ・全国大学歯科衛生士教育協議会令和元年度第1回理事会・総会，2019年5月11日，貸会議室プラザ。
- ・全国大学歯科衛生士教育協議会令和元年度第2回理事会，臨時総会，2019年9月7日，千葉県立保健医療大学。
- ・令和元年度国公立大学法人等歯科医療従事者養成機関担当者会議，2019年11月8日。東北歯科大学。
- ・日本歯科衛生学会雑誌（第14巻1号）の査読，2019年9月。
- ・千葉県立保健医療大学10周年記念誌，2019年11月。
- ・歯科衛生学科卒業論文，巻頭言，2020年1月。
- ・全国大学歯科衛生士教育協議会雑誌。Vol.9，巻頭言。2020年3月。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学運営会議。教授会。将来構想検討委員会。人事委員会。教員再任審査委員会。教員資格審査委員会。自己点検・評価委員会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議。歯科診療室会議。
- ・お口の健康守り隊サークル，顧問

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育では、教育目標を達成できるように指導内容を工夫し、一人ひとりの状況を踏まえて支援を行った。しかし、臨床実習においては実習内容に制限が生じたため、次年度は実習内容を検討したいと考える。研究については科研費の助成により、UR協力の下、地域在住高齢者を対象にオーラルフレイルを予防するためのプログラムを実施することができている。社会貢献としては地域における介護予防や、口腔健康管理が必要な障害者に対して支援を行うことができた。

## VII 次年度の目標

教育においては、学生が主体的に取り組み、教育目標を達成できるよう、教育内容の質の向上を目指す。臨床実習については、実習先の指導者と連携を図り、限られた実習日を有効に生かした実習ができるように検討する。研究については地域包括ケアに関連した研究成果を発信するよう努める。そして、積極的に大学の管理・運営や社会貢献活動に参加する。

## 教授 酒巻 裕之 博士 (歯学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和元年度、特に教育面では、学生が予習・復習を行うように、授業開始時にはミニテスト、授業終了時には振り返りを行うよう進める。臨床実習では、医療や介護を必要とする対象者とした口腔健康管理に関するシミュレーション教育について検討する。大学の管理・運営について、入試実施委員会委員長として、入試実施体制の改編、入学試験が円滑に進むように遂行する。教務委員会委員として、委員会所掌を遂行する。社会貢献について、歯科診療室での歯科診療と千葉市口腔がん検診（個別検診）において、地域住民に貢献する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・口腔病理学.
- ・歯科感染予防学.
- ・顎口腔外科学.
- ・顎口腔機能論.
- ・歯科衛生基礎演習.
- ・発達歯科衛生学 I (小児).
- ・歯科診療室基礎実習.
- ・継続・個別支援実習.
- ・臨床実習Ⅲ (病院実習).
- ・歯科診療室総合実習.
- ・卒業研究.

##### 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)

- ・口腔・顎顔面領域の疾患-②、口腔外科学 (診療の基本-②) (日本大学松戸歯学部 兼任講師).
- ・口腔外科 I, 顎口腔外科学 (北原学院千葉歯科衛生専門学校 非常勤講師)

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所)

- ・山根玄之, 酒巻裕之, 里村一人, 野村武史 編著：歯科衛生士のための口腔内科 全身と口腔をつなぐオーラルメディスン, 第1版, 2019, 医歯薬出版, 東京.
- ・一般社団法人 日本有病者歯科医療学会編, 今井裕 監修, 足立了平, 石垣佳希, 岩淵博史, 金子忠良, 酒巻裕之, 宮田勝 編著：歯科衛生士必須 有病者歯科学, 第1版, 2020, 永末書店, 京都.

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・酒巻裕之, 秋葉正一, 山口朱見：歯科から多職種へ伝えたい口腔健康管理 (口腔ケア) と医療安全 ―義歯の取り扱いを含めて―, 医療と安全, 10, 24-26, 2019.
- ・酒巻裕之：クイズで考える！口腔粘膜 口腔潜在的悪性疾患はどれでしょうか?, デンタルハイジーン, 30, 4, 347-350, 2019.
- ・酒巻裕之：クイズで考える！口腔粘膜 適切な経過観察の間隔は?, デンタルハイジーン, 30, 5, 459-462, 2019.

- ・酒巻裕之:クイズで考える!口腔粘膜 感染による口腔粘膜病変はどれでしょう?, デンタルハイジーン, 30, 6, 587-590, 2019.

### 3 発表(発表者:発表タイトル, 主催学会(学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・Naomi Yoshida, Kumiko Sugimoto, Ayako Kubota, Hiromi Otsuka, Yoshikazu Okawa, Sato Yamanaka, Hiroyuki Sakamaki, Yukie Yoshida, Manabu Yanagida: Oral health status and oral health behavior of newly enrolled university students in Japan, International Federation Dental Hygienists, Aug.16.2019, Brisbane.
- ・小川玲奈, 酒巻裕之, 鈴鹿祐子, 金子 潤: 高速コントラアングルの切削音で脈拍数が減少する—エアータービンハンドピースとの比較—, 日本歯科衛生学会 第14回学術大会, 2019年9月16日, 名古屋.
- ・Naomi Yoshida, Kumiko Sugimoto, Ayako Kubota, Naoko Adachi, Hitomi Suzuki, Sato Yamanaka, Yoshikazu Okawa, Hiroyuki Sakamaki, Hiromi Otsuka, Yukie Yoshida, Manabu Yanagida: Association between Oral Health Status and Self-reported Complaints in Adolescence, The Continental European Division of the International Association for Dental Research, Sep.20.2019, Madrid.
- ・久保田順子, 末光正昌, 宇都宮忠彦, 鈴木武洋, 鈴木友子, 齋藤真規, 栗原紀子, 遠藤弘康, 酒巻裕之, 伊藤孝則, 久山佳代: 義歯床粘膜面のカンジダ同定法の比較および義歯管理状況との関連性の検討, 第12回日本口腔検査学会, 第30回日本臨床口腔病理学会, 第29回日本口腔内科学会, 第32回日本口腔診断学会, 2019年度 合同学術大会, 2019年9月22日, 東京.
- ・麻賀多美代, 酒巻裕之: 歯科衛生教育における所属リンパ節診査の試みについて, 第12回日本口腔検査学会, 第30回日本臨床口腔病理学会, 第29回日本口腔内科学会, 第32回日本口腔診断学会, 2019年度 合同学術大会, 2019年9月23日, 東京.
- ・酒巻裕之, 麻賀多美代: アウトカム基盤型教育における歯科衛生教育での一次救命処置の演習に関する教育法の検討, 第10回日本歯科衛生教育学会, 2019年12月8日, 福岡.
- ・麻賀多美代, 麻生智子, 大川由一, 鈴鹿祐子, 酒巻裕之, 河野 舞, 金子 潤, 荒川 真, 石川裕子, 木戸田直美: 地域高齢者への健康増進プログラムにおける学生ボランティアの活動報告, 第10回日本歯科衛生教育学会, 2019年12月8日, 福岡.
- ・酒巻裕之, 麻賀多美代: チームダイナミクスによる心肺蘇生演習は医療安全コミュニケーションスキルが向上する, 第6回日本医療安全学会学術総会(インターネット学術総会), 2020年3月7日-4月2日

### 5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究(C), 地域高齢者におけるオーラルフレイルの予防に向けた健康増進プログラムの実践と評価—誤嚥による肺炎予防のために—, 研究分担者.
- ・学内共同研究費, 万能型看護実習モデルを用いた口腔健康管理における医療安全教育の検証, 研究代表者.
- ・学長裁量研究, 口腔機能低下症の現状と啓発についての検討, 研究分担者.
- ・学長裁量研究, 介護予防と口腔機能の回復・維持・向上に関する歯科衛生士のための人材育成研修の実践, 研究分担者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等(活動名称, 活動期間, 場所等)

#### 1) 千葉県内

- ・オーラルフレイル予防プログラム. 2018年10月~現在に至る. UR花見川団地・さつきが丘団地.
- ・打瀬中学校の職場体験学習. 2019年5月23-24日. 千葉県立保健医療大学.

### 2 地域への保健医療活動(診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・歯科診療 2009年4月~現在に至る. 千葉県立保健医療大学歯科診療室.
- ・日本口腔外科学会専門医(第770号) 1996年10月1日~現在に至る.
- ・日本口腔外科学会指導医(第664号) 2001年10月1日~現在に至る.
- ・日本糖尿病協会歯科医師登録医 2013年9月1日~現在に至る. 糖尿病患者の歯科診療に当たる.
- ・がん患者歯科医療連携登録医 2013年10月3日~現在に至る. 2015年2月16日全国に名簿が公表される.

- ・日本歯科放射線学会歯科放射線准認定医（第783号） 2018年4月1日～現在に至る。
- ・日本口腔内科学会専門医（第65号） 2019年10月1日～現在に至る。
- ・日本口腔内科学会指導医（第44号） 2019年10月1日～現在に至る。
- ・ICD協議会インフェクションコントロールドクター（ICD）（第MC0202号） 2020年1月1日～現在に至る。
- ・千葉市口腔がん検診 検診医 2019年6月1日～2020年1月24日 検診数62件 千葉県立保健医療大学歯科診療室
- ・千葉県歯科医師会認定口腔がん検診医（第2018-262号） 2018年3月18日～現在に至る。
- ・日本大学松戸歯学部附属病院 診療指導，2009年4月1日～現在に至る。
- ・総合病院国保旭中央病院 手術指導，2011年4月1日～現在に至る。

## 5 学会、学術団体への貢献

### 1) 所属学会・学術団体

- ・International Association of Oral and Maxillofacial Surgeons. Asian Association of Oral and Maxillofacial Surgeons. 日本口腔外科学会. 日本口腔科学会. 日本口腔内科学会. 日本歯科医学教育学会. 日本歯科衛生学会. 日本歯科衛生教育学会. 日本口腔診断学会. 日本臨床口腔病理学会. 日本臨床細胞診学会. 日本有病者歯科医学会. 日本老年歯科医学会. 日本小児歯科学会. 日本大学口腔科学会. 日本看護技術学会. 日本医療安全学会. 日本口腔ケア学会. 日本公衆衛生学会. 日本顎顔面インプラント学会. 日本医学教育学会.

### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本大学口腔科学会. 評議員. 2007年4月1日～現在に至る。
- ・日本口腔科学会. 評議員. 2009年4月1日～現在に至る。
- ・日本口腔内科学会. 評議員. 2009年6月1日～現在に至る。
- ・日本口腔外科学会. 代議員. 2012年9月2日～現在に至る。
- ・日本医療安全学会. 代議員. 2014年4月1日～現在に至る。理事. 2018年3月21日～現在に至る。
- ・日本医療安全学会. 広報委員. 2016年4月1日～現在に至る。
- ・日本歯科衛生学会雑誌. 外部査読員. 2013年4月1日～現在に至る。
- ・Journal of Oral Maxillofacial Surgery, Medicine and Pathology. 査読者. 2013年4月1日～現在に至る。
- ・日本歯科医学教育学会. 評議員. 2019年4月1日～現在に至る。
- ・第73回NPO法人日本口腔科学会学術集会 口演 臨床研究 その他1 座長. 2019年4月21日. 川越。
- ・第12回日本口腔検査学会, 第30回日本臨床口腔病理学会, 第29回日本口腔内科学会, 第32回日本口腔診断学会, 合同学術大会. 歯科衛生士・看護師セッション. 口演 座長. 2019年9月23日. 東京。

## 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・令和元年度歯科衛生士研修会. 介護予防と口腔機能の回復・維持・向上に関わる歯科衛生士のための人材育成研修. 口腔機能について—総論—. 歯科衛生士. 2020年1月26日, 千葉県立保健医療大学。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会. 教務委員会. 入試実施委員会（委員長）。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議. 歯科診療室会議. 教務委員会. 入試実施部会。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

令和元年度は、特に教育面では、学生が予習・復習を行うように、授業開始時にはミニテスト、授業終了時には振り返りを行うよう進めた。また1年生において、ポートフォリオの活用を積極的に指導しながら授業を勧めた。臨床実習では、医

療や介護を必要とする対象者とした口腔健康管理に関するシミュレーション教育について検討した。大学の管理・運営について、入試実施委員会委員長として、入試実施体制の改編をして入学試験が円滑に進むように遂行するとともに、オープンキャンパス全体の企画・運営並びに全体説明会で入学試験に関する説明を行った。特別選抜、編入学試験、大学入学センター試験、一般選抜で、各試験の準備ならびに試験当日、本学試験の採点において本部班の一員として担当した。教務委員会副委員長として、委員会所掌を遂行した。社会貢献について、歯科診療室での歯科診療と千葉市口腔がん検診（個別検診）において、地域住民に貢献した。また日本口腔内科学会認定専門医、指導医の資格を取得し、充実した口腔粘膜病変の診療に当たることができるようになった。日本有病者歯科医療学会推薦により ICD 協議会認定 ICD に認定され、歯科診療室における感染症予防対策に貢献できた。

## Ⅶ 次年度の目標

令和2年度は、特に教育面では、学生が予習・復習を行うように、授業開始時にはミニテスト、授業終了時には振り返りならびにポートフォリオの活用を指導しながら授業を勧める。臨床実習では、医療や介護を必要とする対象者とした口腔健康管理に関するシミュレーション教育を継続する。大学の管理・運営について、入試実施委員会委員長として、入学試験が円滑に進むように所掌事項を遂行する。教務委員会副委員長として、委員会所掌を遂行する。研究面では、学長裁量研究において、社会貢献に係る歯科衛生士の人材育成として、糖尿病患者に対するコーチングに関する研修を行う。社会貢献について、歯科診療室において、日本口腔外科学会、日本口腔科学会等において認定された資格を活用した歯科診療や千葉市口腔がん検診（個別検診）の充実を図り、地域住民に貢献する。特に新型コロナウイルス感染症対策には最善の努力を講じる。

## 教授 兼 歯科診療室長 大川 由一 博士 (歯学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育活動では学生がより主体的に学べるように授業内容を工夫する。研究活動については学内外の研究者と共同研究に取り組み、その成果を学術雑誌に公表することを目標とする。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・口腔衛生学.
- ・地域歯科衛生学.
- ・歯科衛生統計学.
- ・演習V (地域歯科衛生).
- ・総合演習.
- ・歯科診療室基礎実習.
- ・歯科診療所実習.
- ・発達歯科衛生実習I (小児).
- ・歯科診療室総合実習.
- ・歯科診療室総合実習.

##### 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)

- ・歯科医療管理学 (東京歯科大学).
- ・衛生学公衆衛生学 (アポロ歯科衛生士専門学校).

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所)

- ・全国歯科衛生士教育協議会監修, 大川由一, 他：歯科衛生学辞典, 2019, 永末書店, 京都.
- ・一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会監修, 大川由一, 他：最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版, 2019, 医歯薬出版, 東京.

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線)

- ・OKAWA Y., HIRATA S. :Geographic distribution of dental specialists permitted to advertise dental practices in Japan, Community Dent Health. 36, 1, 241~244, 2019.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル、主催学会 (学会名称)、開催日、場所等、本人下線)

- ・OZAWA K., HIRATA S., OKAWA Y., TASHIRO, M., TANIGUCHI K., FUKUDA K. :Geographic distribution of certified dentists of the “Japanese Society for Disability and Oral Health”, The first Asia Association for Disability and Oral Health, 2019年4月13日, Kaohsiung City, Taiwan.
- ・大澤航介, 大川由一, 平田創一郎, 田代宗嗣, 谷口健太郎：日本障害者歯科学会認定医の地理的分布に関する研究, 社会歯科学会第4回総会・学術大会, 2019年6月16日, 横浜市.
- ・吉田 隆, 有泉祐吾, 大川由一, 柳澤伸彰, 古澤成博：専門職養成教育の課題 一特に高校生にとっての医療職とその養成教育のイメージ, 第38回日本歯科医学教育学会総会・学術大会, 2019年7月20日, 福岡市.

- Yoshida N., Sugimoto K., Kubota A., Otsuka H., Okawa Y., Yamanaka S., Sakamaki H., Yoshida Y., Yanagita M. : Oral health status and oral health behavior of newly enrolled university students in Japan, IFDH International Symposium on Dental Hygiene, 2019年8月16日, Brisbane, Australia.
- Yoshida N., Sugimoto K., Kubota A., Adachi N., Suzuki H., Yamanaka S., Okawa Y., Sakamaki H., Otsuka H., Yoshida Y., Yanagita M. : Association between oral health status and self reported complaints in adolescence, CED-IADR Oral Health Research Congress, 2019年9月20日, Madrid, Spain.

#### 4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- 日本歯科衛生学会 第14回学術大会・研究討論会，2019年9月16日，名古屋。

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- 科学研究費補助金基盤研究（C），地域高齢者におけるオーラルフレイルの予防に向けた健康増進プログラムの実践と評価—誤嚥による肺炎予防のために—，研究分担者。
- 学長裁量研究，口腔機能低下症の現状と啓発についての検討，研究分担者。
- 学長裁量研究，介護予防と口腔機能の回復・維持・向上に関わる歯科衛生士のための人材育成研修，研究分担者。

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

- 1) 千葉県内
  - オーラルフレイル予防プログラム，2018年10月～現在に至る，UR花見川団地・さつきが丘団地。
  - 打瀬中学校の職場体験学習，2019年5月23日-24日，千葉県立保健医療大学。

#### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- 歯科診療，2009年4月～現在に至る，千葉県立保健医療大学歯科診療室。

#### 3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- (一社) 全国歯科衛生士教育協議会，理事，2014年4月1日～現在に至る。
- (一社) 全国歯科衛生士教育協議会，教育委員会理事，2014年4月1日～現在に至る。
- (一社) 全国歯科衛生士教育協議会，教育問題検討委員会委員，2014年4月1日～現在に至る。
- (一社) 全国歯科衛生士教育協議会，認定委員会委員，2014年4月1日～現在に至る。

#### 5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - 日本口腔衛生学会，日本公衆衛生学会，国際歯科研究学会（IADR），国際歯科研究学会日本部会（JADR），日本老年歯科医学会，日本歯科医療管理学会，日本歯科医学教育学会，社会歯科学会，日本歯科衛生学会，日本歯科衛生教育学会，日本口腔ケア学会，東京歯科大学学会。
- 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）
  - 日本歯科衛生学会，顧問，2015年7月1日～現在に至る。
  - 日本歯科衛生教育学会，理事，2019年4月1日～現在に至る。
  - 日本歯科衛生教育学会，編集委員会査読委員，2013年4月1日～現在に至る。
  - 日本歯科衛生教育学会，利益相反委員会委員，2019年4月1日～現在に至る。
  - 日本口腔衛生学会，歯科衛生士委員会委員，2017年5月31日～現在に至る。
  - Community Dental Health，Reviewer，2019年11月11日～現在に至る。

## 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・2019年度東京歯科大学大学院講義、臨床・基礎研究に必要な統計解析の基本について、東京歯科大学大学院生、2019年9月12-13日、東京歯科大学。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学運営会議、教授会、自己点検・評価委員会、将来構想検討委員会、総務・企画委員会、キャンパス・ハラスメント防止対策委員会、教員資格審査委員会（看護・教授）2019.4.16～、教員資格審査委員会（一般教養・歯科・講師）2019.6.13～、教員資格審査委員会（栄養・教授）2019.10.24～、教員資格審査委員会（理学・准教授）2020.3.25～。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科診療室長（2015年4月1日～現在に至る）。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

専門科目の授業では事前課題を与えた上で、グループワークなどで主体的に学修するようなアクティブ・ラーニング型授業を試み、学生の積極的な参加が認められた。研究活動においては、学内外の研究者と共同研究に取組み、調査に参加するとともにその成果を学会や学術雑誌で発表した。

## VII 次年度の目標

昨年度と同様、専門科目の授業では事前課題を課すとともに、アクティブ・ラーニング型授業を実施する。これまで継続している共同研究活動や社会貢献活動に積極的に取り組む。

## 教授 島田 美恵子 博士 (体育学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

- ① 2011年度から蓄積している千葉県で実施している縦断調査およびこれまでの新潟調査・岩手調査について、体力の加齢変化を論文として1編は発表する。
- ② 共通教育運営会議会長として、学生が自ら学ぶ姿勢を育成・支援する手法と評価について検討する。
- ③ 社会貢献委員会委員長として、本学教員の社会貢献を千葉県にPRする手段を模索し実践する。
- ④ 体調管理。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・体験ゼミナール。
  - ・千葉県の健康づくり。
  - ・健康スポーツ科学。
  - ・生涯身体運動科学。
  - ・健康と運動。
  - ・生理学実験。
  - ・卒業研究。

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・Serizawa N, Nishimuta M, Kodama N, Shimada M, Yoshitake Y, Hongu N, Ota M, Yano T. Salt Restriction Affects the Excretions of Minerals (Na, K, Ca, Mg, P and Zn) in the Second Voided Fasting Early Morning Urine. J Nutr Sci Vitaminol (Tokyo), 65, 2, 142-147, 2019. doi: 10.3177/jnsv.65.142.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・Yasuo Kimura, Kazuko Ohki, Mamoru Hisatomi, Junko Kawai, Toshinobu Ikegami, Mieko Shimada, Nobuko K. Hongu: Physical, Cognitive and Dietary Characteristics of Older Women with Declines. Medicine & Science in Sports & Exercis, May 2019.
- ・Yasuo Kimura, Mamoru Hisatomi, Kazuko Ohki, Junko Kawai, Toshinobu Ikegami, Mieko Shimada, Nobuko K. Hongu: Physical, Cognitive and Dietary Characteristics of Older Women with Musculoskeletal Ambulation Disability Symptom Complex (MRDS). Canadian Society for Exercise Physiology. October 2019.
- ・島田美恵子, 金子 潤, 荒川 真, 河野 舞, 岡村太郎: 健康教室に通う地域在住プレフレイル高齢者の4年後体力変化, 第74回日本体力医学会, 2019年9月19-21日, つくば。
- ・三宅理江子, 島田美恵子: 地域在住自立高齢者の栄養状態と生活機能の関連, 第66回日本栄養改善学会, 2019年9月5-7日, 富山。
- ・高橋美帆, 麻賀多美代, 島田美恵子, 金子 潤: 自然な笑顔を作るための表情筋マッサージの効果と生理的变化, 第14回日本歯科衛生学会学術大会, 2019年9月14-16日, 名古屋。

## 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C），疾患活動性が低いリウマチ患者への機器を活用した自己管理における意思決定支援の手法，研究代表者。
- ・学内共同研究，虚弱高齢者の生活機能は回復するか—長期縦断調査による解析，研究代表者。
- ・学内共同研究，若年者における不良姿勢が交感関係に及ぼす影響，共同研究者。
- ・学長裁量研究，集合住宅在住高齢者に対する転倒・事故・介護予防と地域コミュニティの促進，共同研究者。
- ・令和元年度健康運動指導研究助成，地域在住高齢者における長期縦断調査からみたソーシャルキャピタルと健康状態との関係，研究代表者。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

- 1) 千葉県内
  - ・パラスポーツ講座ゴールボール講習会企画運営・千葉市共同開催，2019年8月，千葉県立保健医療大学。
- 2) 千葉県外
  - ・オリンピックボランティア説明会出席，11月，東京。

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・流山市南部地域包括支援センター 体力測定と講演，2019年7月，2020年01月（計4回） 流山ケアセンター。
- ・口腔と全身の健康状態に関する91歳調査 体力測定，2019年6月，新潟。

### 5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本体力医学会，日本体育学会，日本測定評価学会，日本バイオメカニクス学会，日本栄養改善学会，日本栄養・食糧学会，日本口腔衛生学会，日本公衆衛生学会，大学体育連合，日本疫学会，American College of Sports Medicine。

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催，団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・柏市シルバー大学院 研究課程1年「健康寿命と運動」，2019年6月11日，東葛プラザ。
- ・柏市シルバー大学院 生涯課程E組「日常生活での体力づくり」，2019年6月18日，野村証券柏支店。
- ・鎌ヶ谷市保健所スキルアップ講習会「ロコモティブシンドローム・フレイル予防」，2019年9月24日，鎌ヶ谷市保健所。
- ・きらく会（地域団体）「健康寿命と運動 動いてわかる私のからだ」，2020年2月5日，柏市中央近隣センター。
- ・千葉県歯科衛生士会ステップアップセミナー「口腔と身体機能の向上」2020年3月29日，千葉県歯科会館。
- ・オーラルフレイル予防プログラム，2019年12月，UR花見川団地・さつきが丘団地。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学運営会議，教授会，社会貢献委員会（委員長），学術推進企画委員会，特色科目運営会，自己点検・評価委員会，将来構想検討委員会，危機管理委員会（副委員長），図書委員会，人事委員会，教員資格審査委員会，共通教育運営会議（会長）。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議，歯科衛生学科2年生チューター（後期）。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

- ① 学内共同研究助成および令和元年度健康運動指導研究助成を得て，新潟調査の一部をまとめ，報告書として提出するこ

とはできた。

- ② 2019年度から、構成員が大幅に変更された共通教育運営会議は、一般教養科目・保健医療基礎科目の受講状況を調査することどまった。非常勤講師の選任についてメール審議を重ねた。
- ③ 新・ほい大健康プログラムを、大学の1事業として、社会貢献委員会が担うシステムを構築した（特色科目委員会と協同し、自由科目としての単位認定できる予定である）。本学の社会貢献活動を、ホームページ上でPRするを企画を試みたが、進行できていない。

## VII 次年度の目標

2020年4月現在、コロナウイルス感染症蔓延による教育システムの変更で、過去に経験しなかった開講方法・研究活動が求められている。

- ① 学生・教員ともに納得できる授業を開講する。ネット環境による「授業評価」や「コメントの返却」を活用する。
- ② 進捗が遅れている科学研究費「疾患活動性が低いリウマチ患者への機器を活用した自己管理における意思決定支援の手法の開発」について、被験者を確定し、知見を得、公表できる形にする。
- ③ 社会貢献委員会は、WEB上での公開講座システムを構築する。新・ほい大健康プログラムを軌道にのせる。
- ④ 共通教育運営会議で検討すべき課題を整理し、学内での共通理解を諮る。

## 教授 石川 裕子 博士 (歯学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

新たに担当することに決まっている授業について、学生が自ら考えられるような授業を構築する。研究については、科研以外の研究に着手し、他の活動にも積極的にかかわる。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・千葉県の健康づくり.
- ・体験ゼミナール.
- ・歯科衛生体験演習 I.
- ・歯科衛生アセスメント論.
- ・歯科保健指導・健康教育論.
- ・演習IV 保健指導・カウンセリング.
- ・歯科診療室基礎実習.
- ・継続個別支援実習.
- ・発達歯科衛生実習 I (小児).
- ・歯科診療室総合実習.
- ・病院実習.
- ・卒業研究.

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所.)

- ・全国歯科衛生士教育協議会監修, 石川裕子, 他：歯科衛生学辞典, 2019, 永末書店, 京都.
- ・全国歯科衛生士教育協議会監修, 石川裕子, 他：歯科予処置論・歯科保健指導論 第2版, 2020, 医歯薬出版, 東京.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・石川裕子, 依田浩子, 斎藤浩太郎, 中富満城, 大島勇人：歯胚上皮及び歯髄幹細胞・象牙芽細胞維持に関わる Shh-Ptch-Gli シグナル経路, 第61回歯科基礎医学会学術大会, 2019年10月12-14日, 東京.
- ・麻賀多美代, 麻生智子, 大川由一, 鈴鹿祐子, 酒巻裕之, 河野 舞, 金子 潤, 荒川 真, 石川裕子, 木戸田直美：地域高齢者への健康増進プログラムにおける学生ボランティアの参加—オーラルフレイル予防に向けて—, 第10回日本歯科衛生教育学会学術大会, 2019年7-8日, 福岡.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 歯の発生過程における Shh シグナルによる静的幹細胞維持機構の解明, 研究代表者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

##### 1) 千葉県内

- ・オーラルフレイル予防プログラム. 2018年10月～現在に至る. UR 花見川団地・さつきが丘団地.

- ・打瀬中学校の職場体験学習。2019年5月23-24日。千葉県立保健医療大学。

## 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・継続個別支援・歯科診療補助の実施。2018年9月～現在に至る。千葉県立保健医療大学歯科診療室。

## 4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・（一社）全国歯科衛生士教育協議会。教育委員。2009年～現在に至る。
- ・（一社）全国歯科衛生士教育協議会。教育問題検討委員会。歯科衛生学体系化小委員会委員。2019年3月～2020年4月。

## 5 学会、学術団体への貢献

### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本歯科衛生学会。日本歯科衛生教育学会。日本歯科基礎医学会。日本歯科教育学会。新潟歯学会。

### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本歯科衛生教育学会。副理事長・常任理事・理事。2016年～現在に至る。
- ・日本歯科衛生教育学会。評議員。2013年～現在に至る。
- ・日本歯科衛生教育学会第11回学術大会大会長。2019年～現在準備中。（大会期間：2020年12月18-20日）

## 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・全国歯科衛生士教育協議会主催。歯科衛生士専任教員講習会Ⅱ講師。歯科衛生学教育法。2019年8月7-8日。朝日大学。
- ・公開講座。楽しく安全な食生活のために。一口腔機能向上と口腔ケア。一般住民。2019年10月27日。千葉県立保健医療大学。

## 7 その他

- ・全国大学歯科衛生士教育協議会平成31年度（令和元年度）第2回理事会・総会。2019年9月7日。千葉県立保健医療大学

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会。教員資格審査委員会。特色科目運営会。教務委員会。FD・SD委員会。研究倫理審査委員会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議。歯科診療室会議。歯科衛生学科4年生チューター。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

学科内の教員と連携をとることで、学生が自ら考えられるような授業・実習を構築することができた。研究については、科研課題についてはあまり進まなかったが、歯科衛生士教育研究はデータを取ることができ、現在、分析中である。改善すべき事項としては、業務を効率化することで、研究時間をもう少し確保できると考えられる。

## VII 次年度の目標

学科内教員とさらに協力し、授業・実習をより学生が理解できやすい内容にする。研究については、科研・歯科衛生士教育課題ともに、論文投稿できるように進める。

## 准教授 金子 潤 博士 (歯学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育面では、新々カリで新設の「歯科衛生体験演習Ⅱ」の科目責任者として、科目内容の詳細を検討してシラバスを完成する。研究面では、学内共同研究の過去2年間で得た研究成果を論文にまとめ、投稿する。歯科診療に関しては、患者数を増やすよう努めるとともに、治療経過の口腔内写真を資料として残すように心がける。学術団体への貢献として、現在3つの学会の学会誌編集に関わっており、充実した雑誌の発行を目指す。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・専門職間の連携活動論.
  - ・歯科衛生体験演習Ⅰ.
  - ・歯科治療学Ⅰ (保存修復学・歯内療法学).
  - ・歯科診断学.
  - ・歯科診療室基礎実習.
  - ・歯科診療所実習.
  - ・発達歯科衛生実習Ⅰ (小児).
  - ・発達歯科衛生実習Ⅱ (成人・高齢者).
  - ・歯科診療室総合実習.
  - ・卒業研究.
  
- 2) 他大学, 大学院等の非常勤講師 (科目名, 大学名)
  - ・歯科審美学. 東邦歯科医療専門学校.
  - ・歯科審美学. つくば歯科衛生専門学校.

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線: 著書, 発行年, 発行所, 発行場所)

- ・日本歯科審美学会 編, 藤澤政紀, 奈良陽一郎, 新海航一, 大槻昌幸 監修, 金子 潤, 他著: 歯科審美学, 2019, 永末書店, 京都.

#### 2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・金子 潤: 過酸化物を用いない歯のホワイトニング法の検討, 日本オゾン医療・審美学会誌, 2, 1, 8-9, 2019.
- ・日野年澄, 向井義晴, 金子 潤, 山口麻衣, 真鍋厚史, 椿 知之, 大槻昌幸: 歯のホワイトニング処置の患者への説明と同意に関する指針, 日本歯科審美学会 HP, [https://www.jdshinbi.net/member/new\\_0829.pdf](https://www.jdshinbi.net/member/new_0829.pdf), 2019.

#### 3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・小川玲奈, 酒巻裕之, 鈴鹿祐子, 金子 潤: 高速コントラアングルの切削音で脈拍数が減少するーエアタービンハンドピースとの比較ー, 第14回日本歯科衛生学会学術大会, 2019年9月14-16日, 名古屋.
- ・高橋美帆, 麻賀多美代, 島田美恵子, 金子 潤: 自然な笑顔を作るための表情筋マッサージの効果と生理的变化, 第14回日本歯科衛生学会学術大会, 2019年9月14-16日, 名古屋.

- ・島田美恵子, 金子 潤, 荒川 真, 河野 舞, 岡村太郎:健康教室に通う地域在住プレフレイル高齢者の4年後体力変化. 第74回日本体力医学会大会, 2019年9月19-21日, つくば.
- ・麻賀多美代, 麻生智子, 大川由一, 鈴鹿祐子, 酒巻裕之, 河野 舞, 金子 潤, 荒川 真, 石川裕子, 木戸田直実:地域高齢者への健康増進プログラムにおける学生ボランティアの参加ーオーラルフレイル予防に向けてー, 第10回日本歯科衛生教育学会学術大会, 2019年12月7-8日, 福岡.

#### 4 学術集会での招待講演(教育講演や基調講演)やシンポジウム等(学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

- ・第2回日本オゾン医療・審美学会学術大会特別講演, 過酸化水素を用いない歯のホワイトニング法の検討, 2019年10月27日, 東京.

#### 5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究(C), 大気圧低温プラズマを応用した歯科漂白治療の検討, 研究代表者.
- ・科学研究費補助金基盤研究(C), 味覚の感受性を利用した新たなカリエスリスク判定法の可能性, 研究分担者.
- ・学内共同研究費, 若年者における不良姿勢が咬合関係に及ぼす影響, 研究分担者.
- ・学内共同研究費, 虚弱高齢者の生活機能は回復するかー長期縦断調査による解析, 研究分担者.
- ・健康・体力づくり事業財団健康運動指導研究助成, 地域在住高齢者における長期縦断調査からみたソーシャルキャピタルと健康状態との関係, 研究分担者.
- ・学長裁量研究, 口腔機能低下症の現状と啓発についての検討, 研究分担者.
- ・学長裁量研究, 介護予防と口腔機能の回復・維持・向上に関わる歯科衛生士のための人材育成研修, 研究分担者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等(活動名称, 活動期間, 場所等)

#### 1) 千葉県内

- ・オーラルフレイル予防プログラム. 2018年10月～現在に至る. UR花見川団地・さつきが丘団地.
- ・打瀬中学校の職場体験学習. 2019年5月23日-24日. 千葉県立保健医療大学.

### 2 地域への保健医療活動(診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・歯科診療. 2013年8月1日～現在に至る. 千葉県立保健医療大学歯科診療室.
- ・日本歯科保存学会歯科保存治療専門医. 2004年7月1日～現在に至る.
- ・日本歯科審美学会認定医. 2016年9月15日～現在に至る.
- ・美容口腔管理学会指導医(Diplomate). 2005年10月23日～現在に至る.
- ・日本歯科色彩学会認定医. 2002年7月14日～現在に至る.

### 5 学会, 学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本歯科保存学会. 日本歯科審美学会. 日本歯科色彩学会. 美容口腔管理学会. 日本接着歯学会. 日本歯内療法学会. 日本歯科衛生学会. 日本歯科衛生教育学会. 日本アンチエイジング歯科学会. 北海道歯学会.

#### 2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本歯科審美学会. 理事, 「歯科審美」編集委員会副委員長, ホワイトニングコーディネーター委員会委員, 2012年4月1日～現在に至る.
- ・日本歯科色彩学会. 常任理事, 編集部門統括, ニュースレター編集委員会委員長, 「歯科の色彩」編集委員会委員, 表彰委員会委員, 2004年4月1日～現在に至る.
- ・美容口腔管理学会. 幹事, 「The Journal of Cosmetic Oral Care」編集委員, 2003年1月1日～現在に至る.
- ・日本歯科衛生学会. 「日本歯科衛生学会雑誌」外部査読委員, 2014年5月1日～現在に至る.
- ・The Journal of Dental and Maxillofacial Research. Editorial Board, 2018年5月～現在に至る.
- ・第19回美容口腔管理学会学術講演会 一般講演座長, 2019年11月10日, 大阪.

- ・第30回日本歯科審美学会学術大会 一般講演座長, 2019年11月30日, 東京.

## 6 講演会(公開講座を含む)／研修会の講師・研究指導等(会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・第2回ホワイトニングサミットーホワイトニングで輝く人生をー特別講演, 株式会社Beaute, 歯科ホワイトニングの基礎知識と臨床ポイント, 歯科医師・歯科衛生士, 2019年10月6日, 大阪.
- ・第49回ホワイトニングコーディネーター講習会, 日本歯科審美学会, こんなときどう答える?ー患者の質問に対してー, 歯科衛生士, 2019年10月20日, 大阪.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会(委員会名／活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・学生委員会, 自己点検・評価委員会, 入試改革検討委員会, 認証評価部会, 紀要編集部会, 共同研究審査部会, キャンパス・ハラスメント相談員.

### 2 学科／専攻内委員会(委員会名／活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・歯科衛生学科会議, 歯科診療室会議, 歯科衛生学科4年生チューター.

### 3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等>

- ・大学説明会(ザ・クレストホテル柏), 2019年5月7日, (株)さんぼう.
- ・大学説明会(千葉県立船橋二和高校), 2019年11月28日, (株)進路情報ネットワーク.

## VI 評価(成果および改善すべき事項)

教育面では, 発達歯科衛生実習ⅠおよびⅡ, 歯科診療所実習など, 歯科診療室外の実習に多く関与できた. 研究面では科研採択の初年度であったが, 実験予定が年度後半にずれ込んでしまい, 慌ただしさの中で中途半端な結果となってしまった. 学会活動では, 日本歯科審美学会のホワイトニングコーディネーター委員として, 3回の講習会で多くの歯科衛生士の研修を行うことができた. 日本歯科色彩学会では第28回学術大会の大会長に決まり, 大会運営の準備を開始した.

## VII 次年度の目標

教育面では, 新設の「歯科衛生体験演習Ⅱ」が実施初年度の学年を迎えるため, 科目運営に万全を期す. 研究面では, できるだけ昨年度の研究計画の遅れを取り戻し, 学会発表にこぎつけた. 歯科診療に関しては, 引き続き治療経過の口腔内写真を資料として残すように心がける. 大学運営では, 認証評価部会長として部会員と協力して次回認証評価に向けた準備を進める.

## 准教授 荒川 真 博士 (歯学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

着任4年目となることから、教育、研究および診療の三面において前年度以上の成果を出していきたい。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・ 歯科治療学Ⅱ (歯周治療).
- ・ 歯科材料学.
- ・ 国際歯科衛生学.
- ・ 歯科診療室基礎実習.
- ・ 歯科診療室総合実習.
- ・ 卒業研究.
- ・ 継続個別支援実習.
- ・ 発達歯科衛生実習Ⅰ (小児).
- ・ 専門職間の連携活動論.

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所)

- ・ 浅沼直樹, 安部倉仁, 荒川 真 他：歯科衛生士講座 歯冠修復と欠損補綴の治療と診療補助, 2020年1月, 永末書店, 京都.

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・ Yoshikawa T, Arakawa M, Tagami J: Effect of radiotherapy on resin composite adaptation to the cavity wall and elastic modulus of dentin, Asian Pacific Journal of Dentistry, 19, 39-44, 2019.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・ 島田美恵子, 金子 潤, 荒川 真, 河野 舞, 岡村太郎: 健康教室に通う地域在住プレフレイル高齢者の4年後体力変化, 第74回日本体力医学会, 2019年9月19-21日, つくば.
- ・ 麻賀多美代, 麻生智子, 大川由一, 鈴鹿祐子, 酒巻裕之, 河野 舞, 金子 潤, 荒川 真, 石川裕子, 木戸田直実: 地域高齢者への健康増進プログラムにおける学生ボランティアの参加—オーラルフレイル予防に向けて—, 第10回日本歯科衛生教育学会学術大会, 2019年12月7-8日, 福岡.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・ 文部科学省研究費補助金 基盤研究 (C), 味覚の感受性を利用した新たなカリエスリスク判定法の可能性, 研究代表者.
- ・ 文部科学省研究費補助金 基盤研究 (C), 大気圧低温プラズマを応用した歯科漂白治療の検討, 研究分担者.
- ・ 学内共同研究費, 若年者における不良姿勢が咬合関係に及ぼす影響 (継続), 研究分担者.
- ・ 学内共同研究費, 虚弱高齢者の生活機能は回復するか—長期縦断調査による解析, 研究分担者.
- ・ 健康体力づくり事業財団健康運動指導研究助成金, 地域在住高齢者における長期縦断調査からみたソーシャルキャピタルと健康状態との関係, 研究分担者.

- ・学長裁量研究, 口腔機能低下症の現状と啓発についての検討, 研究分担者.
- ・学長裁量研究, 介護予防と口腔機能の回復・維持・向上に関わる歯科衛生士のための人材育成研修, 研究分担者.

#### IV 社会貢献・国際交流記録

##### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称, 活動期間, 場所等）

###### 1) 千葉県内

- ・オーラルフレイル予防プログラム, 2018年10月～現在に至る, UR花見川団地・さつきが丘団地.
- ・打瀬中学校の職場体験学習, 2019年5月23日-24日, 千葉県立保健医療大学.
- ・流山市南部地域包括支援センター, 口腔内診査・機能測定および講演, 2019年7月16日, 流山ケアセンター.

##### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等, 活動期間, 場所等）

- ・歯科診療, 2016年4月～現在に至る, 千葉県立保健医療大学歯科診療室.

##### 4 職能団体委員等（職能団体名称, 委員名称, 活動期間）

- ・全国大学歯科衛生士教育協議会, 理事・編集副委員長, 2019年4月～現在に至る.

##### 5 学会, 学術団体への貢献

###### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本歯科保存学会, 日本歯周病学会, 日本歯科理工学会, 日本歯科衛生教育学会, 日本歯科医学教育学会.

###### 2) 学会, 学術団体への貢献（学会・学術団体名, 役職, 活動期間）

- ・日本歯科衛生教育学会 研究倫理審査委員 2019年4月～現在に至る.

#### V 管理・運営記録

##### 1 全学委員会（委員会名／活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・広報委員会, 国際交流委員会, 衛生委員会, 開学10周年記念事業実行委員会, 自己点検・評価実施推進部会.

##### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議, 歯科診療室会議, 歯科衛生学科2年生チューター.

#### VI 評価（成果および改善すべき事項）

##### 《広報委員会》

本学HPで発信するコンテンツの作成を行った.

年2回の学内PCメンテナンスの補助を行った.

##### 《衛生委員会》

学内の定期的巡視を行った.

##### 《歯科診療室》

本学歯科診療室にて, 夏休み期間中や学生実習が無い期間も, 基本的には週4日9:30から16:00の間診療を継続してきた.

#### VII 次年度の目標

引き続き各種業務を着実に継続, 発展させたい.

## 准教授 河野 舞 博士 (歯学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2019年度の目標は、教育面では学生の自発的な学びを支援できるような授業を目指して、授業の改善に努める。研究活動では、現在までの研究データのとりまとめを行い論文投稿を行うことと、学外研究助成につなげるための新規研究にも取り組むことである。大学運営に関しても、引き続き委員会活動を理解し、役割を遂行する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・ 歯科治療学Ⅲ (歯科補綴学).
  - ・ チーム歯科医療論.
  - ・ 歯科衛生基礎演習.
  - ・ 演習 I (歯科材料・歯科診療補助).
  - ・ 歯科診療室基礎実習.
  - ・ 歯科診療室総合実習.
  - ・ 病院実習.
  - ・ 卒業研究.
  - ・ 専門職間の連携活動論.
- 2) 他大学, 大学院等の非常勤講師 (科目名, 大学名)
  - ・ 臨床実習 I・II. 北海道医療大学歯学部.

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線: 著書, 発行年, 発行所, 発行場所)

- ・ 浅沼直樹, 安部倉仁, 河野 舞 他: 歯科衛生士講座 歯冠修復と欠損補綴の治療と診療補助, 2020年1月, 永末書店, 京都.

#### 3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・ 河野 舞, 白井 要, 村田幸枝, 川西克弥, 松岡紘史, 長澤敏行: 歯学部学生における精神的健康状態とストレス対処能力, 第38回日本歯科医学教育学会学術大会, 2019年7月19-20日, 福岡.
- ・ 島田美恵子, 金子 潤, 荒川 真, 河野 舞, 岡村太郎: 健康教室に通う地域在住プレフレイル高齢者の4年後体力変化, 2019年9月19-21日, つくば.
- ・ 麻賀多美代, 麻生智子, 大川由一, 鈴鹿祐子, 酒巻裕之, 河野 舞, 金子 潤, 荒川 真, 石川裕子, 木戸田直実: 地域高齢者への健康増進プログラムにおける学生ボランティアの参加ーオーラルフレイル予防に向けてー, 第10回日本歯科衛生教育学会学術大会, 2019年12月7-8日, 福岡.
- ・ 煙山修平, 河野 舞, 舞田健夫, 會田英紀, 越野 寿: 光卵巣摘出がラットモデルにおけるオッセオインテグレーション獲得におよぼす影響と光機能化処理の効果, 北海道医療大学歯学会第38回学術大会, 2020年3月14日, 札幌.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・ 科学研究費補助金基盤研究 (C), 大気圧低温プラズマを応用した歯科漂白治療の検討, 研究分担者.

- ・科学研究費補助金基盤研究(C), 光機能化テクノロジーの広範囲顎骨支持型顎顔面補綴装置への応用に関する基礎的研究, 研究分担者.
- ・学内共同研究, 若年者における不良姿勢が咬合関係に及ぼす影響, 研究代表者.
- ・健康体力づくり事業財団健康運動指導研究助成金, 地域在住高齢者における長期縦断調査からみたソーシャルキャピタルと健康状態との関係, 研究分担者.
- ・学長裁量研究, 口腔機能低下症の現状と啓発についての検討, 研究分担者.
- ・学長裁量研究, 介護予防と口腔機能の回復・維持・向上に関わる歯科衛生士のための人材育成研修, 研究分担者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等(活動名称, 活動期間, 場所等)

#### 1) 千葉県内

- ・口から始める健康プログラム, 2018年10月13日から現在に至る, 花見川団地・さつきが丘団地.
- ・打瀬中学校の職場体験学習, 2019年5月23日-24日, 千葉県立保健医療大学.

### 2 地域への保健医療活動(診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・歯科診療, 2017年4月から現在に至る, 千葉県立保健医療大学歯科診療室.

### 5 学会, 学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本補綴歯科学会, 日本歯科医学教育学会, 日本口腔インプラント学会, 日本歯科理工学会, 日本歯科審美学会, 日本老年歯科医学会, 日本摂食嚥下リハビリテーション学会, 北海道医療大学歯学会

### 6 講演会(公開講座を含む)／研修会の講師・研究指導等(会名称, 主催, 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・健康づくりボランティアスキルアップ研修会, 鎌ヶ谷市役所・健康づくりボランティアレインボーズ・パタカラーズ, 口腔と全身の関連性, 健康づくりボランティア登録者, 2019年10月3日, 鎌ヶ谷市総合福祉保健センター.
- ・講演会, 船橋市ちゅうおう生活学校, 咬むことと健康長寿, 船橋市ちゅうおう生活学校登録者, 2019年10月8日, 船橋市中央公民館.
- ・ライフプラン講習会, 千葉県・地方職員共済組合千葉県支部・千葉県庁生活協同組合, 健康につながるお口の話, 千葉県職員, 2019年12月24日, ホテルプラザ菜の花.
- ・歯科衛生士研修会(介護予防と口腔機能の回復・維持・向上に関わる歯科衛生士のための人材育成研修), 口腔機能低下症の各論, 歯科衛生士, 2020年1月26日, 千葉県立保健医療大学.
- ・令和元年度衛生研究所セミナー, 千葉県健康福祉部衛生研究所, 咬むことと健康長寿, 一般市民, 2020年2月1日, 千葉県衛生研究所.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会(委員会名／活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・共通教育運営会議, 学術推進企画委員会, 学内共同研究審査部会, 研究倫理審査委員会, 動物部会, 教育研究年報作成部会, キャンパス・ハラスメント相談員.

### 2 学科／専攻内委員会(委員会名／活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・歯科衛生学科会議, 歯科診療室会議, 歯科衛生学科1年副チューター.

## VI 評価(成果および改善すべき事項)

教育面については, 担当科目の位置づけを理解するとともに, 教材をすべて新製し教育効果の改善に努めた. 研究活動で

はデータの収集に努めることができたが、論文として公表するまでには至らず、次年度以降の目標とする。また、社会貢献では歯科診療室における歯科診療や公開講座を通じ、地域住民の方々に貢献できたと考えている。

## VII 次年度の目標

次年度以降も、学生の学習意欲を喚起する授業を行うことと、担当科目以外の年間授業計画の理解に努める。研究活動では年度内に論文を投稿し、新たな研究計画の作成やデータの収集に努める。また、引き続き歯科診療室での歯科診療および大学運営に貢献できるよう努力する。

## 講師 麻生 智子 学士 (教養)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2019年度は、教育活動では復習を促すような工夫と講義内容、演習・実習内容を改善、充実に努める。研究では、実習記録の教育的効果についてその成果をまとめ論文作成を行いたいと考える。研究、社会貢献両方の側面を持つ「オーラルフレイル予防のための健康プログラム」についても、高齢者の口腔機能を維持、向上させるために本年度も継続して実施されることから、研究分担者として準備、実施、結果の集計などを行う。歯科衛生士として臨床での患者とのかかわりは今年度も授業とのバランスを取り、行いたいと考える。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・ 歯科疾患予防学.
  - ・ 歯科保健指導論.
  - ・ 歯科衛生基礎演習.
  - ・ 演習 I (歯科材料・歯科診療補助).
  - ・ 演習 II (歯科予防処置).
  - ・ 演習 IV (歯科保健指導・カウンセリング).
  - ・ 演習 V (地域歯科衛生).
  - ・ 総合演習.
  - ・ 継続・個別支援実習.
  - ・ 発達歯科衛生実習 I (小児).
  - ・ 地域歯科衛生実習.
  - ・ 卒業研究.
  - ・ 栄養ケアマネジメント論実習.

### III 研究記録

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・ 麻賀多美代, 麻生智子, 大川由一, 鈴鹿祐子, 酒巻裕之, 河野 舞, 金子 潤, 荒川 真, 石川裕子, 木戸田直実: 地域高齢者への健康増進プログラムにおける学生ボランティアの参加—オーラルフレイル予防に向けて—, 第 10 回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会, 2019年12月7日-8日, 福岡.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・ 科学研究費補助金基盤研究 (C), 地域高齢者におけるオーラルフレイルの予防に向けた健康増進プログラムの実践と評価—誤嚥による肺炎予防のために—, 研究分担者.
- ・ 学長裁量研究, 地域高齢者支援における大学生の体験型学習によって得られる学修効果の検証, 研究分担者.
- ・ 学長裁量研究, 口腔機能低下症の現状と啓発についての検討, 研究分担者.
- ・ 学長裁量研究, 介護予防と口腔機能の回復・維持・向上に関わる歯科衛生士のための人材育成研修, 研究分担者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

#### 1) 千葉県内

- ・体験型学習プログラム（ほい大健康プログラム）、2019年10月5日、UR高洲第1団地・UR高洲第2団地。
- ・打瀬中学校の職場体験学習、2019年5月23日-24日、千葉県立保健医療大学。
- ・オーラルフレイル予防プログラム、2019年4月～現在に至る、UR花見川団地・さつきが丘団地。

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・歯科診療補助の実施、2019年8-10月・2020年1-3月、千葉県立保健医療大学歯科診療室。

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本歯周病学会、日本咀嚼学会、日本歯科衛生学会、日本歯科医学教育学会、日本口腔内科学会、日本歯科衛生教育学会、日本口腔衛生学会、日本口腔ケア学会。

#### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本歯科衛生教育学会、評議員、2019年4月1日～2021年3月31日。
- ・日本歯科衛生教育協議会、編集委員会（事前抄録担当委員）、2019年4月1日～2021年3月31日。
- ・日本歯科衛生教育学会第10回学術大会、座長、2019年12月7日。

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・令和元年度千葉県教育研究会学校給食部会第4地区（千葉市地区）学校給食研究協議会、学校栄養職員・給食指導主任・学級担任、よくかんでおいしく食べるために一歯や口の成長と健康、2019年12月5日、千葉市教育会館大ホール。
- ・日歯認定歯科助手講習会、千葉県歯科医師会主催「診療室管理・アシスタントワーク・患者対応」、歯科助手、2019年9月29日、千葉県立保健医療大学。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・入試実施委員会、進路支援委員会、広報委員会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議、歯科診療室会議。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

担当科目については、授業評価から積極的に授業に参加した学生が75%以上、授業を受けてよかった者が80%であったが、復習者は多かったものの予習者が前年度より低下していた。次年度は、学生の理解度を確認し、改善していきたい。演習・実習では今年度も教材の修正を行い、より確実な技術習得を目指した。約95%の学生が積極的に参加し、授業を受けてよかったと答えていた。修得に時間を要する学生には自主学習の促しを行い、自主学習時は個別に質問等に答え、技術の関する指導を行った。「継続・個別支援実習」では、前年度と同様に症例報告をポスター発表形式で実施し、活発な発表、質疑応答が学生主体で行われ、授業評価からも充実した学び得られたことが確認できた。研究では実習記録の教育的効果について論文等を目指したが、達成できなかったことから次年度の目標とする。2018年11月から始めた研究、地域貢献のために歯科衛生学科教員、学生中心で行っている「オーラルフレイル予防のための健康プログラム」では、会場レイアウト、器材の準備、参加者への連絡、役割分担、学生への連絡調整、実施など全般を担当し、参加者の安全に配慮しながら他の教員、学生と協力し実施できた。参加者は、プログラムを楽しみにしており、教員・学生との交流だけでなく参加者間での交流ができ

るようになったことも実施の成果であると考え。委員会、部会、学科会議には、必ず出席し、積極的に大学・学科の業務を遂行した。歯科衛生士として臨床での患者との関わりは、時間的に難しい時期もあるが、自分の臨床技術の確認や学生への指導につなげるために可能な限り実施した。

## VII 次年度の目標

次年度は、担当科目については、より学生が充実した学びを得たと感じられるような工夫を考え、講義内容、演習・実習内容を改善、充実させたいと考えている。研究では、2019年度にできなかった実習記録の教育的効果を論文にまとめたいと考える。研究、社会貢献両方の側面を持つ「オーラルフレイル予防のための健康プログラム」についても、高齢者の口腔機能を維持、向上させるために最後の年度となることから、研究分担者として準備、実施、結果の集計、成果発表などを行う。歯科衛生士として臨床での患者との関わりは、学生への指導に生かすことができるのでできるだけ継続したい。

## 講師 鈴鹿 祐子 修士 (学術)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2019年度は、研究について、教育、臨床の業務とのバランスを調整し、新しい課題についてスムーズに遂行できるように努力したい。また、教育は引き続き学生が理解しやすい授業ができるように資料作り等、工夫するように努めたい。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・チーム歯科医療論.
- ・歯科感染予防学.
- ・発達歯科衛生学 I (小児).
- ・リスクマネジメント論.
- ・演習 I (歯科材料・歯科診療補助).
- ・演習 II (歯科予防処置).
- ・総合演習.
- ・歯科診療室基礎実習.
- ・歯科診療室総合実習.
- ・継続・個別支援実習.
- ・歯科診療所実習.
- ・発達歯科衛生実習 I (小児).
- ・専門職間の連携活動論.
- ・卒業研究.

### III 研究記録

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・小川玲奈, 酒巻裕之, 鈴鹿祐子, 金子 潤: 高速コントラアングルの切削音で脈拍数が減少する一エアータービンハンドピースとの比較一, 日本歯科衛生学会第14回学術大会, 2019年9月14-16日, 名古屋.
- ・麻賀多美代, 麻生智子, 大川由一, 鈴鹿祐子, 酒巻裕之, 河野 舞, 金子 潤, 荒川 真, 石川裕子, 木戸田直実: 地域高齢者への健康増進プログラムにおける学生ボランティアの参加 オーラルフレイル予防に向けて, 第10回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会, 2019年12月7-8日, 福岡.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学長裁量研究, 口腔機能低下症の現状と啓発についての検討, 研究代表者.
- ・学長裁量研究, 介護予防と口腔機能の回復・維持・向上に関わる歯科衛生士のための人材育成研修の実践, 研究分担者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

##### 1) 千葉県内

- ・ほい大健康プログラム, 2019年10月5日. UR高洲第1団地・UR高洲第2団地.

- ・打瀬中学校の職場体験学習。2019年5月23日-24日。千葉県立保健医療大学。
- ・オーラルフレイル予防プログラム。2018年10月～現在に至る。UR花見川団地・さつきが丘団地。

## 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・歯科診療補助の実施。千葉県立保健医療大学歯科診療室。
- ・ヘルシーカムカム2019。2019年5月26日。千葉そごう。
- ・歯みがき&でんたるカップミニサッカー大会。2019年10月24日。千葉ポートアリーナ。

## 3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・千葉県歯科衛生士育成協議会、運営委員。2019年4月1日～現在に至る。

## 5 学会、学術団体への貢献

### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本障害者歯科学会。ヘルスカウンセリング学会。日本歯周病学会。日本歯科衛生学会。日本咀嚼学会。日本歯科医学教育学会。日本口腔内科学会。日本歯科衛生教育学会。日本口腔ケア学会。

### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本歯科衛生教育学会・評議員。編集委員会事前抄録担当委員。2019年4月～2020年3月。
- ・第10回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会。講演発表座長。2019年12月8日。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生委員会。社会貢献委員会。危機管理委員会。IR部会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議。歯科診療室会議。

### 3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・歯科衛生士の業務及び教育についての説明会。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育については、内容、媒体の見直しを行い学生にわかりやすい授業を心掛けた。また、実習においては学生の医療安全に配慮し、特に学外実習では不安なく実習に取り組めるようにサポートした。時間をやりくりしながら取り組んだが、もう少し授業前の準備を充実させたいと思う。また、口腔機能低下に関する研究を通して、オーラルフレイルについての啓発に貢献できたと思う。本年度は新たな研究課題に取り組めたが、学会発表がなかったのでデータをまとめて来年度は発表をしたいと思う。

## VII 次年度の目標

教育は、学生が興味を持ち、積極的に勉強に取り組めるような授業ができるように努めたい。研究については、教育、臨床の業務とのバランスを調整し、学会発表、論文投稿をしたい。社会貢献については引き続き、地域のオーラルフレイルについての啓発に取り組み、また、職能団体へも積極的に関わりたいと思う。

## 講師 山中 紗都 修士 (障害科学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和元年度は、育児休業取得のため教員としての活動自体はないが、復職後にスムーズに業務に従事できるよう準備に努める。

### III 研究記録

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- Naomi Yoshida, Kumiko Sugimoto, Ayako Kubota, Hiromi Otsuka, Yoshikazu Okawa, Sato Yamanaka, Hiroyuki Sakamaki, Yukie Yoshida, Manabu Yanagida : Oral health status and oral health behavior of newly enrolled university students in Japan, International Federation Dental Hygienists, Aug. 16. 2019, Brisbane.
- Naomi Yoshida, Kumiko Sugimoto, Ayako Kubota, Naoko Adachi, Hitomi Suzuki, Sato Yamanaka, Yoshikazu Okawa, Hiroyuki Sakamaki, Hiromi Otsuka, Yukie Yoshida, Manabu Yanagida : Association between Oral Health Status and Self-reported Complaints in Adolescence, The Continental European Division of the International Association for Dental Research, Sep. 20. 2019, Madrid.

#### 5 学会, 学術団体への貢献

##### 1) 所属学会・学術団体

- 日本歯科衛生学会. 日本歯科衛生教育学会. 日本歯科医学教育学会. 日本歯周病学会. 日本有病者歯科医療学会. 日本歯科審美学会.

### VI 評価 (成果および改善すべき事項)

育児休業中であつたため、教育研究活動を積極的に行うことができなかつたが、これまで進めてきた研究の分析を進めたりと、できる範囲での活動を行った。

### VII 次年度の目標

育児休業からの復帰となるため、基本となる教育活動に専念する。研究活動についてはこれまでの研究をまとめるとともに、今後の研究活動の計画を立てていきたいと考える。ワークライフバランスを考え、無理のない活動を続けていきたい。

## 助教 木戸田 直実 修士（口腔科学）

対象期間：2019年4月1日～2019年9月31日まで

### I 年度当初の目標

学生が実習目標を達成できるよう、より質の高い実習となるように準備や指導を行う。また歯科診療室の円滑な運営を行い、学生教育や地域住民に対する社会貢献の場を提供できるよう、自らの役割を遂行する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
  - ・体験ゼミナール。
  - ・歯科診療室基礎実習。
  - ・歯科診療室総合実習。
  - ・発達歯科衛生実習Ⅱ（成人・高齢者）。
  - ・卒業研究。

### III 研究記録

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等。本人下線）

- ・麻賀多美代，麻生智子，大川由一，鈴鹿祐子，酒巻裕之，河野 舞，金子 潤，荒川 真，石川裕子，木戸田直実：地域高齢者への健康増進プログラムにおける学生ボランティアの参加 オーラルフレイル予防に向けて，第10回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会，2019年12月7-8日，福岡。

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

- 1) 千葉県内
  - ・打瀬中学校の職場体験学習。2019年5月23日-24日。千葉県立保健医療大学。
  - ・オーラルフレイル予防プログラム。2018年10月～2019年9月。UR花見川団地・さつきが丘団地。

#### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・歯科診療補助の実施。2018年9月～2019年9月。千葉県立保健医療大学歯科診療室。

#### 5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本歯科衛生学会，日本歯科衛生教育学会，老年歯科医学会，日本公衆衛生学会。

### V 管理・運営記録

#### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議，歯科診療室会議。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

半年の活動であったが、社会貢献では歯科診療室での歯科診療、オーラルフレイル予防プログラムを通じ、地域住民に対して貢献ができたと考える。しかしながら教育では状況把握をすることが中心となってしまう、十分な成果をあげることができなかった。また、大学運営に関しても同様であった。

## VII 次年度の目標

学内外の研究者と共同研究に取り組み、その成果を学術論文に公表するなど、自己研鑽を行っていきたい。



リハビリテーション学科  
理学療法学専攻



# 教授 兼 学科長 兼 専攻長 三和 真人 博士 (障害科学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

## I 年度当初の目標

令和元年度は、研究データをまとめて学会発表等に結びつけてきたが、論文の掲載までには至らなかった。能力不足を痛感するばかりである。大学教職員として研究論文の作成と学会発表していく予定である。また、大学の図書委員会委員長として、図書館の書籍を増やし、充実を目指していく。

## II 教育記録

### 1 教育の記録

#### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・理学療法概論.
- ・人体の機能実習.
- ・運動学実習.
- ・機能解剖学.
- ・理学療法臨床測定学.
- ・日常生活活動学.
- ・日常生活活動学演習.
- ・物理療法学.
- ・理学療法研究方法論.
- ・運動器障害理学療法学特論.
- ・神経系障害理学療法学特論.
- ・老年期障害理学療法学.
- ・生体機能計測学.
- ・理学療法発展領域論.
- ・理学療法技術論.
- ・臨床実習Ⅰ (体験実習).
- ・臨床実習Ⅱ (評価実習).
- ・臨床実習Ⅲ (総合実習).
- ・臨床実習Ⅳ (総合実習).
- ・卒業研究.

## III 研究記録

### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・大谷拓哉, 三和真人, 雄賀多 聡, 竹内弥彦, 高杉 潤, 藤尾公哉: 体幹回線を伴う起き上がり動作における関節運動の分析, 千葉県立保健医療大学紀要, 10 巻, p51-56, 2019.
- ・廣岡一希, 小串健志, 三和真人: 低周波治療器の選択使用により上肢機能の改善に繋がった単麻痺患者の一症例, 理学療法の科学と研究, 11 巻, 1 号, p17-21, 2020.

### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・Otani T, Miwa M, Ogata S, Takeuchi Y, Takasugi J, Fujio K: Classification of body movements when rising from a supine position at a comfortable speed in young people, World Confederatio for Physical Therapy Congress 2019 ,

2019. 5. 10-13, Geneva.

- ・三和真人：経皮的電気刺激が及ぼす治療効果について—深部温度の分析より—，第56回日本リハビリテーション医学学会学術集会，2019年6月15日，神戸。
- ・三和真人，大谷拓哉，藤尾公哉，江戸優裕，雄賀多 聡，高橋宣成，堀本佳誉：母指正中感覚神経は尺骨神経や橈骨神経浅枝より何故に遅いのか，第24回日本基礎理学療法学会学術大会，2019年12月1日，新潟。

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・2019年度千葉県立保健医療大学共同研究助成，健全成人上肢の感覚神経伝導速度—正中神経における分岐による違い—，三和真人，大谷拓哉，藤尾公哉，高橋信成。
- ・2019年度千葉県立保健医療大学学長裁量研究費，AIによる高齢者予防のための予測システムの構築に向けて，三和真人，雄賀多 聡，大谷拓哉，藤尾公哉，江戸優裕
- ・2019年度公益財団法人三井住友海上福祉財団，AIによる高齢者予防のための予測システムの構築に向けて，三和真人。

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・一般社団法人千葉県理学療法士会，理事，2018年4月1日～2021年3月31日。
- ・一般社団法人千葉県理学療法士会，研究倫理委員会，2019年4月1日～2021年3月31日。
- ・公益社団法人日本理学療法士協会，令和元年度代議員，2019年4月1日～2020年3月31日。
- ・公益社団法人リハビリテーション医学会，第57回学会プログラム委員，2019年11月1日～2020年3月31日。

#### 5 学会，学術団体への貢献

##### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本リハビリテーション医学会，日本理学療法士協会，日本臨床神経生理学会，日本電気生理運動学学会，日本運動療法学会，日本体力医学会，世界理学療法士学会，世界電気生理運動学学会，全国大学肺理学療法研究会，全国大学理学療法教育学会，世界リハビリテーション医学会，コクランジャパン研究会。

##### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本理学療法士協会，第24回日本基礎理学療法学会抄録査読委員，2019年9月～2019年3月31日。
- ・日本リハビリテーション医学会，第57回日本リハビリテーション医学会学術集会抄録査読委員，2019年11月～2020年3月31日。

### V 管理・運営記録

#### 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学運営会議，教授会，共通教育運営会議，自己点検・評価委員会，将来構想検討委員会，総務・企画委員会，入試改革検討委員会，教員再任審査委員会，人事委員会，図書委員会。
- ・教員資格審査委員会（看護学科 准教授）平成31年1月～4月，教員資格審査委員会（栄養学科 助教）平成31年2月～4月 書類審査合格者なし，教員資格審査委員会（看護学科 助教）平成31年3月～令和1年6月 書類審査合格者なし，教員資格審査委員会（作業療法専攻 講師）平成31年4月～令和1年6月 書類審査合格者なし，教員資格審査委員会（看護学科 講師）平成31年4月～令和1年7月，教員資格審査委員会（理学療法学専攻 講師）令和1年6月～10月，教員資格審査委員会（看護学科 助教）令和1年6月～12月，教員資格審査委員会（歯科衛生学科 助教）令和1年6月～11月，教員資格審査委員会（作業療法学専攻 講師）令和7月～11月，教員資格審査委員会（看護学科 助教）令和1年7月～12月，教員資格審査委員会（看護学科 助教）令和1年9月～令和2年1月，教員資格審査委員会（理学療法学専攻 助教）令和1年10月～令和2年1月，教員資格審査委員会（栄養学科 教授）令和2年2月～6月，教員資格審査委員会（看護学科 講師）令和2年2月～7月，教員資格審査委員会（理学療法学専攻 講師）令和2年2月～5月，教員資格審査委員会（理学療法学専攻 准教授）令和2年3月～6月。

## 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科長（兼）理学療法学専攻長、リハビリテーション学科教授会、リハビリテーション学科会議、理学療法学専攻会議。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

本年度に講師と助教の2名の新規教員を採用することができた。特に講師は学内からの採用となり、本専攻は医系教員を含め8人体制になった。しかし、講師に採用となった教員と准教授が2020年の1月、2月と立て続けに退職することとなった。退職希望者を除いた理学療法専門職5名で、シラバスの作成、臨床実習の準備にと粉骨砕身の努力をしてきた。

懸念するのは、次年度以降の大学の各種委員会・部会に人数を割けないことが懸念される。今年度は1名の欠員から補充ができたのもつかの間であり、理学療法学専攻の教員の疲弊が心配である。

一方、2020年の年明けからコロナ感染で3学年の臨床実習Ⅱ（評価実習）が何とか、間隙をぬって無事終了したことは、大変喜ばしいことである。しかしながら、これからのことを考えると、落ち着いた環境下で組織運営を行えるか不安が残る。これからは、専攻の各教員が臨床研修ができない中、教育・研究に傾注できる環境を設けることを専一することが、専攻長としての使命と考える。

## VII 次年度の目標

今年度から、研究データの積み残しを整理するように心掛けたい。空いた時間を有効に使い、研究論文を作成するこ目標にする。最低1本以上の原著論文であり、勿論医学系の雑誌に投稿する（掲載されるように努力する）。

## 教授 兼 副学長 雄賀多 聡 博士 (医学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和元年度は、理学療法学専攻所属の教員として、教育・研究のエフォートを増やすが、管理運営部門の総括委員長としての全学的管理運営にも継続して注力する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・リハビリテーション概論.
  - ・人体の構造 I (骨・関節・筋) .
  - ・人体の構造実習.
  - ・医学総論.
  - ・整形外科学総論.
  - ・整形外科学各論.
  - ・理学療法測定学.
  - ・臨床実習 II.
  - ・臨床実習 III.
  - ・臨床実習 IV.
  - ・卒業研究.
  - ・病態学 II.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・雄賀多 聡：若いうちからロコモ予防！, 全国大学歯科衛生士教育協議会雑誌, 9, 15-17, 2020.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・Otani T, Miwa M, Ogata S, Takeuchi Y, Takasugi J, Fujio K: Classification of body movements when rising from a supine position at a comfortable speed in young people, World Confederatio for Physical Therapy Congress 2019, 2019. 5. 10-13, Geneva.

#### 4 学術集会での招待講演 (教育講演や基調講演) やシンポジウム等 (学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

- ・2019年度 全国大学歯科衛生士教育協議会 第2回理事会・総会 特別講演, 若いうちからロコモ予防!, 9月7日, 千葉県立保健医療大学.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉労働局. 労災協力医. 2019年4月～2020年3月

## 5 学会、学術団体への貢献

### 1) 所属学会・学術団体

- ・千葉医学会、日本整形外科学会、東日本整形災害外科学会、関東整形災害外科学会、日本脊椎脊髄病学会、日本小児整形外科学会、日本職業・災害医学会、日本骨粗鬆症学会、日本腰痛学会、日本足の外科学会、日本抗加齢医学会、日本リハビリテーション医学会、日本運動器科学会、日本小児股関節研究会、千葉県ロコモティブシンドローム研究会。

### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本職業・災害医学会、評議員、2019年4月～2020年3月

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学運営会議、教授会、自己点検・評価委員会、キャンパス・ハラスメント防止対策委員会、将来構想検討委員会、危機管理委員会、動物部会、共通教育運営会議、教員資格審査委員会（看護・共通教育教授、栄養・共通教育教授、歯科・共通教育講師、理学講師、理学助教、作業助教、理学講師、精神看護助教、理学准教授）

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議、理学療法学専攻会議、リハビリテーション学科教授会。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

将来構想検討委員会委員長として、開学10周年記念式典に向けた「千葉県立保健医療大学の将来に向けて」を策定した。また危機管理委員会委員長として「災害対応初動マニュアル2019」を策定した。管理運営部門総括委員長として、広報委員会の活性化が求められている。

## VII 次年度の目標

管理運営部門の総括委員長としての活動に加え、副学長として大学全体の管理運営に注力する。

## 准教授 竹内 弥彦 博士 (工学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

ディプロマポリシーを意識し、積み上げ式の学習効果が得られるよう、授業内容を工夫する。研究活動においては、社会へ有用な情報発信ができるよう科研費研究で得たデータを解析し、論文を執筆・投稿する。社会貢献活動においては、自身の専門性を県民に還元しつつ、職能団体の役員として県民の介護予防・健康増進に貢献できる専門職育成事業を推進する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・運動学Ⅰ.
- ・運動学Ⅱ.
- ・臨床運動学.
- ・運動学実習.
- ・機能解剖学.
- ・運動療法学.
- ・物理療法学演習.
- ・生体機能計測学
- ・老年期障害理学療法学.
- ・運動器障害理学療法学.
- ・運動器障害理学療法学特論.
- ・臨床実習Ⅰ (体験実習).
- ・臨床実習Ⅱ (評価実習).
- ・臨床実習Ⅲ (総合実習).
- ・臨床実習Ⅳ (総合実習).
- ・卒業研究.

### III 研究記録

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・竹内弥彦, 藤尾公哉： 高齢者の片脚立位時における身体各体節の質量中心動揺と骨盤・脊柱アライメントとの関連性, 日本人間工学会第60回大会, 2019年6月16日, 東京.
- ・竹内弥彦, 藤尾公哉： 高齢者の片脚立位姿勢における身体重心動揺と圧中心の逆応答距離との関連性, 日本生理人類学会第80回大会, 2019年10月26日, 京都.
- ・竹内弥彦, 藤尾公哉： 側方への補償的バランス反応における高齢者の頭部位置制御能の特性, 第40回バイオメカニズム学術講演会, 2019年12月1日, 愛知.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 補償的バランス反応における頭部制御能の加齢変化と脊柱形態・可動域との関連性, 研究代表者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県介護保険関係団体協議会, 幹事, 2014年4月～現在.
- ・一般社団法人 リハビリテーション教育評価機構, 評価員, 2016年2月～現在.
- ・千葉市介護認定審査会, 予備委員, 2017年4月～現在.

### 4 職能団体委員等(職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・一般社団法人 千葉県理学療法士会, 理事, 2011年6月～現在.
- ・一般社団法人 千葉県理学療法士会, 副会長, 2013年6月～現在.
- ・公益社団法人 日本理学療法士協会, 代議員, 2014年6月～現在.
- ・一般社団法人 千葉県理学療法士会, 学会検討委員会 委員長, 2017年6月～現在.
- ・一般社団法人 千葉県理学療法士会, 養成校ネットワーク連携部会 担当副会長, 2017年6月～現在.
- ・一般社団法人 千葉県理学療法士会, 生涯学習システム 担当副会長, 2017年6月～現在.
- ・公益社団法人 日本理学療法士協会, 介護予防・健康増進事業 都道府県コーディネーター, 2018年2月～現在.

### 5 学会, 学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本理学療法士協会, 臨床歩行分析研究会, 日本人間工学会, 日本生理人類学会, 理学療法科学学会, バイオメカニズム学会, International Association of Physiological Anthropology.

#### 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・バイオメカニズム学会, 学会誌編集委員, 2017年4月～.
- ・人間工学, 論文査読, 2019年4月.
- ・第6回日本予防理学療法学会学術大会, 演題抄録査読, 2019年4月.
- ・第24回日本基礎理学療法学会学術集会, 演題抄録査読, 2019年4月.
- ・第38回関東甲信越ブロック理学療法士学会, 演題抄録査読, 2019年5月.
- ・第6回日本地域理学療法学会学術大会, 演題抄録査読, 2019年7月.
- ・第6回日本予防理学療法学会学術大会, セレクション口述演題座長, 2019年10月.
- ・第40回バイオメカニズム講演会, 一般演題座長, 2019年12月.

### 6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・いちほら市民大学専門講座, 市原市教育委員会, 認知機能の低下予防～コグニサイズを体験しよう～, 市原市民, 2019年8月23日, サンプラザ市原.
- ・千葉県理学療法士新人教育プログラム, 千葉県理学療法士会, 協会組織と生涯学習システム, 理学療法士, 2019年9月1日, 千葉県教育会館.
- ・健康体力づくり指導者研修会, 県健康づくり支援課, 足腰元気にロコモ対策, 一般県民, 2019年9月28日, 千葉県総合スポーツセンター.
- ・八千代市ふれあい大学校, 八千代市長寿支援課, 認知機能の低下予防～コグニサイズを体験しよう～, 八千代市民, 2019年10月25日, 八千代市地域福祉センター.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・入試改革検討委員会 (副委員長), 入試実施委員会, 広報委員会, IR部会.

## 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議. 理学療法学専攻会議.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

授業内容を工夫した効果については、学生による授業評価アンケートも参考にしながら、継続した検証を行う。研究活動については、筆頭著者として論文公表ができなかったことは反省したい。社会貢献活動においては、一般県民を対象とした「運動による認知症予防」や「ロコモティブシンドローム予防」をテーマに、本年度も継続した講演を実施することができた。

## 准教授 堀本 佳誉 博士 (理学療法学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和元年度は、教育面では理学療法士に必要な知識と技術を理解しやすいよう伝達し、学びを深める意欲を持てるように工夫すること、1年生の担任として学生生活が円滑にスタートすることができるようにサポートすることを目標とする。研究面では、研究費を与えられるレベルの研究を計画し実施すること。またすでに実施した論文文化できていない研究を1本論文文化することを目標とする。社会貢献として、特に発達障害分野理学療法に関して貢献することを目標とする。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・理学療法概論.
- ・理学療法臨床測定学.
- ・神経系障害評価学.
- ・発達障害理学療法学.
- ・発達障害理学療法学演習.
- ・臨床実習 I (体験実習).
- ・臨床実習 II (評価実習).
- ・臨床実習 III (総合実習).
- ・臨床実習 IV (総合実習).
- ・卒業研究.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・Sawamura D, Sakuraba S, Suzuki Y, Asano M, Yoshida S, Honke T, Kimura M, Iwase Y, Horimoto Y, Yoshida K, Sakai S: Acquisition of chopstick-operation skills with the non-dominant hand and concomitant changes in brain activity, Scientific Reports, 2019, DOI:10.1038/s41598-019-56956-0

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・三和真人, 雄賀多聡, 大谷拓哉, 高橋宣成, 藤尾公哉, 江戸優裕, 堀本佳誉: 母指の正中感覚神経は尺骨神経や橈骨神経浅枝より何故に遅いのか, 第24回日本基礎理学療法学会学術大会, 2019年11月30日-12月1日, 朱鷺メッセ.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・千葉県立保健医療大学学長裁量研究費, 発達障害理学療法分野において学生が経験しておくべき疾患と各疾患における心身の侵襲性がそれほど高くない行為についてのアンケート調査, 研究代表者.
- ・千葉県立保健医療大学学内共同研究費, 健常成人上肢の感覚神経伝導速度: 正中神経における分枝による違い, 研究分担者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 4 職能団体委員等(職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県理学療法士会, 障がい児・者支援部部員, 2019年10月～現在に至る.
- ・千葉県理学療法士会, 倫理審査委員, 2019年度～現在に至る.

### 5 学会, 学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本理学療法士協会, 日本重症心身障害学会, 重症心身障害療育学会, 理学療法科学学会, コクランジャパン.

#### 2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・千葉県理学療法士会, 論文査読者, 2019年度～現在に至る.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教務委員会, 研究倫理委員会, 特色科目運営会, 危機管理委員会, 専門職間の連携活動論運営部会部長, 教育研究年報作成部会.

### 2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・リハビリテーション学科会議, 理学療法学専攻会議.

## VI 評価(成果および改善すべき事項)

教育面について, 授業内容を工夫した効果については, 学生による授業評価アンケートも参考にして継続して検証を行う.

1年生の担任としては滞りなく責任を果たせたと考える. 研究活動については, 学長裁量研究費の採択を受けた点については, 目標を達成できた. 共著者として論文報告はできたが, 筆頭著者として論文作成ができていない点について反省したい. 社会貢献活動においては, 千葉県理学療法士会障がい児・者支援部部員として発達障害分野理学療法に関して貢献することができたと考える.

## VII 次年度の目標

教育面では理学療法士に必要な知識と技術を理解しやすいよう伝達し, 学びを深める意欲を持てるように工夫することを継続する. 2年生の担任として学生生活が円滑に送れるようにサポートすることを目標とする. 研究面では, 研究費を与えられるレベルの研究を計画し実施すること, また学長裁量研究費の採択を受けた研究を論文化することを目標とする. 社会貢献として, 特に発達障害分野理学療法に関して貢献することを継続する.

## 講師 大谷 拓哉 博士（保健学）

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和元年度は、特に退職した職員の講義を引き継ぎ、学生の不利益とならぬよう、良質な講義を提供する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・理学療法測定学.
- ・理学療法測定学演習.
- ・運動学実習.
- ・物理療法学.
- ・日常生活活動学演習.
- ・理学療法臨床測定学.
- ・理学療法研究方法論.
- ・老年期障害理学療法学.
- ・神経系障害理学療法学.
- ・神経系障害理学療法学特論.
- ・機能解剖学.
- ・生体機能計測学.
- ・臨床体験実習.
- ・臨床実習Ⅱ.
- ・臨床実習Ⅲ.
- ・臨床実習Ⅳ.
- ・卒業研究.

### III 研究記録

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・Otani T, Miwa M, Ogata S, Takeuchi Y, Takasugi J, Fujio K: Classification of body movements when rising from a supine position at a comfortable speed in young people, World confederation for physical therapy congress 2019, 2019. 5. 10-13, Geneva.

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究，健全成人上肢の感覚神経伝導速度－正中神経における分枝による違い－，研究分担者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・千葉県理学療法士会，学術局学術誌編集部長，2019. 4. 1～2020. 3. 31.
- ・千葉県理学療法士会 臨床十種指導者講習会 世話人，2019. 11. 1～2020. 3. 31.

## 5 学会, 学術団体への貢献

### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本理学療法士学会, 日本基礎理学療法学会, 理学療法科学学会, 日本ヘルスプロモーション理学療法学会, バイオメカニズム学会.

### 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・千葉県理学療法士会 学術誌「理学療法の科学と研究」, 論文査読者, 2019年6月19日～2019年8月2日.
- ・第24回日本基礎理学療法学会学術大会, 演題査読者 (5題), 2019年7月22日～2019年7月29日.
- ・第25回千葉県理学療法士学会, 演題査読者 (4題), 2019年11月12日～2019年11月25日.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・学生委員会, 学術推進企画委員会, 国際交流委員会, 自己点検・評価実施推進部会, 紀要編集部会, 学内共同研究審査部会.

### 2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・臨床実習担当.

## VI 評価 (成果および改善すべき事項)

新規の担当科目について大きな問題なく実施することができた。授業評価アンケートには、演習時間がより多いほうが望ましいとの意見をいただいたので次年度の改善点としたい。研究については昨年度までの研究で得られた成果について国際学会にて報告することが出来た。

## VII 次年度の目標

学内共同研究を研究計画通りに遂行し、社会に還元できる知見を得る。

## 助教 藤尾 公哉 博士 (学術)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和元年度は、欠員教員(講師)1名の穴を埋めるべく、新規に講義および実習・卒論指導を担う。助教着任3年目を迎え、これまでの業務量に加えて質の向上を意識して教育・社会活動に取り組む。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績(科目名)

- ・体験ゼミ.
- ・運動学 I.
- ・機能解剖学.
- ・運動療法学.
- ・人体の機能実習.
- ・運動器障害理学療法学.
- ・運動学実習.
- ・理学療法測定学演習.
- ・老年期障害理学療法学.
- ・日常生活活動学演習.
- ・生体機能計測学.
- ・理学療法研究方法論.
- ・神経系障害理学療法学演習.
- ・神経系障害理学療法学特論.
- ・臨床実習 I (体験実習).
- ・臨床実習 II (評価実習).
- ・臨床実習 III (総合実習).
- ・臨床実習 IV (総合実習).
- ・卒業研究.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 4 職能団体委員等(職能団体名称、委員名称、活動期間)

- ・千葉県理学療法士会 学術局学術編集部委員 2018. 4. 1～2020. 3. 31.
- ・千葉県理学療法士会 代議員 2019. 6. 1～2020. 3. 31.
- ・千葉県理学療法士会 養成校ネットワーク委員会委員 2019. 9. 1～2020. 3. 31.
- ・2019年度第8回千葉県がんのリハビリテーション研修会実行委員 2019. 4. 1～2020. 3. 31.

#### 5 学会、学術団体への貢献

##### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本臨床神経生理学会、日本運動疫学学会、モーターコントロール研究会.

## V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）
  - ・図書委員会. 社会貢献委員会. 危機管理委員会. 教務委員会. 体験ゼミ作業部会.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

本年度より新規に担当した講義や卒業論文指導(ゼミ), また, 前年度から引き続き担当した国家試験対策, 卒業論文編集業務, 臨床実習施設管理について, 滞りなく完遂することができた. 年度にわたり講師1名の欠員があったため, 前年度以上に責任ある業務に携わる必要があった. 研究活動については, 昨年度行った共同研究の成果を公表するに至らず, 大きな課題が残った.

## VII 次年度の目標

本学における3年間の教員経験を基盤として, 新天地で研究・教育・社会活動を発展させていく.

## 助教 江戸 優裕 博士（保健医療学）

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

引き続き、大学および学科・専攻内の業務の理解に努め、年間の流れの把握する。担当する授業や委員会などの役割も増えるため、前任者や関係者と連携をとって円滑な業務遂行に努める。大学や職能団体から任せられた役割を果たすとともに、自身の研究にも注力する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
  - ・専門職間の連携活動論.
  - ・機能解剖学.
  - ・日常生活活動学演習.
  - ・物理療法学.
  - ・物理療法学演習.
  - ・運動学実習.
  - ・理学療法臨床測定学.
  - ・運動器障害理学療法学.
  - ・老年障害理学療法学.
  - ・生体機能計測学.
  - ・卒業研究.
  - ・臨床実習.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.
  - ・理学療法学（国立障害者リハビリテーションセンター）.
  - ・リハビリテーション論Ⅰ（平成国際大学）.
  - ・リハビリテーション論Ⅱ（平成国際大学）.
  - ・スポーツ科学コース対象講座（文京学院大学女子高等学校）.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・江戸優裕，上條史子，佐藤俊彦，山本澄子：演算処理ソフトBodyBuilderを用いた関節角度計算における最適なプログラムの検討と歩行時計算値のプログラム間相違，臨床歩行分析研究会誌，6，1，11-20，2019.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・Edo M，Kamijo F，Sato T:Elucidation of the trunk motion affecting the knee joint stress during gait，The International Society of Posture and Gait Research World Congress 2019，2019年6月30日-7月4日，Edinburgh International Conference Centre.
- ・Edo M，Iida K，Yabata K:Contribution of the kinematic chain of pronation-supination of the rearfoot and internal-external rotation of the shank to lateral movement of the knee during early stance，The XXVII Congress of the International Society of Biomechanics，2019年7月31日-8月4日，TELUS Convention Center.

- ・Iida K, Edo M: A new measurement method of the center of pressure trajectory during gait, The XXVII Congress of the International Society of Biomechanics, 2019年7月31日-8月4日, TELUS Convention Center.
- ・Yabata K, Hirosawa A, Edo M: Relationship between shoulder complex alignment and standing posture control in the mimicked cocking phase of pitching motion, The XXVII Congress of the International Society of Biomechanics, 2019年7月31日-8月4日, TELUS Convention Center.
- ・佐藤俊彦, 江戸優裕, 上條史子, 福井勉: 歩行時の下肢サポートモーメント解析, 第7回日本運動器理学療法学会学術大会, 2019年10月5日-6日, 岡山コンベンションセンター.
- ・上條史子, 江戸優裕, 佐藤俊彦, 上田泰久, 大竹祐子: 矢状面における胸郭角度に関与する要因について: 健常若年者の静止立位からの検討, 第24回日本基礎理学療法学会学術大会, 2019年11月30日-12月1日, 朱鷺メッセ.
- ・三和真人, 雄賀多聡, 大谷拓哉, 高橋宣成, 藤尾公哉, 江戸優裕, 堀本佳誉: 母指の正中感覚神経は尺骨神経や橈骨神経浅枝より何故に遅いのか, 第24回日本基礎理学療法学会学術大会, 2019年11月30日-12月1日, 朱鷺メッセ.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・日本学術振興会科学研究費若手研究 (B), 踵骨-下腿の運動連鎖が変形性膝関節症および外側ヒールウェッジ効果に与える影響, 研究代表者.
- ・千葉県立保健医療大学学内共同研究費, 健常成人上肢の感覚神経伝導速度: 正中神経における分枝による違い, 研究分担者.
- ・文京学院大学学内共同研究費, 動作時サポートモーメントと下肢骨形態の関係性について, 研究分担者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・医歯薬出版. 理学療法士・作業療法士模擬試験作問委員. 2017年度~現在に至る.

#### 4 職能団体委員等 (職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県理学療法士会. 代議員. 2019年度~現在に至る.
- ・千葉県理学療法士会. 学術企画研修部員. 2019年11月~現在に至る.

#### 5 学会, 学術団体への貢献

##### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本理学療法士協会. 臨床歩行分析研究会. バイオメカニクス学会. 理学療法科学学会. 日本臨床バイオメカニクス学会. International Society of Posture and Gait Research. International Society of Biomechanics.

##### 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・第25回千葉県理学療法士学会. 学術局長. 2019年度~現在に至る.
- ・第7回日本運動器理学療法学会学術大会. 一般口述演題座長. 2019年10月5日.
- ・埼玉県理学療法士会. 論文査読委員. 2017年度~現在に至る.
- ・千葉県理学療法士会. 論文査読委員. 2019年度~現在に至る.
- ・第7回日本運動器理学療法学会学術大会. 演題査読委員. 2019年10月5日-6日.
- ・第24回日本基礎理学療法学会学術大会. 演題査読委員. 2019年11月30日-12月1日.
- ・第25回千葉県理学療法士学会. 演題査読委員. 2020年3月15日.

#### 6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・日本理学療法士協会新人教育プログラム. 人間関係及び接遇. 臨床理学療法士. 2019年12月8日. 千葉県立保健医療大学.

## 7 その他

- ・日本理学療法士協会. 地域ケア会議推進リーダー. 2019年3月17日～現在に至る.
- ・日本理学療法士協会. 介護予防推進リーダー. 2019年11月24日～現在に至る.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・開学10周年記念事業実行委員会. 入試実施委員会. 学術推進企画委員会. 進路支援委員会. キャンパス・ハラスメント相談員. 紀要編集部会.

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議. 理学療法学専攻会議. 理学療法学専攻国家試験対策係.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

2019年度は着任2年目となり、学内では授業や委員会をはじめ、実習や国家試験などの専攻運営に関わる役割が増え、学外では千葉県理学療法士会の活動に関わる機会が増えた。いずれも業務の効率化を図りつつ遂行できたが、国家試験合格率100%を維持できなかった点は今後の課題となった。研究活動が計画よりも遅延している点に関しても、次年度の課題となった。

## VII 次年度の目標

2020年度は専攻内業務の全体像を把握した上で、関係者と連携をとって効率化を図りたい。それにより、より円滑な業務遂行と専攻教員の業務負担の軽減に努める。また、新入生の担任として、学生生活のサポートを行う。引き続き、大学や職能団体から任せられた役割を果たすとともに、自身の研究にも注力する。



リハビリテーション学科  
作業療法学専攻



## 教授 兼 専攻長 岡村 太郎 博士 (医学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2019年度は、学生の教育や指導に重点的に行い、臨床実習で問題のあった学生の指導を行う。国家試験対策は不合格者について援助を行い、国家試験の合格と全員就職を目標とした。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・体験ゼミナール.
- ・作業療法概論.
- ・作業療法基礎理論. 補助.
- ・基礎作業学実習. 補助.
- ・作業療法管理学.
- ・作業療法研究法.
- ・社会的適応支援学.
- ・社会的適応支援評価学.
- ・作業療法セミナー.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習 I・II.
- ・総合実習 I・II.
- ・地域作業療法学実習.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・Taro Okamura, Anna Miyamoto, Yuya Narita, Sachiko Sakata, Shinsuke Matsuo, Daisuke Sato: Is the Allen Cognitive Level Screen-5 (ACLS-5) suitable for clinical use in Japan? —Correlations between ACLS-5 and other measurement systems—, 千葉県立保健医療大学紀要 Vol. 11, No. 1, pp 3-10, 2020.
- ・岡村太郎, 松尾真輔: Allen の認知能力障害モデル Allen 認知レベルのスクリーンの紹介, 臨床作業療法 Vol. 16 No. 3 pp206-212, 2019.
- ・岡村太郎, 松尾真輔: Allen の認知能力障害モデル Allen 認知レベルのスクリーンの使用方法の紹介, 臨床作業療法 Vol. 16 No. 3 2019 pp206-212. 臨床作業療法 Vol. 16 No. 4 2019 pp285-288.
- ・川村 悠, 多田 大和, 山下 剛司, 島田 美恵子, 竹内 弥彦, 岡村 太郎, 雄賀多 聡: 地域の通いの場を立ち上げ, 運営するシニアリーダー (介護予防推進ボランティア) の実態調査, 理学療法学 46 巻 Suppl. 1 pp21-24, 2019.
- ・多田 大和, 川村 悠, 山下 剛司, 島田 美恵子, 竹内 弥彦, 岡村 太郎, 雄賀多 聡: 地域住民主体の体操教室運営 (シニアリーダー体操) における活動の阻害因子について 自記式質問紙調査による検討: 理学療法学 46 巻 Suppl. 1 pp19-22, 2019.
- ・岩田 哲治, 岡村 太郎, 伊藤 亜美, 小菅 純佳, 清水 克志: 当院で定期開催している健康予防教室の地域医療における有用性検証, 日本作業療法学会抄録集 53 回 Page PN-1D03, 2019.
- ・Shimada Mieko, Kaneko Jun, Arakawa Makoto, Kono Mai, Okamura Taro: Physical fitness changes after four years in community-dwelling prefrail elderly adults who participated in preventative healthcare classes, The Journal

## 5 研究資金獲得状況（学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学長裁量：集合住宅在住の高齢者に対する転倒予防と地域コミュニティの促進-平成31年度UR集合住宅在住高齢者の転倒予防教室の開催と地域住民のコミュニティの促進のためのモデル作成の試み-，岡村太郎，/ 松尾真輔，島田美恵子。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

#### 1) 千葉県内

- ・認知症の人と家族の会千葉県支部主催のアルツハイマー啓発活動，2019年9月21日，千葉駅前。

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・ほい大プログラムへ作業療法として参加，2019年度，千葉県内のUR団地。

## 5 学会，学術団体への貢献

### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会，千葉県作業療法士会，日本公衆衛生学会，日本衛生学会。

### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・一般社団法人作業療法士会，学部部査読委員，平成31年度。
- ・一般社団法人作業療法士会学会委員会，演題査読委員，平成31年度。

## 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催，団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・岡村太郎，渡辺陵介，一般社団法人日本アレン認知能力障害モデル研究会，ACLS-5入門セミナー，作業療法士，2019.11.30，東京福祉専門学校。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学運営会議，教授会，総務・企画委員会，図書委員会，自己点検・評価委員会，認証評価部会（部会長），自己点検・評価実施推進部会（部会長），IR部会（部会長），教員資格審査委員会，教員再任資格審査委員会，将来構想検討委員会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・作業療法学専攻長，リハビリテーション学科会議，作業療法学専攻会議。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

作業療法学専攻長として，管理運営に関して，大学の認証評価で指摘された努力課題と改善勧告について対応方法とその実施に準備し，大学の重点施策を基に自己点検評価とし継続して認証された。教育方面では，国家試験対策を1月より2月初旬まで実施したが昨年の不合格者の補講を8週間程度実施し，国家試験合格となる。

## VII 次年度の目標

学校運営に関しては，内部質保証の改善が認められ大学の認証された。国家試験の対策について実施できたが，現役学生の指導が時間的に困難であった。現役学生の国家試験対策については課題を残す。研究分野においては，アレン認知能力障害モデルの講習会や研究などの発表ができ満足できる結果であった。また，認知行動作業療法におけるURの「ほい大プログラム」の参加にし，地域貢献として，作業療法のプロボノの可能性について検討できたことが収穫であった。

## 教授 山本 達也 博士 (医学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和元年度は、特に赴任初年度であったため基本的な学内業務（教育、管理運営）を円滑に行えるようになることを目標とした。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・人体の構造1.
- ・人体の構造実習.
- ・内科学総論.
- ・内科学各論.
- ・神経内科学総論.
- ・神経内科学各論.
- ・老年科学.
- ・臨床医学概論.

##### 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・脳神経内科学（千葉大学大学院）.
- ・疾病治療論Ⅲ（葵会柏看護専門学校）.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・Yamamoto T, Yamanaka Y, Sugiyama A, Hirano S, Uchiyama T, Asahina M, Sakakibara R, Kuwabara S. The severity of motor dysfunctions and urinary dysfunction is not correlated in multiple system atrophy. *J Neurol Sci*. 2019 May 15;400:25-29. doi: 10.1016/j.jns.2019.03.005.
- ・Doi H, Sakakibara R, Masuda M, Tateno F, Aiba Y, Kishi M, Yamanishi T, Yamamoto T, Matsuoka K. Gastrointestinal function in dementia with Lewy bodies: a comparison with Parkinson disease. *Clin Auton Res*. 2019 Dec;29(6):633-638. doi: 10.1007/s10286-019-00597-w.
- ・Yakufujiang M, Higuchi Y, Aoyagi K, Yamamoto T, Abe M, Okahara Y, Izumi M, Nagano O, Yamanaka Y, Hirano S, Shiina A, Murata A, Iwadate Y. Predictive potential of preoperative electroencephalogram for neuropsychological change following subthalamic nucleus deep brain stimulation in Parkinson's disease. *Acta Neurochir (Wien)*. 2019 Oct;161(10):2049-2058. doi: 10.1007/s00701-019-03991-5.
- ・Sakakibara R, Tateno F, Yano M, Takahashi O, Aiba Y, Yamamoto T. Fesoterodine normalizes the brain function in overactive bladder patients due to central nervous system lesion: A real-time measure of oxyhemoglobin concentration changes during urodynamics. *Int J Urol*. 2019 Oct;26(10):1014-1015. doi: 10.1111/iju.14072.
- ・Furukawa S, Hirano S, Yamamoto T, Asahina M, Uchiyama T, Yamanaka Y, Nakano Y, Ishikawa A, Kojima K, Abe M, Uji Y, Higuchi Y, Horikoshi T, Uno T, Kuwabara S. Decline in drawing ability and cerebral perfusion in Parkinson's disease patients after subthalamic nucleus deep brain stimulation surgery. *Parkinsonism Relat Disord*. 2020 Jan;70:60-66. doi: 10.1016/j.parkreldis.2019.12.002.

- Suzuki K, Okuma Y, Uchiyama T, Miyamoto M, Haruyama Y, Kobashi G, Sakakibara R, Shimo Y, Hatano T, Hattori N, Yamamoto T, Hirano S, Yamamoto T, Kuwabara S, Kaji Y, Fujita H, Kadowaki T, Hirata K. Determinants of Low Body Mass Index in Patients with Parkinson's Disease: A Multicenter Case-Control Study. J Parkinsons Dis. 2020;10(1):213-221. doi: 10.3233/JPD-191741.
- Jitsuishi T, Hirano S, Yamamoto T, Kitajo K, Iwadata Y, Yamaguchi A. White matter dissection and structural connectivity of the human vertical occipital fasciculus to link vision-associated brain cortex. Sci Rep. 2020 Jan 21;10(1):820. doi: 10.1038/s41598-020-57837-7.
- 山本達也 中枢神経障害(脳)による神経因性膀胱 自律神経, 57:44-47, 2020

### 3 発表(発表者:発表タイトル, 主催学会(学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- Tatsuya Yamamoto, Ryuji Sakakibara, Tomoyuki Uchiyama, Satoshi Kuwabara: Stimulation of periaqueductal grey decreased the inter-contraction interval and dopamine and norepinephrine levels in prefrontal cortex in Parkinson's disease model rat. 49th International Continence Society. 2019.9.3-6 Gothenburg, Sweden.
- Yamamoto T, Yamanaka Y, Sugiyama A, Hirano S, Uchiyama T, Asahina M, Sakakibara R, Kuwabara S. The severity of motor dysfunctions and autonomic dysfunction is not correlated in multiple system atrophy. International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders 2019 (MDS 2019) 2019.9.22-26 Nice, France.
- Toru Sakurai, Tatsuya Yamamoto, Yoshitaka Yamanaka, Shigeki Hirano, Midori Abe, Yuriko Uji, Atsushi Murata, Yoshinori Higuchi, Satoshi Kuwabara Unclear Pronunciation of Stop Consonant Sounds in Patients with Parkinson's Disease Following Deep Brain Stimulation. International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders 2019 (MDS 2019) 2019.9.22-26 Nice, France.
- Tatsuya Yamamoto, Ryuji Sakakibara, Tomoyuki Uchiyama, Keiko Kitajo, Satoshi Kuwabara, Atsushi Yamaguchi Subthalamic stimulation inhibits bladder contraction by modulating medial prefrontal cortex. 第60回日本神経学会学術大会 2019.5.22-25 大阪.
- 山本達也, 山中義崇, 杉山淳比古, 平野成樹, 内山智之, 朝比奈正人, 榊原隆次, 桑原聡 多系統萎縮症(MSA-C)では運動障害と排尿障害の重症度は相関しない 第72回日本自律神経学会総会 2019.11.2-3 北九州.
- 山本達也, 平野成樹, 山中義崇, 杉山淳比古, 櫻井透, 仲野義和, 樋口佳則, 桑原聡 千葉大学における脳深部刺激療法の現状 第19回千葉パーキンソン病研究会 2019.4.18 千葉.

### 4 学術集会での招待講演(教育講演や基調講演)やシンポジウム等(学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

- Tatsuya Yamamoto Autonomic bladder disorders in multiple system atrophy. 11th Congress of the international society for autonomic neuroscience. 2019.7.25-27 Los Angeles, USA.

### 5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- 学内共同研究費, パーキンソン病における難治性排尿障害に対する新規脳深部刺激療法の開発, 研究代表者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績(活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- 第45回日本神経学会神経内科専門医試験 試験問題作成.

### 5 学会, 学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- 日本内科学会. 日本神経学会. 日本自律神経学会. 日本排尿機能学会. 日本パーキンソン病・運動障害疾患学会.
- Movement Disorder Society. International Continence Society.

#### 2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- 日本神経学会 代議員 2019年4月1日～現在に至る.
- 日本排尿機能学会 代議員 2018年5月1日～現在に至る.

- ・日本自律神経学会 評議員 2017年4月1日～現在に至る.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会. 教務委員会. 学術推進委員会. 国際交流委員会. 紀要編集部会.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

- ・目標としていた本学における教育, 管理運営を円滑に行うことについては概ね達成されたと考えられる.
- ・研究活動についても論文発表・学会発表など概ね達成されたと考えられる.
- ・本専攻教員との共同研究を今後進めていく必要があると思われる.

## VII 次年度の目標

新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い, 学生教育に大きな影響がでているため, 可能な限り教育の質を保つようにする.

## 准教授 安部 能成 博士 (保健学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和元年度は、特に大学での教育方法と内容の改善に留意する。評価法、治療学、演習や卒業研究において Step wise method を導入する。さらに、評価学ⅡではOSCEの改善を図るとともに、成績評価を工夫する。臨床実習においては、大学、施設、学生という3要素の立体的教育活動を実践する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・作業療法評価学概論.
  - ・作業療法評価学Ⅱ.
  - ・作業療法治療学Ⅱ.
  - ・作業療法治療学Ⅱ演習.
  - ・社会的適応支援学演習.
  - ・作業運動学実習.
  - ・見学実習.
  - ・評価実習.
  - ・総合実習.
  - ・卒業研究.
  
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名).
  - ・聖学院大学大学院人間福祉学研究科 (スピリチュアルケア論)

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線)

- ・安部能成：がん患者の在宅生活を支えるロコモ・アプローチ，在宅新療，vol.4 no.4，pp.386-389，2019.
- ・安部能成：在宅環境における，再入院予防というリハビリテーションの目標設定，在宅新療，vol.4 no.7，pp.672-677，2019.
- ・安部能成：内部障害における在宅リハビリテーションの重要性，在宅新療，vol.4 no.8，pp.788-791，2019.
- ・安部能成：重臓臓器の機能障害に対する退院後のリハビリテーション，在宅新療，vol.4 no.9，pp.889-892，2019.
- ・安部能成：在宅ロコモ対策の対象疾患，在宅新療，vol.4 no.10，pp.984-988，2019.
- ・Kazunari Abe：Some Secrets of social security in modern Japan; why do we need palliative care and long-term care at the beginning of twenty-first century? pp.36-40，General Practice Challenges，LaxBook，Bulgaria，2019.
- ・安部能成：がん患者の医学的リハビリテーションにおけるペインコントロール (Pain control)，日本運動器疼痛学会誌，vol.11，pp.243-249，2019.
- ・安部能成：リハビリテーション専門職による終末期患者に対するアプローチ，臨床死生学，vol.24，no.1，pp.15-18，2019.
- ・安部能成：呼吸リハビリテーションと在宅ロコモ対策，在宅新療，vol.4 no.12，1187-1192，2019.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル、主催学会 (学会名称)、開催日、場所等、本人下線)

- ・安部能成：緩和リハビリにおける EBM と NBM について，千葉県地域医療連携の会，2019年8月1日，千葉大学医学部附属

病院

- ・安部能成：プライマリケアにおける訪問リハビリのヒント，第1回日本在宅医療連合学会地域フォーラム，2019年9月14日，札幌市教育文化会館。
- ・安部能成：公衆衛生問題としての緩和ケア，第58回千葉県公衆衛生学会，2020年1月28日，千葉市文化センター。

#### 4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- ・安部能成：緩和リハビリとまちづくり，第1回日本在宅医療連合学会シンポジウム46「リハビリとまちづくり」，2020年7月15日，京王プラザホテル。
- ・安部能成：緩和リハビリにおけるEBMとNBM，第25回大学病院の緩和ケアを考える会年次大会，特別講演，多職種で広げる緩和ケア，2019年9月21日，千葉県立保健医療大学。
- ・安部能成：がん緩和ケアの根拠はEBMかNBMか？，第57回日本癌治療学会学術集会，メディカルスタッフセミナー，2019年10月26日，福岡国際会議場。
- ・安部能成：作業療法における自律と自立—その治療効果の判定方法について，第19回富山県作業療法学会（特別講演），2020年2月23日，砺波市文化会館。

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

- 1) 千葉県内
  - ・がんカフェ，2019年4月17日～2020年3月18日，千葉市中央区千葉港。

#### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・千葉大学医学部附属病院地域医療連携部在宅医療インテンシブコース講師。

#### 3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・作業療法士国家試験模範解答作成委員。

#### 4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・千葉県作業療法士会機関紙「作業療法」査読委員。
- ・千葉県作業療法士会アドバイザー。

#### 5 学会，学術団体への貢献

##### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本癌学会，日本癌治療学会，日本緩和医療学会，日本臨床死生学会，日本サイコオンコロジー学会，日本がんサポーターシップケア学会，日本死の臨床研究会，日本ホスピス・在宅ケア研究会，多施設緩和ケア研究会，日本ロコモケア研究会，日本在宅ホスピス協会，大学病院の緩和ケアを考える会，一般社団法人 全国在宅リハビリ支援推進機構，APHN (Asia Pacific Hospice Network)，EAPC (European Association for Palliative Care) .

##### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本癌治療学会（理事）。
- ・日本がんサポーターシップケア学会（評議員）。
- ・日本死の臨床研究会（世話人）。
- ・日本ホスピス・在宅ケア研究会（世話人）。
- ・多施設緩和ケア研究会（世話人）。
- ・日本ロコモケア研究会（世話人）。
- ・日本在宅ホスピス協会（世話人）。
- ・大学病院の緩和ケアを考える会（世話人）。
- ・一般社団法人 全国在宅リハビリ支援推進機構（顧問）。

## 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・千葉大学医学部附属病院地域医療連携部在宅医療インテンシブコース講師（千葉市）。

## 7 その他

- ・日本癌治療学会：学術集会抄録査読委員。
- ・日本緩和医療学会：学術集会抄録査読委員。
- ・Disability and Rehabilitation：Manuscript Reviewer。
- ・Palliative Medicine：Manuscript Reviewer。
- ・Scandinavian Journal of Occupational Therapy：Manuscript Reviewer。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生委員会，社会貢献委員会，図書委員会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・臨床実習ワーキンググループ。

### 3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・公開講座におけるプレゼンテーションおよび司会。
- ・大学説明会におけるプレゼンテーション。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

講義に対するフィードバックを踏まえて、講義科目・実習科目について、さらなる改善を試みる。より具体的には教材の取捨選択を一層進め、受講学生の理解の改善を実感している。他方、網羅的な情報提供が減少し、特に臨床実習における学生の知識不足、実技不足を感じる。同様の指摘は、臨床実習指導者からもあったので、この点において、さらなる改善の必要性が感じられた。

## VII 次年度の目標

大学においては知識の獲得が基礎的基盤であり、その上に技術を身につけていくという段階付け、および、学習の階層構造が重要である。さらなる教材の精査による講義内容の改善は当然であるが、基礎知識を踏まえた実技実習に努力し、臨床実習において学生の習熟度を向上させるようなアプローチを図り、知識・技能・態度においてバランスの取れた教育を進める必要があると考えている。

## 准教授 藤田 佳男 博士（リハビリテーション科学）

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

カリキュラムの変更に伴う新規開設科目の準備を行う。既存の科目については、実践面を重視した内容に改善する。研究活動については、他分野に研究内容を広げ、成果のアウトプットに注力する。社会貢献活動については、県内での高齢者・障害者の運転について啓発を行う。また、専門職に対して教育活動を行う。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・千葉県の健康づくり.
- ・人体の機能実習.
- ・作業運動学 I.
- ・作業運動学実習.
- ・作業療法治療学 I.
- ・日常生活活動技術学.
- ・日常生活活動援助学.
- ・日常生活活動技術学演習.
- ・臨床体験実習.
- ・体験ゼミナール.
- ・評価実習 I・II.
- ・総合実習 I・II.
- ・地域作業療法学実習.
- ・卒業研究.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・永島 匡，藤田 佳男：訪問看護ステーションにおける作業療法士が提供する自動車運転支援の取り組み，日本臨床作業療法研究 (2188-8418)6巻1号 33-37, 2019.
- ・Sawada T, Tomori K, Hamana H, Ohno K, Seike Y, Igari Y, Fujita Y. : Reliability and validity of on-road driving tests in vulnerable adults: a systematic review. Int J Rehabil Res. Dec;42(4):289-299, 2019.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・白岩 淑子，渡邊 隼人，田中 克己，藤田 佳男：神奈川県運転免許センターにおける作業療法士の役割，第53回日本作業療法学会，2019年9月6日，福岡国際会議場.
- ・藤田 佳男：健常若年者における抑制課題付有効視野測定法「VFIT-C」の妥当性と有用性の検討，日本心理学会第83回大会，2019年9月11日，立命館大学大阪いばらきキャンパス.

#### 4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- ・日本心理学会第83回大会シンポジウム，心理学から考える人口減少社会でのモビリティ，-高次脳機能障害と運転，2019年9月11日，立命館大学大阪いばらきキャンパス.

- ・Taiwan Occupational Therapy Association's 2019 international conference, "Driving Rehabilitation and Road Traffic Act for the Illness and Aging Driver", 3th November 2019, National Taiwan University Taipei.
- ・Kaoshung Occupational Therapy Association workshop 「日本高齢及身心障礙者駕駛評估與駕駛復健實務」 工作坊, 1st November 2019, 高雄醫學大學, Kaoshung.
- ・日本交通心理学会, 将来ビジョンワーキンググループ講習会, 「高次脳機能障害・認知機能障害と運転リハビリテーション」 2020年1月20日, 東京都.
- ・第4回日本安全運転・医療研究会シンポジウム, これからの運転リハビリテーション～「ここから始めよう」の方も「今後どの方向へ？」の方も～, 2019年12月13日, 福井市.

## 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名, 研究テーマ, 研究代表者／研究分担者）

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究C）, 高次脳機能・VR・実車評価の複合による認知機能障害者の多角的運転能力評価の開発, 研究分担者.
- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手研究）, 高齢者の運転適性を評価および訓練する方法の開発, 研究代表者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等, 活動期間, 場所等）

- ・葛飾区役所福祉部自立活動支援センター専門相談（2019年4月～2020年3月）東京都葛飾区.

### 3 審議会, 委員会, 国家試験委員などの実績（活動団体名称, 委員名称, 活動期間）

- ・全日本指定自動車教習所協会連合会, 「高次脳機能障害を有する運転免許保有者の運転再開に関するワーキンググループ」委員長, 2019年4月から2020年3月まで.
- ・全日本指定自動車教習所協会連合会, 「高齢運転者支援士」試験作問委員, 2019年4月から2020年3月まで.

### 4 職能団体委員等（職能団体名称, 委員名称, 活動期間）

- ・日本作業療法士協会制度対策部「運転と作業療法特設委員会」, 委員長, 2018年度～2020年度.

### 5 学会, 学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会. 日本老年医学会. 日本老年精神医学会. 認知神経科学会. 日本高次脳機能障害学会. 自動車技術会. 日本公衆衛生学会. 日本リハビリテーション工学協会. 運転と認知機能研究会. 運転と作業療法研究会. 日本安全運転・医療研究会. 日本交通心理学会. 日本認知心理学会. 日本交通科学学会.

#### 2) 学会, 学術団体への貢献（学会・学術団体名, 役職, 活動期間）

- ・運転と認知機能研究会 事務局長, 2008年～
- ・運転と作業療法研究会 代表 2014年～
- ・日本安全運転・医療研究会 幹事, 2016年～
- ・日本作業療法士協会 学会演題査読委員 2014年～

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日時, 場所）

- ・千葉県認知症施策推進セミナー, 千葉県健康福祉部高齢者福祉課, 認知機能が低下した高齢者の運転について～安全運転に関与する基礎知識～, 市町村職員, 2019年5月22日, 千葉県文書館.
- ・認知症講習会, 浦安市福祉部, 認知機能が低下した高齢者の運転について～安全運転に関与する基礎知識～, 市職員, 2019年9月24日, 浦安市役所.
- ・適性相談専科, 警察庁, 高次脳機能障害と自動車等の運転の関係-作業療法士の立場から-, 各都道府県警察適性検査担当警察官, 2019年11月12日, 関東管区警察学校.
- ・院内研修, 船橋市立リハビリテーション病院, 作業療法士による自動車運転支援の歴史と動向について, リハケア部職員,

2019年6月26日、千葉県船橋市。

- ・君津圏域リハビリテーション勉強会、「作業療法士と自動車運転支援」- 運転に関わる様々な症状と因子、リハビリテーション専門職、2019年7月6日、君津中央病院。
- ・熊本県作業療法士会研修会、「作業療法士が関わる運転支援～これまでの支援とこれからの支援～」、県士会員、2019年9月15日、熊本県。
- ・区西北部高次脳機能障害支援普及事業講演会、「高次脳機能障害者の運転に関する現状-関係する制度と運転適性評価-」リハビリテーション専門職、2019年10月11日、東京都。
- ・障害者教習指導員研修、全日本指定教習所協会連合会、高次脳機能障害者の特性と指導法、教習指導員、2019年10月4日、東京都。
- ・高齢運転者支援士研修、全日本指定教習所協会連合会、高次脳機能障害者の特性と指導法、教習指導員、2019年10月24日、東京都。
- ・損保協会助成事業「長崎県リハビリテーション講習会」、安全運転と認知機能～その適性評価と取り巻く現状～リハビリテーション専門職、2019年11月30日、長崎県図書館。
- ・福岡県作業療法協会研修会、高齢者・認知症と自動車運転～評価・訓練・医療・福祉に求めること～、県士会員、2019年12月1日。
- ・焼津市民病院研修会、認知機能と自動車運転～高次脳機能障害の現状を中心に～、リハビリテーション専門職、2019年12月11日、焼津市民病院。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・特色科目運営会、入試改革検討委員会、入試実施委員会、研究倫理審査委員会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議、作業療法学専攻会議。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

従来より担当している授業は問題なく実施できた。また次年度新規開設科目の準備も整った。今後も演習科目を中心に臨床力の伝達に注力したい。研究活動では十分な時間を費やすことが出来なかったが、前半には新たな実験を行い、新たな分野での学会発表につなげられた。海外招待講演やワークショップの依頼があり、実施することができた。筆頭著者として投稿することが出来なかったため次年度の課題とする。

## VII 次年度の目標

教育活動に関しては、次年度以降の新規開設科目の準備を継続して行う。既存の科目については、より実践面を重視した内容への変換を図る。

研究活動については、学外研究費の獲得を目標とし、引き続き実験の実施および成果のアウトプットに注力する。

社会貢献活動については、今年度と同様に県内機関と協力して高齢者・障害者の運転について啓発を行う。また、専門職に対して教育活動を行う。

## 准教授 有川 真弓 博士 (保健科学)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2019年度も引き続き、研究結果を原著論文として発表したい。また、社会貢献活動にも力を注いでいきたい。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・作業運動分析学.
- ・人間発達学.
- ・基礎作業学・演習.
- ・基礎作業学実習.
- ・作業療法評価学IV.
- ・作業療法治療学IV.
- ・作業療法学IV演習.
- ・日常生活活動技術学演習.
- ・作業療法セミナー.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習 I.
- ・評価実習 II.
- ・総合実習 I.
- ・総合実習 II.
- ・地域作業療法学実習.
- ・卒業研究.
- ・専門職間の連携活動論.

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所)

- ・山田孝監訳, 有川真弓, 石井良和, 井口知也, 鎌田樹寛他訳：キールホフナーの人間作業モデル—理論と応用—改訂第5版, 2019, 共同遺書出版社, 東京.
- ・楠本泰士, 友利幸之介, 樋室伸頭, 高木健志, 有川真弓他：小児リハ評価ガイド 統合と解釈を理解するための道しるべ, 2019, メジカルビュー社, 東京.
- ・辛島千恵子, 有川真弓, 石附智奈美, 伊藤恵美, 伊藤信寿他：メディカルスタッフ専門基礎科目シリーズ 人間発達とライフサイクル. 2020, 理工図書, 東京.

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・有川 真弓, 福山 英明, 古橋 理恵, 金坂 佳織, 池澤 直行：千葉県作業療法士会の特別支援教育領域への参画に対する意識調査 県作業療法士会員へのアンケート調査より, 千葉作業療法, 9-1, 34-42, 2019.
- ・有川 真弓：【あなたに合った良い姿勢】姿勢の成り立ちと運動発達からみえる作業・活動への支援, 臨床作業療法, 16-6, 407-412, 2020.

### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・島崎 貴子，岡田 洋一，西宮 由貴，高木 佳菜子，有川 真弓：他職種との連携によって深められた作業療法への認識と今後の期待 フォーカスグループインタビューの分析から，第53回日本作業療法学会，2019.9.6-8，福岡国際会議場。
- ・吉野 智佳子，有川 真弓，木之瀬 隆：体験用前腕能動仮義手の操作体験を行った学生の満足度調査，第53回日本作業療法学会，2019.9.6-8，福岡国際会議場。
- ・有川 真弓，松尾 真輔：作業療法学生の実習前気分状態改善と臨床実習適応能力の向上のための学内検査測定実習の取り組み，第53回日本作業療法学会，2019.9.6-8，福岡国際会議場。
- ・立山 清美，伊藤 祐子，有川 真弓，山西 葉子，山田 孝：発達障がい児に対する感覚統合療法の効果 ゴール達成スケールリングおよびJMAPを用いた検討，第37回日本感覚統合学会研究大会 in 兵庫，2019.10.26-27，姫路獨協大学。
- ・有川真弓，松尾真輔：地域住民つながりの場チェックリストの作成に向けたパイロットスタディ，千葉県立保健医療大学紀要 Vol.11, No. 1, p66, 2020.

### 4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- ・第53回日本作業療法学会モーニングセミナー，発達系作業療法を科学する 自閉症スペクトラム児を対象とした作業療法のクリニカルリーズニング（臨床的判断）に関する探索的研究，2019.9.6-8，福岡国際会議場。

### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究（一般），作業療法士が行う地域資源評価チェックリストの作成に向けたパイロットスタディ，研究代表者。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

- 1) 千葉県内
  - ・船橋市立船橋特別支援学校自立活動支援，2019年4月1日～2020年3月31日，船橋市立船橋特別支援学校金堀校舎。

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・大田区小学校 特別支援学級医療専門相談，2019年6月～2020年3月。
- ・足立区発達障害児支援事業 専門研修等講師，2019年6月1日～2020年3月31日。
- ・練馬区障害児保育巡回指導，2019年4月1日～2020年3月31日。

### 3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・市川市障害支援区分認定審査会審査委員，2019年4月1日～2020年3月31日。
- ・一般社団法人リハビリテーション教育評価機構評価員，2019年4月1日～2020年3月31日。

### 4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・日本作業療法士協会，制度対策部部員，2019年4月1日～2020年3月31日。
- ・日本作業療法士協会，学会演題査読委員，2019年4月1日～2020年3月31日。
- ・日本作業療法士協会，代議員，2019年4月1日～2020年3月31日。
- ・千葉県作業療法士会，事務局長，2019年4月1日～2020年3月31日。
- ・千葉県作業療法士会，代議員，2019年4月1日～2020年3月31日。
- ・千葉県作業療法士会，理事，2019年4月1日～2020年3月31日。
- ・千葉県作業療法士会，学術部発達障害委員会委員，2019年4月1日～2020年3月31日。
- ・千葉県作業療法士会，学術部査読委員，2019年4月1日～2020年3月31日。

### 5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本作業療法士協会，千葉県作業療法士会，日本感覚統合学会，日本作業行動学会，日本LD学会，日本発達系作業療法学会，日本リハビリテーション連携科学学会，日本発達障害学会。

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本感覚統合学会, 効果研究委員, 2019年4月1日～2020年3月31日.
- ・日本発達系作業療法学会, 理事, 2019年4月1日～2020年3月31日.
- ・JDDネットワーク多職種連携委員会, 副委員長, 2019年4月1日～2020年3月31日.

## 6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・練馬区立桜台保育園園内研修 (講師), 練馬区立桜台保育園, 体幹を意識したからだ作り体幹を意識したからだ作り, 練馬区に勤務する職員, 2019年6月25日, 練馬区立桜台保育園.
- ・練馬区立田柄第二保育園園内研修 (講師), 練馬区立田柄第二保育園, 体幹を意識したからだ作り—姿勢の保持と上肢操作の発達のために, 練馬区に勤務する職員, 2019年7月3日, 練馬区立田柄第二保育園.
- ・練馬区立上石神井保育園園内研修 (講師), 練馬区立上石神井保育園, 体幹を意識したからだ作り—姿勢の保持と上肢操作の発達のために, 練馬区に勤務する職員, 2019年7月10日, 練馬区立上石神井保育園.
- ・東京都王子第二特別支援学校夏季研修会 (講師), 東京都王子第二特別支援学校, 感覚統合の基礎知識と学校における実践について, 東京都王子第二特別支援学校教職員, 2019年7月26日, 東京都王子第二特別支援学校.
- ・学校を理解して支援ができる作業療法士の育成研修会 (講師), 茨城県作業療法士会, 総合的なアセスメント, 作業療法士, 2019年8月17-18日, 茨城福祉医療センター.
- ・練馬区立石神井台第二保育園園内研修 (講師), 練馬区立石神井台第二保育園, 子どもの発達に合わせた体幹作り—姿勢の保持と上肢操作の発達のために, 練馬区に勤務する職員, 2019年10月24日, 練馬区立石神井台第二保育園.
- ・学校を理解して支援ができる作業療法士の育成研修会 (講師), 山梨県作業療法士会, 特別支援教育と作業療法士のかかわり, 作業療法士, 2019年11月9-10日, 勤医協ビル5階.
- ・習志野市ひまわり発達相談センター職場内研修会 (講師), 習志野市ひまわり発達相談センター, 書字に必要な動きの評価および遊びを用いた指導法, ひまわり発達相談センター職員, 市内幼稚園保育所こども園職員等, 2019年11月25日, ゆいまーる習志野福祉交流スペース.
- ・中央本町保健センター子育て講演会 (講師), 足立保健所中央本町地域・保健総合支援課, 乳幼児の遊びと発達, 足立保健所中央本町地域・保健総合支援課管内の子育てに関する関係機関と一般区民.
- ・給食部会研修会 (講師), 千葉県通園施設連絡協議会, 食事をするための身体の機能とその発達, 千葉県通園施設連絡協議会給食部会栄養士, 2020年1月29日, 千葉県社会福祉センター3階会議室.
- ・2020年春のセミナーF あそびを通じた発達支援—ソーシャル・スキルと感覚を中心に (講師), 公益社団法人発達協会発達協会, 感覚統合の視点から見たからだの育ちと感覚の問題, 保育士・児童発達支援事業所指導員・支援学級教師等, 2020年2月15日, 東京ファッションタウン (TFT) ビル9階研修室.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教務委員会, 危機管理委員会.

### 2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・リハビリテーション学科会議, 作業療法学専攻会議.

## VI 評価 (成果および改善すべき事項)

職能団体や学会での委員会活動, 社会貢献活動に力を注ぎ, 満足できる結果を残すことができた. 筆頭で原著論文を発表した.

## VII 次年度の目標

2020年度は, 共同研究の結果を全国学会で発表したい. また, 社会貢献活動にも力を注いでいきたい.

## 講師 吉野 智佳子 博士 (学術)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

新カリキュラムの不足点を掌握し、しっかり対応したい。就職相談は必要があれば相談に対応し、県内就職者数を確保していきたい。実習施設確保のための交渉を引き続き行い、臨床実習の準備を行っていく。研究活動をより精力的に行う。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・体表解剖学.
- ・体験ゼミナール.
- ・作業運動学Ⅱ.
- ・作業運動学実習.
- ・作業療法治療学Ⅰ (神経・心肺機能系).
- ・作業療法学Ⅰ演習 (神経・心肺機能系).
- ・日常生活活動援助学.
- ・日常生活活動援助学演習.
- ・作業療法セミナー.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習Ⅰ, Ⅱ.
- ・総合実習Ⅰ, Ⅱ.
- ・地域作業療法学実習.
- ・卒業研究.

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線: 著書, 発行年, 発行所, 発行場所)

- ・鈴木孝治, 佐藤真一, 三浦香織, 伊藤祐子, 吉野智佳子, 岩崎也生子, 中島ともみ, 佐藤善久, 小林隆司: 作業療法教育ガイドライン2019 作業療法士養成教育モデル・コア・カリキュラム2019, 2019年9月, 一般社団法人日本作業療法士協会教育部養成教育委員会作業療法教育ガイドライン作成担当, 東京.

#### 3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・木之瀬隆, 吉野智佳子: 医療機関におけるシーティング・チームに関する調査. 第34回リハ工学カンファレンス in さっぽろ, 2019年8月21-23日, 北海道.
- ・吉野智佳子, 下村義弘: 体験用前腕能動仮義手製作を通しての満足度調査, 第53回日本作業療法学会. 2019年9月6-8日, 福岡.
- ・Chikako Yoshino, Yoshihiro Shimomura: Investigation of article grasping form of hand and role assignment of each finger, The 14th International Congress of Physiological Anthropology. September 24-27, 2019, Singapore.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・令和元年度学内共同研究 視覚遮断環境下での手の把握 (ピンチ) 力調整能力と各指の役割分担の検討, 吉野智佳子, 森田良文.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

#### 1) 千葉県内

- ・車いす講習会，2019年10月11日，千葉大学西千葉キャンパス総合学生支援センター2階「ふれあいの環」，千葉大学公認学生ボランティアサークル チャレンジド・サポート みのり。

### 4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・日本作業療法士協会，教育部 部員（養成教育委員会），2009年～現在。
- ・千葉県作業療法士会，教育部 部員，2019年～現在。

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会，千葉県作業療法士会，日本義肢装具学会，脳機能とリハビリテーション研究会，日本作業療法研究学会，日本生理人類学会，日本人間工学会，日本臨床神経生理学学会，日本シーティング・コンサルタント協会，日本呼吸ケア・リハビリテーション学会，日本心臓リハビリテーション学会，日本リハビリテーション医学会，日本ハンドセラピィ学会。

#### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本作業療法士協会，事例報告登録制度審査委員，2010年9月～現在に至る。
- ・日本作業療法士協会，学会演題審査委員，2018年1月～現在に至る。
- ・千葉県作業療法士会，学術誌査読委員，2013年4月～現在に至る。
- ・日本作業療法研究学会，理事，2007年11月～現在に至る。
- ・日本義肢装具学会，用語委員，2014年10月～現在に至る。

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・千葉県作業療法士会 現職者研修会2 「実践のための作業療法研究」 講師 2019年10月20日，国際医療福祉大学成田キャンパス。
- ・開学10周年記念事業 シンポジウム司会 2019年11月23日，千葉県立保健医療大学幕張キャンパス講堂。
- ・日本作業療法士協会主催 千葉県作業療法士会運営 臨床実習指導者講習会 講師・ファシリテーター，2019年12月21-22日，千葉県立保健医療大学幕張キャンパス大講義室。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・入試実施委員会，広報委員会，学術推進企画委員会，紀要編集部会，専門職間の連携活動論作業部会，自己点検・評価実施推進部会，開学10周年記念事業実行委員会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議，作業療法学専攻会議。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

臨床実習の依頼と合わせて求人があれば学生に情報提供を行った。就職相談は身体障害領域において学生から依頼があれば対応した。研究活動では，学会での発表や学術論文の投稿を進めた。今年度は国外の学会発表に挑戦した。

## VII 次年度の目標

臨床実習担当の変更に伴い、評価実習と総合実習の2科目分での実習施設確保のための交渉を行い、次期担当者への引き継ぎを行いながら臨床実習の準備を行っていく。就職相談は必要があれば相談に応じ、県内就職者数を確保していきたい。昨年度実施した学内共同研究について、学会発表や学術論文の投稿を進めたい。4年の担任となるため、就活支援や国家試験対策をしっかり進めたい。

## 講師 佐藤 大介 博士 (医学)

対象期間：2019年4月1日～2019年8月31日まで

### I 年度当初の目標

令和元年度は、担当科目の到達目標の達成状況を随時把握し、基本的臨床能力の習得に向けて授業内容の工夫を図る。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・作業療法評価学Ⅱ (精神・心理機能系).
- ・作業療法学Ⅲ演習 (精神・心理機能系).
- ・日常生活活動技術学演習.
- ・社会適応支援学演習.
- ・作業療法セミナー.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習Ⅰ・Ⅱ.
- ・総合実習Ⅰ・Ⅱ.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 5 学会、学術団体への貢献

##### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会.
- ・千葉県作業療法士会.

### V 管理・運営記録

#### 1 全学委員会 (委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・学術推進企画委員会. 国際交流委員会.

#### 2 学科／専攻内委員会 (委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・リハビリテーション学科会議. 作業療法学専攻会議.

### VI 評価 (成果および改善すべき事項)

臨床実習の調整担当、精神障害領域の臨床実習指導と講義を行った。到達目標の理解度に応じた指導方法の改善を行う。

### VII 次年度の目標

基本的臨床能力の習得を主眼におき精神障害領域の講義形式の工夫を図る。

## 講師 松尾 真輔 修士 (学術)

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2019年度は、作業療法の専門性を伝えるように取り組むべく、講義の中で学習内容のバランスを考え、専門知識の取得と国家試験対策、臨床場面を意識し、学生が卒後の臨床に向けより良い理解につながるよう指導していく。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・体験ゼミナール.
- ・千葉県の健康づくり.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・基礎作業学実習.
- ・人体の機能実習.
- ・作業運動学実習.
- ・作業療法基礎理論.
- ・作業療法評価学総論.
- ・作業療法評価学 I (神経・心肺機能系).
- ・作業療法治療学IV (認知・知能機能系).
- ・作業療法学IV演習 (認知・知能機能系).
- ・日常生活活動援助学演習.
- ・地域作業療法学概論.
- ・作業療法セミナー.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習 I・II.
- ・総合実習 I・II.
- ・地域作業療法学実習.
- ・卒業研究.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・松尾真輔, 有川真弓: 障害者モデル導入による学内検査測定実習前後の学生の気分状態と臨床実習適応能力の自己評価の変化について, 千葉県立保健医療大学紀要 Vol. 11, No. 1, pp 45-49, 2020.
- ・Taro Okamura, Anna Miyamoto, Yuya Narita, Sachiko Sakata, Shinsuke Matsuo, Daisuke Sato: Is the Allen Cognitive Level Screen-5 (ACLS-5) suitable for clinical use in Japan? —Correlations between ACLS-5 and other measurement systems—, 千葉県立保健医療大学紀要 Vol. 11, No. 1, pp 3-10, 2020.
- ・岡村太郎, 松尾真輔: Allen の認知能力障害モデル Allen 認知レベルのスクリーンの紹介, 臨床作業療法 Vol. 16 No. 3 pp206-212, 2019.
- ・岡村太郎, 松尾真輔: Allen の認知能力障害モデル Allen 認知レベルのスクリーンの使用方法の紹介, 臨床作業療法 Vol. 16 No. 3 2019 pp206-212. 臨床作業療法 Vol. 16 No. 4 2019 pp285-288.
- ・小林毅, 武次幸治, 松尾真輔, 海老拓也, 吉永勝訓: 千葉県がんのリハビリテーション研修会のこれまでとこれから-2014

年から過去7回の開催実績から、千葉作業療法 Vol.9 No.1, pp43-49, 2020.

- ・有川真弓, 松尾真輔: 地域住民つなごりの場チェックリストの作成に向けたパイロットスタディ, 千葉県立保健医療大学 紀要 Vol.11, No. 1, p66, 2020.

### 3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・有川真弓, 松尾真輔: 作業療法学生の実習前気分状態の改善と臨床実習適応能力の向上のための学内検査測定実習の取り組み, 第53回日本作業療法学会, 2019.9.7, 福岡.

### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学内共同研究, 地域住民つなごりの場チェックリストの作成に向けたパイロットスタディ. 研究分担者.
- ・学長裁量研究, : 集合住宅在住の高齢者に対する転倒予防と地域コミュニティの促進-平成 31 年度UR集合住宅在住高齢者の転倒予防教室の開催と地域住民のコミュニティの促進のためのモデル作成の試み-. 研究分担者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・フェルマータ船橋, MTDLP 活用におけるリハスタッフへの技術指導, 2019年9月～現在に至る.

### 4 職能団体委員等 (職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県作業療法士会, 千葉中央ブロック代議員, 2014年4月～現在に至る.
- ・千葉県作業療法士会, 千葉県生活行為向上マネジメント委員会, 委員, 2013年8月～現在に至る.
- ・千葉県作業療法士会, 千葉県作業療法誌, 査読者, 2014年4月～現在に至る.
- ・千葉県作業療法士会, 災害対策委員会, 委員, 2015年4月～現在に至る.
- ・千葉県 POS 連盟, 千葉 POS 災害対策委員会, 委員, 2016年1月～現在に至る.
- ・千葉県作業療法士会, 副会長, 2018年6月～現在に至る.
- ・千葉県作業療法士会, 運轉特設委員会・担当理事, 2018年6月～現在に至る.
- ・千葉県 POS 連盟, 理事, 2018年6月～現在に至る.

### 5 学会, 学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会, 千葉県作業療法士会, 日本公衆衛生学会, 千葉県 POS 連盟.

#### 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・第8回千葉県がんのリハビリテーション研修会, 運営スタッフ, 2019年9月28日～29日.
- ・千葉県 POS 連盟, 災害対策研修会運営スタッフ, 2018年4月～現在に至る.
- ・千葉県 POS 連盟, 理事会出席, 2018年7月～現在に至る.
- ・千葉県作業療法士会, 理事会出席, 2018年4月～現在に至る.
- ・千葉県作業療法士会, 定時総会出席, 2019年6月9日.
- ・千葉県作業療法士会, 予算総会出席, 2020年3月20日.

### 6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・千葉県作業療法士会, 千葉県運轉支援情報交換会, 2019年6月22日, 千葉県立保健医療大学.
- ・千葉県作業療法士会, 生活行為向上マネジメント事例検討会, 2019年8月2日, 千葉県立保健医療大学.
- ・千葉県作業療法士会, 生活行為向上マネジメント基礎研修会, 2019年8月4日, 千葉県立保健医療大学.
- ・千葉県作業療法士会, 生活行為向上マネジメント基礎研修会, 2019年10月27日, 千葉県立保健医療大学.
- ・千葉県作業療法士会, 生活行為向上マネジメント事例検討会, 2019年11月30日, 千葉県立保健医療大学.
- ・千葉県作業療法士会, 生活行為向上マネジメント基礎研修会, 2020年2月17日, 千葉県立保健医療大学.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

・総務・企画委員会、キャンパス・ハラスメント相談員、紀要編集部会員、教育研究年報作成部会、体験ゼミナール部会員。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

・リハビリテーション学科会議、作業療法学専攻会議、臨床実習指導者会議。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

体験実習を中心とした科目担当や臨床実習指導者会議の開催を企画準備し、専攻内での担当科目や業務の役割分担を任された。さらに委員会や部会員としても他学科と専攻との調整を行い、学内での業務に対して積極的に取り組めた。また学外でも社会貢献として、千葉県の職能団体の役員となったことで組織運営を担った。

## VII 次年度の目標

次年度も自身の業務について積極的に従事し、学内業務を円滑に行えるよう意識しながら調整していきたい。研究報告の場への参加を意識しながら、次年度以降の研究活動に繋げていきたい。

別表（看護学科 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	体験ゼミナール	特色1	1前	1					○	必修3単位
	千葉県健康づくり	特色2	2後	1				○		
	専門職間の連携活動論	特色3	4後	1				○		
	社会実習（ボランティア活動）	—	2・3・4			1			○	
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般1	1・2・3・4前		2		○		選択 4単位 (※1)
		哲学	一般2	1・2・3・4前		2		○		
		文学	一般3	1・2・3・4前		2		○		
		歴史と文化	一般4	1・2・3・4前		2		○		
		生命倫理	一般5	1・2・3・4後		2		○		
		宗教学	一般6	1・2・3・4後		2		○		
		教育学	一般7	1・2・3・4前		2		○		
		人間関係論	一般8	1・2・3・4前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般9	1・2・3・4前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般10	1・2・3・4前後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般11	1・2・3・4前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般12	1・2・3・4後		2		○		選択 6単位 (※2)
		法学（日本国憲法）	一般13	1・2・3・4前		2		○		
		社会学	一般14	1・2・3・4後		2		○		
		文化人類学	一般15	1・2・3・4前		2		○		
		経済学	一般16	1・2・3・4前		2		○		
		国際関係論	一般17	1・2・3・4後		2		○		
		社会福祉学	一般18	1・2・3・4前		1		○		
		国際的な健康課題	一般19	1・2・3・4後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般20	1・2・3・4後		2		○		
		科学論	一般21	1・2・3・4前		2		○		
		環境変化と生態	一般22	1・2・3・4後		2		○		
		観察生物学入門	一般23	1・2・3・4前後		2		○		
		生物学	一般24	1・2・3・4前後		2		○		
		物理学	一般25	1・2・3・4前		2		○		
		化学	一般26	1・2・3・4前		2		○		
情報理解群	統計学	一般27	1後	1				○	必修 2単位	
	情報リテラシーⅠ	一般28	1前	1				○		
	情報リテラシーⅡ	一般29	1・2・3・4後		1			○		
	情報倫理	一般30	1・2・3・4後		1		○			
	実践統計学	—	2・3・4前		1		○			
外国語群	英語Ⅰ（講読）	一般31	1・2・3・4前		1			○	必修 2単位 + 選択 2単位	
	英語Ⅱ（英会話）	一般32	1・2・3・4前		1			○		
	英語Ⅲ（講読・記述）	一般33	1・2・3・4後		1			○		
	英語Ⅳ（英語コミュニケーション）	一般34	1・2・3・4後		1			○		
	英語Ⅴ（保健医療英語）	一般35	2後		2		○			
	英語Ⅵ（応用英語）	一般36	1・2・3・4後		1			○		
	英語Ⅶ（上級英語）A	—	2・3・4後		1		○			
英語Ⅶ（上級英語）B	—	2・3・4後		1		○				

【一般教養科目】選択科目から選択8単位

※1 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」を含み4単位を選択して履修する。

※2 生活と環境群における選択科目の履修方法について

「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から1科目及び生物の科目（「観察生物学入門」又は「生物学」）、「物理学」、「化学」のうち2科目を含む6単位以上を選択して履修する。

別表（看護学科 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健1	2前		1		○			必修16単位 + 選択4単位
		生化学総論	保健2	2前	1			○			
		栄養学Ⅰ（基礎）	保健3	1後	1			○			
		栄養学Ⅱ（応用）	保健4	1後		1		○			
		心の健康	保健5	1・2・3・4後			1	○			
		薬理学Ⅰ（総論）	保健6	1後	1			○			
		薬理学Ⅱ（各論）	保健7	1後	1			○			
		病理学Ⅰ（総論）	保健8	1前	1			○			
		病理学Ⅱ（各論）	保健9	1前	1			○			
		微生物学Ⅰ（総論）	保健10	1前	1			○			
		微生物学Ⅱ（各論）	保健11	1前	1			○			
		発達心理学	保健12	2前		1		○			
		臨床心理学	保健13	1後		1			○		
	健康と保健医療システム	健康論	保健14	1前		1		○			
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	保健15	1前	1			○			
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	保健16	2後	1			○			
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	保健17	3前	1			○			
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	保健18	3前	1			○			
		リハビリテーション概論	保健19	2後		1		○			
		救命・救急の理論と実際	保健20	2前	1			○			
		画像診断学	—	2後		1		○			
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	保健21	2後	1			○			
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	保健22	2後	1			○			
		食育論Ⅰ（基礎）	保健23	3前		1		○			
		食育論Ⅱ（応用）	保健24	3前		1		○			
		健康と運動	保健25	1後		1		○			
		家族社会学	保健26	1前		1		○			
		医療経営管理論	保健27	3前		1		○			
リスクマネジメント論	保健28	2後	1			○					
専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ（総論、外皮・免疫系、消化器系、呼吸器系）	看1	1前	1			○		【専門科目】 必修76単位 + 選択3単位	
		人体の構造と機能Ⅱ（循環器系、腎・泌尿器系、内分泌系、生殖器系）	看2	1前	1			○			
		人体の構造と機能Ⅲ（造血器系、骨・筋肉系、神経系、感覚器系）	看3	1後	1			○			
		病態学Ⅰ（内科系疾病論）	看4	2前	2			○			
		病態学Ⅱ（外科系疾病論）	看5	2前	2			○			
		病態学Ⅲ（高齢者・精神疾病論）	看6	2前	1			○			
		臨床検査論	—	2前	1			○			

別表（看護学科 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
専門科目	基礎看護科目	看護学入門	看8	1前	1			○			
		看護学原論	看9	1前	1				○		
		看護倫理	看10	2後	1			○			
		看護技術論Ⅰ（生活援助技術）	看11	1後	2				○		
		看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント技術）	看12	1後	1				○		
		看護技術論Ⅲ（検査治療技術）	—	2前	2				○		
		看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）	—	2後	1				○		
		看護技術論Ⅴ（統合技術演習）	—	2後	1				○		
		日常生活調整方法論	—	2前		1			○		
		看護学入門実習	看16	1前	2					○	
	基礎看護学実習	看17	2前	2					○		
	医療生活支援	臨床看護学概論	—	2後	1			○			
		臨床看護学方法論Ⅰ（急性期・がん）	—	3前	2			○			
		臨床看護学方法論Ⅱ（慢性期・終末期）	—	3前	2			○			
		臨床看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術演習）	—	3後・4前	1				○		
		ターミナルケア論	—	3前		1			○		
		急性期看護学実習	—	3後・4前	2					○	
		慢性期看護学実習	—	3後・4前	3					○	
		療養生活支援	精神看護学概論	看25	1後	1			○		
			高齢者・在宅看護学概論	看26	1後	1			○		
			高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	看28	2後	1				○	
	高齢者看護学方法論Ⅱ		—	3前	1				○		
	在宅看護学方法論Ⅱ		—	3前	1				○		
	精神看護学方法論Ⅰ		—	2後	1				○		
	精神看護学方法論Ⅱ		—	3前	1				○		
	退院支援論		—	3前		1			○		
	高齢者看護学実習		看31	3後・4前	3					○	
	在宅看護学実習		看32	3後・4前	1					○	
	精神看護学実習	看33	3後・4前	2					○		
	健康生活支援	地域看護学概論	看34	2前	2			○			
		地域看護学方法論Ⅰ	看35	2後	1			○			
		地域看護学方法論Ⅱ	看36	3前	2			○			
		地域看護学方法論Ⅲ	看37	3前	1				○		
地域看護学実習		看38	3後・4前	3					○		
看護政策論		—	4後		1			○			
育成支援	育成期看護概論	—	2前	1			○				
	小児看護学方法論Ⅰ	看40	2後	1				○			
	小児看護学方法論Ⅱ	看41	3前	1				○			
	小児地域ケア論	—	3前		1			○			
	母性看護学方法論Ⅰ	看42	2後	1				○			
	母性看護学方法論Ⅱ	看43	3前	1				○			
	母性看護学実習	看44	3後・4前	2					○		

【専門科目】  
（再掲）  
必修76単位  
＋  
選択3単位

別表（看護学科 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
専門科目	実践看護科目 育成支援	小児看護学実習	看45	3後・4前	2					○	【専門科目】 (再掲) 必修76単位 + 選択3単位
		助産学概論	看46	3前	1			○			
		助産診断・技術学Ⅰ	—	3前	1			○			
		助産診断・技術学Ⅱ	—	4前	2				○		
		助産診断・技術学Ⅲ	—	4通	2				○		
		助産診断・技術学Ⅳ	—	4後	2				○		
		助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）	看51	3後	1					○	
		助産学実習Ⅱ（継続支援）	看52	4通	2					○	
		助産学実習Ⅲ（産婦ケア）	—	4通	3					○	
	発展看護科目	看護管理論	—	4前	1			○			
		災害看護学	看57	3前	1			○			
		看護キャリア発達論	看58	2後	1			○			
		看護管理実習	—	4前	1						
		総合実習	看60	4後	3					○	
		看護研究（集中講義含む）	看61	4通	2				○		
		看護学統合（集中）	看62	4後	1				○		
		リーダーシップ論	看63	2前	1			○			
		国際看護論	看65	2前	1			○			
		家族看護論	—	2後	1			○			

## 先修条件

## 【特色科目】

- 1 「千葉県健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

## 【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ（上級英語）A」「英語Ⅶ（上級英語）B」を履修するには「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、またはⅥ」の選択2単位を修得済みであること。

別表（看護学科 2019年度以降入学生用）

先修条件

【専門科目】

1 下記の実習科目および「看護学統合」を履修するには、表に示す所定の科目の単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得が見込まれていること。

配当 年次	授業科目の名称	履修に先立って修得しておかなければならない 授業科目の名称																																		
		講義科目							演習科目							実習科目																				
		看護学入門	精神看護学概論	臨床看護学概論	育成期看護概論	地域看護学概論	地域看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	高齢者・在宅看護概論	臨床看護学方法論Ⅰ	臨床看護学方法論Ⅱ	看護管理論	看護学原論	看護技術論Ⅰ・Ⅲ	看護技術論Ⅳ・Ⅴ	地域看護学方法論Ⅲ	精神看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	高齢者看護学方法論Ⅱ	在宅看護学方法論Ⅱ	母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	小児看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	臨床看護学方法論Ⅲ	助産診断・技術Ⅱ	看護学入門実習	基礎看護学実習	急性期看護学実習	慢性期看護学実習	精神看護学実習	在宅看護学実習	地域看護学実習	高齢者看護学実習	母性看護学実習	小児看護学実習	助産学実習Ⅰ	小児看護学実習	総合実習
1前	看護学 入門実習	○																																		
2前	基礎 看護学実習	○	○							○	○												○													
3後 ～ 4前	急性期 看護学実習			○								○										○	○	○												
	慢性期 看護学実習			○								○											○	○												
	地域 看護学実習				○	○						○	○										○	○												
	精神 看護学実習		○									○											○	○												
	在宅 看護学実習							○								○		○					○	○												
	高齢者 看護学実習							○								○	○						○	○												
	母性 看護学実習												○										○	○												
小児 看護学実習												○										○	○													
4前	看護管理 実習								○																											
4通	助産学 実習Ⅱ																					○														○
	助産学 実習Ⅲ																					○														○
4後	総合実習																																			
	看護学統合																																			○

○：単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得が見込まれていること。

## 別表（看護学科 2019年度以降入学生用）

### 進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3年次に進級できない。

- 1 1・2年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2年次に配当された専門科目のうち、専門基礎科目、基礎看護科目の必修科目の単位を修得済みの者。

### 卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	4単位	20単位	24単位
保健医療基礎科目	16単位	4単位	20単位
専門科目	76単位	3単位	79単位
合計	99単位	27単位	126単位

#### ○ 助産課程に関する特記事項

助産課程選択の場合は、「助産学概論」及び「助産診断・技術学Ⅰ」の計2単位を選択必修とするほか、別途、「助産診断・技術学Ⅱ」、「助産診断・技術学Ⅲ」、「助産診断・技術学Ⅳ」及び、「助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）」、「助産学実習Ⅱ（継続支援）」、「助産学実習Ⅲ（産婦ケア）」の計12単位が必要である。

#### ○ 養護教諭二種に関する特記事項

「保健師」の免許を基礎資格として「養護教諭二種免許状」を取得する場合、「法学（日本国憲法）」、「健康スポーツ科学」、「生涯身体運動科学」、「英語Ⅴ（保健医療英語）」、「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の計8単位が必要である。

#### ○ 総合実習と看護学統合に関する特記事項

「総合実習」と「看護学統合」の履修は、卒業に必要な単位の修得が見込まれている必要がある。

(看護学科 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	千葉県健康づくり	特色2	2後	1				○		必修3単位
	体験ゼミナール	特色1	1前	1					○	
	専門職間の連携活動論	特色3	4後	1				○		
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般1	1・2・3・4前		2		○		選択 4単位 (※1)
		哲学	一般2	1・2・3・4前		2		○		
		文学	一般3	1・2・3・4前		2		○		
		歴史と文化	一般4	1・2・3・4前		2		○		
		生命倫理	一般5	1・2・3・4後		2		○		
		宗教学	一般6	1・2・3・4後		2		○		
		教育学	一般7	1・2・3・4前		2		○		
		人間関係論	一般8	1・2・3・4前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般9	1・2・3・4前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般10	1・2・3・4前後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般11	1・2・3・4前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般12	1・2・3・4後		2		○		選択 6単位 (※2)
		法学(日本国憲法)	一般13	1・2・3・4前		2		○		
		社会学	一般14	1・2・3・4後		2		○		
		文化人類学	一般15	1・2・3・4前		2		○		
		経済学	一般16	1・2・3・4前		2		○		
		国際関係論	一般17	1・2・3・4後		2		○		
		社会福祉学	一般18	1・2・3・4前		1		○		
		国際的な健康課題	一般19	1・2・3・4後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般20	1・2・3・4後		2		○		
		科学論	一般21	1・2・3・4前		2		○		
		環境変化と生態	一般22	1・2・3・4後		2		○		
		観察生物学入門	一般23	1・2・3・4前後		2		○		
		生物学	一般24	1・2・3・4前後		2		○		
		物理学	一般25	1・2・3・4前		2		○		
		化学	一般26	1・2・3・4前		2		○		
	情報理解群	統計学	一般27	2後	1				○	必修 2単位
		情報リテラシーⅠ	一般28	1前	1				○	
		情報リテラシーⅡ	一般29	1・2・3・4後		1			○	
		情報倫理	一般30	1・2・3・4後		1		○		
	外国語群	英語Ⅰ(基礎講読)	—	1・2・3・4前		1			○	必修 2単位 + 選択 2単位
		英語Ⅱ(基礎英会話)	—	1・2・3・4前		1			○	
		英語Ⅲ(講読・記述)	一般33	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅳ(英会話)	—	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅴ(保健医療英語)	一般35	2後	2			○		
		英語Ⅵ(応用英語)	一般36	1・2・3・4後		1			○	

【一般教養科目】選択科目から選択8単位

※1 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」を含み4単位を選択して履修する。

※2 生活と環境群における選択科目の履修方法について

「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から1科目及び生物の科目(「観察生物学入門」又は「生物学」)、「物理学」、「化学」のうち2科目を含む6単位以上を選択して履修する。

(看護学科 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健1	2前		1		○		必修16単位 + 選択4単位
		生化学総論	保健2	2前	1			○		
		栄養学Ⅰ(基礎)	保健3	1後	1			○		
		栄養学Ⅱ(応用)	保健4	1後		1		○		
		心の健康	保健5	1・2・3・4前			1	○		
		薬理学Ⅰ(総論)	保健6	1後	1			○		
		薬理学Ⅱ(各論)	保健7	1後	1			○		
		病理学Ⅰ(総論)	保健8	1前	1			○		
		病理学Ⅱ(各論)	保健9	1前	1			○		
		微生物学Ⅰ(総論)	保健10	1前	1			○		
		微生物学Ⅱ(各論)	保健11	1前	1			○		
		発達心理学	保健12	2前		1		○		
		臨床心理学	保健13	1後		1			○	
	健康と保健医療システム	健康論	保健14	1前		1		○		
		公衆衛生学Ⅰ(基礎)	保健15	1前	1			○		
		公衆衛生学Ⅱ(応用)	保健16	2後	1			○		
		疫学・保健統計Ⅰ(基礎)	保健17	3前	1			○		
		疫学・保健統計Ⅱ(応用)	保健18	3前	1			○		
		リハビリテーション概論	保健19	2後		1		○		
		救命・救急の理論と実際	保健20	2前	1			○		
		保健医療福祉論Ⅰ(基礎)	保健21	2後	1			○		
		保健医療福祉論Ⅱ(応用)	保健22	2後	1			○		
		食育論Ⅰ(基礎)	保健23	3前		1		○		
		食育論Ⅱ(応用)	保健24	3前		1		○		
		健康と運動	保健25	1後		1		○		
		家族社会学	保健26	1前		1		○		
		医療経営管理論	保健27	4後		1		○		
		リスクマネジメント論	保健28	2後	1			○		
専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ(骨・筋・神経系)	—	1前	1			○		【専門科目】 必修75単位 + 選択4単位
		人体の構造と機能Ⅱ(呼吸器・循環器・消化器系)	—	1前	1			○		
		人体の構造と機能Ⅲ(泌尿器・生殖器・感覚器系)	—	1後	1			○		
		病態学Ⅰ(内科系疾病論)	看4	2前	2			○		
		病態学Ⅱ(外科系疾病論)	看5	2前	2			○		
		病態学Ⅲ(高齢者・精神疾病論)	看6	2前	1			○		
		臨床検査実習	看7	2前	1				○	
	基礎看護科目	看護学入門	看8	1前	1				○	
		看護倫理	看10	2後	1				○	
		看護技術論Ⅰ(生活援助技術)	看11	1前	2				○	
	看護技術論Ⅱ(看護共通技術)	—	1後	1				○		

(看護学科 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	基礎看護科目	看護技術論Ⅲ (フィジカルアセスメント技術)	看 13	2 前	2				○	
		看護技術論Ⅳ (検査治療技術)	看 14	2 後	2				○	
		看護技術論Ⅴ (看護過程展開技術)	看 15	2 後	1				○	
		看護ふれあい体験学習	—	1 前	2					○
		基礎看護学実習	看 17	2 前	2					○
	医療・生活支援	成人看護学概論	看 18	2 後	1				○	
		成人看護学方法論Ⅰ	看 19	3 前	2				○	
		成人看護学方法論Ⅱ	看 20	3 前	2				○	
		がん看護学	看 21	2 後	1				○	
		ターミナルケア論	看 22	3 前		1			○	
		成人看護学実習 (急性期)	看 23	3 後・4 前	3					○
		成人看護学実習 (慢性期)	看 24	3 後・4 前	3					○
	療養支援	こころの健康と看護	—	1 後	1				○	
		療養支援看護概論	看 27	2 前	1				○	
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	看 28	2 後	1				○	
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ	看 29	3 前	2				○	
		精神看護学方法論	看 30	3 前	2				○	
		高齢者看護学実習	看 31	3 後・4 前	3					○
		在宅看護学実習	看 32	3 後・4 前	1					○
	精神看護学実習	看 33	3 後・4 前	2					○	
	健康支援	地域看護学概論	看 34	2 前	2				○	
		地域看護学方法論Ⅰ	看 35	2 後	1				○	
		地域看護学方法論Ⅱ	看 36	3 前	2				○	
		地域看護学方法論Ⅲ	看 37	3 前	2				○	
		地域看護学実習	看 38	3 後・4 前	3					○
	育成支援	育成支援看護概論	看 39	2 前	1				○	
		小児看護学方法論Ⅰ	看 40	2 後	1				○	
		小児看護学方法論Ⅱ	看 41	3 前	1				○	
		母性看護学方法論Ⅰ	看 42	2 後	1				○	
		母性看護学方法論Ⅱ	看 43	3 前	1				○	
		母性看護学実習	看 44	3 後・4 前	2					○
		小児看護学実習	看 45	3 後・4 前	2					○
		助産学概論	看 46	3 前		1			○	
助産診断・技術学Ⅰ (実践基礎)		看 47	3 前		1			○		
助産診断・技術学Ⅱ (ライフサイクル各期)		看 48	4 前		2			○		
助産診断・技術学Ⅲ (分娩期)		看 49	4 通		2			○		
助産診断・技術学Ⅳ (ハイリスク分娩)		看 50	4 後		2			○		
助産学実習Ⅰ (産婦ケア体験)		看 51	3 後		1				○	
助産学実習Ⅱ (継続支援)		看 52	4 通		3				○	
助産学実習Ⅲ (分娩期ケア)		看 53	4 通		3				○	

【専門科目】  
(再掲)  
必修 75 単位  
+  
選択 4 単位

(看護学科 2018 年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	発展看護科目	看護管理学	看 54	4 前	1			○		
		感染看護学	看 55	2 後		1		○		
		看護政策論	看 56	4 後		1		○		
		災害看護学	看 57	3 前	1			○		
		看護キャリア発達論	看 58	2 前		1		○		
		看護管理学実習	看 59	4 前	1					○
		総合実習	看 60	4 後	2					○
		看護研究	看 61	4 通	2				○	
		看護学統合	看 62	4 後	1				○	
		リーダーシップ論	看 63	4 後		1		○		
		継続看護方法論	看 64	4 後		1		○		
		国際看護論	看 65	2 前		1		○		
		家族看護学概論	看 66	2 後		1		○		
		家族看護学方法論	看 67	3 前		1		○		

先修条件

【特色科目 (平成28年度入学生より適用する)】

1. 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
2. 「専門職間の連携活動論」を履修するには「体験ゼミナール」, 「千葉県の健康づくり」の単位を修得済みであること。

【専門科目】

1. 下記の実習科目および「看護学統合」を履修するには、表に示す所定の科目の単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得見込みであること。

○: 単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得見込みであること。

配当年次	授業科目の名称	履修に先立って修得しておかなければならない授業科目の名称																										
		講義科目					演習科目						実習科目															
		看護学入門	こころの健康と看護	成人看護学概論	育成支援看護概論	地域看護学概論	療養支援看護概論	看護管理学	看護技術論ⅠⅡⅢ	看護技術論ⅣⅤⅥ	成人看護学方法論ⅠⅡ	地域看護学方法論ⅠⅡⅢ	精神看護学方法論	高齢者・在宅看護学方法論ⅠⅡ	母性看護学方法論ⅠⅡ	小児看護学方法論ⅠⅡ	看護ふれあい体験学習	基礎看護学実習	成人看護学実習(急性期)	成人看護学実習(慢性期)	精神看護学実習	在宅看護学実習	地域看護学実習	高齢者看護学実習	母性看護学実習	小児看護学実習	総合実習	
1前	看護ふれあい体験学習	○																										
2前	基礎看護学実習	○	○					○								○												
3後 ~ 4前	成人看護学実習(急性期)			○					○	○						○	○											
	成人看護学実習(慢性期)			○					○	○						○	○											
	地域看護学実習					○			○		○					○	○											
	精神看護学実習								○			○				○	○											
	在宅看護学実習								○				○			○	○											
	高齢者看護学実習								○				○			○	○											
	母性看護学実習								○				○			○	○											
	小児看護学実習					○			○						○	○	○											
4前	看護管理学実習																○	○										
4後	総合実習																			○: 選択する領域の実習								
	看護学統合																	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

(看護学科 2018年度以前入学者用)

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	4単位	20単位	24単位
保健医療基礎科目	16単位	4単位	20単位
専門科目	75単位	4単位	79単位
合計	98単位	28単位	126単位

○ 助産課程に関する特記事項

助産課程選択の場合は、「助産学概論」及び「助産診断・技術学Ⅰ（実践基礎）」の計2単位を選択必修とするほか、別途、「助産診断・技術学Ⅱ（ライフサイクル各期）」、「助産診断・技術学Ⅲ（分娩期）」、「助産診断・技術学Ⅳ（ハイリスク分娩）」及び、「助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）」、「助産学実習Ⅱ（継続支援）」、「助産学実習Ⅲ（分娩期ケア）」の計13単位が必要である。

○ 養護教諭二種に関する特記事項

「保健師」の免許を基礎資格として「養護教諭二種免許状」を取得する場合、「法学（日本国憲法）」、「健康スポーツ科学」、「生涯身体運動科学」、「英語Ⅴ（保健医療英語）」、「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の計8単位が必要である。

○ 総合実習と看護学統合に関する特記事項

「総合実習」と「看護学統合」の履修は、卒業に必要な単位の修得が見込まれている必要がある。

(看護学科 2020年度以前編入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	千葉県健康づくり	特色1	3後	1				○		必修3単位
	体験ゼミナール	特色2	3前	1					○	
	専門職間の連携活動論	特色3	4後	1				○		
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般1	3・4前		2		○		選択 4単位 (※1)
		哲学	一般2	3・4前		2		○		
		文学	一般3	3・4前		2		○		
		歴史と文化	一般4	3・4前		2		○		
		生命倫理	一般5	3・4後		2		○		
		宗教学	一般6	3・4後		2		○		
		教育学	一般7	3・4前		2		○		
		人間関係論	一般8	3・4前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般9	3・4前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般10	3・4後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般11	3・4前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般12	3・4後		2		○		選択 6単位 (※2)
		法学(日本国憲法)	一般13	3・4前		2		○		
		社会学	一般14	3・4後		2		○		
		文化人類学	一般15	3・4前		2		○		
		経済学	一般16	3・4前		2		○		
		国際関係論	一般17	3・4後		2		○		
		社会福祉学	一般18	3・4前		1		○		
		国際的な健康課題	一般19	3・4後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般20	3・4後		2		○		
		科学論	一般21	3・4前		2		○		
		環境変化と生態	一般22	3・4後		2		○		
		観察生物学入門	一般23	3・4前後		2		○		
		生物学	一般24	3・4前後		2		○		
		物理学	一般25	3・4前		2		○		
		化学	一般26	3・4前		2		○		
	情報理解群	統計学	一般27	3・4後	1				○	必修 2単位
		情報リテラシーⅠ	一般28	3前	1				○	
		情報リテラシーⅡ	一般29	3・4後		1			○	
		情報倫理	一般30	3・4後		1		○		
	外国語群	英語Ⅰ(基礎講読)	一般31	3・4前		1			○	必修 2単位 + 選択 2単位
		英語Ⅱ(基礎英会話)	一般32	3・4前		1			○	
		英語Ⅲ(講読・記述)	一般33	3・4後		1			○	
		英語Ⅳ(英会話)	一般34	3・4後		1			○	
		英語Ⅴ(保健医療英語)	一般35	3後		2		○		
		英語Ⅵ(応用英語)	一般36	3・4後		1			○	

【一般教養科目】選択科目から選択8単位

※1 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」を含み4単位を選択して履修する。

※2 生活と環境群における選択科目の履修方法について

「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から1科目及び生物の科目(「観察生物学入門」又は「生物学」)、「物理学」、「化学」のうち2科目を含む6単位以上を選択して履修する。

(看護学科 2020 年度以前編入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健 1	3 前		1		○			
		生化学総論	—	—	1			○			
		栄養学Ⅰ (基礎)	—	—	1			○			
		栄養学Ⅱ (応用)	保健 4	3 後		1		○			
		薬理学Ⅰ (総論)	—	—	1			○			
		薬理学Ⅱ (各論)	—	—	1			○			
		病理学Ⅰ (総論)	—	—	1			○			
		病理学Ⅱ (各論)	—	—	1			○			
		微生物学Ⅰ (総論)	—	—	1			○			
		微生物学Ⅱ (各論)	—	—	1			○			
		発達心理学	保健 12	4 前		1		○			
	臨床心理学	保健 13	3 後		1			○			
	健康と保健医療システム	健康論	保健 14	3 前		1		○			
		公衆衛生学Ⅰ (基礎)	—	—	1			○			
		公衆衛生学Ⅱ (応用)	—	—	1			○			
		疫学・保健統計Ⅰ (基礎)	保健 17	3 前	1			○			
		疫学・保健統計Ⅱ (応用)	保健 18	3 前	1			○			
		リハビリテーション概論	保健 19	3 後		1		○			
		救命・救急の理論と実際	保健 20	3 前	1			○			
		保健医療福祉論Ⅰ (基礎)	保健 21	3 後	1			○			
		保健医療福祉論Ⅱ (応用)	保健 22	3 後	1			○			
		食育論Ⅰ (基礎)	保健 23	3 前		1		○			
		食育論Ⅱ (応用)	保健 24	3 前		1		○			
		健康と運動	保健 25	3 後		1		○			
		家族社会学	保健 26	3 前		1		○			
		医療経営管理論	保健 27	4 後		1		○			
		リスクマネジメント論	保健 28	4 後		1		○			
		専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ (骨・筋・神経系)	—	—	1			○	
人体の構造と機能Ⅱ (呼吸器・循環器・消化器系)				—	—	1			○		
人体の構造と機能Ⅲ (泌尿器・生殖器・感覚器系)	—			—	1			○			
病態学Ⅰ (内科系疾病論)	—			—	2			○			
病態学Ⅱ (外科系疾病論)	—			—	2			○			
病態学Ⅲ (高齢者・精神疾病論)	—			—	1			○			
臨床検査実習	—			—	1				○		
基礎看護科目	看護学入門		—	—	1				○		
	看護倫理		看 10	3 後	1				○		
	看護技術論Ⅰ (生活援助技術)		—	—	2				○		
	看護技術論Ⅱ (看護共通技術)		—	—	1				○		

必修 16 単位  
+  
選択 4 単位

【専門科目】  
必修 76 単位  
+  
選択 3 単位

(看護学科 2020 年度以前編入学生用)

		看護技術論Ⅲ (フィジカルアセスメント技術)	—	—	2				○		
		看護技術論Ⅳ (検査治療技術)	—	—	2				○		
		看護技術論Ⅴ (看護過程展開技術)	—	—	1				○		
		看護ふれあい体験学習	—	—	2					○	
		基礎看護学実習	—	—	2					○	
専門科目	医療・生活支援	成人看護学概論	看 17	3 後	1				○		
		成人看護学方法論Ⅰ	—	—	2				○		
		成人看護学方法論Ⅱ	—	—	2				○		
		がん看護学	看 20	3 後	1				○		
		ターミナルケア論	看 21	3・4 前		1			○		
		成人看護学実習 (急性期)	—	—	3					○	
		成人看護学実習 (慢性期)	—	—	3					○	
	療養支援	こころの健康と看護	—	3 後	1				○		
		療養支援看護概論	看 27	3 前	1				○		
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	—	—	1					○	
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ	—	—	2					○	
		精神看護学方法論	—	—	2					○	
		高齢者看護学実習	—	—	3						○
		在宅看護学実習	—	—	1						○
	健康支援	地域看護学概論	看 32	3 前	2				○		
		地域看護学方法論Ⅰ	看 33	3 後	1				○		
		地域看護学方法論Ⅱ	看 34	3 前	2				○		
		地域看護学方法論Ⅲ	看 35	3 前	2				○		
		地域看護学実習	看 36	3 後	3						○
	育成支援	育成支援看護概論	看 37	4 前	1				○		
		小児看護学方法論Ⅰ	—	—	1					○	
		小児看護学方法論Ⅱ	—	—	1					○	
		母性看護学方法論Ⅰ	—	—	1					○	
		母性看護学方法論Ⅱ	—	—	1					○	
		母性看護学実習	—	—	2						○
		小児看護学実習	—	—	2						○
		助産学概論	看 44	3 前		1			○		
	助産診断・技術学Ⅰ (実践基礎)	看 45	3 前		1			○			
【専門科目】 (再掲) 必修 76 単位 + 選択 3 単位											

(看護学科 2020年度以前編入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
専門科目	発展看護科目	看護管理学	看 52	4 前	1			○			【専門科目】 (再掲) 必修 76 単位 + 選択 3 単位
		感染看護学	看 53	4 後		1		○			
		看護政策論	看 54	4 後		1		○			
		災害看護学	看 55	3 前	1			○			
		看護キャリア発達論	看 56	3 前	1			○			
		看護管理学実習	看 57	4 前	1					○	
		総合実習	看 58	4 後	2					○	
		看護研究	看 59	4 通	2				○		
		看護学統合	看 60	4 後	1				○		
		リーダーシップ論	看 61	4 後		1		○			
		継続看護方法論	看 62	4 後		1		○			
		国際看護論	看 63	3 前		1		○			
		家族看護学概論	看 64	3 後		1		○			
		家族看護学方法論	看 65	4 前		1		○			

先修条件

【特色科目】

1. 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
2. 「専門職間の連携活動論」を履修するには「体験ゼミナール」、「千葉県の健康づくり」の単位を修得済みであること。

【専門科目】

1. 下記の実習科目および「看護学統合」を履修するには、表に示す所定の科目の単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得見込みであること。

○：単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得見込みであること。

配当 年次	授業科目の名称	履修に先立って修得しておかなければならない授業科目の名称																											
		講義科目						演習科目						実習科目															
		看護学入門	こころの健康と看護	成人看護学概論	育成支援看護概論	地域看護学概論	療養支援看護概論	看護管理学	看護技術論ⅠⅡⅢ	看護技術論ⅣⅤⅥ	成人看護学方法論Ⅰ	成人看護学方法論Ⅱ	地域看護学方法論ⅠⅡⅢ	精神看護学方法論	高齢者・在宅看護学方法論ⅠⅡ	母性看護学方法論ⅠⅡ	小児看護学方法論ⅠⅡ	看護ふれあい体験学習	基礎看護学実習	成人看護学実習(急性期)	成人看護学実習(慢性期)	精神看護学実習	在宅看護学実習	地域看護学実習	高齢者看護学実習	母性看護学実習	小児看護学実習	総合実習	
1前	看護ふれあい体験学習	○																											
2前	基礎看護学実習	○	○															○											
3後 ～ 4前	成人看護学実習(急性期)			○					○	○	○							○	○										
	成人看護学実習(慢性期)			○					○	○	○							○	○										
	地域看護学実習					○					○							○	○										
	精神看護学実習						○					○						○	○										
	在宅看護学実習						○				○							○	○										
	高齢者看護学実習						○				○							○	○										
	母性看護学実習										○							○	○										
小児看護学実習										○							○	○	○										
4前	看護管理学実習						○												○	○									
4後	総合実習																												
	看護学統合																			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

(看護学科 2020年度以前編入学生用)

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	4単位	20単位	24単位
保健医療基礎科目	16単位	4単位	20単位
専門科目	76単位	3単位	79単位
合計	99単位	27単位	126単位

○ 養護教諭二種に関する特記事項

「保健師」の免許を基礎資格として「養護教諭二種免許状」を取得する場合、「法学（日本国憲法）」、「健康スポーツ科学」、「生涯身体運動科学」、「英語Ⅴ（保健医療英語）」、「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の計8単位が必要である。

○ 総合実習と看護学統合に関する特記事項

「総合実習」と「看護学統合」の履修は、卒業に必要な単位の修得が見込まれている必要がある。

別表（栄養学科 2019 年以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	体験ゼミナール	特色 1	1 前	1					○	必修 3 単位
	千葉県健康づくり	特色 2	2 後	1				○		
	専門職間の連携活動論	特色 3	4 後	1				○		
	社会実習（ボランティア活動）	—	2・3・4			1			○	
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般 1	1・2・3・4 前		2		○		必修 2 単位 + 選択 4 単位  このうち b から 1 科目以上選択
		哲学	一般 2	1・2・3・4 前		2		○		
		文学	一般 3	1・2・3・4 前		2		○		
		歴史と文化	一般 4	1・2・3・4 前		2		○		
		生命倫理	一般 5	1・2・3・4 後	2			○		
		宗教学	一般 6	1・2・3・4 後		2		○		
		教育学	一般 7	1・2・3・4 前		2		○		
		人間関係論 b	一般 8	1・2・3・4 前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際 b	一般 9	1・2・3・4 前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般 10	1・2・3・4 前後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般 11	1・2・3・4 前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般 12	1・2・3・4 後		2		○		選択 6 単位  このうち ※から 1 科目以上選択 #から 1 科目以上選択
		法学（日本国憲法）	一般 13	1・2・3・4 前		2		○		
		社会学※	一般 14	1・2・3・4 後		2		○		
		文化人類学	一般 15	1・2・3・4 前		2		○		
		経済学	一般 16	1・2・3・4 前		2		○		
		国際関係論※	一般 17	1・2・3・4 後		2		○		
		社会福祉学※	一般 18	1・2・3・4 前		1		○		
		国際的な健康課題※	一般 19	1・2・3・4 後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般 20	1・2・3・4 後		2		○		
		科学論	一般 21	1・2・3・4 前		2		○		
		環境変化と生態	一般 22	1・2・3・4 後		2		○		
		観察生物学入門	一般 23	1・2・3・4 前後		2		○		
		生物学#	一般 24	1・2・3・4 前後		2		○		
		物理学#	一般 25	1・2・3・4 前		2		○		
		化学#	一般 26	1・2・3・4 前		2		○		
情報理解群	統計学	一般 27	1・2・3・4 後	1				○	必修 2 単位	
	情報リテラシー I	一般 28	1・2・3・4 前	1				○		
	情報リテラシー II	一般 29	1・2・3・4 後		1			○		
	情報倫理	一般 30	1・2・3・4 後		1		○			
	実践統計学	—	2・3・4 前		1		○			
外国語群	英語 I（講読）	一般 31	1・2・3・4 前		1			○	必修 2 単位 + 選択 2 単位	
	英語 II（英会話）	一般 32	1・2・3・4 前		1			○		
	英語 III（講読・記述）	一般 33	1・2・3・4 後		1			○		
	英語 IV（英語コミュニケーション）	一般 34	1・2・3・4 後		1			○		
	英語 V（保健医療英語）	一般 35	2 前	2			○			
	英語 VI（応用英語）	一般 36	1・2・3・4 後		1			○		
	英語 VII（上級英語）A	—	2・3・4 後		1		○			
	英語 VII（上級英語）B	—	2・3・4 後		1		○			

別表（栄養学科 2019 年以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健 1	2・4 前		1		○		必修 10 単位 + 選択 4 単位
		生化学総論	保健 2	1 前			1	○		
		栄養学Ⅰ（基礎）	保健 3	2 後			1	○		
		栄養学Ⅱ（応用）	保健 4	2 後			1	○		
		心の健康	保健 5	2・4 後		1		○		
		薬理学Ⅰ（総論）	保健 6	1 後	1			○		
		薬理学Ⅱ（各論）	保健 7	1 後	1			○		
		病理学Ⅰ（総論）	保健 8	1 前	1			○		
		病理学Ⅱ（各論）	保健 9	1 前	1			○		
		微生物学Ⅰ（総論）	保健 10	1・4 前		1		○		
		微生物学Ⅱ（各論）	保健 11	1・4 前		1		○		
		発達心理学	保健 12	1・4 前		1		○		
		臨床心理学	保健 13	1・2・4 後		1			○	
		健康と保健医療システム	健康論	保健 14	1・2・4 前		1		○	
	公衆衛生学Ⅰ（基礎）		保健 15	2 前	1			○		
	公衆衛生学Ⅱ（応用）		保健 16	2 後	1			○		
	疫学・保健統計Ⅰ（基礎）		保健 17	3 前	1			○		
	疫学・保健統計Ⅱ（応用）		保健 18	3 前	1			○		
	リハビリテーション概論		保健 19	2・3 後		1		○		
	救命・救急の理論と実際		保健 20	2・4 前		1		○		
	画像診断学		—	2・3・4 後		1		○		
	保健医療福祉論Ⅰ（基礎）		保健 21	2 後	1			○		
	保健医療福祉論Ⅱ（応用）		保健 22	2 後	1			○		
	食育論Ⅰ（基礎）		保健 23	3 前		1		○		
	食育論Ⅱ（応用）		保健 24	3 前		1		○		
	健康と運動		保健 25	1・2・4 後		1		○		
	家族社会学		保健 26	1・4 前		1		○		
	医療経営管理論	保健 27	4 前		1		○			
リスクマネジメント論	保健 28	2・4 後		1		○				
専門科目	専門基礎科目	管理栄養士導入教育	栄 1	1 前	1			○		【専門科目】 必修 78 単位 + 選択 7 単位
		解剖生理学Ⅰ	栄 2	1 前	2			○		
		解剖学実験	栄 3	1 後	1				○	
		解剖生理学Ⅱ	栄 4	1 後	2			○		
		生理学実験	栄 5	2 前	1				○	
		生化学	栄 6	1 前	2			○		
		栄養生化学	栄 7	1 後	2			○		
		生化学実験	栄 8	2 前	1				○	
		疾病論	栄 9	2 前	2			○		
		高齢者医療論	栄 10	3・4 後		1		○		
		食品学各論	栄 11	1 前	2			○		
		食品学実験	栄 12	1 後	1				○	
		食品学総論	栄 13	1 前	2			○		
		食品化学実験	栄 14	1 後	1				○	
		理化学概論	栄 15	1 前		1		○		

別表（栄養学科 2019 年以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実	
専門科目	専門基礎科目	食品衛生学	栄 16	1 後	2			○		
		食品衛生学実験	栄 17	2 後	1				○	
		食品加工学	栄 18	2 前	1			○		
		食品加工学実習	栄 19	2 後	1					○
		食品微生物学	栄 20	3・4 後		1		○		
		食事設計と調理	栄 21	1 前	2			○		
		食事設計と調理実習	栄 22	2 前	1					○
		調理実習	栄 23	1 後	1					○
		調理科学実験	栄 24	1 前	1					○
	学 栄養 基礎	基礎栄養学	栄 25	1 後	2			○		
		基礎栄養学実習	栄 26	2 前	1					○
	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	栄 27	2 前	2			○		
		応用栄養学Ⅱ	栄 28	2 後	2			○		
		応用栄養学Ⅲ	栄 29	3 前	2			○		
		応用栄養学実習	栄 30	3 前	1					○
		スポーツ栄養学	栄 31	3・4 後		1		○		
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	栄 32	2 後	2			○		
		栄養教育論Ⅱ	栄 33	3 前	2			○		
		栄養教育論実習	栄 34	3 前	1					○
		栄養教育手法論	栄 35	3 前	2			○		
	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	栄 37	2 前	2			○		
		臨床栄養学Ⅱ	栄 38	2 後	2			○		
		臨床栄養学実習	栄 39	2 後	1					○
		栄養ケアマネジメント論	—	3 前	2			○		
栄養ケアマネジメント論実習		栄 41	3 前	1					○	
臨床検査学		栄 42	2 前	2			○			
在宅栄養支援論		栄 43	3・4 後		1		○			
障害者栄養支援論		栄 44	3・4 後		1		○			
公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	栄 45	2 後	2			○			
	公衆栄養学Ⅱ	栄 46	3 前	2			○			
	公衆栄養学実習	栄 47	3 前	1					○	
	国際栄養学	栄 36	3・4 後		1		○			
管理論	給食経営管理論Ⅰ	栄 49	2 前	2			○			
	給食経営管理論Ⅱ	栄 50	2 後	2			○			
	給食経営管理実習	栄 51	3 前	2					○	
	フードマネジメント論	栄 52	3・4 後		1		○			
演習 総合	総合演習	栄 53	4 前	1				○		
	栄養統計学	—	3 後	1			○			
	管理栄養士特別演習	—	4 通		2			○		
研究	卒業研究	栄 54	4 通	2				○		
臨地実習	臨床栄養臨地実習	栄 55	3 通	2					○	
	給食経営管理臨地実習	栄 56	3 通	2					○	
	公衆栄養臨地実習	栄 57	3 通		1				○	

【専門科目】  
（再掲）  
必修 78 単位  
＋  
選択 7 単位

別表（栄養学科 2019 年以降入学生用）

科目区分		授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	臨地実習	栄養管理臨地実習	栄 58	4 通		1				○	【専門科目】 (再掲) 必修 78 単位 + 選択 7 単位
		事前指導	栄 59	3 通	1				○		
		事後指導	栄 60	3 通	1				○		

## 別表（栄養学科 2019 年以降入学生用）

### 先修条件

#### 【特色科目】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

#### 【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ（上級英語）A」, 「英語Ⅶ（上級英語）B」を履修するには「英語Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ, またはⅥ」の選択 2 単位を修得済みであること。

#### 【専門科目】

- 1 「臨床栄養学実習」を履修するには、「臨床栄養学Ⅰ」の単位を修得済みであり、「臨床栄養学Ⅱ」の単位は修得見込みであること。
- 2 「公衆栄養学実習」を履修するには、「公衆栄養学Ⅱ」の単位を修得見込みであること。
- 3 「臨床栄養臨地実習」, 「給食経営管理臨地実習」, 「公衆栄養臨地実習」, 「事前指導」及び「事後指導」を履修するには、3 年前期に配当された必修の専門科目の単位を修得見込みであること。
- 4 「栄養教諭教育実習」及び「栄養教諭教育実習：事前・事後指導」を履修するには、管理栄養士課程の「臨床栄養臨地実習」及び「給食経営管理臨地実習」を単位修得済みであり、3 年次終了までに配当された教職課程の全科目を単位修得済みであること。

### 進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3 年次に進級できない。

- 1 1・2 年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2 年次に配当された専門科目の必修科目の単位を修得済みの者。

### 卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	6 単位	18 単位	24 単位
保健医療基礎科目	10 単位	4 単位	14 単位
専門科目	78 単位	7 単位	85 単位
合 計	97 単位	29 単位	126 単位

別表（栄養学科 2019 年以降入学生用）

教職（栄養教諭一種）課程選択

栄養教諭一種免許取得希望者は、下表に指定する一般教養科目を含む卒業要件の 126 単位のほか、栄養教諭に関する科目を履修し、その単位を取得しなければならない。卒業時の取得単位数は 149 単位とする。

栄養教諭一種免許取得希望者の履修内容は次のとおりである。

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数	履修方法等		
一般教養科目	理人 解群 間	健康スポーツ科学 (再掲)	一般 10	1・2・3 前後	1		
		生涯身体運動科学 (再掲)	一般 11	1・2・3 前後	1		
	環生 境活 と	法学（日本国憲法） (再掲)	一般 13	1・2・3 前	2		
		理情 解群 報	情報リテラシーⅠ (再掲)	一般 28	1・2・3 前		1
	情報リテラシーⅡ (再掲)		一般 29	1・2・3 後	1		
	外国語群	英語Ⅱ（英会話） (再掲)	一般 32	1・2・3 前	1		3 科目のうち 2 単位を 選択必修とする
		英語Ⅳ（英語コミュニケーション） (再掲)	一般 34	1・2・3 後	1		
英語Ⅵ（応用英語） (再掲)		一般 36	1・2・3 後	1			
栄養教諭に関する科目	栄養に係る教育 に関する科目	食生活教育論	栄 61	3 前	2		
		学校栄養教育論	栄 62	3 後	2		
	教育の基礎的理解に 関する科目	教職論	栄 63	1 後	2		
		教育学概論	栄 64	2 後	1		
		教育心理	栄 65	2 前	2		
		教育制度論	栄 66	2 後	1		
		カリキュラム論	栄 67	2 前	1		
		特別支援教育論	—	3 前	1		
	道徳、総合的な学習の時間等 の内容及び生徒指導、教育相談等 に関する科目	教育の方法と技術	栄 68	3 前	2		
		道徳・総合的な学習・特別活動論	—	2 前	1		
		生徒指導論	栄 70	3 前	1		
		教育相談	栄 71	3 後	2		
	教育実践に関する科目	教職実践演習（栄養教諭）	栄 72	4 後	2		
		栄養教諭教育実習：事前・事後指導	栄 73	4 通	1		
栄養教諭教育実習		栄 74	4 通	2			

(栄養学科 2018年度以前入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	千葉県の健康づくり	特色2	2後	1				○		必修3単位
	体験ゼミナール	特色1	1前	1					○	
	専門職間の連携活動論	特色3	4後	1				○		
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般1	1・2・3・4前		2		○		必修9単位 + 人間理解群, 生活と環境群, 情報理解群から 選択13単位 + 外国語群から 選択2単位
		哲学	一般2	1・2・3・4前		2		○		
		文学	一般3	1・2・3・4前		2		○		
		歴史と文化	一般4	1・2・3・4前		2		○		
		生命倫理	一般5	1・2・3・4後	2			○		
		宗教学	一般6	1・2・3・4後		2		○		
		教育学	一般7	1・2・3・4前		2		○		
		人間関係論	一般8	1・2・3・4前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般9	1・2・3・4前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般10	1・2・3・4前後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般11	1・2・3・4前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般12	1・2・3・4後	2			○		
		法学(日本国憲法)	一般13	1・2・3・4前		2		○		
		社会学	一般14	1・2・3・4後		2		○		
		文化人類学	一般15	1・2・3・4前		2		○		
		経済学	一般16	1・2・3・4前		2		○		
		国際関係論	一般17	1・2・3・4後		2		○		
		社会福祉学	一般18	1・2・3・4前		1		○		
		国際的な健康課題	一般19	1・2・3・4後	1			○		
		人権・ジェンダー	一般20	1・2・3・4後		2		○		
		科学論	一般21	1・2・3・4前		2		○		
		環境変化と生態	一般22	1・2・3・4後		2		○		
		観察生物学入門	一般23	1・2・3・4前後		2		○		
		生物学	一般24	1・2・3・4前後		2		○		
		物理学	一般25	1・2・3・4前		2		○		
		化学	一般26	1・2・3・4前		2		○		
	情報理解群	統計学	一般27	1・2・3・4後		1			○	
		情報リテラシーI	一般28	1・2・3・4前	1				○	
		情報リテラシーII	一般29	1・2・3・4後		1			○	
		情報倫理	一般30	1・2・3・4後	1			○		
	外国語群	英語I(基礎講読)	—	1・2・3・4前		1			○	
		英語II(基礎英会話)	—	1・2・3・4前		1			○	
		英語III(講読・記述)	一般33	1・2・3・4後		1			○	
		英語IV(英会話)	—	1・2・3・4後		1			○	
		英語V(保健医療英語)	一般35	1・2・3・4前	2			○		
		英語VI(応用英語)	一般36	1・2・3・4後		1			○	

(栄養学科 2018年度以前入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健1	4前		1		○		必修11単位 + 選択8単位
		生化学総論	保健2	1前			1	○		
		栄養学Ⅰ(基礎)	保健3	2後			1	○		
		栄養学Ⅱ(応用)	保健4	2後			1	○		
		心の健康	保健5	2・4後		1		○		
		薬理学Ⅰ(総論)	保健6	1後	1			○		
		薬理学Ⅱ(各論)	保健7	1後	1			○		
		病理学Ⅰ(総論)	保健8	2前	1			○		
		病理学Ⅱ(各論)	保健9	2前	1			○		
		微生物学Ⅰ(総論)	保健10	1・4前		1		○		
		微生物学Ⅱ(各論)	保健11	1・4前		1		○		
		発達心理学	保健12	1・4前		1		○		
		臨床心理学	保健13	1・2・4後		1			○	
		健康と保健医療システム	健康論	保健14	1・4前		1		○	
	公衆衛生学Ⅰ(基礎)		保健15	2前	1			○		
	公衆衛生学Ⅱ(応用)		保健16	2後	1			○		
	疫学・保健統計Ⅰ(基礎)		保健17	3前	1			○		
	疫学・保健統計Ⅱ(応用)		保健18	3前	1			○		
	リハビリテーション概論		保健19	2・3後		1		○		
	救命・救急の理論と実際		保健20	2・4前		1		○		
	保健医療福祉論Ⅰ(基礎)		保健21	2後	1			○		
	保健医療福祉論Ⅱ(応用)		保健22	2後	1			○		
	食育論Ⅰ(基礎)		保健23	3前	1			○		
	食育論Ⅱ(応用)		保健24	3前		1		○		
	健康と運動		保健25	1・4後		1		○		
	家族社会学		保健26	1・4前		1		○		
	医療経営管理論		保健27	4後		1		○		
	リスクマネジメント論	保健28	2・4後		1		○			
専門科目	専門基礎科目	管理栄養士導入教育	栄1	1前	1			○		【専門科目】 必修76単位 + 選択4単位
		解剖学総論	—	1前	2			○		
		解剖学実験	栄3	1後	1				○	
		生理学総論	—	1後	2			○		
		生理学実験	栄5	2前	1				○	
		生化学	栄6	1前	2			○		
		栄養生化学	栄7	1後	2			○		
		生化学実験	栄8	2前	1				○	
		疾病論	栄9	2前	2			○		
		高齢者医療論	栄10	3後		1		○		
		食品学各論	栄11	1前	2			○		
		食品学実験	栄12	2前	1				○	
		食品学総論演習	—	1後	2				○	
		食品化学実験	栄14	2前	1				○	
		理化学演習	栄15	1後		1			○	
		食品衛生学	栄16	2後	2			○		

(栄養学科 2018年度以前入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実	
専門科目	専門基礎科目	食品衛生学実験	栄 17	2 後	1					○
		食品加工学	栄 18	2 前	2			○		
		食品加工学実習	栄 19	4 前	1					○
		食品微生物学	栄 20	3 後		1		○		
		食事設計と調理	栄 21	1 前	2			○		
		食事設計と調理実習	栄 22	2 前	1					○
		調理実習	栄 23	1 後	1					○
		調理科学実験	栄 24	2 後	1					○
	学 養 基礎	基礎栄養学	栄 25	1 後	2			○		
		基礎栄養学実習	栄 26	2 後	1					○
	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	栄 27	2 後	2			○		
		応用栄養学Ⅱ	栄 28	3 前	2			○		
		応用栄養学Ⅲ	栄 29	3 後	2			○		
		応用栄養学実習	栄 30	3 前	1					○
		スポーツ栄養学	栄 31	3・4 後		1		○		
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	栄 32	2 後	2			○		
		栄養教育論Ⅱ	栄 33	3 前	2			○		
		栄養教育論実習	栄 34	3 前	1					○
		栄養教育手法論	栄 35	3 前	2			○		
		国際栄養学	栄 36	4 前		1		○		
	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	栄 37	2 前	2			○		
		臨床栄養学Ⅱ	栄 38	2 後	2			○		
		臨床栄養学実習	栄 39	2 後	1					○
		栄養ケアマネジメント論演習	栄 40	3 通	2				○	
栄養ケアマネジメント論実習		栄 41	3 前	1					○	
臨床検査学		栄 42	2 前	2			○			
在宅栄養支援論		栄 43	3・4 後		1		○			
障害者栄養支援論		栄 44	3・4 後		1		○			
公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	栄 45	2 前	2			○			
	公衆栄養学Ⅱ	栄 46	2 後	1			○			
	公衆栄養学実習	栄 47	3 前	1					○	
	栄養疫学	栄 48	4 前	1			○			
管理論	給食経営管理論Ⅰ	栄 49	2 前	2			○			
	給食経営管理論Ⅱ	栄 50	2 後	2			○			
	給食経営管理実習	栄 51	3 前	2					○	
	フードマネジメント論	栄 52	3・4 後		1		○			
演習 総合	総合演習	栄 53	4 前	1				○		
	卒業研究	栄 54	4 通		4			○		
臨地実習	臨床栄養臨地実習	栄 55	3 通	2					○	
	給食経営管理臨地実習	栄 56	3 通	2					○	
	公衆栄養臨地実習	栄 57	3 通		1				○	
	栄養管理臨地実習	栄 58	4 通		1				○	
	事前指導	栄 59	3 通	1				○		
	事後指導	栄 60	3 通	1				○		

【専門科目】  
(再掲)  
必修 76 単位  
+  
選択 4 単位

(栄養学科 2018年度以前入学生用)

#### 先修条件

##### 【特色科目（平成28年度入学生より適用する）】

1. 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること.
2. 「専門職間の連携活動論」を履修するには「体験ゼミナール」、「千葉県の健康づくり」の単位を修得済みであること.

##### 【専門科目】

1. 「臨床栄養学実習」を履修するには、「臨床栄養学Ⅰ」の単位を修得済みであり、「臨床栄養学Ⅱ」の単位は修得見込みであること.
2. 「栄養ケアマネジメント論演習」及び「栄養ケアマネジメント論実習」を履修するには、「臨床栄養学実習」の単位を修得済みであること.
3. 「公衆栄養学実習」を履修するには、「公衆栄養学Ⅰ」及び「公衆栄養学Ⅱ」の単位を修得済みであること.
4. 「給食経営管理実習」を履修するには、「給食経営管理論Ⅰ」及び「給食経営管理論Ⅱ」の単位を修得済みであること.
5. 「臨床栄養臨地実習」、「給食経営管理臨地実習」、「公衆栄養臨地実習」、「事前指導」及び「事後指導」を履修するには、2年生後期までに配当された必修の専門科目の単位を修得済みであり、3年前期に配当された必修の専門科目の単位を修得見込みであること.
6. 「栄養教諭教育実習」及び「栄養教諭教育実習：事前・事後指導」を履修するには、管理栄養士課程の「臨床栄養臨地実習」及び「給食経営管理臨地実習」を単位修得済みであり、3年次終了までに配当された教職課程の全科目を単位修得済みであること.

#### 卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	9単位	15単位	24単位
保健医療基礎科目	11単位	8単位	19単位
専門科目	76単位	4単位	80単位
合計	99単位	27単位	126単位

(栄養学科 2018年度以前入学生用)

教職(栄養教諭一種)課程選択

栄養教諭一種免許取得希望者は、下表に指定する一般教養科目を含む卒業要件の126単位のほか、栄養教諭に関する科目を履修し、その単位を取得しなければならない。卒業時の取得単位数は149単位とする。

栄養教諭一種免許取得希望者の履修内容は次のとおりである。

科目区分		授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数	履修方法等		
一般教養科目	人理解群	健康スポーツ科学 (再掲)	一般10	1・2前後	1			
		生涯身体運動科学 (再掲)	一般11	1前後・3前	1			
	環境生活と	法学(日本国憲法) (再掲)	一般13	1・3前	2			
		理情報群	情報リテラシーⅠ (再掲)	一般28	1前		1	
	情報リテラシーⅡ (再掲)		一般29	1・2後	1			
	外国語群	英語Ⅱ(基礎英会話) (再掲)	—	1・2前	1		3科目のうち2単位を選択必修とする	
		英語Ⅳ(英会話) (再掲)	—	1後	1			
		英語Ⅵ(応用英語) (再掲)	一般36	1後	1			
	栄養教諭に関する科目	栄養に係る教育に関する科目	食生活教育論	栄61	3前		2	
			学校栄養教育論	栄62	3後		2	
教職の意義		教職論	栄63	1後	2			
		教育の基礎理論	教育学概論	栄64	2後	1		
			教育心理	栄65	2前	2		
			教育制度論	栄66	2後	1		
		教育課程	カリキュラム論	栄67	2前	1		
			教育の方法と技術	栄68	3前	2		
			道徳教育・特別活動論	栄69	2前	1		
生徒指導		生徒指導論	栄70	3前	2			
		教育相談	栄71	3後	2			
総合演習		教職実践演習(栄養教諭)	栄72	4後	2			
栄養教育実習		栄養教諭教育実習:事前・事後指導	栄73	4通	1			
		栄養教諭教育実習	栄74	4通	2			

別表（歯科衛生学科 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
特色科目	体験ゼミナール	特色1	1前	1					○	必修3単位	
	千葉県の健康づくり	特色2	2後	1				○			
	専門職間の連携活動論	特色3	4後	1				○			
	社会実習（ボランティア活動）	—	2・3・4			1			○		
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般1	1・2・3・4前		2		○			必修 9単位
		哲学	一般2	1・2・3・4前		2		○			
		文学	一般3	1・2・3・4前		2		○			
		歴史と文化	一般4	1・2・3・4前		2		○			
		生命倫理	一般5	1・2・3・4後	2			○			
		宗教学	一般6	1・2・3・4後		2		○			
		教育学	一般7	1・2・3・4前		2		○			
		人間関係論	一般8	1・2・3・4前		2		○			
		コミュニケーション理論と実際	一般9	1・2・3・4前		2		○			
		健康スポーツ科学	一般10	1・2・3・4前後	1				○		
		生涯身体運動科学	一般11	1・2・3・4前後		1				○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般12	1・2・3・4後		2		○			
		法学（日本国憲法）	一般13	1・2・3・4前	2			○			
		社会学	一般14	1・2・3・4後		2		○			
		文化人類学	一般15	1・2・3・4前		2		○			
		経済学	一般16	1・2・3・4前		2		○			
		国際関係論	一般17	1・2・3・4後		2		○			
		社会福祉学	一般18	1・2・3・4前		1		○			
		国際的な健康課題	一般19	1・2・3・4後		1		○			
		人権・ジェンダー	一般20	1・2・3・4後		2		○			
		科学論	一般21	1・2・3・4前		2		○			
		環境変化と生態	一般22	1・2・3・4後		2		○			
		観察生物学入門	一般23	1・2・3・4前後		2		○			
		生物学	一般24	1・2・3・4前後	2			○			
		物理学	一般25	1・2・3・4前		2		○			
		化学	一般26	1・2・3・4前		2		○			
情報理解群	統計学	一般27	1・2・3・4後	1				○			
	情報リテラシーⅠ	一般28	1・2・3・4前	1				○			
	情報リテラシーⅡ	一般29	1・2・3・4後		1			○			
	情報倫理	一般30	1・2・3・4後		1		○				
	実践統計学	—	2・3・4前		1		○				
外国語群	英語Ⅰ（講読）	一般31	1・2・3・4前		1			○		必修 2単位 + 選択 2単位	
	英語Ⅱ（英会話）	一般32	1・2・3・4前		1			○			
	英語Ⅲ（講読・記述）	一般33	1・2・3・4後		1			○			
	英語Ⅳ（英語コミュニケーション）	一般34	1・2・3・4後		1			○			
	英語Ⅴ（保健医療英語）	一般35	2前	2			○				
	英語Ⅵ（応用英語）	一般36	1・2・3・4後		1			○			
	英語Ⅶ（上級英語）A	—	2・3・4後		1		○				
英語Ⅶ（上級英語）B	—	2・3・4後		1		○					

【一般教養科目】選択科目から選択11単位

別表（歯科衛生学科 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健 1	2 前		1		○		必修 13 単位 + 選択 3 単位
		生化学総論	保健 2	1 前		1		○		
		栄養学Ⅰ（基礎）	保健 3	1 後	1			○		
		栄養学Ⅱ（応用）	保健 4	1 後	1			○		
		心の健康	保健 5	1 後		1		○		
		薬理学Ⅰ（総論）	保健 6	1 後	1			○		
		薬理学Ⅱ（各論）	保健 7	1 後	1			○		
		病理学Ⅰ（総論）	保健 8	1 前	1			○		
		病理学Ⅱ（各論）	保健 9	1 前	1			○		
		微生物学Ⅰ（総論）	保健 10	1 前	1			○		
		微生物学Ⅱ（各論）	保健 11	1 前	1			○		
		発達心理学	保健 12	1 前		1		○		
		臨床心理学	保健 13	1 後		1		○		
	健康と保健医療システム	健康論	保健 14	1 前		1		○		
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	保健 15	2 前	1			○		
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	保健 16	2 後		1		○		
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	保健 17	3 前		1		○		
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	保健 18	3 前		1		○		
		リハビリテーション概論	保健 19	2 後	1			○		
		救命・救急の理論と実際	保健 20	2 前	1			○		
		画像診断学	—	2・3・4 後		1		○		
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	保健 21	2 後	1			○		
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	保健 22	2 後	1			○		
		食育論Ⅰ（基礎）	保健 23	3 前		1		○		
		食育論Ⅱ（応用）	保健 24	3 前		1		○		
		健康と運動	保健 25	1 後		1		○		
		家族社会学	保健 26	1 前		1		○		
		医療経営管理論	保健 27	4 後		1		○		
リスクマネジメント論	保健 28	2 後		1		○				
専門科目	歯科衛生基礎	解剖学	歯 1	1 前	2			○		必修 27 単位
		生理学	歯 2	1 後	2			○		
		内科学概論	歯 3	1 後	1			○		
		高齢者医療論	歯 4	2 後	1			○		
		口腔解剖学	歯 5	1 前	2			○		
		口腔生理学	歯 6	2 前	1			○		
		口腔病理学	歯 7	1 後	1			○		
		口腔微生物学	歯 8	1 後	1			○		
		歯科薬理学	歯 9	2 前	1			○		
		歯科生化学・臨床検査法	歯 10	1 後	1			○		
		口腔衛生学	歯 11	1 後	2			○		
		歯科診断学	歯 13	2 後	1			○		
		歯科矯正学	歯 14	3 前	1			○		
		歯科材料学	歯 15	2 前	1			○		
		歯科保存学	—	2 前	2			○		

別表（歯科衛生学科 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
専門科目	歯科衛生基礎	歯周治療学	—	2前	1			○			生涯歯科衛生及び歯科衛生健康推進から選択2単位	
		歯科補綴学	—	2前	2			○				
		顎口腔外科学	歯 19	2前	2			○				
		顎口腔機能論	歯 20	2前	1			○				
		歯科衛生基礎演習	歯 21	2前	1				○			
	生涯歯科衛生	歯科衛生学概論	歯 22	1前	2			○				必修 19単位
		歯科医療安全管理論	—	2前	1			○				
		チーム歯科医療論	歯 23	2後	1			○				
		歯科疾患予防学	歯 24	2前	1			○				
		発達歯科衛生学Ⅰ（小児）	歯 25	2後	2			○				
		発達歯科衛生学Ⅱ（成人・高齢者）	歯 26	2後	3			○				
		歯科衛生体験演習Ⅰ	歯 27	1後	1				○			
		歯科衛生体験演習Ⅱ	—	2後	1				○			
		歯科診療補助演習	—	3前	2				○			
		歯科予処置演習	—	3前	2				○			
		顎口腔機能リハビリテーション論	歯 30	2後	1			○				
		顎口腔機能リハビリテーション演習	—	3前	1				○			
	在宅歯科衛生管理論Ⅰ	歯 32	3前	1			○					
	在宅歯科衛生管理論Ⅱ	歯 33	4前		1		○					
	歯科衛生健康推進	歯科衛生アセスメント論	歯 34	3前	1			○				必修 11単位
		保健行動科学論	歯 35	1後	1			○				
		歯科保健指導・健康教育論	歯 36	2前	1			○				
		歯科保健指導演習Ⅰ	—	2後	2				○			
		歯科保健指導演習Ⅱ	—	3前	1				○			
		歯科衛生統計演習	—	3前	1				○			
		地域歯科衛生学	歯 39	2前	1			○				
		地域歯科衛生演習	—	3前	1				○			
		衛生行政	—	2後	1			○				
		国際歯科衛生学	歯 41	3前		1		○				
	歯科医療管理論	歯 42	4前		1		○					
	社会保障・社会保険論	歯 43	3前	1			○					
	臨床・臨床実習	歯科診療室基礎実習	歯 45	3前	2				○			必修 22単位
		歯科診療所実習	歯 46	3後	4				○			
病院実習		歯 47	4後	3				○				
継続・個別支援実習Ⅰ		—	3後	2				○				
継続・個別支援実習Ⅱ		—	4前	2				○				
発達歯科衛生実習Ⅰ（小児）		歯 49	4前	2				○				
発達歯科衛生実習Ⅱ（成人・高齢者）		歯 50	4前	2				○				
地域歯科衛生実習		歯 51	4前	1				○				
歯科診療室総合実習Ⅰ		—	3後	2				○				
歯科診療室総合実習Ⅱ	—	4前	2				○					
研究	卒業研究	歯 53	3後～4通	2				○	必修2単位			

## 別表（歯科衛生学科 2019 年度以降入学生用）

### 先修条件

#### 【特色科目】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

#### 【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ（上級英語）A」, 「英語Ⅶ（上級英語）B」を履修するには「英語Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ, またはⅥ」の選択2科目の単位（2単位）を修得済みであること。

#### 【専門科目】

- 1 歯科衛生基礎演習を履修するには、口腔微生物学、口腔衛生学の単位を修得済みであること。
- 2 歯科保健指導演習Ⅰを履修するには、保健行動科学論、歯科保健指導・健康教育論の単位を修得済みであること。
- 3 歯科保健指導演習Ⅱを履修するには、歯科衛生アセスメント論の単位を修得済みであること。
- 4 歯科診療室基礎実習を履修するには、歯科診療補助演習の単位を修得済みであること。
- 5 歯科診療室基礎実習及び病院実習を除く臨床・臨地実習を履修するには、保健医療基礎科目及び専門科目のうち、3年次前期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。
- 6 病院実習を履修するには、3年次後期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みで、4年次前期に配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。
- 7 卒業研究を履修するには、原則として3年次前期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。

### 進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3年次に進級できない。

- 1 1・2年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2年次に配当された専門科目のうち、専門基礎科目、歯科衛生基礎科目の単位を修得済みの者。

### 卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	11単位	13単位	24単位
保健医療基礎科目	13単位	3単位	16単位
専門科目	81単位	2単位	83単位
合計	108単位	18単位	126単位

(歯科衛生学科 2018 年度以前入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	千葉県の健康づくり	特色 2	2 後	1				○		必修 3 単位
	体験ゼミナール	特色 1	1 前	1					○	
	専門職間の連携活動論	特色 3	4 後	1				○		
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般 1	1・2・3・4 前		2		○		必修 9 単位
		哲学	一般 2	1・2・3・4 前		2		○		
		文学	一般 3	1・2・3・4 前		2		○		
		歴史と文化	一般 4	1・2・3・4 前		2		○		
		生命倫理	一般 5	1・2・3・4 後	2			○		
		宗教学	一般 6	1・2・3・4 後		2		○		
		教育学	一般 7	1・2・3・4 前		2		○		
		人間関係論	一般 8	1・2・3・4 前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般 9	1・2・3・4 前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般 10	1・2・3・4 前後	1				○	
		生涯身体運動科学	一般 11	1・2・3・4 前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般 12	1・2・3・4 後		2		○		
		法学（日本国憲法）	一般 13	1・2・3・4 前	2			○		
		社会学	一般 14	1・2・3・4 後		2		○		
		文化人類学	一般 15	1・2・3・4 前		2		○		
		経済学	一般 16	1・2・3・4 前		2		○		
		国際関係論	一般 17	1・2・3・4 後		2		○		
		社会福祉学	一般 18	1・2・3・4 前		1		○		
		国際的な健康課題	一般 19	1・2・3・4 後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般 20	1・2・3・4 後		2		○		
		科学論	一般 21	1・2・3・4 前		2		○		
		環境変化と生態	一般 22	1・2・3・4 後		2		○		
		観察生物学入門	一般 23	1・2・3・4 前後		2		○		
		生物学	一般 24	1・2・3・4 前後	2			○		
		物理学	一般 25	1・2・3・4 前		2		○		
		化学	一般 26	1・2・3・4 前		2		○		
情報理解群	統計学	一般 27	1・2・3・4 後	1				○		
	情報リテラシー I	一般 28	1・2・3・4 前	1				○		
	情報リテラシー II	一般 29	1・2・3・4 後		1			○		
	情報倫理	一般 30	1・2・3・4 後		1		○			
外国語群	英語 I（基礎講読）	—	1・2・3・4 前		1			○	必修 2 単位 + 選択 2 単位	
	英語 II（基礎英会話）	—	1・2・3・4 前		1			○		
	英語 III（講読・記述）	一般 33	1・2・3・4 後		1			○		
	英語 IV（英会話）	—	1・2・3・4 後		1			○		
	英語 V（保健医療英語）	一般 35	2 前	2			○			
	英語 VI（応用英語）	一般 36	1・2・3・4 後		1			○		

【一般教養科目】選択科目から選択 13 単位

(歯科衛生学科 2018 年度以前入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健 1	2 前		1		○			必修 16 単位 + 選択 3 単位
		生化学総論	保健 2	1 前		1		○			
		栄養学 I (基礎)	保健 3	1 後	1			○			
		栄養学 II (応用)	保健 4	1 後	1			○			
		心の健康	保健 5	1 後	1			○			
		薬理学 I (総論)	保健 6	1 後	1			○			
		薬理学 II (各論)	保健 7	1 後	1			○			
		病理学 I (総論)	保健 8	1 前	1			○			
		病理学 II (各論)	保健 9	1 前	1			○			
		微生物学 I (総論)	保健 10	1 前	1			○			
		微生物学 II (各論)	保健 11	1 前	1			○			
		発達心理学	保健 12	1 前		1		○			
		臨床心理学	保健 13	1 後		1			○		
	健康と保健医療システム	健康論	保健 14	1 前		1		○			
		公衆衛生学 I (基礎)	保健 15	2 前	1			○			
		公衆衛生学 II (応用)	保健 16	2 後	1			○			
		疫学・保健統計 I (基礎)	保健 17	3 前		1		○			
		疫学・保健統計 II (応用)	保健 18	3 前		1		○			
		リハビリテーション概論	保健 19	2 後	1			○			
		救命・救急の理論と実際	保健 20	2 前	1			○			
		保健医療福祉論 I (基礎)	保健 21	2 後	1			○			
		保健医療福祉論 II (応用)	保健 22	2 後	1			○			
		食育論 I (基礎)	保健 23	3 前	1			○			
		食育論 II (応用)	保健 24	3 前		1		○			
		健康と運動	保健 25	1 後		1		○			
		家族社会学	保健 26	1 前		1		○			
		医療経営管理論	保健 27	4 後		1		○			
		リスクマネジメント論	保健 28	2 後		1		○			
専門科目	歯科衛生基礎	解剖学総論	—	1 前	2			○		必修 28 単位	
		生理学総論	—	1 後	2			○			
		内科学概論	歯 3	1 後	1			○			
		高齢者医療論	歯 4	2 後	1			○			
		口腔解剖学	歯 5	1 前	2			○			
		口腔生理学	歯 6	2 前	1			○			
		口腔病理学	歯 7	1 後	1			○			
		口腔微生物学	歯 8	1 後	1			○			
		歯科薬理学	歯 9	2 前	1			○			
		歯科生化学・臨床検査法	歯 10	1 後	1			○			
		口腔衛生学	歯 11	1 後	2			○			
		歯科感染予防学	歯 12	2 後	1			○			
		歯科診断学	歯 13	2 後	1			○			
		歯科矯正学	歯 14	3 前	1			○			
		歯科材料学	歯 15	2 前	1			○			
		歯科治療学 I (保存修復・歯内療法学)	歯 16	2 前	2			○			

(歯科衛生学科 2018年度以前入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	歯科衛生基礎	歯科治療学Ⅱ (歯周治療学)	歯 17	2 前	1			○		
		歯科治療学Ⅲ (歯科補綴学)	歯 18	2 前	2			○		
		顎口腔外科学	歯 19	2 前	2			○		
		顎口腔機能論	歯 20	2 前	1			○		
		歯科衛生基礎演習	歯 21	2 前	1				○	
	生涯歯科衛生	歯科衛生学概論	歯 22	1 前	2			○		
		チーム歯科医療論	歯 23	2 前	1			○		
		歯科疾患予防学	歯 24	2 前	1			○		
		発達歯科衛生学Ⅰ (小児)	歯 25	2 後	2			○		
		発達歯科衛生学Ⅱ (成人・高齢者)	歯 26	2 後	3			○		
		演習Ⅰ (歯科材料・歯科診療補助)	歯 28	3 前	2				○	
		演習Ⅱ (歯科予防処置)	歯 29	3 前	2				○	
		顎口腔機能リハビリテーション論	歯 30	2 後	1			○		
		演習Ⅲ (口腔機能リハビリテーション)	歯 31	3 前	1				○	
	在宅歯科衛生管理論Ⅰ	歯 32	3 前	1			○			
	在宅歯科衛生管理論Ⅱ	歯 33	4 前		1		○			
	歯科衛生健康推進	歯科衛生アセスメント論	歯 34	3 前	1			○		
		保健行動科学論	歯 35	2 前	1			○		
		歯科保健指導・健康教育論	歯 36	2 前	1			○		
		演習Ⅳ (歯科保健指導・カウンセリング)	歯 37	2 後～3 前	3				○	
		歯科衛生統計学	歯 38	3 前	1			○		
		地域歯科衛生学	歯 39	2 後	1			○		
		演習Ⅴ (地域歯科衛生)	歯 40	3 前	1				○	
		国際歯科衛生学	歯 41	3 前		1		○		
		歯科医療管理論	歯 42	4 前		1		○		
		社会保障・社会保険論	歯 43	3 前	1			○		
	総合演習	歯 44	3 後	1				○		
	臨床・臨地実習	歯科診療室基礎実習	歯 45	3 前	2					○
		歯科診療所実習	歯 46	3 後	4					○
		病院実習	歯 47	4 後	3					○
		継続・個別支援実習	歯 48	3 後・4 前	4					○
		発達歯科衛生実習Ⅰ (小児)	歯 49	4 前	2					○
		発達歯科衛生実習Ⅱ (成人・高齢者)	歯 50	4 前	2					○
地域歯科衛生実習		歯 51	4 前	1					○	
歯科診療室総合実習	歯 52	3 後・4 前	4					○		
研究	卒業研究	歯 53	3 後・4 通		3			○		

生涯歯科衛生及び歯科衛生健康推進から選択3単位

必修  
16単位

必修  
11単位

必修  
22  
単位

先修条件

【特色科目 (平成28年度入学生より適用する)】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「専門職間の連携活動論」を履修するには「体験ゼミナール」,「千葉県の健康づくり」の単位を修得済みであること。

【専門科目】

- 1 歯科衛生基礎演習を履修するには, 口腔微生物学, 口腔衛生学の単位を修得済み, 又は単位修得見込みであること。
- 2 演習Ⅰ (歯科材料・歯科診療補助) を履修するには, 歯科材料学, チーム歯科医療論の単位を修得済みであること。
- 3 演習Ⅱ (歯科予防処置) を履修するには, 歯科疾患予防学の単位を修得済みであること。
- 4 演習Ⅲ (口腔機能リハビリテーション) を履修するには, 顎口腔機能論, 顎口腔機能リハビリテーションの単位を修得済み, 又は単位修得見込みであること。
- 5 演習Ⅳ (歯科保健指導・カウンセリング) を履修するには, 歯科衛生アセスメント論, 保健行動科学論, 歯科保健指導・健康教育論の単位を修得済み, 又は単位修得見込みであること。
- 6 演習Ⅴ (地域歯科衛生) を履修するには, 地域歯科衛生学の単位を修得済みであること。
- 7 総合演習を履修するには, 演習Ⅰ, 演習Ⅱ, 演習Ⅲ, 演習Ⅳ, 演習Ⅴすべての単位を修得済みであること。
- 8 歯科診療室基礎実習を履修するには, 以下のア, イの条件を満たさなければならない。  
ア 保健医療基礎科目及び専門科目のうち, 2年次後期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。  
イ 演習Ⅰ (歯科材料・歯科診療補助) の単位を修得済み, 又は単位修得見込みであること。
- 9 歯科診療室基礎実習を除く臨床・臨地実習を履修するには, 保健医療基礎科目及び専門科目のうち, 3年次前期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。
- 10 卒業研究を履修するには, 原則として4年次前期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済み, 又は単位修得見込みであること。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	11 単位	13 単位	24 単位
保健医療基礎科目	16 単位	3 単位	19 単位
専門科目	77 単位	3 単位	80 単位
合計	107 単位	19 単位	126 単位

別表（リハビリテーション学科理学療法学専攻 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	体験ゼミナール	特色1	1前	1					○	必修3単位
	千葉県の健康づくり	特色2	2後	1				○		
	専門職間の連携活動論	特色3	4後	1				○		
	社会実習（ボランティア活動）	—	2・3・4			1			○	
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般1	1・2・3・4前		2		○		必修4単位
		哲学	一般2	1・2・3・4前		2		○		
		文学	一般3	1・2・3・4前		2		○		
		歴史と文化	一般4	1・2・3・4前		2		○		
		生命倫理	一般5	1・2・3・4後		2		○		
		宗教学	一般6	1・2・3・4後		2		○		
		教育学	一般7	1・2・3・4前		2		○		
		人間関係論	一般8	1・2・3・4前	2			○		
		コミュニケーション理論と実際	一般9	1・2・3・4前	2			○		
		健康スポーツ科学	一般10	1・2・3・4前後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般11	1・2・3・4前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般12	1・2・3・4後		2		○		必修2単位 一般教養科目から選択12単位
		法学（日本国憲法）	一般13	1・2・3・4前		2		○		
		社会学	一般14	1・2・3・4後		2		○		
		文化人類学	一般15	1・2・3・4前		2		○		
		経済学	一般16	1・2・3・4前		2		○		
		国際関係論	一般17	1・2・3・4後		2		○		
		社会福祉学	一般18	1・2・3・4前		1		○		
		国際的な健康課題	一般19	1・2・3・4後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般20	1・2・3・4後		2		○		
		科学論	一般21	1・2・3・4前		2		○		
		環境変化と生態	一般22	1・2・3・4後		2		○		
		観察生物学入門	一般23	1・2・3・4前後		2		○		
		生物学	一般24	1・2・3・4前後		2		○		
		物理学	一般25	1・2・3・4前	2			○		
		化学	一般26	1・2・3・4前		2		○		
情報理解群	統計学	一般27	1・2・3・4後		1			○	必修2単位	
	情報リテラシーⅠ	一般28	1・2・3・4前	1				○		
	情報リテラシーⅡ	一般29	1・2・3・4後		1			○		
	情報倫理	一般30	1・2・3・4後	1				○		
	実践統計学	—	1・2・3・4後		1			○		
外国語群	英語Ⅰ（講読）	一般31	1・2・3・4前		1			○	必修2単位 + 選択2単位	
	英語Ⅱ（英会話）	一般32	1・2・3・4前		1			○		
	英語Ⅲ（講読・記述）	一般33	1・2・3・4後		1			○		
	英語Ⅳ（英語コミュニケーション）	一般34	1・2・3・4後		1			○		
	英語Ⅴ（保健医療英語）	一般35	1・2・3・4前	2				○		
	英語Ⅵ（応用英語）	一般36	1・2・3・4後		1			○		
	英語Ⅶ（上級英語）A	—	2・3・4後		1			○		
英語Ⅶ（上級英語）B	—	2・3・4後		1			○			

別表（リハビリテーション学科理学療法専攻 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健 1	2 前		1		○		
		生化学総論	保健 2	1 前		1		○		
		栄養学Ⅰ（基礎）	保健 3	1 後	1			○		
		栄養学Ⅱ（応用）	保健 4	1 後		1		○		
		心の健康	保健 5	1 後		1		○		
		薬理学Ⅰ（総論）	保健 6	1 後		1		○		
		薬理学Ⅱ（各論）	保健 7	1 後		1		○		
		病理学Ⅰ（総論）	保健 8	1 前	1			○		
		病理学Ⅱ（各論）	保健 9	1 前		1		○		
		微生物学Ⅰ（総論）	保健 10	1 前	1			○		
		微生物学Ⅱ（各論）	保健 11	1 前		1		○		
		発達心理学	保健 12	1 前		1		○		
		臨床心理学	保健 13	1 後	1				○	
	健康と保健医療システム	健康論	保健 14	1 前		1		○		
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	保健 15	2 前	1			○		
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	保健 16	2 後		1		○		
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	保健 17	3 前		1		○		
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	保健 18	3 前		1		○		
		リハビリテーション概論	保健 19	1 後	1			○		
		救命・救急の理論と実際	保健 20	2 前	1			○		
		画像診断学	—	2 後	1			○		
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	保健 21	2 後	1			○		
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	保健 22	2 後		1		○		
		食育論Ⅰ（基礎）	保健 23	3 前		1		○		
		食育論Ⅱ（応用）	保健 24	3 前		1		○		
		健康と運動	保健 25	1 後		1		○		
		家族社会学	保健 26	1 前		1		○		
		医療経営管理論	保健 27	4 後		1		○		
リスクマネジメント論	保健 28	2 後	1			○				
専門科目	リハビリテーション専門基礎科目	人体の構造Ⅰ（筋・骨・神経系の構造）	理 1	1 前	1			○		
		人体の構造Ⅱ（脈管・内臓・感覚器の構造）	理 2	1 後	1			○		
		人体の構造実習	理 3	1 後	1				○	
		人体の機能Ⅰ（動物性機能）	理 4	1 前	1			○		
		人体の機能Ⅱ（植物性機能）	理 5	1 後	1			○		
		人体の機能実習	理 6	2 前	1				○	
		運動学Ⅰ（運動の基礎科学）	理 7	1 後	1			○		
		運動学Ⅱ（応用的運動科学）	理 8	2 前	1			○		
		運動学実習	理 9	2 後	1				○	
		臨床運動学	理 10	2 後	1			○		
		機能解剖学	理 11	1 後	1			○		
		人間工学	理 12	2 後		1		○		
		人間発達学	理 13	2 前	1			○		
		医学総論	理 14	1 後	1			○		
		内科学総論	理 15	2 前	1			○		
		内科学各論	理 16	2 後	1			○		
		神経内科学総論	理 17	2 前	1			○		
		神経内科学各論	理 18	2 後	1			○		
		整形外科総論	理 19	2 前	1			○		

別表（リハビリテーション学科理学療法学専攻 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
	整形外科学各論	理 20	2 後	1				○		
	精神神経科学総論	理 21	2 前	1				○		
	精神神経科学各論	理 22	2 後		1			○		
	臨床薬理学	—	2 後	1			○			
	老年科学	理 23	3 前	1				○		
	小児科学	理 24	3 前	1				○		
	臨床医学概論	理 25	3 前	1				○		
	リハビリテーション医学	理 26	3 前	1				○		
理学療法専門基礎科目	理学療法概論	理 27	1 前	1				○		必修 20 単位
	理学療法管理学	理 28	4 後	2			○			
	運動療法学	理 29	2 前	2			○			
	理学療法評価学Ⅰ	—	2 前	2			○			
	理学療法評価学演習	—	2 前	1				○		
	理学療法評価学Ⅱ（神経系）	—	2 後	1			○			
	理学療法評価学Ⅲ（統合・解釈）	—	2 後	1				○		
	理学療法評価学Ⅳ（画像評価）	—	3 後	1			○			
	日常生活活動学	理 33	2 前	2			○			
	日常生活活動学演習	理 34	2 後	1				○		
	物理療法学	理 35	2 後	1			○			
	物理療法学演習	理 36	2 後	1				○		
	義肢装具学	理 37	3 前	2			○			
	義肢装具学演習	理 38	3 前	1				○		
	理学療法研究方法論	理 39	3 前	1				○		
理学療法専門科目	運動器障害理学療法学	理 40	3 前	2			○			必修 22 単位 + 選択 1 単位
	運動器障害理学療法学演習	理 41	3 後	1				○		
	神経系障害理学療法学	理 44	3 前	2			○			
	神経系障害理学療法学演習	理 45	3 後	1				○		
	内部障害理学療法学	理 47	3 前	2			○			
	内部障害理学療法学演習	理 48	3 後	1				○		
	老年期障害理学療法学	理 50	3 前	2			○			
	老年期障害理学療法学演習	理 51	3 後	1				○		
	発達障害理学療法学	理 52	3 前	2			○			
	発達障害理学療法学演習	理 53	3 後	1				○		
	発達障害理学療法学特論	理 54	3 後		1		○			
	地域理学療法学	理 55	3 前	2			○			
	地域理学療法学演習	理 56	3 後	1				○		
	理学療法技術論	理 58	4 後	1				○		
	生体機能計測学	理 59	3 前		1			○		
	理学療法応用評価学	—	3 後	1				○		
	理学療法学特論Ⅰ（運動器・老年期）	—	3 後		1			○		
理学療法学特論Ⅱ（神経系・内部・地域）	—	3 後		1			○			

別表（リハビリテーション学科理学療法学専攻 2019年度以降入学生用）

	発展領域論（がん・予防・臨床研究解析法）	—	4 後	2			○		
臨床実習	臨床体験実習	理 61	1 後	1				○	必修 20 単位
	評価実習	—	3 後	4				○	
	総合実習 I	—	4 前	7				○	
	総合実習 II	—	4 前	7				○	
	地域理学療法学実習	—	4 後	1				○	
研究	卒業研究	理 65	4 通	2			○	必修 2 単位	

## 先修条件

## 【特色科目】

- 1 「千葉県健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

## 【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ（上級英語）A」「英語Ⅶ（上級英語）B」を履修するには「英語Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ，またはⅥ」の選択 2 単位を修得済みであること。

## 【専門科目】

- 1 2 年次配当の「リハビリテーション専門基礎科目」「理学療法専門基礎科目」を履修するには、1 年次配当の「リハビリテーション専門基礎科目」および「理学療法概論」の単位を修得済みであること。
- 2 「評価実習」を履修するには、3 学年前期までに開講するすべての必修科目の単位を修得済みであること。
- 3 「総合実習Ⅰ」，「総合実習Ⅱ」，「地域理学療法学実習」および「卒業研究」を履修するには、3 学年後期までに開講するすべての必修科目の単位を修得済みであること。

## 進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3 年次に進級できない。

- 1 1・2 年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2 年次に配当された専門科目の必修科目の単位を修得済みの者。

## 卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	10 単位	14 単位	24 単位
保健医療基礎科目	10 単位	2 単位	12 単位
専門科目	89 単位	2 単位	91 単位
合計	112 単位	18 単位	130 単位

(リハビリテーション学科理学療法学専攻 2018年度以前入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	千葉県の健康づくり	特色2	2後	1				○		必修3単位
	体験ゼミナール	特色1	1前	1					○	
	専門職間の連携活動論	特色3	4後	1				○		
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般1	1・2・3・4前	2			○		必修2単位
		哲学	一般2	1・2・3・4前		2		○		
		文学	一般3	1・2・3・4前		2		○		
		歴史と文化	一般4	1・2・3・4前		2		○		
		生命倫理	一般5	1・2・3・4後		2		○		
		宗教学	一般6	1・2・3・4後		2		○		
		教育学	一般7	1・2・3・4前		2		○		
		人間関係論	一般8	1・2・3・4前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般9	1・2・3・4前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般10	1・2・3・4前後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般11	1・2・3・4前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般12	1・2・3・4後		2		○		必修2単位 このうち「人間関係論」「コミュニケーション理論と実際」から1科目を選択  「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から1科目を選択
		法学(日本国憲法)	一般13	1・2・3・4前		2		○		
		社会学	一般14	1・2・3・4後		2		○		
		文化人類学	一般15	1・2・3・4前		2		○		
		経済学	一般16	1・2・3・4前		2		○		
		国際関係論	一般17	1・2・3・4後		2		○		
		社会福祉学	一般18	1・2・3・4前		1		○		
		国際的な健康課題	一般19	1・2・3・4後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般20	1・2・3・4後		2		○		
		科学論	一般21	1・2・3・4前		2		○		
		環境変化と生態	一般22	1・2・3・4後		2		○		
		観察生物学入門	一般23	1・2・3・4前後		2		○		
		生物学	一般24	1・2・3・4前後		2		○		
		物理学	一般25	1・2・3・4前		2		○		
		化学	一般26	1・2・3・4前		2		○		
	情報理解群	統計学	一般27	1・2・3・4後	1				○	必修2単位
		情報リテラシーⅠ	一般28	1・2・3・4前	1				○	
		情報リテラシーⅡ	一般29	1・2・3・4後		1			○	
		情報倫理	一般30	1・2・3・4後		1		○		
	外国語群	英語Ⅰ(基礎講読)	—	1・2・3・4前		1			○	必修2単位 + 選択2単位
		英語Ⅱ(基礎英会話)	—	1・2・3・4前		1			○	
		英語Ⅲ(講読・記述)	一般33	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅳ(英会話)	—	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅴ(保健医療英語)	一般35	1・2・3・4前		2		○		
		英語Ⅵ(応用英語)	一般36	1・2・3・4後		1			○	

(リハビリテーション学科理学療法学専攻 2018年度以前入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健 1	2 前		1		○		必修 7 単位 + 選択 2 単位
		生化学総論	保健 2	1 前		1		○		
		栄養学 I (基礎)	保健 3	1 後		1		○		
		栄養学 II (応用)	保健 4	1 後		1		○		
		心の健康	保健 5	1 後		1		○		
		薬理学 I (総論)	保健 6	1 後		1		○		
		薬理学 II (各論)	保健 7	1 後		1		○		
		病理学 I (総論)	保健 8	1 前	1			○		
		病理学 II (各論)	保健 9	1 前		1		○		
		微生物学 I (総論)	保健 10	1 前	1			○		
		微生物学 II (各論)	保健 11	1 前		1		○		
		発達心理学	保健 12	1 前		1		○		
		臨床心理学	保健 13	1 後	1				○	
		健康と保健医療システム	健康論	保健 14	1 前	1			○	
	公衆衛生学 I (基礎)		保健 15	2 前		1		○		
	公衆衛生学 II (応用)		保健 16	2 後		1		○		
	疫学・保健統計 I (基礎)		保健 17	3 前		1		○		
	疫学・保健統計 II (応用)		保健 18	3 前		1		○		
	リハビリテーション概論		保健 19	1 後	1			○		
	救命・救急の理論と実際		保健 20	2 前		1		○		
	保健医療福祉論 I (基礎)		保健 21	2 後	1			○		
	保健医療福祉論 II (応用)		保健 22	2 後	1			○		
	食育論 I (基礎)		保健 23	3 前		1		○		
	食育論 II (応用)		保健 24	3 前		1		○		
	健康と運動		保健 25	1 後		1		○		
	家族社会学		保健 26	1 前		1		○		
	医療経営管理論		保健 27	4 後		1		○		
	リスクマネジメント論	保健 28	2 後		1		○			
専門科目	リハビリテーション専門基礎科目	人体の構造 I (筋・骨・神経系の構造)	理 1	1 前	1			○		必修 24 単位 + 選択 1 単位
		人体の構造 II (脈管・内臓・感覚器の構造)	理 2	1 後	1			○		
		人体の構造実習	理 3	1 後	1				○	
		人体の機能 I (動物性機能)	理 4	1 前	1			○		
		人体の機能 II (植物性機能)	理 5	1 後	1			○		
		人体の機能実習	理 6	2 前	1				○	
		運動学 I (運動の基礎科学)	理 7	1 後	1			○		
		運動学 II (応用的運動科学)	理 8	2 前	1			○		
		運動学実習	理 9	2 後	1				○	
		臨床運動学	理 10	2 後	1			○		
		機能解剖学	理 11	1 後	1			○		
		人間工学	理 12	2 後		1		○		
		人間発達学	理 13	2 前	1			○		
		医学総論	理 14	1 後	1			○		
		内科学総論	理 15	2 前	1			○		
		内科学各論	理 16	2 後	1			○		
		神経内科学総論	理 17	2 前	1			○		
		神経内科学各論	理 18	2 後	1			○		
		整形外科学総論	理 19	2 前	1			○		

(リハビリテーション学科理学療法学専攻 2018年度以前入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
	整形外科科学各論	理 20	2 後	1				○		
	精神神経科学総論	理 21	2 前	1				○		
	精神神経科学各論	理 22	2 後		1			○		
	老年科学	理 23	3 前	1				○		
	小児科学	理 24	3 前	1				○		
	臨床医学概論	理 25	3 前	1				○		
	リハビリテーション医学	理 26	3 前	1				○		
理学療法専門基礎科目	理学療法概論	理 27	1 前	2				○		必修 18 単位
	理学療法管理学	理 28	4 後	1				○		
	運動療法学	理 29	2 前	2				○		
	理学療法測定学	理 30	2 前	2				○		
	理学療法測定学演習	理 31	2 前	1				○		
	理学療法臨床測定学	理 32	2 後	1				○		
	日常生活活動学	理 33	2 前	2				○		
	日常生活活動学演習	理 34	2 後	1				○		
	物理療法学	理 35	2 後	1				○		
	物理療法学演習	理 36	2 後	1				○		
	義肢装具学	理 37	3 前	2				○		
	義肢装具学演習	理 38	3 前	1				○		
	理学療法研究方法論	理 39	3 前	1				○		
専門科目	運動器障害理学療法学	理 40	3 前	2				○		必修 23 単位 + 選択 2 単位
	運動器障害理学療法学演習	理 41	3 後	1				○		
	運動器障害理学療法学特論	理 42	3 後		1			○		
	神経系障害評価学	理 43	3 前	1				○		
	神経系障害理学療法学	理 44	3 前	2				○		
	神経系障害理学療法学演習	理 45	3 後	1				○		
	神経系障害理学療法学特論	理 46	3 後		1			○		
	内部障害理学療法学	理 47	3 前	2				○		
	内部障害理学療法学演習	理 48	3 後	1				○		
	内部障害理学療法学特論	理 49	3 後		1			○		
	老年期障害理学療法学	理 50	3 前	2				○		
	老年期障害理学療法学演習	理 51	3 後	1				○		
	発達障害理学療法学	理 52	3 前	2				○		
	発達障害理学療法学演習	理 53	3 後	1				○		
	発達障害理学療法学特論	理 54	3 後		1			○		
	地域理学療法学	理 55	3 前	2				○		
	地域理学療法学演習	理 56	3 後	1				○		
	地域理学療法学特論	理 57	3 後	1				○		
	理学療法技術論	理 58	4 後	1				○		
	生体機能計測学	理 59	3 前	1				○		
理学療法発展領域論	理 60	4 後	1				○			

(リハビリテーション学科理学療法学専攻 2018年度以前入学生用)

臨床実習	臨床実習Ⅰ (体験実習)	—	1 後	1					○	必修 20 単位
	臨床実習Ⅱ (評価実習)	理 62	3 後	5					○	
	臨床実習Ⅲ (運動器系総合実習)	理 63	4 前	7					○	
	臨床実習Ⅳ (神経系総合実習)	理 64	4 前	7					○	
研究	卒業研究	理 65	4 通	2				○	必修 2 単位	

先修条件

【特色科目 (平成 28 年度入学生より適用する)】

1. 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
2. 「専門職間の連携活動論」を履修するには「体験ゼミナール」, 「千葉県の健康づくり」の単位を修得済みであること。

【専門科目】

1. 「運動療法学」, 「臨床運動学」, 「理学療法測定学」, 「理学療法測定学演習」, 「理学療法臨床測定学」および「神経系障害評価学」を履修するには, 1 年次配当の必修科目「人体の構造Ⅰ」, 「人体の構造Ⅱ」, 「人体の構造実習」, 「運動学Ⅰ」および「機能解剖学」単位を修得済みであること。
2. 「物理療法学」, 「日常生活活動学」, 「運動器障害理学療法学」, 「神経系障害理学療法学」および「発達障害理学療法学」を履修するには, 1 年次配当の必修科目「人体の機能Ⅰ」, 「人体の機能Ⅱ」の単位を修得済みであること。
3. 「臨床実習Ⅱ」を履修するには, 3 学年前期までに開講するすべての必修科目の単位を修得済みであること。
4. 「臨床実習Ⅲ」および「臨床実習Ⅳ」を履修するには, 3 年後期までに開講するすべての必修科目 (「臨床実習Ⅱ」を含む) の単位を修得済みであること。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	8 単位	16 単位	24 単位
保健医療基礎科目	7 単位	2 単位	9 単位
専門科目	87 単位	3 単位	90 単位
合計	105 単位	21 単位	126 単位

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	体験ゼミナール	特色1	1前	1					○	必修3単位
	千葉県の健康づくり	特色2	2後	1				○		
	専門職間の連携活動論	特色3	4後	1				○		
	社会実習（ボランティア活動）	—	2・3・4			1			○	
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般1	1・2・3・4前	2			○		必修 2単位 + 選択 2単位 (※4)
		哲学	一般2	1・2・3・4前		2		○		
		文学	一般3	1・2・3・4前		2		○		
		歴史と文化	一般4	1・2・3・4前		2		○		
		生命倫理	一般5	1・2・3・4後		2		○		
		宗教学	一般6	1・2・3・4後		2		○		
		教育学	一般7	1・2・3・4前		2		○		
		人間関係論	一般8	1・2・3・4前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般9	1・2・3・4前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般10	1・2・3・4前後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般11	1・2・3・4前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般12	1・2・3・4後		2		○		必修 2単位
		法学（日本国憲法）	一般13	1・2・3・4前		2		○		
		社会学	一般14	1・2・3・4後		2		○		
		文化人類学	一般15	1・2・3・4前		2		○		
		経済学	一般16	1・2・3・4前		2		○		
		国際関係論	一般17	1・2・3・4後		2		○		
		社会福祉学	一般18	1・2・3・4前		1		○		
		国際的な健康課題	一般19	1・2・3・4後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般20	1・2・3・4後		2		○		
		科学論	一般21	1・2・3・4前		2		○		
		環境変化と生態	一般22	1・2・3・4後		2		○		
		観察生物学入門	一般23	1・2・3・4前後		2		○		
		生物学	一般24	1・2・3・4前後		2		○		
		物理学	一般25	1・2・3・4前		2		○		
		化学	一般26	1・2・3・4前		2		○		
情報理解群	統計学	一般27	1後	1				○	必修 2単位	
	情報リテラシーⅠ	一般28	1前	1				○		
	情報リテラシーⅡ	一般29	1・2・3・4後		1			○		
	情報倫理	一般30	1・2・3・4後		1			○		
	実践統計学	—	2・3・4後		1			○		
外国語群	英語Ⅰ（講読）	一般31	1・2・3・4前		1			○	必修 2単位 + 選択 2単位	
	英語Ⅱ（英会話）	一般32	1・2・3・4前		1			○		
	英語Ⅲ（講読・記述）	一般33	1・2・3・4後		1			○		
	英語Ⅳ（英語コミュニケーション）	一般34	1・2・3・4後		1			○		
	英語Ⅴ（保健医療英語）	一般35	2前	2				○		
	英語Ⅵ（応用英語）	一般36	1・2・3・4後		1			○		
	英語Ⅶ（上級英語）A	—	2・3・4後		1			○		
	英語Ⅶ（上級英語）B	—	2・3・4後		1			○		

【一般教養科目】選択科目から選択12単位

別表 (リハビリテーション学科作業療法学専攻 2019年度以降入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健1	2前		1		○			必修9単位 + 選択1単位
		生化学総論	保健2	1前		1		○			
		栄養学Ⅰ(基礎)	保健3	1後	1			○			
		栄養学Ⅱ(応用)	保健4	1後		1		○			
		心の健康	保健5	1後		1		○			
		薬理学Ⅰ(総論)	保健6	1後		1		○			
		薬理学Ⅱ(各論)	保健7	1後		1		○			
		病理学Ⅰ(総論)	保健8	1前	1			○			
		病理学Ⅱ(各論)	保健9	1前		1		○			
		微生物学Ⅰ(総論)	保健10	1前		1		○			
		微生物学Ⅱ(各論)	保健11	1前		1		○			
		発達心理学	保健12	1前		1		○			
		臨床心理学	保健13	1後	1				○		
	健康と保健医療システム	健康論	保健14	1前	1			○			
		公衆衛生学Ⅰ(基礎)	保健15	2前		1		○			
		公衆衛生学Ⅱ(応用)	保健16	2後		1		○			
		疫学・保健統計Ⅰ(基礎)	保健17	3前		1		○			
		疫学・保健統計Ⅱ(応用)	保健18	3前		1		○			
		リハビリテーション概論	保健19	1後	1			○			
		救命・救急の理論と実際	保健20	2前	1			○			
		画像診断学	—	2後	1			○			
		保健医療福祉論Ⅰ(基礎)	保健21	2後	1			○			
		保健医療福祉論Ⅱ(応用)	保健22	2後	1			○			
		食育論Ⅰ(基礎)	保健23	3前		1		○			
		食育論Ⅱ(応用)	保健24	3前		1		○			
		健康と運動	保健25	1後		1		○			
		家族社会学	保健26	1前		1		○			
		医療経営管理論	保健27	4後		1		○			
リスクマネジメント論	保健28	2後		1		○					
専門科目	リハビリテーション専門基礎科目	人体の構造Ⅰ(筋・骨・神経系の構造)	作1	1前	1			○		必修26単位 + 選択1単位	
		人体の構造Ⅱ(脈管・内臓・感覚器の構造)	作2	1後	1			○			
		人体の構造実習	作3	1後	1				○		
		人体の機能Ⅰ(動物性機能)	作4	1前	1			○			
		人体の機能Ⅱ(植物性機能)	作5	1後	1			○			
		人体の機能実習	作6	2前	1				○		
		体表解剖学	作7	1後	1			○			
		作業運動学Ⅰ(作業運動の基礎)	作8	1後	1			○			
		作業運動学Ⅱ(作業運動の応用)	作9	2前	1			○			
		作業運動学演習	—	2前	1			○			
		作業運動学実習	作10	2後	1				○		
		作業分析学	—	2前		1		○			
		人間工学	作13	2後		1		○			
		人間発達学	作14	2前	1			○			
		医学総論	作15	1後	1			○			
		内科学総論	作16	2前	1			○			
		内科学各論	作17	2後	1			○			
		神経内科学総論	作18	2前	1			○			
		神経内科学各論	作19	2後	1			○			

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
	整形外科学総論	作 20	2 前	1				○		
	整形外科学各論	作 21	2 後	1				○		
	精神神経科学総論	作 22	2 前	1				○		
	精神神経科学各論	作 23	2 後	1				○		
	臨床薬理学	—	2 後	1			○			
	老年科学	作 24	3 前	1				○		
	小児科学	作 25	3 前	1				○		
	臨床医学概論	作 26	3 前	1				○		
	リハビリテーション医学	作 27	3 前	1				○		
基礎作業療法学	作業療法概論	作 28	1 前	1				○		必修 6 単位 + 選択 2 単位
	作業療法管理学	作 29	3 後	2			○			
	作業療法基礎理論	作 30	2 前		1			○		
	作業療法研究法	作 31	3 前	1			○			
	基礎作業学・演習	作 32	1 前	1				○		
	基礎作業学実習	作 33	1 後	1					○	
	作業療法ゼミナール A	—	2 後		1		○			
	作業療法ゼミナール B	—	2 後		1		○			
	作業療法ゼミナール C	—	2 後		1		○			
	作業療法ゼミナール D	—	2 後		1		○			
	作業療法ゼミナール E	—	2 後		1		○			
	作業療法ゼミナール F	—	2 後		1		○			
専門科目 実践作業療法学	作業療法評価学総論	作 34	1 後	1			○			必修 29 単位
	身体作業療法評価学	—	2 前	1			○			
	身体作業療法評価学実習	—	2 通	1					○	
	身体作業療法学Ⅰ	—	2 後	2			○			
	身体作業療法学Ⅱ	—	2 後	2			○			
	身体作業療法学演習	—	3 前	1				○		
	精神作業療法評価学	—	2 前	1			○			
	精神作業療法評価学実習	—	2 通	1					○	
	精神作業療法学	—	2 後	2			○			
	精神作業療法学演習	—	3 前	1				○		
	発達期作業療法学	—	2 後	1			○			
	発達期作業療法学演習	—	3 前	1				○		
	老年期作業療法学	—	2 後	1			○			
	老年期作業療法学演習	—	3 前	1				○		
	高次神経機能作業療法学	—	2 後	2			○			
	日常生活活動学	—	2 後	1			○			
	日常生活活動学演習	—	3 前	1				○		
	義肢装具学	—	3 前	2			○			
	福祉機器論	—	3 後	2			○			
	地域社会参加支援学	—	3 前	1			○			
地域社会参加支援学演習	—	3 後	1				○			
地域作業療法学	—	3 前	2			○				
作業療法総合演習	—	4 通			1			○		

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2019年度以降入学生用）

	作業療法学特論 A	—	4 通		1		○		
	作業療法学特論 B	—	4 通		1		○		
	作業療法学特論 C	—	4 通		1		○		
	作業療法学特論 D	—	4 通		1		○		
	作業療法学特論 E	—	4 通		1		○		
	作業療法学特論 F	—	4 通		1		○		
臨床 実習	臨床体験実習	作 56	1 通	1				○	必修 28 単位
	評価実習 I	作 57	3 通	4				○	
	評価実習 II	作 58	3 通	4				○	
	総合実習 I	作 59	3 後	8				○	
	総合実習 II	作 60	4 前	8				○	
	地域作業療法学実習	作 61	4 後	3				○	
研究	卒業研究	作 62	4 通	1			○	必修 1 単位	

## ※4 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」のどちらか1つは必ず選択して履修する。

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2019年度以降入学生用）

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ（上級英語）A」「英語Ⅶ（上級英語）B」を履修するには「英語Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ，またはⅥ」の選択2単位を修得済みであること。

【専門科目】

- 1 「総合実習Ⅰ」および「総合実習Ⅱ」を履修するには、「評価実習Ⅰ」および「評価実習Ⅱ」の両科目の単位を修得見込みであること。

進級要件

以下の要件を満たさなければ、3年次に進級できない。

- 1 1・2年次に担当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目のすべての単位を修得済みであること。
- 2 1・2年次に担当された専門科目の必修科目のすべての単位を修得済みであること。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	8単位	16単位	24単位
保健医療基礎科目	9単位	1単位	10単位
専門科目	90単位	3単位	93単位
合計	110単位	20単位	130単位

(リハビリテーション学科作業療法学専攻 2018年度以前入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	千葉県の健康づくり	特色2	2後	1				○		必修3単位
	体験ゼミナール	特色1	1前	1					○	
	専門職間の連携活動論	特色3	4後	1				○		
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般1	1・2・3・4前	2			○		必修 2単位 + 選択 2単位 (※4)
	哲学	一般2	1・2・3・4前		2		○			
	文学	一般3	1・2・3・4前		2		○			
	歴史と文化	一般4	1・2・3・4前		2		○			
	生命倫理	一般5	1・2・3・4後		2		○			
	宗教学	一般6	1・2・3・4後		2		○			
	教育学	一般7	1・2・3・4前		2		○			
	人間関係論	一般8	1・2・3・4前		2		○			
	コミュニケーション理論と実際	一般9	1・2・3・4前		2		○			
	健康スポーツ科学	一般10	1・2・3・4前後		1			○		
	生涯身体運動科学	一般11	1・2・3・4前後		1			○		
	生活と環境群	生活とデザイン	一般12	1・2・3・4後		2		○		【一般教養科目】 選択科目から選択 12単位  必修 2単位
	法学(日本国憲法)	一般13	1・2・3・4前		2		○			
	社会学	一般14	1・2・3・4後		2		○			
	文化人類学	一般15	1・2・3・4前		2		○			
	経済学	一般16	1・2・3・4前		2		○			
	国際関係論	一般17	1・2・3・4後		2		○			
	社会福祉学	一般18	1・2・3・4前		1		○			
	国際的な健康課題	一般19	1・2・3・4後		1		○			
	人権・ジェンダー	一般20	1・2・3・4後		2		○			
	科学論	一般21	1・2・3・4前		2		○			
	環境変化と生態	一般22	1・2・3・4後		2		○			
	観察生物学入門	一般23	1・2・3・4前後		2		○			
	生物学	一般24	1・2・3・4前後		2		○			
	物理学	一般25	1・2・3・4前		2		○			
	化学	一般26	1・2・3・4前		2		○			
情報理解群	統計学	一般27	1・2・3・4後	1				○	必修 2単位	
情報リテラシーI	一般28	1前	1				○			
情報リテラシーII	一般29	1・2・3・4後		1			○			
情報倫理	一般30	1・2・3・4後		1		○				
外国語群	英語I(基礎講読)	—	1・2・3・4前		1			○	必修 2単位 + 選択 2単位	
	英語II(基礎英会話)	—	1・2・3・4前		1			○		
	英語III(講読・記述)	一般33	1・2・3・4後		1			○		
	英語IV(英会話)	—	1・2・3・4後		1			○		
	英語V(保健医療英語)	一般35	2前	2			○			
	英語VI(応用英語)	一般36	1・2・3・4後		1			○		

※4 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」のどちらかを選択して履修する。

(リハビリテーション学科作業療法学専攻 2018年度以前入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健1	2前		1		○		必修6単位 + 選択1単位
		生化学総論	保健2	1前		1		○		
		栄養学Ⅰ(基礎)	保健3	1後		1		○		
		栄養学Ⅱ(応用)	保健4	1後		1		○		
		心の健康	保健5	1後		1		○		
		薬理学Ⅰ(総論)	保健6	1後		1		○		
		薬理学Ⅱ(各論)	保健7	1後		1		○		
		病理学Ⅰ(総論)	保健8	1前	1			○		
		病理学Ⅱ(各論)	保健9	1前		1		○		
		微生物学Ⅰ(総論)	保健10	1前		1		○		
		微生物学Ⅱ(各論)	保健11	1前		1		○		
		発達心理学	保健12	1前		1		○		
		臨床心理学	保健13	1後	1				○	
保健医療基礎科目	健康と保健医療システム	健康論	保健14	1前	1			○		必修6単位 + 選択1単位
		公衆衛生学Ⅰ(基礎)	保健15	2前		1		○		
		公衆衛生学Ⅱ(応用)	保健16	2後		1		○		
		疫学・保健統計Ⅰ(基礎)	保健17	3前		1		○		
		疫学・保健統計Ⅱ(応用)	保健18	3前		1		○		
		リハビリテーション概論	保健19	1後	1			○		
		救命・救急の理論と実際	保健20	2前		1		○		
		保健医療福祉論Ⅰ(基礎)	保健21	2後	1			○		
		保健医療福祉論Ⅱ(応用)	保健22	2後	1			○		
		食育論Ⅰ(基礎)	保健23	3前		1		○		
		食育論Ⅱ(応用)	保健24	3前		1		○		
		健康と運動	保健25	1後		1		○		
		家族社会学	保健26	1前		1		○		
		医療経営管理論	保健27	4後		1		○		
		リスクマネジメント論	保健28	2後		1		○		
専門科目	リハビリテーション専門基礎科目	人体の構造Ⅰ(筋・骨・神経系の構造)	作1	1前	1			○		必修24単位 + 選択1単位
		人体の構造Ⅱ(脈管・内臓・感覚器の構造)	作2	1後	1			○		
		人体の構造実習	作3	1後	1				○	
		人体の機能Ⅰ(動物性機能)	作4	1前	1			○		
		人体の機能Ⅱ(植物性機能)	作5	1後	1			○		
		人体の機能実習	作6	2前	1				○	
		機能解剖学	—	1後		1		○		
		作業運動学Ⅰ(作業運動の基礎)	作8	1後	1			○		
		作業運動学Ⅱ(作業運動の応用)	作9	2前	1			○		
		作業運動学実習	作10	2後	1				○	
		作業運動分析学	作11	2前	1			○		
		臨床運動学	作12	2前		1		○		
		人間工学	作13	2後		1		○		
		人間発達学	作14	2前	1			○		
		医学総論	作15	1後	1			○		
		内科学総論	作16	2前	1			○		
		内科学各論	作17	2後	1			○		
		神経内科学総論	作18	2前	1			○		
		神経内科学各論	作19	2後	1			○		

(リハビリテーション学科作業療法学専攻 2018年度以前入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
専門科目	整形外科学総論	作 20	2 前	1				○			
	整形外科学各論	作 21	2 後	1				○			
	精神神経科学総論	作 22	2 前	1				○			
	精神神経科学各論	作 23	2 後	1				○			
	老年科学	作 24	3 前	1				○			
	小児科学	作 25	3 前	1				○			
	臨床医学概論	作 26	3 前	1				○			
	リハビリテーション医学	作 27	3 前	1				○			
	基礎作業療法学	作業療法概論	作 28	1 前	2			○			必修 7 単位 + 選択 1 単位
		作業療法管理学	作 29	3 後		1		○			
		作業療法基礎理論	作 30	2 前		1			○		
		作業療法研究法	作 31	3 後	1			○			
		基礎作業学・演習	作 32	1 前	1				○		
		基礎作業学実習	作 33	1 後	1					○	
		作業療法評価学概論	—	1 後	1			○			
		地域作業療法学概論	作 35	3 前	1			○			
	実践作業療法学	作業療法評価学Ⅰ(神経・心肺機能系)	作 36	2 前	2			○			必修 32 単位
		作業療法治療学Ⅰ(神経・心肺機能系)	作 37	2 後	2			○			
		作業療法学Ⅰ演習(神経・心肺機能系)	作 38	3 前	1				○		
		作業療法評価学Ⅱ(廃用・運動機能系)	作 39	2 前	2			○			
		作業療法治療学Ⅱ(廃用・運動機能系)	作 40	2 後	2			○			
		作業療法学Ⅱ演習(廃用・運動機能系)	作 41	3 前	1				○		
		作業療法評価学Ⅲ(精神・心理機能系)	作 42	2 前	2			○			
		作業療法治療学Ⅲ(精神・心理機能系)	作 43	2 後	2			○			
		作業療法学Ⅲ演習(精神・心理機能系)	作 44	3 前	1				○		
		作業療法評価学Ⅳ(認知・知能機能系)	作 45	2 前	2			○			
		作業療法治療学Ⅳ(認知・知能機能系)	作 46	2 後	2			○			
作業療法学Ⅳ演習(認知・知能機能系)		作 47	3 前	1				○			
日常生活活動技術学		作 48	3 前	2			○				
日常生活活動技術学演習		作 49	3 後	1				○			
日常生活活動援助学		作 50	3 前	2			○				
日常生活活動援助学演習		作 51	3 後	1				○			
社会的適応支援評価学		作 52	2 後	2			○				
社会的適応支援学		作 53	3 前	2			○				
社会的適応支援学演習	作 54	3 後	1				○				
作業療法セミナー	作 55	3 前~4 前	1				○				
臨床実習	臨床体験実習	作 56	1 通	1					○	必修 27 単位	
	評価実習Ⅰ	作 57	3 通	3					○		
	評価実習Ⅱ	作 58	3 通	3					○		
	総合実習Ⅰ	作 59	4 通	8					○		
	総合実習Ⅱ	作 60	4 通	8					○		
	地域作業療法学実習	作 61	4 通	3					○		
研究	卒業研究	作 62	4 通	1				○			

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	8単位	16単位	24単位
保健医療基礎科目	6単位	1単位	7単位
専門科目	90単位	2単位	92単位
合計	107単位	19単位	126単位

先修条件

【特色科目（平成28年度入学生より適用する）】

- 1) 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2) 「専門職間の連携活動論」を履修するには「体験ゼミナール」、「千葉県の健康づくり」の両単位を修得済みであること。

【専門科目】

- 1) 「総合実習Ⅰ」および「総合実習Ⅱ」を履修するには、すでに「評価実習Ⅰ」および「評価実習Ⅱ」の両科目の単位を修得済みであること。

## 令和元年度非常勤講師一覧

氏名	科目
稲垣 三恵子	英語Ⅰ(講読)
レーン プレンディン ジョン	英語Ⅱ(英会話)
稲垣 三恵子	英語Ⅳ(英語コミュニケーション)
レーン プレンディン ジョン	英語Ⅳ(英語コミュニケーション)
稲垣 三恵子	英語Ⅴ(保健医療英語)
大西 仁	科学論
榎本 輝樹	環境変化と生態
榎本 輝樹	観察生物学入門
安孫子 誠男	経済学
水口 章	国際関係論
満田 深雪	化学
榎本 輝樹	情報リテラシⅠ
山口 直比古	情報リテラシⅡ
牧 純	国際的な健康課題
常山 吾朗	コミュニケーション理論と実際①
常山 吾朗	コミュニケーション理論と実際②
島村 賢一	社会学
佐藤 真生子	社会福祉学
大江 満	宗教学
島村 賢一	人権・ジェンダー
高橋 良博	心理学
上野 義雪	生活とデザイン
榎本 輝樹	生物学
小館 貴幸	生命倫理
森 禎徳	生命倫理
高井 寛	哲学
常山 吾朗	人間関係論
岩崎 三郎	物理学
柴 佳世乃	文学
安倍 宰	文化人類学
覺正 豊和	法学(日本国憲法)
黒崎 輝人	歴史と文化
田中 喜代次	運動生理学総論
渡辺 満利子	健康論
飯坂 真司	公衆衛生学Ⅰ(基礎)
飯坂 真司	公衆衛生学Ⅱ(応用)
松井 研一	疫学・保健統計Ⅰ(基礎)
松井 研一	疫学・保健統計Ⅱ(応用)
栗栖 千幸	保健医療福祉論Ⅱ(応用)
山崎 彰美	保健医療福祉論Ⅱ(応用)
佐藤 貴一郎	医療経営管理論
高尾 公矢	家族社会学
高梨 一彦	発達心理学
清水 健	微生物学Ⅰ(総論)
清水 健	微生物学Ⅱ(各論)
福井 謙二	病理学Ⅰ(総論)
福井 謙二	病理学Ⅱ(各論)
佐藤 真生子	保健医療福祉論Ⅰ(基礎)
鈴木 俊雄	薬理学Ⅰ(総論)
鈴木 俊雄	薬理学Ⅱ(各論)
加茂 敦子	人体の構造と機能Ⅱ(循環器系・腎・泌尿器系・内分泌系・生殖器系)
松谷 正一	病態学Ⅰ(内科系疾病論)
山本 勇	病態学Ⅰ(内科系疾病論)
谷口 清	臨床心理学
児玉 久仁子	家族看護学概論
児玉 久仁子	家族看護学方法論

鈴木 明子	感染看護学
亀井 緑	国際看護論
賀川 真吾	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
三島 敬	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
渡邊 倫子	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
鈴木 秀海	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
山浦 晶	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
岡野 達弥	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
高野 重紹	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
渡邊 倫子	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
石川 博士	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
杉澤 淳子	病態学Ⅲ(高齢者・精神疾病論)
須藤 千尋	解剖生理学Ⅱ
松澤 大輔	解剖生理学Ⅱ
渡辺 満利子	応用栄養学Ⅱ
渡辺 満利子	応用栄養学実習
雨宮 歩	解剖学
佐久間 祐子	教育心理
佐久間 祐子	教育相談
藤谷 朝実	国際栄養学
田中 和美	在宅栄養支援論
藤谷 朝実	障害者栄養支援論
本 国子	スポーツ栄養学
田崎 雅和	生理学
加藤 秀雄	フードマネジメント論
野本 たかと	演習Ⅲ(口腔機能リハビリテーション)
山口 秀紀	顎口腔外科学
野本 たかと	顎口腔機能リハビリテーション論
阿部 伸一	口腔解剖学
田崎 雅和	口腔生理学
廣内 英智	口腔解剖学
葛西 一貴	歯科矯正学
星野 申明	保健行動科学論
奥田 克爾	口腔微生物学
吉田 由加里	在宅歯科衛生管理論Ⅱ
相川 敬子	歯科医療管理論
石原 和幸	歯科衛生基礎演習
榎本 豊	歯科矯正学
佐藤 裕	歯科生化学・臨床検査法
鈴木 俊雄	歯科薬理学
上條 英之	社会保障・社会保険論
鈴木 勝	運動器障害理学療法演習
石田 佳子	運動器障害理学療法演習
高間 省吾	運動器障害理学療法演習
加藤 邦大	運動器障害理学療法演習
山本 喜美夫	運動器障害理学療法特論
山内 弘喜	運動器障害理学療法特論
石川 修平	運動器障害理学療法特論
稲垣 武	運動療法学
前田 雄	義肢装具学
田口 直枝	義肢装具学
郷 貴博	義肢装具学
鈴木 啓太	義肢装具学
須田 裕紀	義肢装具学
田口 直枝	義肢装具学演習
前田 雄	義肢装具学演習
郷 貴博	義肢装具学演習
鈴木 啓太	義肢装具学演習

須田 裕紀	義肢装具学演習
高柳 正樹	小児科学
笠置 泰史	人体の機能Ⅰ(動物性機能)
笠置 泰史	人体の機能Ⅱ(植物性機能)
北村 泰子	人体の構造Ⅱ(脈管・内臓・感覚器の構造)
杉澤 淳子	精神神経科学各論
小松 尚也	精神神経科学総論
中村 信義	地域理学療法学
中村 信義	地域理学療法学演習
田中 康之	地域理学療法学特論
忽那 俊樹	内部障害理学療法学
高橋 哲也	内部障害理学療法学
櫻田 弘治	内部障害理学療法学
鵜澤 吉宏	内部障害理学療法学演習
下村 義弘	人間工学
百瀬 公人	内部障害理学療法学特論
栗田 英明	内部障害理学療法学特論
宮原 なおみ	発達障害理学療法学特論
村永 信吾	理学療法管理学
市橋 則明	理学療法学発展領域論
對馬 栄輝	理学療法学発展領域論
吉永 勝訓	リハビリテーション医学
浅川 育世	老年期障害理学療法学演習
川口 真	理学療法技術論
稲垣 武	理学療法技術論
村山 尊司	理学療法技術論
万治 淳史	神経系障害理学療法学演習
宮本 礼子	作業療法基礎理論
渡邊 博幸	精神神経科学総論
志村 恵	人間工学
遠藤 隆志	人体の機能実習
佐藤 大介	作業療法評価学総論
大熊 明	地域作業療法学概論
米持 喬	作業療法学Ⅰ演習
佐藤 大介	作業療法評価学Ⅲ(精神・心理機能系)
小倉 由紀	作業療法評価学Ⅳ(認知・知能機能系)
石川 隆志	作業療法学Ⅳ演習(認知・知能機能系)
佐藤 大介	日常生活活動技術学演習
坂田 祥子	日常生活活動技術学演習
保田 由美子	日常生活活動技術学演習
浦田 敦	日常生活活動援助学
浦田 敦	日常生活活動援助学演習
加瀬澤 文芳	日常生活活動援助学演習
木之瀬 隆	日常生活活動援助学演習
東 祐二	社会的適応支援評価学
坂田 祥子	社会的適応支援評価学
倉持 昇	社会的適応支援評価学
酒井 ひとみ	社会的適応支援学
大越 満	社会的適応支援学演習
佐藤 大介	社会的適応支援学演習
佐藤 大介	作業療法セミナー
保田 由美子	作業療法セミナー

自己点検・評価委員会 教育研究年報部会  
部会長 細山田 康恵 (栄養学科)  
部会員 今井 宏美 (看護学科)  
大内 美穂子 (看護学科)  
河野 舞 (歯科衛生学科)  
堀本 佳誉 (リハビリテーション学科・理学療法学専攻)  
松尾 真輔 (リハビリテーション学科・作業療法学専攻)  
事務局 田中 宏明







Annual Report of Education and Research  
Chiba Prefectural University Of Health Sciences

10-1, Wakaba 2-chome, Mihama-ku, Chiba 261-0014, Japan

Tel: 043-296-2000 / Fax: 043-272-1716